

平成18年度
県立体育センター研究報告書

学校体育に関する生徒の意識調査

～ 中学生の意識～

(3年継続研究の2年次)

神奈川県立体育センター
指導研究部 スポーツ科学研究室

目 次

その1

研究の概要

- | | | | |
|---|-----------|-----|---|
| 1 | テーマ設定の理由 | ・・・ | 1 |
| 2 | 目的 | ・・・ | 1 |
| 3 | 内容及び方法 | ・・・ | 1 |
| 4 | 調査の手順 | ・・・ | 3 |
| 5 | 調査の内容 | ・・・ | 3 |
| 6 | 研究アドバイザー | ・・・ | 4 |
| 7 | 集計方法等について | ・・・ | 4 |

調査結果

- | | | | |
|---|-------------|-----|---|
| 1 | 調査結果の概要について | ・・・ | 5 |
| 2 | 単純集計結果について | ・・・ | 6 |

その2

- | | | | |
|---|---------------------------|-----|-----|
| 3 | 「体育の学習の好き、嫌い」と他の質問の連関について | ・・・ | 99 |
| | 考察 | ・・・ | 194 |
| | まとめ | ・・・ | 198 |
| | 参考文献 | ・・・ | 201 |

学校体育に関する生徒の意識調査

～ 中学生の意識～

スポーツ科学研究室 重本 英生・水野 昌亨・小峰 譲二・中村 徳男・大場 瑞穂
研究アドバイザー 横浜国立大学 落合 優

研究の概要について

1 テーマ設定の理由

体育センターでは、学習指導要領の改訂に伴い、昭和47年・昭和58年・平成6年と過去3回、およそ10年ごとに小・中・高校生（小学生は平成6年より）を対象に学校体育に関する意識を明らかにしてきた。

そこで、現行の学習指導要領導入後3年が経過したことから、平成17年度から3年継続研究として1年次（平成17年度）小学生、2年次（平成18年度）中学生、3年次（平成19年度）高校生を対象にした調査を実施し、学校体育に関する児童生徒の意識等についての現状を把握するとともに、過去の調査と比較することにより変化を明らかにすることで、今後の学習指導の参考資料を得ることとした。

今年度は、研究の2年次として、中学生を対象に調査を実施し、学校体育に関する意識等の現状と経年変化に加え、小学生（平成17年度調査結果）と比較分析することにより、加齢にともなう差異についても明らかにすることとした。

2 目的

学校体育に関する生徒の意識の現状を把握するとともに、過去の調査と比較分析することにより意識の変化を明らかにし、これからの中学校体育の方向性を探るための基礎資料とする。

3 内容及び方法

(1) 研究の期間

平成18年4月1日～平成19年3月31日

(2) 研究の内容

生徒の学校体育に関する意識調査及び学習状況等に関する実態の調査・分析

(3) 研究の方法

ア 文献研究

イ 質問紙法による調査

(ア) 調査期間

平成18年6月上旬～平成18年6月下旬

(イ) 調査の方法

学校通しによる

(ウ) 調査対象者

県内の政令指定都市、中核都市及び6教育事務所ごとに抽出した公立中学校20校の生徒

(エ) 標本構成

表 - 1 標本の学年別男女別構成人数

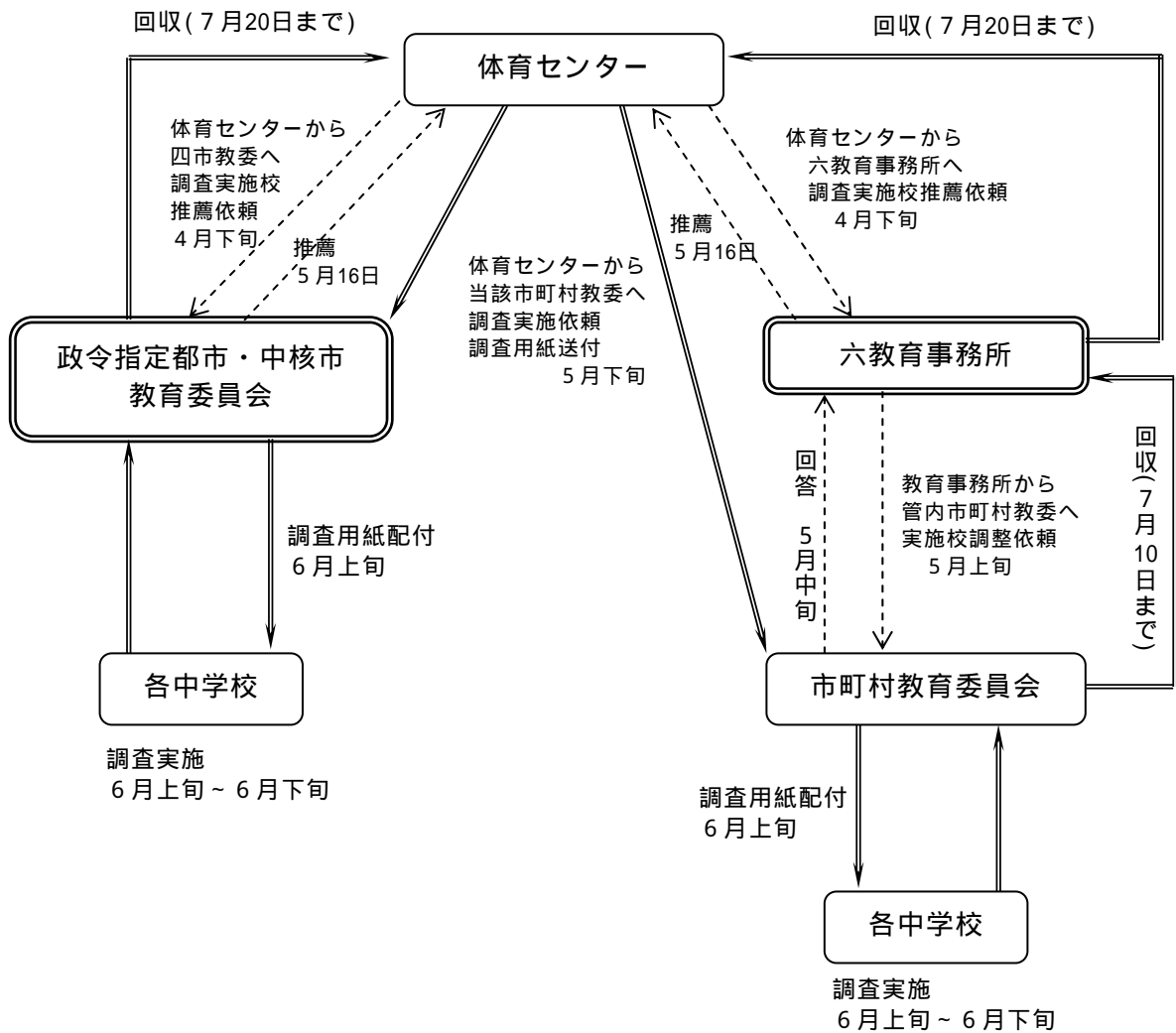
学 年	男	女	計
1 学年	683名	657名	1,295名
2 学年	664名	616名	1,280名
3 学年	668名	645名	1,313名
計	1,970名	1,918名	3,888名

(オ) 標本の学校別内訳

表 - 2 標本の学校別内訳

	地区名	学校名	1学年			2学年			3学年			合計		
			男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
1	横浜	横浜市立希望が丘中学校	30	30	60	30	30	60	30	30	60	90	90	180
2		横浜市立今宿中学校	31	29	60	36	36	72	32	29	61	99	94	193
3		横浜市立大綱中学校	32	35	67	30	30	60	30	32	62	92	97	189
4		横浜市立川和中学校	36	33	69	36	34	70	36	30	66	108	97	205
5	川崎	川崎市立臨港中学校	38	35	73	31	26	57	30	29	59	99	90	189
6		川崎市立西中原中学校	37	31	68	34	30	64	31	30	61	102	91	193
7		川崎市立長沢中学校	30	30	60	41	30	71	30	30	60	101	90	191
8	横須賀	横須賀市立久里浜中学校	31	30	61	30	31	61	34	37	71	95	98	193
9	相模原	相模原市立大野南中学校	35	36	71	36	32	68	37	35	72	108	103	211
10		相模原市立相原中学校	37	37	74	32	30	62	41	34	75	110	101	211
11	湘南 三浦	鎌倉市立玉縄中学校	30	37	67	36	25	61	31	33	64	97	95	192
12		藤沢市立村岡中学校	30	30	60	29	32	61	30	29	59	89	91	180
13		茅ヶ崎市立西浜中学校	35	25	60	30	31	61	32	41	73	97	97	194
14	高相 津久井	大和市立光丘中学校	35	38	73	37	35	72	37	39	76	109	112	221
15		座間市立相模中学校	34	33	67	35	33	68	38	32	70	107	98	205
16	中	秦野市立北中学校	30	38	68	27	29	56	35	26	61	92	93	185
17		伊勢原市立中沢中学校	31	30	61	36	29	65	30	35	65	97	94	191
18	足柄上	南足柄市立足柄台中学校	30	30	60	30	31	61	30	30	60	90	91	181
19	足柄下	小田原市立城山中学校	38	31	69	37	33	70	36	34	70	111	98	209
20	愛甲	厚木市立依知中学校	8	39	47	31	29	60	38	30	68	77	98	175
合計			638	657	1,295	664	616	1,280	668	645	1,313	1,970	1,918	3,888

4 調査の手順



5 調査の内容 (調査項目一覧)

- (1) 運動の好き、きらいについて
- (2) 体育の学習について
- (3) 体育の学習以外の運動への取り組みについて
- (4) 好きな、または行いたい運動やスポーツについて
- (5) 体育を指導してくれる理想の教師像について

6 研究アドバイザー

横浜国立大学教育人間科学部 教授 落合 優

(集計は、横浜国立大学教育人間科学部体育心理学研究室で行った)

7 集計方法等について

(1) 百分率の計算等について

ア 各グラフに示したnは回答者数である。また、単数回答及び複数回答の質問についてもこのnを母数として算出した百分率を示した。

イ 各グラフに示した百分率は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

(2) 集計について

- ア 本調査報告者は、単純集計とクロス集計の結果とした。
- イ 単純集計については、各学年別に結果を示すとともに、特徴を見るため男女別の集計を行った。
- ウ クロス集計については、体育の学習が「好き群」・「どちらでもない」・「きらい群」の3群と他の項目との結果を示した。

回答を「とても好き」「どちらかというとき好き」「どちらでもない」「どちらかというとききらい」「とてもきらい」の5段階の評価尺度で求めたものの内で、「とても好き」「どちらかというとき好き」を「好き群」、「どちらかというとききらい」「とてもきらい」を「きらい群」としている。

(3) 統計的有意差について

本調査報告書におけるクロス集計の結果は、すべての項目で²検定によって検定を行った。

²検定とは、本調査のように対象者を抽出して行った場合に、得られた結果に妥当性があるか否かを統計的に確かめる方法である。

今回、²検定を行った結果、有意差が見られたものについては、以下のように示した。

0.1%水準で有意	...	***	P<0.001
1%水準で有意	...	**	P<0.01
5%水準で有意	...	*	P<0.05
有意差無し	...	n s	

例えば、0.1%水準で有意とは、同様の調査を1,000回異なる抽出者で行った場合においても、999回は同じ傾向の調査結果を得られることを示している。

(4) その他

前回調査(平成7年)との比較調査も行っているが、学習指導要領の改訂に伴い単純に比較できないものや質問方法の違い等もあり、そのような質問については可能な範囲内での調査とした。

調査結果の概要について

1 調査結果の概要について

今回の調査から、以下のとおりの特徴的な結果が得られた。根拠となる調査結果については、単純集計結果とクロス集計結果に分けて記述ページを示してあるので、参照していただきたい。

「単」は単純集計結果 「ク」はクロス集計結果

1	多くの生徒が運動やスポーツが好き	単：P6～P7	ク：P100～P104
2	体育好きの生徒は10年前よりも増加 でも小学生から学年進行に伴って減少	単：P8～P18	
3	体育の活動状況は全体的に向上	単：P26～P47	ク：P108～P133
4	体育の楽しさは「記録が伸びたり、できないことができるようになったりしたとき」	単：P48～P55	ク：P134～P146
5	体育の学習で人気の領域は「球技」・「陸上競技」・「器械運動」の順	単：P19～P25	ク：P105～P107
6	好きな、または行ないたい運動やスポーツは男子「サッカー」、女子「バドミントン」	単：P86～P90	
7	男女共習楽しいと感じる生徒は女子のほうが多い	単：P60～P67	ク：P151～P161
8	安全面で心がけていることは「準備運動や整理運動を十分にすること」	単：P56～P59	ク：P147～P150
9	休み時間や放課後に運動をしているのは男子83.4%、女子60.0%	単：P68～P76	ク：P162～P173
10	運動部活動への入部率は男子81.4%、女子57.3%	単：P77～P78	ク：P174～P176
11	スポーツクラブへの加入は男子23.6%、女子12.8%	単：P79～P80	ク：P177～P178
12	まったく運動やスポーツをしない生徒は男子0.9%、女子4.2%	単：P81～P85	ク：P179～P189
13	理想の教師像は「ユーモアのあるやさしい先生」	単：P91～P98	ク：P190～P193

2 単純集計結果について

調査内容については、3ページの「ウ 調査の内容（調査項目一覧）」で示した通りである。前回調査（平成7年度）および小学生の意識との比較については、特徴的な差が出たものに関してのみコラム1～30で記述した。

(1) 運動やスポーツの好き、きれいについて

ア 運動やスポーツをすることが好きかきれいかについて

【問1】 あなたは、運動やスポーツをすることが好きですか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 とても好き 2 どちらかという好き 3 どちらでもない
4 どちらかというきれい 5 とてもきれい

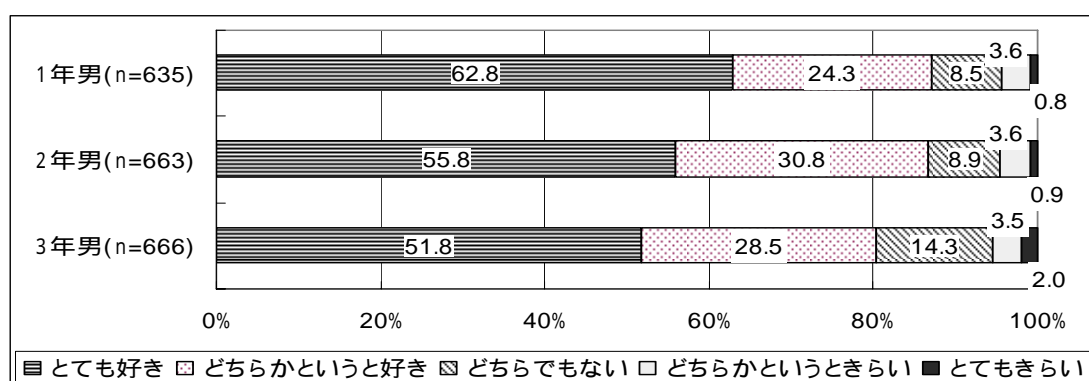


図2-1 運動やスポーツの好き、きれい(男子)

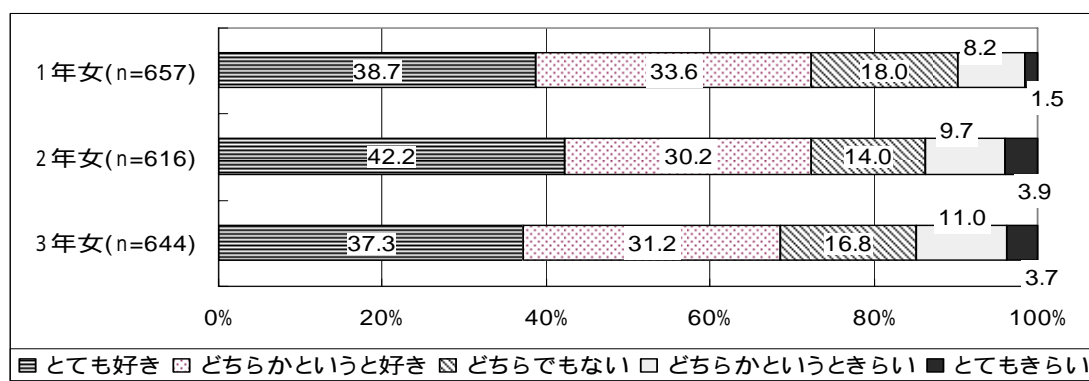


図2-2 運動やスポーツの好き、きれい(女子)

運動やスポーツをすることが「好き」かたずねたところ、「好き群」の男子は、1年生87.1%、2年生86.6%、3年生80.3%で、女子は1年生72.3%、2年生72.4%、3年生68.5%で、多くの生徒が運動やスポーツをすることが「好き」であることがわかった。しかし、男女ともに3年生になると減少しており、その割合は男子のほうが大きかった。「きれい群」の男子は、1年生4.4%、2年生4.5%、3年生5.5%で大きな変化はないが、女子は1年生9.7%、2年生13.6%、3年生14.7%で、女子は学年進行とともに増えている。

コラム1

「運動・スポーツの好き、きれいについて」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

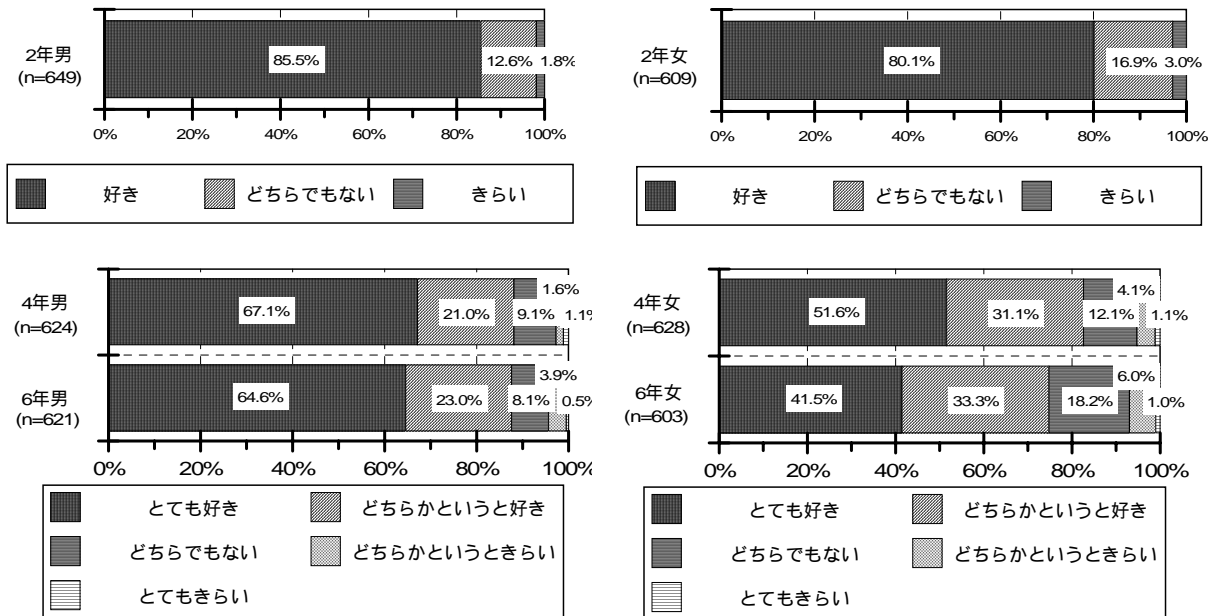


図 (1) 「運動・スポーツ好き、きれいについて」小学生の意識(平成17年度調査)

「好き群」の推移は次のようになる。

小学2年生男子	85.5%	小学2年生女子	80.1%
小学4年生男子	88.1% (67.1%)	小学4年生女子	82.7% (51.6%)
小学6年生男子	87.6% (64.6%)	小学6年生女子	74.8% (41.5%)
中学1年生男子	87.1% (62.8%)	中学1年生女子	72.3% (38.7%)
中学2年生男子	86.6% (55.8%)	中学2年生女子	72.4% (42.2%)
中学3年生男子	80.3% (51.8%)	中学3年生女子	68.5% (37.3%)

()内はとても好き

男子の「好き群」については、小学6年生の割合を中学1年生でほぼ引継ぎ、その後減少していくことがわかった。「とても好き」についても、男女ともに学年進行に伴って減少しており、中学に入ってから減少率は、男子のほうが大きい。

「きれい群」の推移は次のようになる。

小学2年生男子	1.8%	小学2年生女子	3.0%
小学4年生男子	2.7% (1.1%)	小学4年生女子	5.2% (1.1%)
小学6年生男子	4.4% (0.5%)	小学6年生女子	7.0% (1.0%)
中学1年生男子	4.4% (0.8%)	中学1年生女子	9.7% (1.5%)
中学2年生男子	4.5% (0.9%)	中学2年生女子	13.6% (3.9%)
中学3年生男子	5.5% (2.0%)	中学3年生女子	14.7% (3.7%)

()内はとてもきれい

男子の「きれい群」については、小中を通じて5%前後でほとんど変わらなかったが、女子は学年進行に伴って増えていることがわかった。

(2) 体育の学習について

ア 体育の学習が好きかきらいかについて

【問2】 あなたは、体育の学習が好きですか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 とても好き 2 どちらかという好き 3 どちらでもない
4 どちらかというときらい 5 とてもきらい

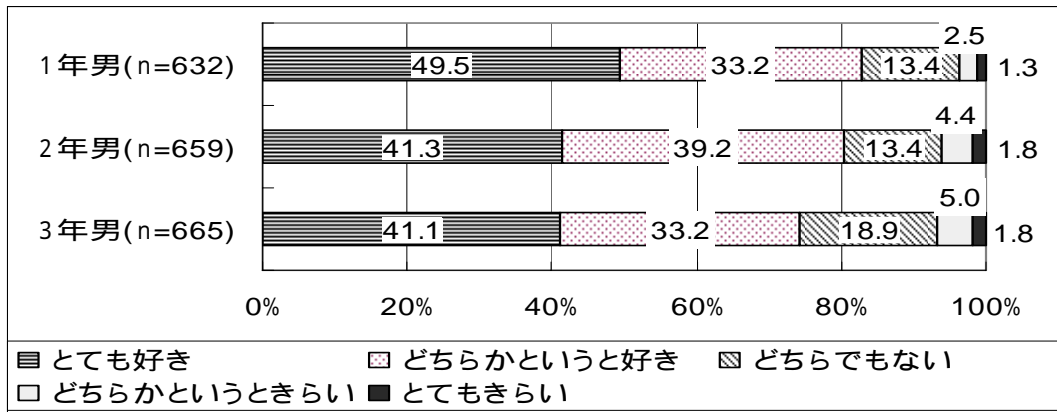


図2 - 3 体育の学習の好き、きらい(男子)

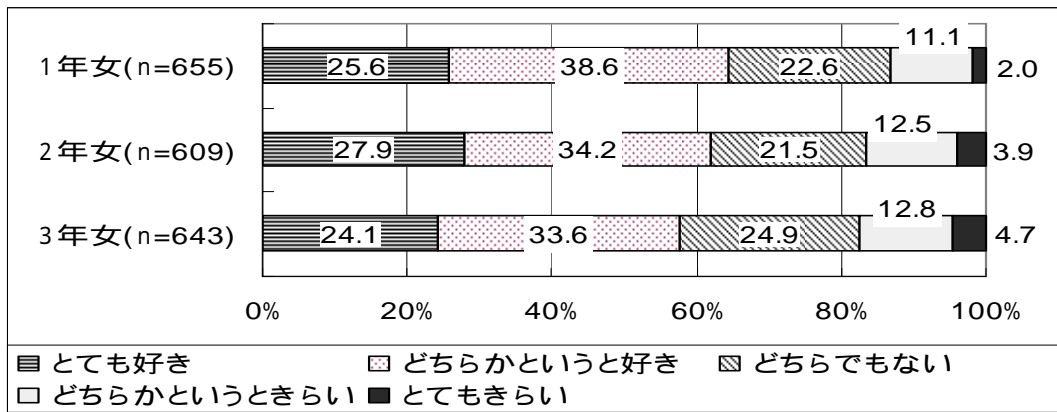


図2 - 4 体育の学習の好き、きらい(女子)

体育の学習が「好き」かたずねたところ、「好き群」の男子は、1年生82.7%、2年生80.5%、3年生74.3%で、女子は1年生64.2%、2年生62.1%、3年生57.7%と、男女ともに学年進行にともなって減少している。

「きらい群」の男子は、1年生3.8%、2年生6.2%、3年生6.8%で、女子は1年生13.1%、2年生16.4%、3年生17.5%と、男女ともに学年進行にともなって増加している。

コラム 2

「体育の学習の好き、きれいについて」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

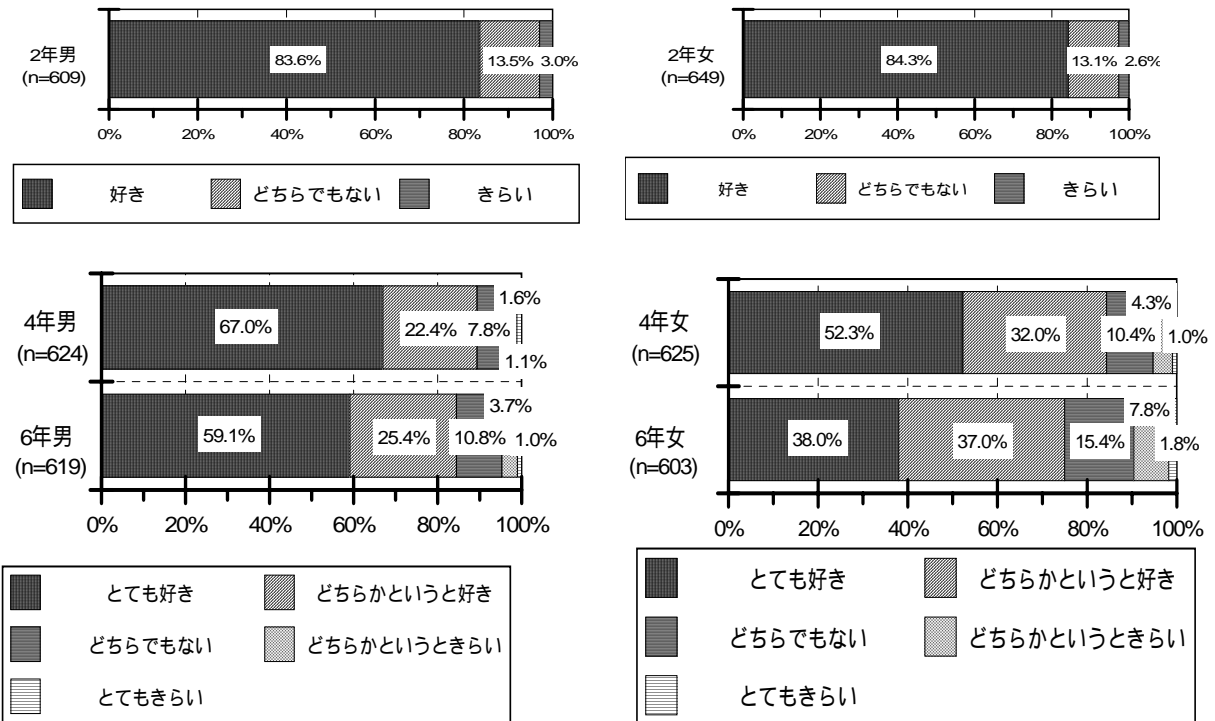


図 (2) 「体育の学習の好き、きれいについて」小学生の意識 (平成17年度調査)

「好き群」の推移は次のようになる。

小学2年生男子	83.6%	小学2年生女子	84.3%
小学4年生男子	89.4% (67.0%)	小学4年生女子	84.3% (52.3%)
小学6年生男子	84.5% (59.1%)	小学6年生女子	75.0% (38.0%)
中学1年生男子	82.7% (49.3%)	中学1年生女子	64.2% (25.6%)
中学2年生男子	80.5% (41.3%)	中学2年生女子	62.1% (27.9%)
中学3年生男子	74.3% (41.1%)	中学3年生女子	57.7% (24.1%)

()内はとても好き

「好き群」については、男女ともに小学4年生をピークに学年の進行とともに減少しており、低下率は男子よりも女子のほうが大きいことがわかった。

「きれい群」の推移は次のようになる。

小学2年生男子	3.0%	小学2年生女子	2.6%
小学4年生男子	2.7% (1.1%)	小学4年生女子	5.3% (1.0%)
小学6年生男子	4.7% (1.0%)	小学6年生女子	9.6% (1.8%)
中学1年生男子	3.8% (1.3%)	中学1年生女子	13.1% (2.0%)
中学2年生男子	6.2% (1.8%)	中学2年生女子	16.4% (3.9%)
中学3年生男子	6.8% (1.8%)	中学3年生女子	17.5% (4.7%)

()内はとてもきれい

「きれい群」をみると、男子は小学4年生から、女子は小学2年生から学年の進行とともに増加しており、割合は男子よりも女子のほうが大きいことがわかった。

コラム3

「体育の学習の好き、きれいについて」中学生の意識(平成7年度調査)との比較

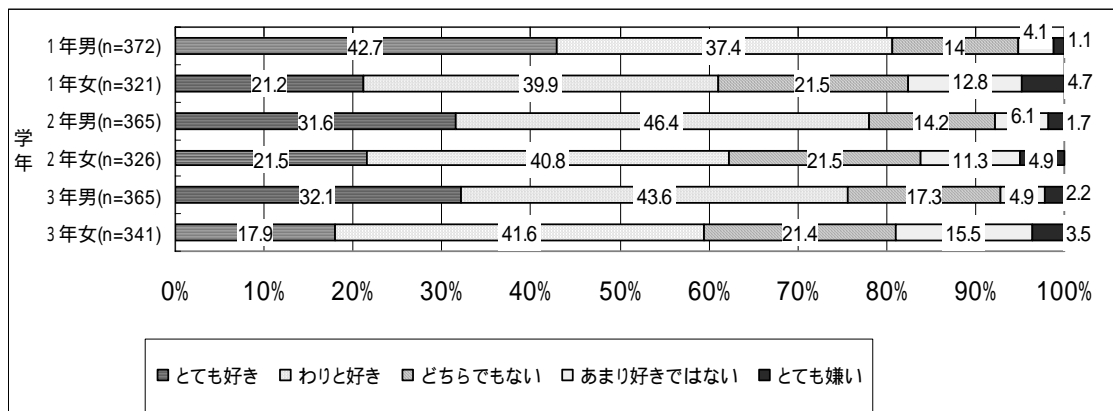


図 (3) 「体育の学習の好き、きれい」中学生の意識(平成7年度調査)

「好き群」の推移をみると次のようになる。

H 7	1年生男子	80.1% (42.7%)	H 7	1年生女子	61.1% (21.2%)
	2年生男子	78.0% (31.6%)		2年生女子	62.3% (21.5%)
	3年生男子	75.7% (32.1%)		3年生女子	59.3% (17.9%)
	3学年平均	77.9% (35.5%)		3学年平均	60.9% (20.2%)
H 18	1年生男子	82.7% (49.3%)	H 18	1年生女子	64.2% (25.6%)
	2年生男子	80.5% (41.3%)		2年生女子	62.1% (27.9%)
	3年生男子	74.3% (41.1%)		3年生女子	57.7% (24.1%)
	3学年平均	79.2% (43.9%)		3学年平均	61.3% (25.9%)

()内はとても好き

3学年平均で見ると、男子はH 7年77.9%、H 18年79.2%で1.3ポイントの増加、女子はH 7年60.9%、H 18年61.3%で0.4ポイントの増加であった。「とても好き」に注目してみると男子はH 7年35.5%、H 18年43.9%で8.4ポイントの増加、女子はH 7年20.2%、H 18年25.9%で5.7ポイントの増加であった。このことから、10年前に比べると「体育好き」は増え、「とても好き」の生徒も増えていることがわかった。

「きれい群」の推移をみると次のようになる。

H 7	1年生男子	5.2% (1.1%)	H 7	1年生女子	17.5% (4.7%)
	2年生男子	7.8% (1.7%)		2年生女子	16.2% (4.9%)
	3年生男子	7.1% (2.2%)		3年生女子	19.0% (3.5%)
	平均	6.7% (1.7%)		平均	17.6% (4.4%)
H 18	1年生男子	3.8% (1.3%)	H 18	1年生女子	13.1% (2.0%)
	2年生男子	6.2% (1.8%)		2年生女子	16.4% (3.9%)
	3年生男子	6.8% (1.8%)		3年生女子	17.5% (4.7%)
	平均	5.6% (1.6%)		平均	15.7% (3.5%)

()内はとてもきれい

3 学年平均で見ると、男子はH 7 年6.7%、H18年5.6%で1.1ポイントの減少、女子はH 7 年17.6%、H18年15.7%で1.9ポイントの減少であった。「とてもきれい」に注目してみると男子はH 7 年1.7%、H18年1.6で0.1ポイントの減少、女子はH 7 年4.4%、H18年3.5%で0.9ポイントの減少であった。このことから、10年前に比べると「体育きれい」は減り、「とてもきれい」の生徒も減っていることがわかった。これらのことは、体育の学習が改善されてきている結果ではないかと思われる。

イ 体育の学習が好きな理由について

【問3】 体育の学習が好きな理由は何ですか？ 下から2つ選んで番号で教えてください。

(問2で「好き群」の生徒のみ回答)

- 1 思いきり身体を動かすことができるから
- 2 いろいろな運動ができておもしろいから
- 3 友だちと一緒に仲よくゲームや運動ができるから
- 4 できないことができるようになったり、速く走れるようになったりするから
- 5 自分なりに工夫して学習することができるから
- 6 教室ではなく校庭や体育館で学習できるから
- 7 その他

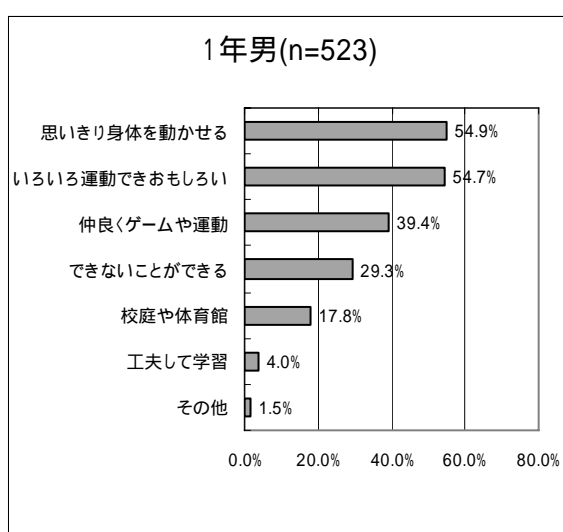


図2-5 体育の学習が好きな理由
(1年生男子)

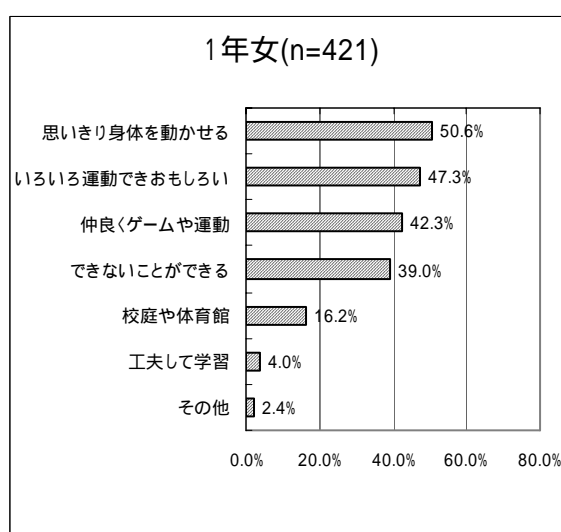


図2-6 体育の学習が好きな理由
(1年生女子)

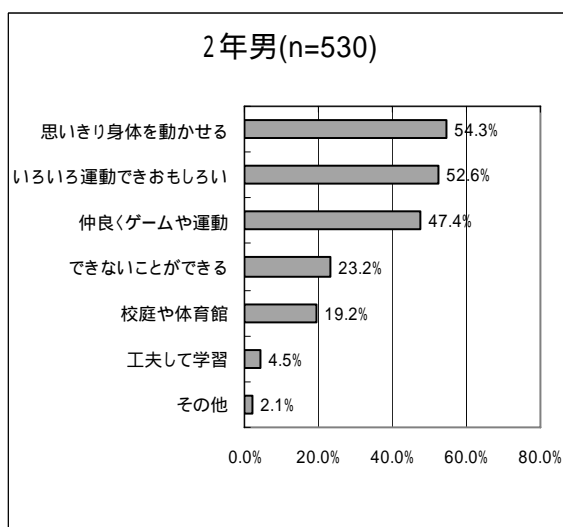


図2-7 体育の学習が好きな理由
(2年生男子)

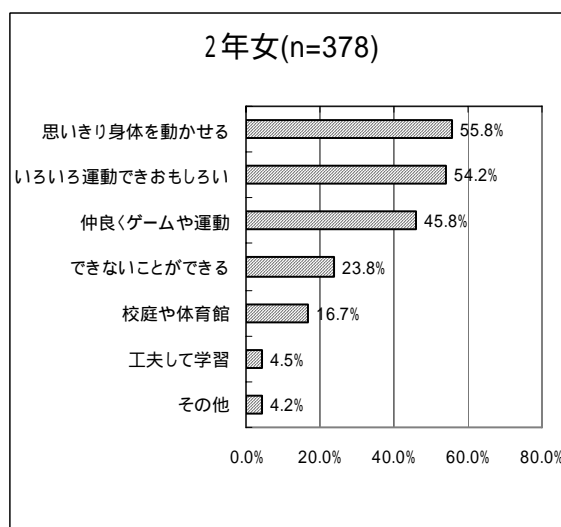


図2-8 体育の学習が好きな理由
(2年生女子)

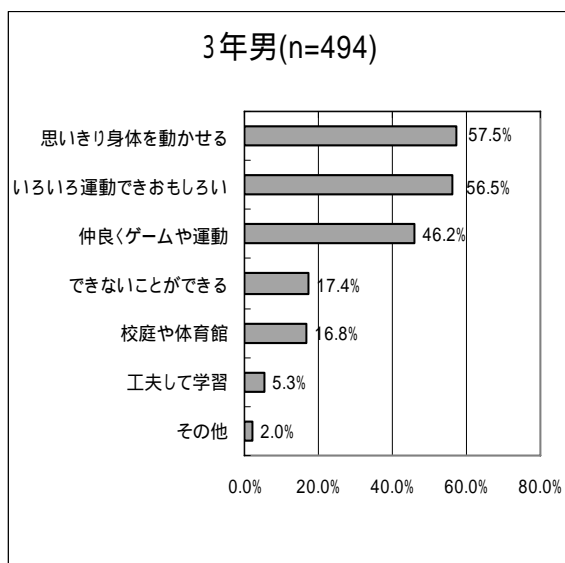


図2 - 9 体育の学習が好きな理由
(3年生男子)

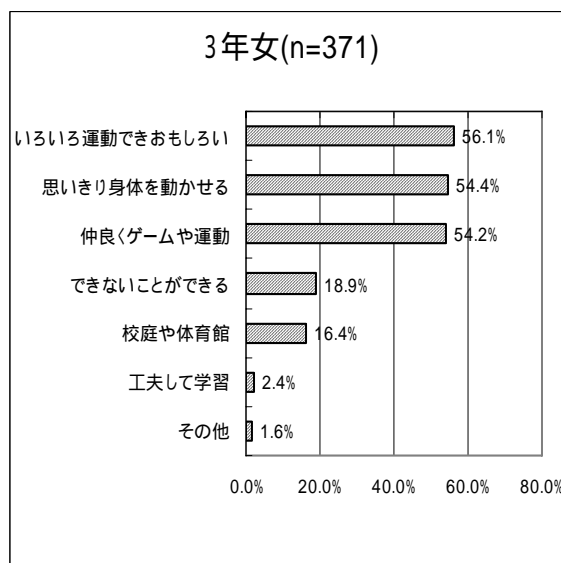


図2 - 10 体育の学習が好きな理由
(3年生女子)

体育の学習が「好き」な理由をたずねたところ、3年生の女子以外すべて「思いきり身体を動かすことができるから」（以下「思いきり身体」という。）が最高位で、次に「いろいろな運動ができておもしろいから」（以下「いろいろな運動」という。）となった。

3年生女子は、最高位が「いろいろな運動」で、次に「思いきり身体」であったが、その差はわずか0.6ポイントだった。

3番目は全学年の男女ともに「友だちと一緒に仲よくゲームや運動ができるから（以下友だちと仲良くという。）」となった。

コラム 4

「体育の学習が好きな理由」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

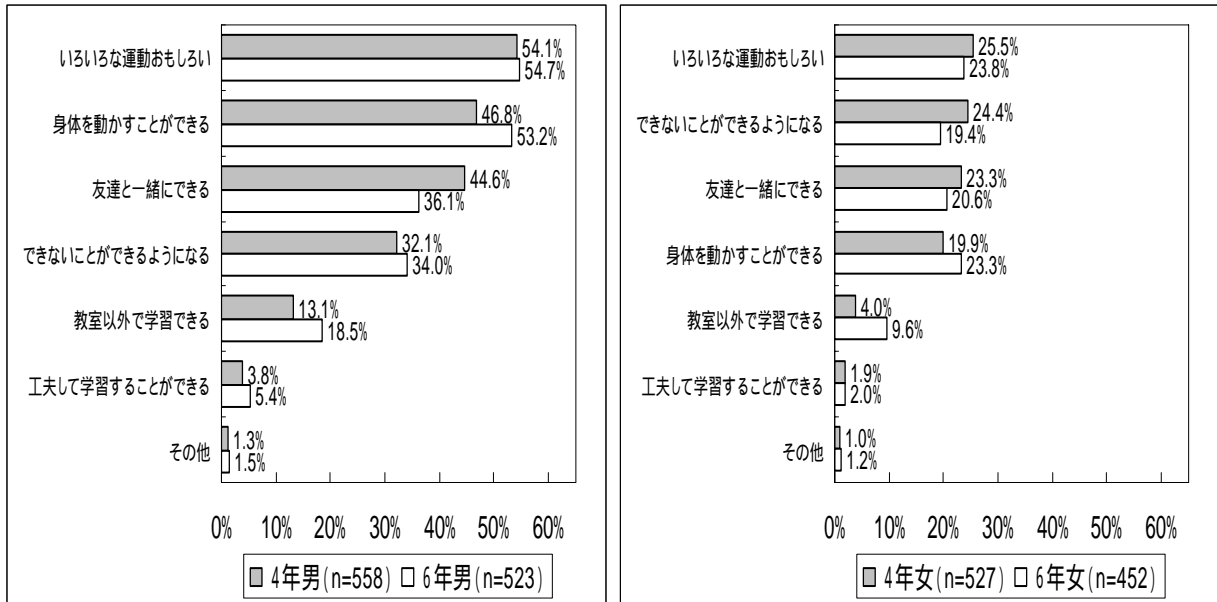


図 (4) 「体育の学習が好きな理由」小学生の意識 (平成17年度調査)

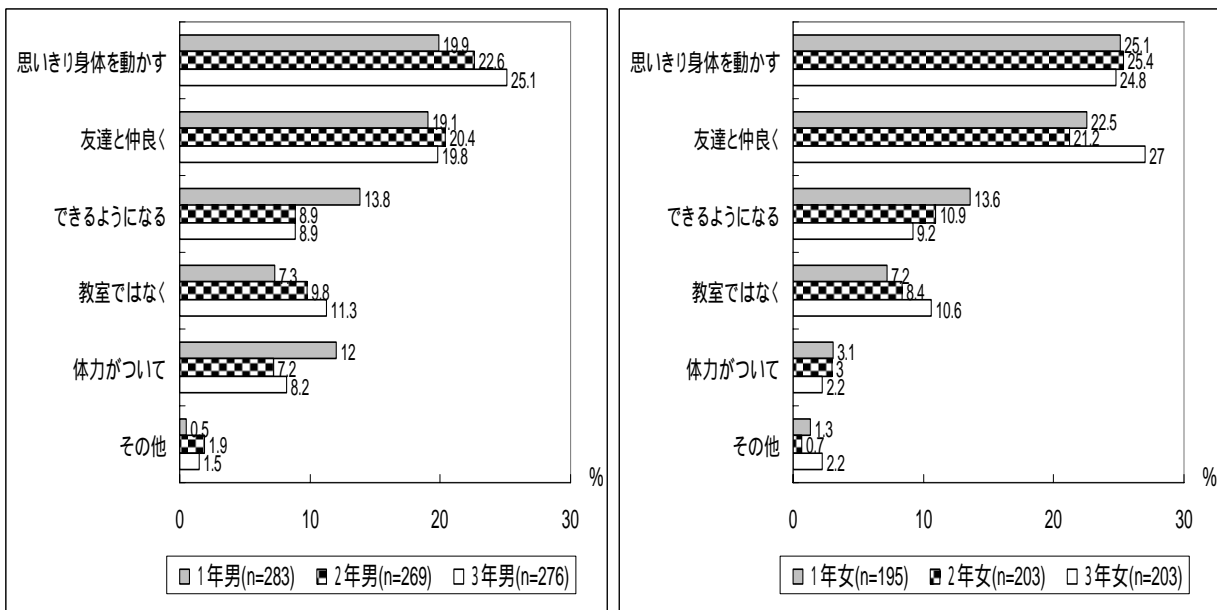


図 (5) 「体育の学習が好きな理由」中学生の意識 (平成7年度調査)

今回の調査と、平成7年度調査、平成17年度調査の体育の学習が好きな理由は、すべての調査で「いろいろな運動ができておもしろいから」という運動の持つ多様な楽しさに触れる喜びや、「思いきり身体をうごかすことができるから」という活動欲求が充足されること、「友達と一緒に仲良くゲームや運動ができるから」というお互いに認め合い、良好な人間関係を築こうとする運動有能感の「受容感(教師や仲間から受け入れられているという自信)」が高まったときを上位にあげている。

ウ 体育の学習がきらいな理由について

【問4】 体育の学習がきらいな理由は何ですか？ 下から2つ選んで番号で教えてください。

(問2で「きらい群」の生徒のみ回答)

- 1 身体を動かすことが好きでなく、面倒くさいから
- 2 運動をすると疲れたり、苦しくなったりするから
- 3 友だちにひやかされるから
- 4 いくら練習してもうまくならないから
- 5 学習の仕方がよくわからないから
- 6 体育館や校庭での学習が苦手だから
- 7 その他

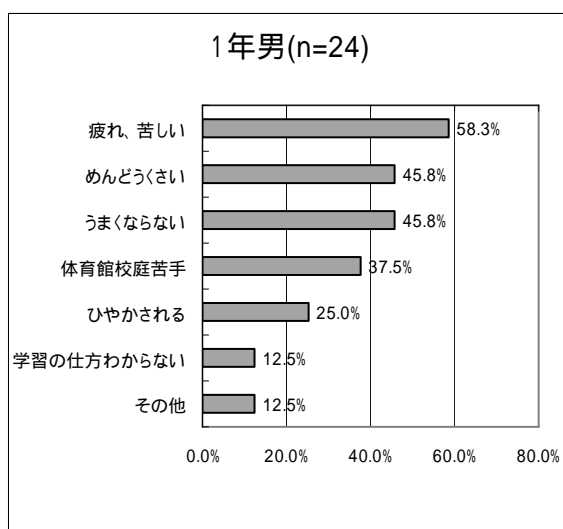


図2-11 体育の学習がきらいな理由
(1年生男子)

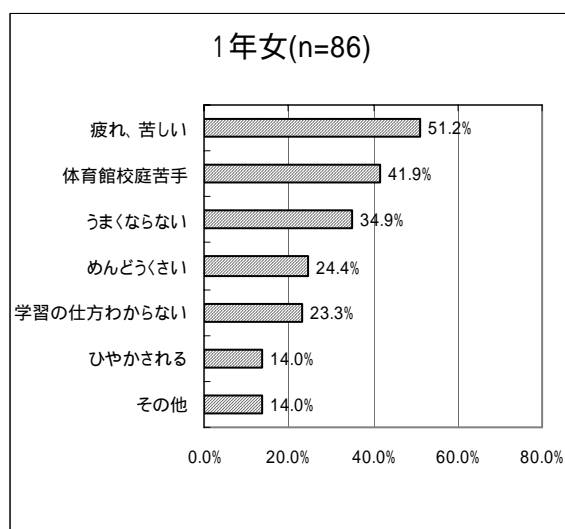


図2-12 体育の学習がきらいな理由
(1年生女子)

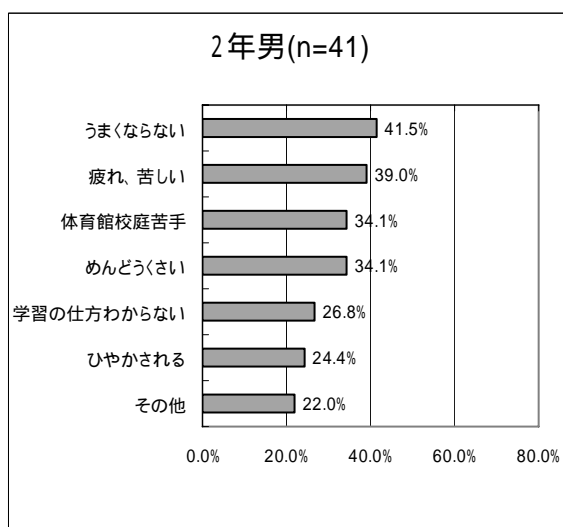


図2-13 体育の学習がきらいな理由
(2年生男子)

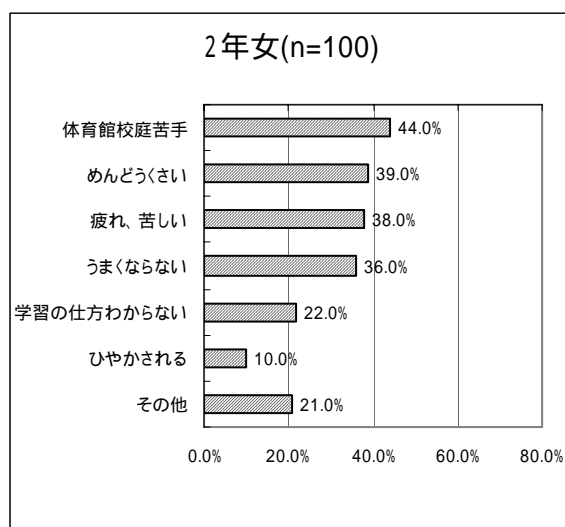


図2-14 体育の学習がきらいな理由
(2年生女子)

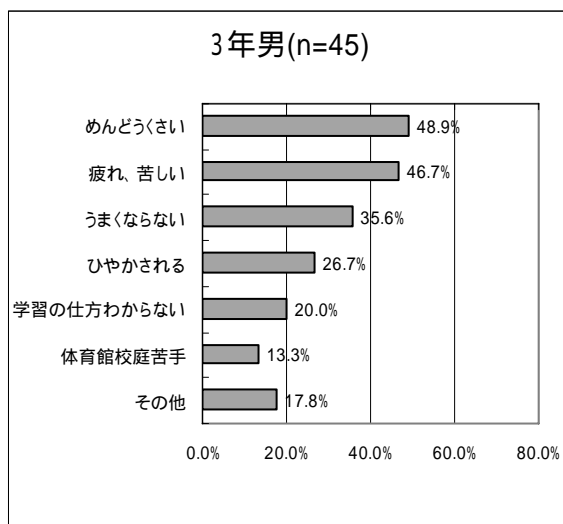


図 2 - 15 体育の学習がきらいな理由
(3年生男子)

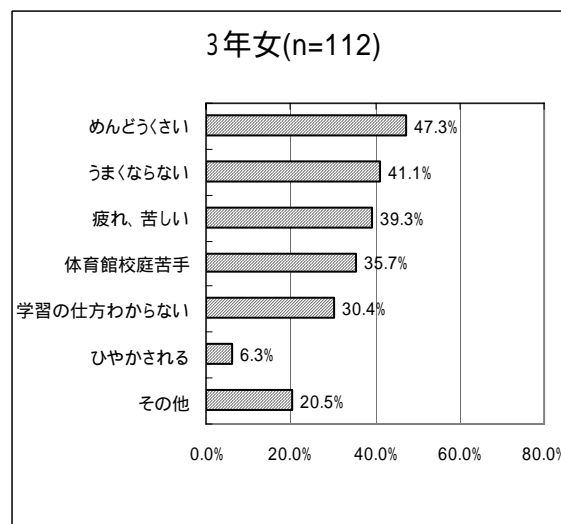


図 2 - 16 体育の学習がきらいな理由
(3年生女子)

体育の学習が「きらい」な理由をたずねたところ、1年生男子の最高位は「運動すると疲れたり、くるしくなったりするから」(以下「疲れ苦しい」という。)で、次に同率で「いくら練習してもうまくならない」(以下「うまくならない」という。)と「身体を動かすことが好きでなく、面倒くさいから」(以下「面倒くさい」という。)であった。2年生男子の最高位は「うまくならない」で、次に「疲れ苦しい」、3番目は同率で「面倒くさい」と「体育館や校庭での学習が苦手だから」(以下「体育館苦手」という。)であった。

3年生男子の最高位は「面倒くさい」で、次に「疲れ苦しい」、次に「うまくならない」であった。

1年生女子は「疲れ苦しい」「体育館苦手」「うまくならない」の順で、2年生女子は「体育館苦手」「面倒くさい」「疲れ苦しい」の順、3年生女子は「面倒くさい」「うまくならない」「疲れ苦しい」の順であった。

コラム 5

「体育の学習がきらいな理由」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

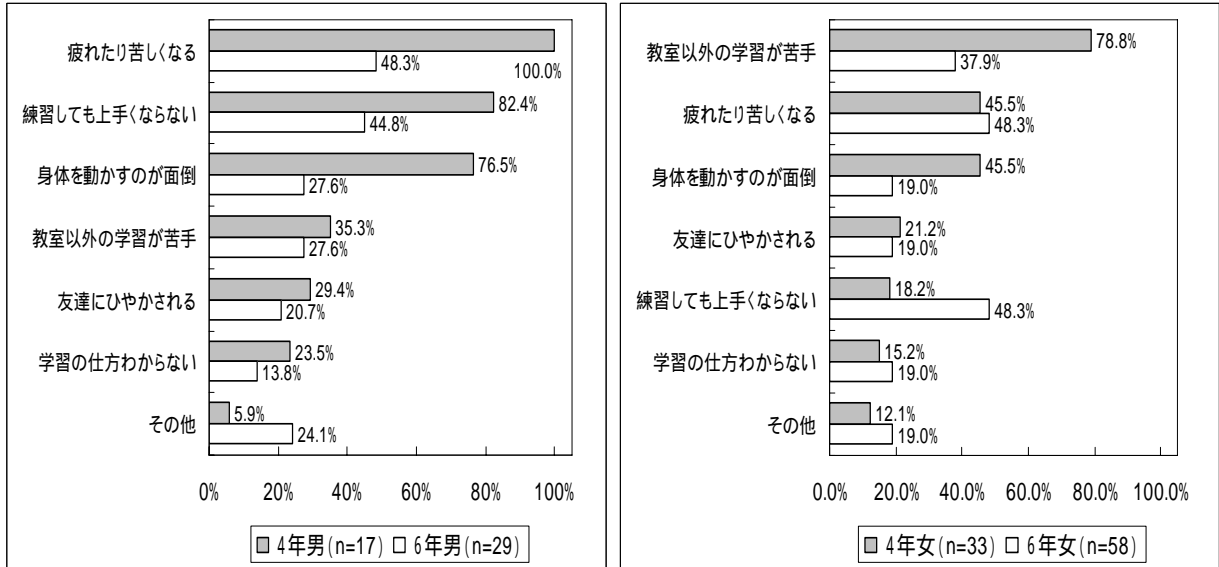


図 (6) 「体育の学習がきらいな理由」小学生の意識 (平成17年度調査)

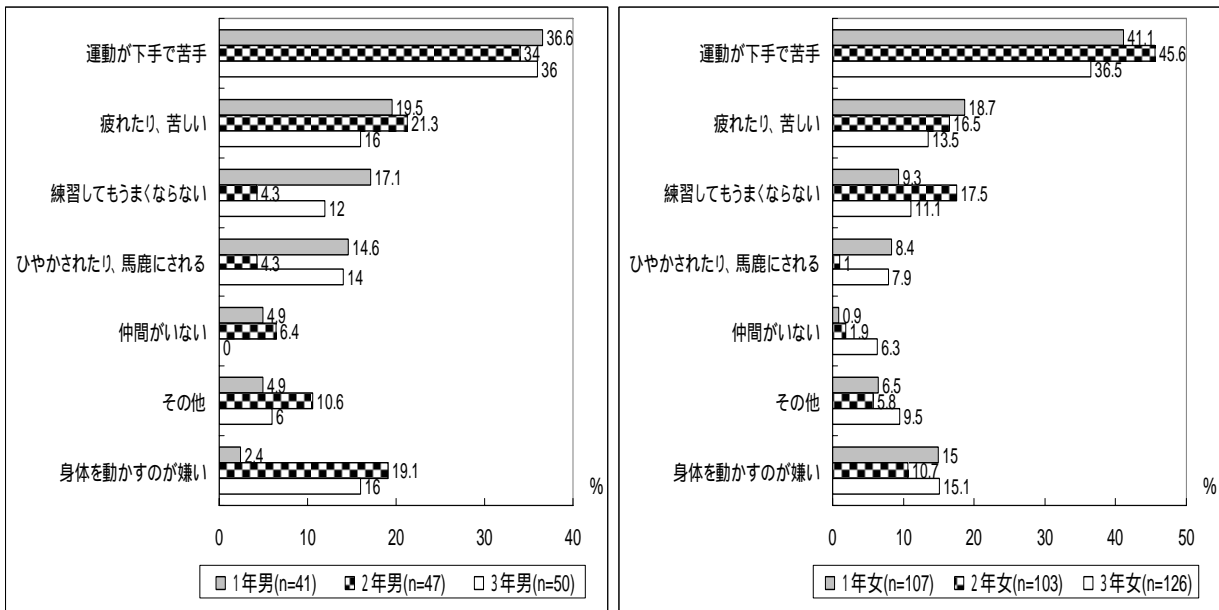


図 (7) 「体育の学習がきらいな理由」中学生の意識 (平成7年度調査)

「きらい」な理由として平成7年度「中学生の意識」調査では全学年男女ともに「運動が下手で苦手だから」という技能上の問題が最高位で、ついで「運動すると疲れたり、苦しくなったりするから(以下「疲れ、苦しい」という。)」、「身体を動かすのがきらいで、面倒くさいから(以下「面倒くさい」という。)」という結果となった。平成17年度「小学生の意識」調査では「疲れ、苦しい」が男女ともに多く、今回調査でも「疲れ、苦しい」「面倒くさい」などの、技能上の問題以外の項目が上位を占めている。

問1から問4までの結果から以下のような結果が得られた

問1は、運動やスポーツが「好き」か「嫌い」かを聞いたものである。

小学生・中学生を通じて、多くの生徒が運動やスポーツを「好き」であることがわかった。しかし、その割合は中学3年生になると減少している。

問2は、体育の学習が「好き」か「嫌い」かを聞いたものである。

体育の学習が「好き」な生徒の割合は、平成7年度「中学生の意識」調査の結果よりも増加し、体育の学習が「嫌い」な生徒の割合は減少しており、体育の学習に対する好感度が上昇していることがわかった。このことは、体育の学習の取り組みの成果として高く評価できる。

しかし、平成17年度「小学生の意識」調査の小学2年生で83%を超えていた体育の学習が「好き」な児童が、今回調査の中学3年生では、男子74.3%、女子57.7%にまで減少しており、男女ともに小学4年生からその傾向が見える。

問3は、体育の学習が「好き」な理由を聞いたものである。

体育の学習が「好き」な理由は、各学年男女とも「思いきり身体を動かすことができるから」など「活動の欲求」が充足されたときを上位にあげ、次に「友だちと一緒に仲よくゲームや運動ができるから」という運動有能感の「受容感（教師や仲間から受け入れられているという自信）」が高まったときをあげている。

問4は、体育の学習が「嫌い」な理由を聞いたものである。

1番は、活動そのものが好きでなく面倒くさいという理由であった。これは、平成17年度「小学生の意識」調査の結果でも上位にあった項目である。また、運動をすると疲れたり苦しくなったりするといった体力の低下傾向をうかがわせるような回答も多くなっている。

このことは、体育の学習に意欲的に取り組むことができない生徒が増加しているということであり、体育の学習を通して活動欲求を喚起するような指導が望まれる。

エ 好きな運動種目について

【問5】 中学校の体育で行っている運動の中で、あなたが好きなものを下から5つまで選んで、番号で教えてください。

- | | | | |
|-------------|----------------------|------------|-----------|
| 1 体ほぐしの運動 | 2 体力を高める運動 | 3 マット | 4 鉄棒 |
| 5 平均台 | 6 跳び箱 | 7 短距離走・リレー | 8 長距離走 |
| 9 ハードル走 | 10 走り幅とび | 11 走り高とび | 12 水泳 |
| 13 バスケットボール | 14 ハンドボール | 15 サッカー | 16 バレーボール |
| 17 テニス | 18 卓球 | 19 バドミントン | 20 柔道 |
| 21 剣道 | 22 相撲 ^{すもう} | 23 創作ダンス | |
| 24 フォークダンス | 25 現代的なリズムのダンス | | |

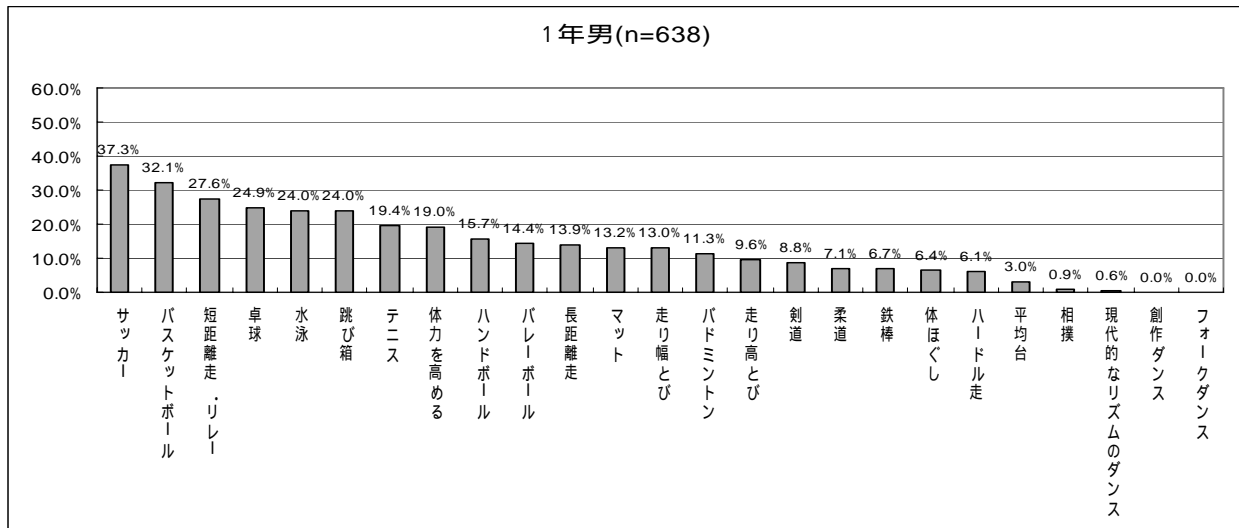


図2 - 17 好きな運動種目(1年生男子)

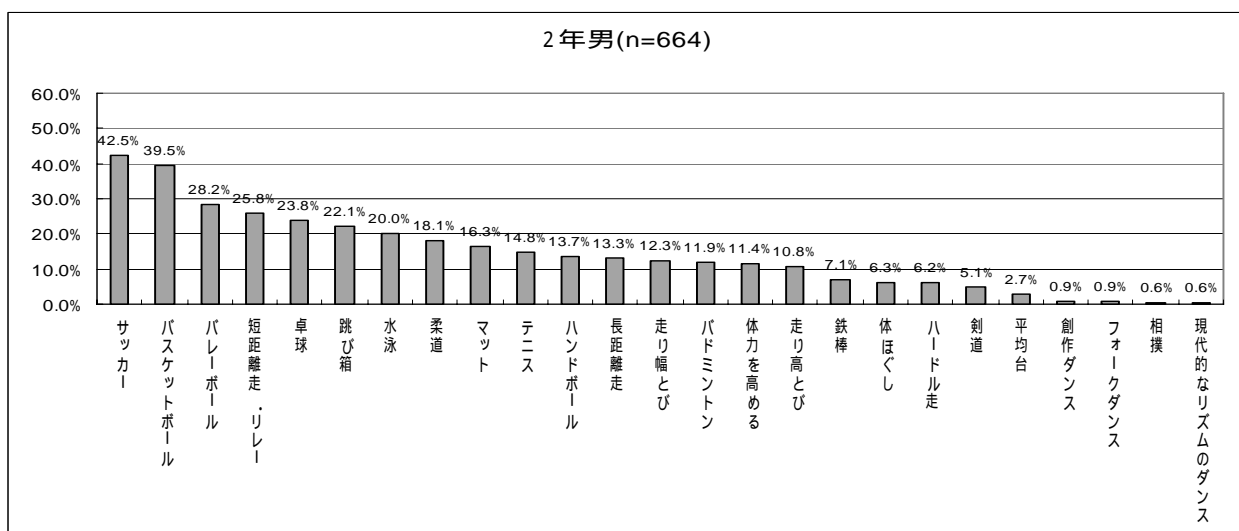


図2 - 18 好きな運動種目(2年生男子)

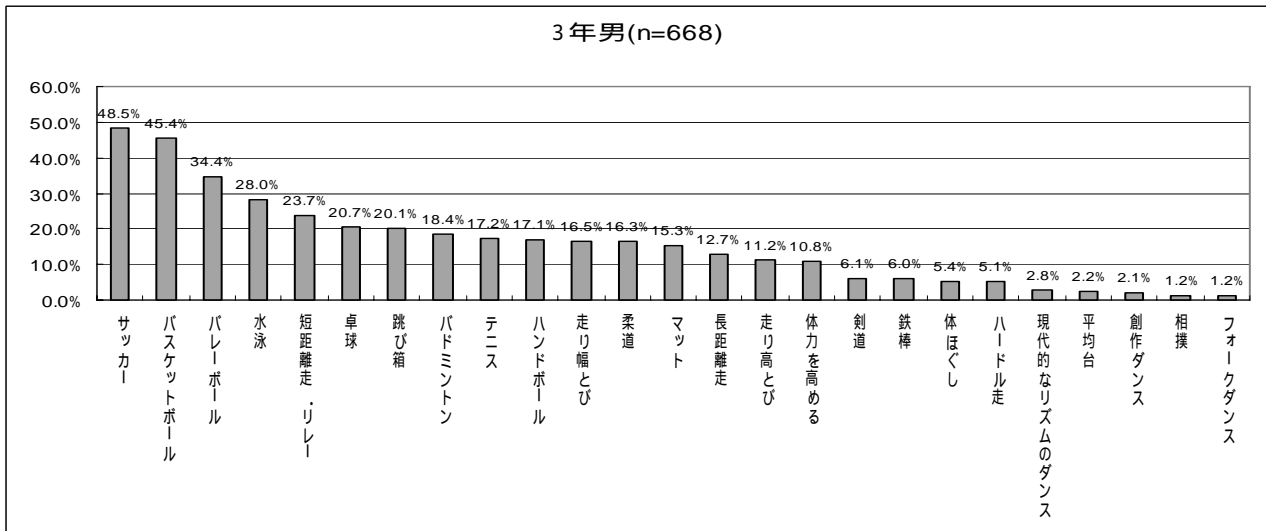


図 2 - 19 好きな運動種目 (3年生男子)

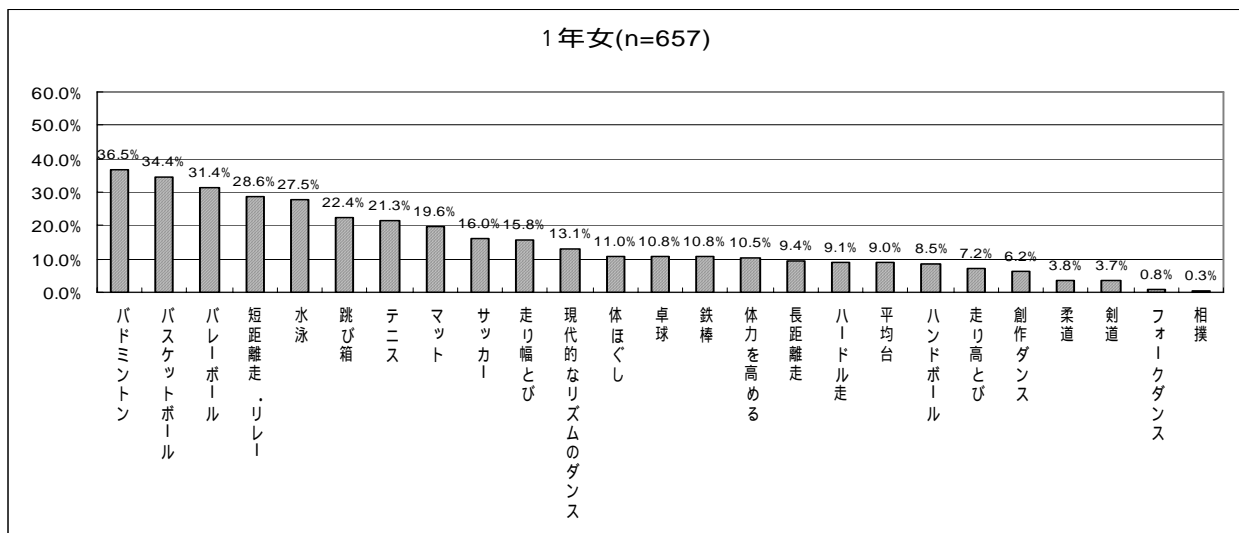


図 2 - 20 好きな運動種目 (1年生女子)

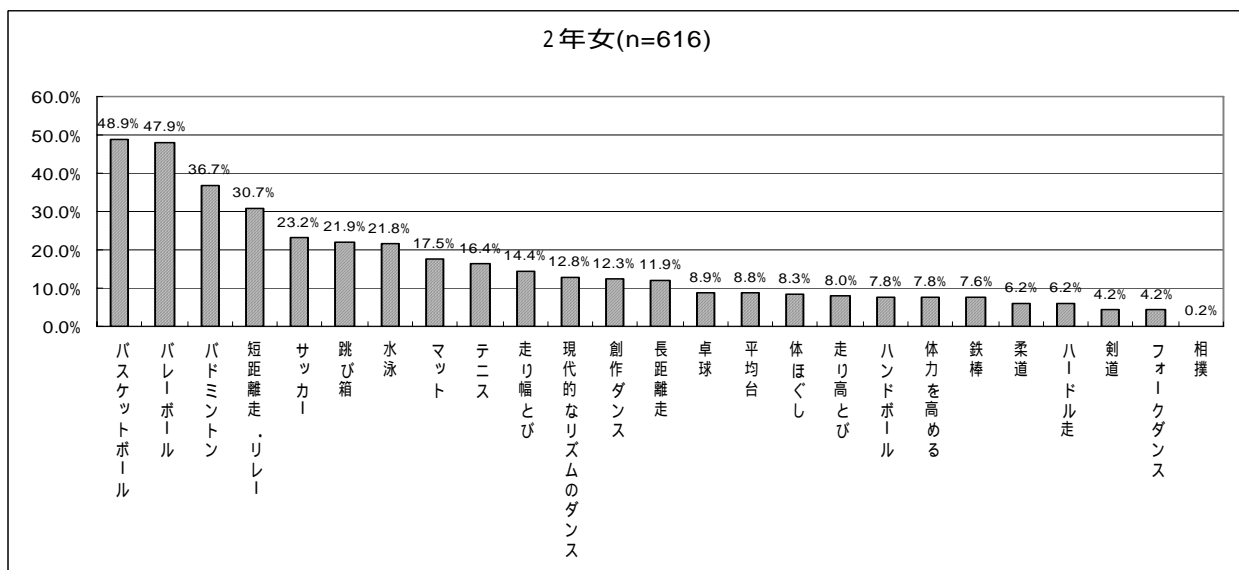


図 2 - 21 好きな運動種目 (2年生女子)

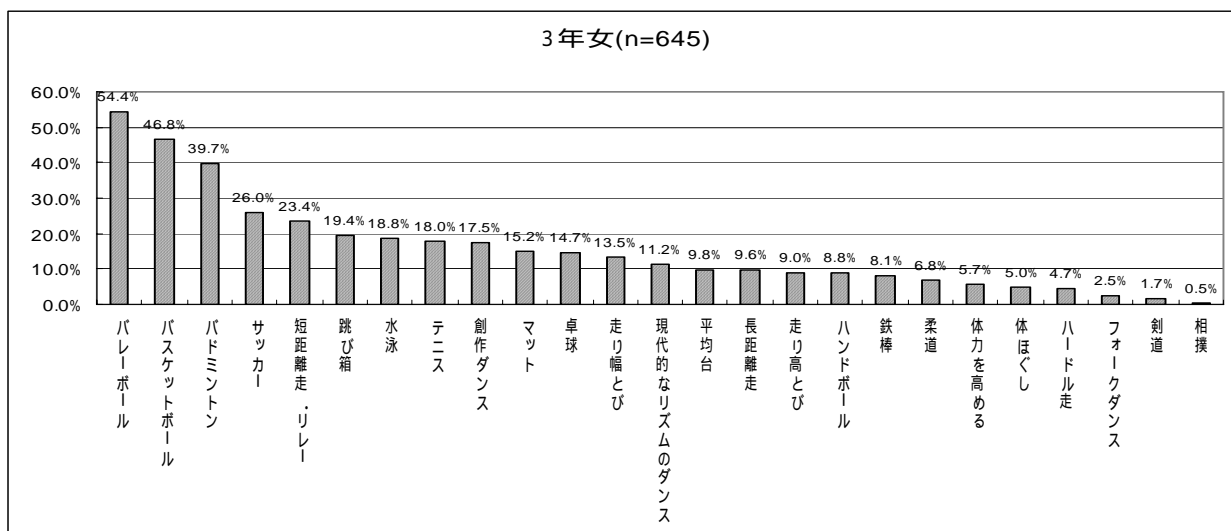


図 2 - 22 好きな運動種目(3年生女子)

表 - 1 中学校体育分野の領域及び内容の取り扱い

領域	内 容	領域の取り扱い			内容の取り扱い
		1年	2年	3年	1・2・3年
A 体づくり 運動	ア 体ほぐしの運動 イ 体力を高める運動 (ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 (イ) 力強い動きを高めるための運動 (ウ) 動きを持続する能力を高めるための運動	必修	必修	必修	ア、イ必修。イの運動については(ウ)に重点を置くことができる。
B 器械運動	ア マット運動 イ 鉄棒運動 ウ 平均台運動 エ 跳び箱運動	必修	B、C及びDから又は選択	2年に同じ	ア～エから選択
C 陸上競技	ア 短距離走・リレー、長距離走又はハードル走 イ 走り幅跳び又は走り高跳び	必修			ア及びイのそれぞれから選択
D 水泳	ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ	必修			ア～ウから選択
E 球技	ア バスケットボール又はハンドボール イ サッカー ウ バレーボール エ テニス、卓球又はバドミントン オ ソフトボール	必修	E、F及びGから選択	2年に同じ	ア～オから選択
F 武道	ア 柔道 イ 剣道 ウ 相撲	F及びGから			ア～ウから選択
G ダンス	ア 創作ダンス イ フォークダンス ウ 現代的なリズムのダンス	選択			ア～ウから選択
H 体育に関する知識	(1) 運動の特性と学び方 (2) 体ほぐし・体力の意義と運動の効果	必修	必修	必修	(1)、(2)必修

「体育の学習で好きな運動種目」(図 2 - 17～22)と「中学校体育分野の領域及び内容の取り扱い」(表 - 1)をもとに、「好きな運動領域」(図 2 - 23～28)を作成した。

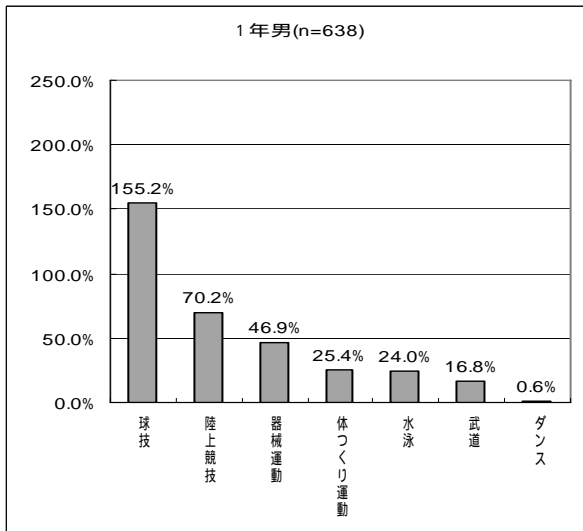


図2 - 23 好きな運動領域(1年生男子)

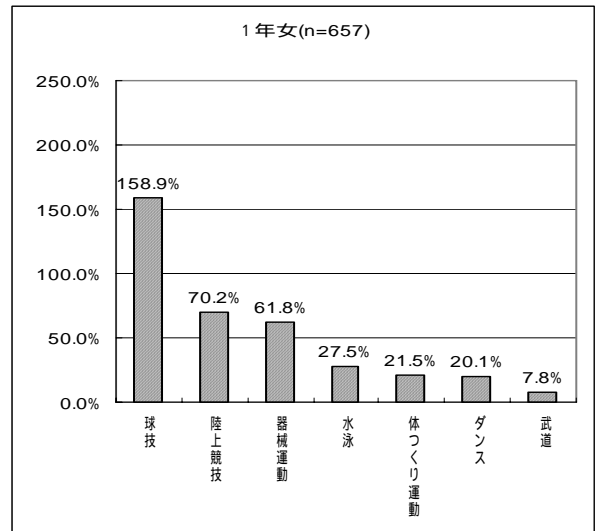


図2 - 24 好きな運動領域(1年生女子)

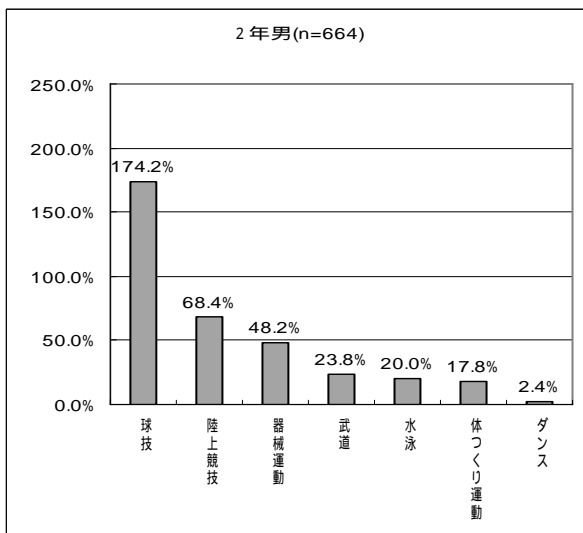


図2 - 25 好きな運動領域(2年生男子)

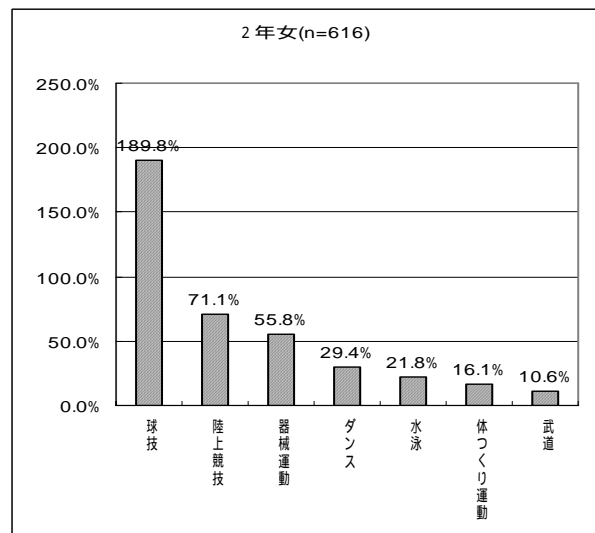


図2 - 26 好きな運動領域(2年生女子)

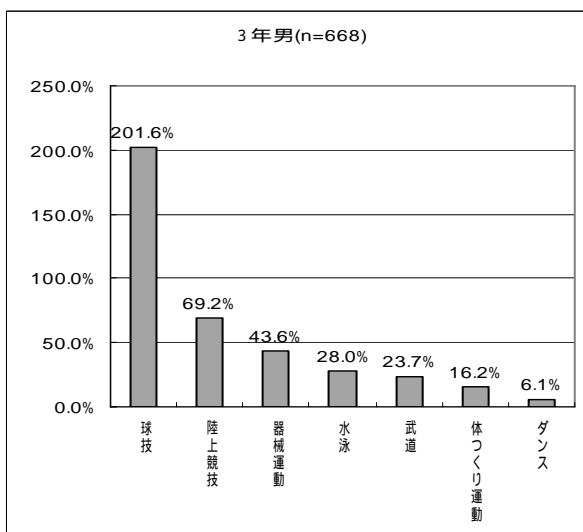


図2 - 27 好きな運動領域(3年生男子)

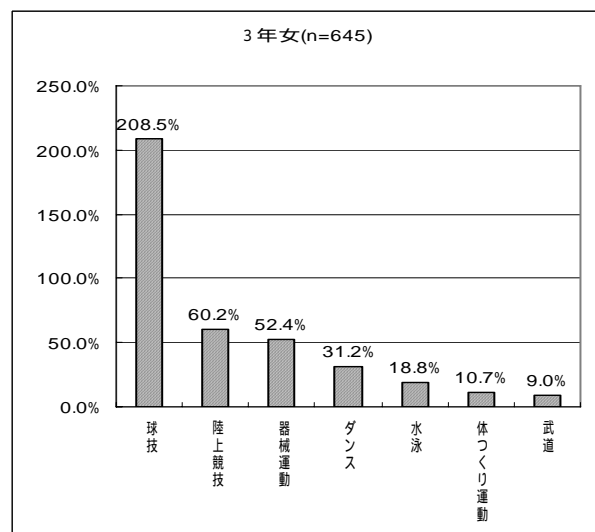


図2 - 28 好きな運動領域(3年生女子)

男子で好きな運動種目は、1年生は「サッカー」「バスケットボール(以下「バスケット」という。)」「短距離走・リレー」の順で、2・3年生男子は「サッカー」「バスケット」「バレーボール(以下「バレー」という。)」の順で、3学年とも「サッカー」が最高位、「バスケット」が2位となった。

女子の1年生は「バドミントン」「バスケット」「バレー」の順で、2年生は「バスケット」「バレー」「バドミントン」の順、3年生は「バレー」「バスケット」「バドミントン」の順となり、3学年ともこの3つの種目が上位を占める結果となった。

以上の内容を領域で分けしてみると、3学年男女ともに「球技」「陸上競技」「器械運動」の順となり、中でも「球技」の割合が1年生男子45.8%、女子43.2%、2年生男子49.1%、女子48.1%、3年生男子51.9%、女子53.4%と目だって高かった。

コラム 6

「好きな運動種目・領域」中学生の意識(平成7年度調査)との比較

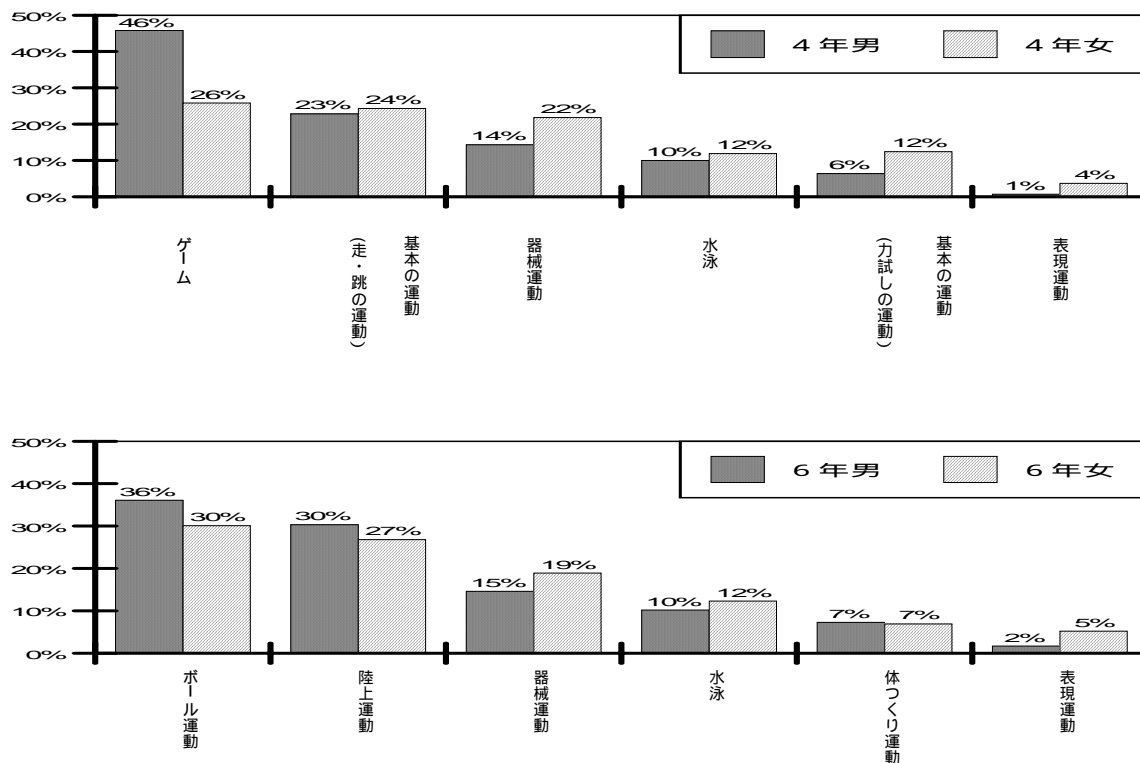


図 (8) 「体育の学習で好きな運動領域」小学生の意識(平成17年度調査)

平成17年度調査(小学生の意識)、平成7年度調査(中学生の意識)、今回調査とでは、学習指導要領で示された領域の違いや質問の仕方が違うため、グラフでの比較はできないが、好きな領域の上位3つを比較してみると次のようになる。

表 - 2 好きな運動領域の比較

	男子			女子		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
小学生(平成17年度6年生)	ボール運動	陸上運動	器械運動	ボール運動	陸上運動	器械運動
中学生(平成7年度)	球技	水泳	陸上運動	球技	水泳	陸上運動
中学生(平成18年度)	球技	陸上競技	器械運動	球技	陸上競技	器械運動

小学生の意識(平成17年度調査)と中学生の意識(平成7年度調査)と比較しても、男女ともに1番好きな領域はボール運動・球技であることがわかった。中学生の意識(平成7年度調査)で男女ともに2位に入っていた「水泳」が、今回の調査では男子1年5位、2年5位、3年4位、女子1年4位、2年5位、3年5位と、上位3位以内には入っていない。

問5の結果から以下のような結果が得られた

好きな種目をたずねたところ、領域別では球技が男女とも最高位になった。
バスケット、サッカーの人気が高いのは、小学生から慣れ親しんだ種目であり、ルールや学び方を知っているということが考えられる。
球技は、技能上達のどの段階においてもゲームを実施することが可能であり、また学習の初期段階における技能の発達も早いといったことなどが推測できる。
さらに、課題解決の過程で、仲間同士で励ましあったり、教えあったりすることが比較的しやすいこともあげられる。

オ 体育の時間に自分なりの目標や課題をもって活動しているか

【問6】 あなたは、体育の時間どのように活動していますか？ それぞれについて下から1つ選んで番号で教えてください。

(1) うまくなったり記録を伸ばしたりするために、自分なりの目標や課題(めあて)をもって活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

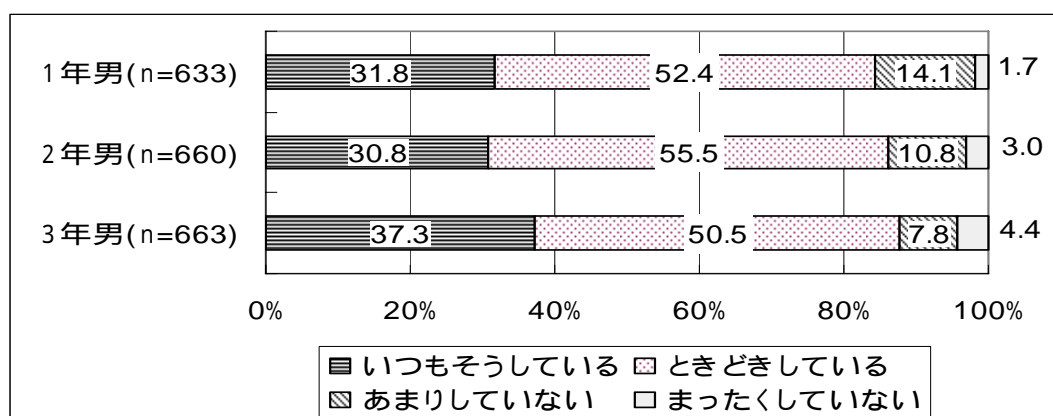


図2 - 29 自分なりの目標や課題をもって活動(男子)

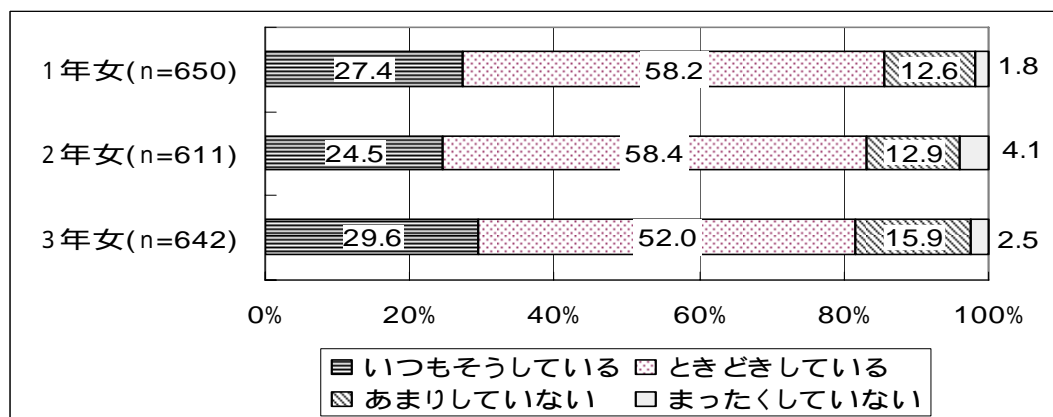


図2 - 30 自分なりの目標や課題をもって活動(女子)

目標や課題をもって活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生84.2%、2年生86.3%、3年生87.8%で、女子は1年生85.6%、2年生82.9%、3年生81.6%と、全学年男女ともに80%以上の生徒が、目標や課題を持って活動していると回答している。

コラム7

「自分なりの目標や課題をもって活動」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

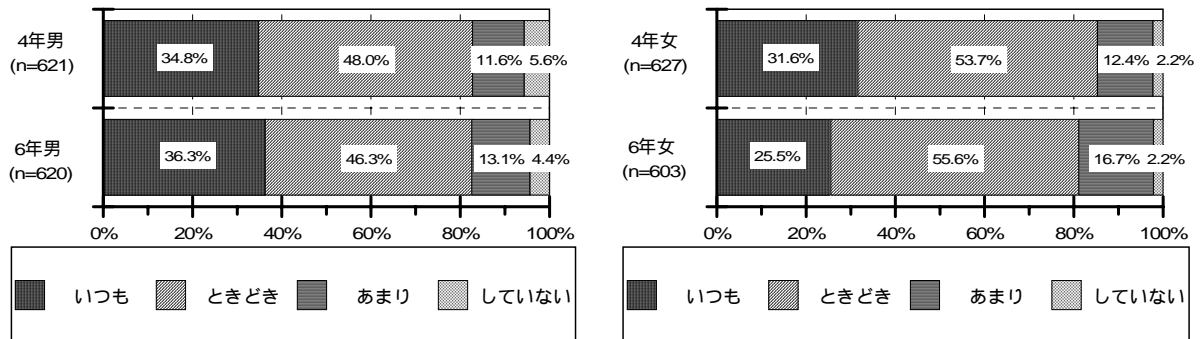


図 (9) 「自分なりの目標や課題をもって活動」小学生の意識 (平成17年度調査)

小学生と中学生で「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	82.8%	(34.8%)	小学4年生女子	85.3%	(31.6%)
小学6年生男子	82.6%	(36.3%)	小学6年生女子	81.1%	(25.5%)
中学1年生男子	84.2%	(31.8%)	中学1年生女子	85.6%	(27.4%)
中学2年生男子	86.3%	(30.8%)	中学2年生女子	82.9%	(24.5%)
中学3年生男子	87.8%	(37.3%)	中学3年生女子	81.6%	(29.6%)

()は「いつもしている」

小学6年生と中学1年生を比べてみると、男子は1.6ポイントの上昇で、女子は4.5ポイント上昇している。

その後、男子は中学生に入っても、課題学習がよく進んでいる。

しかし女子は、中学1年生を頂点として、低下していることが分かった。

カ 体育の時間に課題が自分にあっているか考えて活動しているか

【問6】

(2) 課題(目当て)が自分に合っているか、考えながら活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

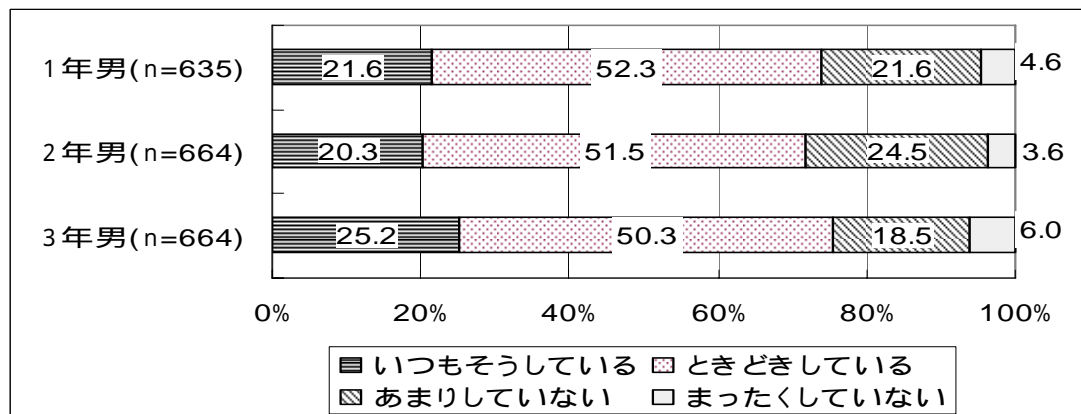


図2 - 31 課題が自分にあっているか考えて活動(男子)

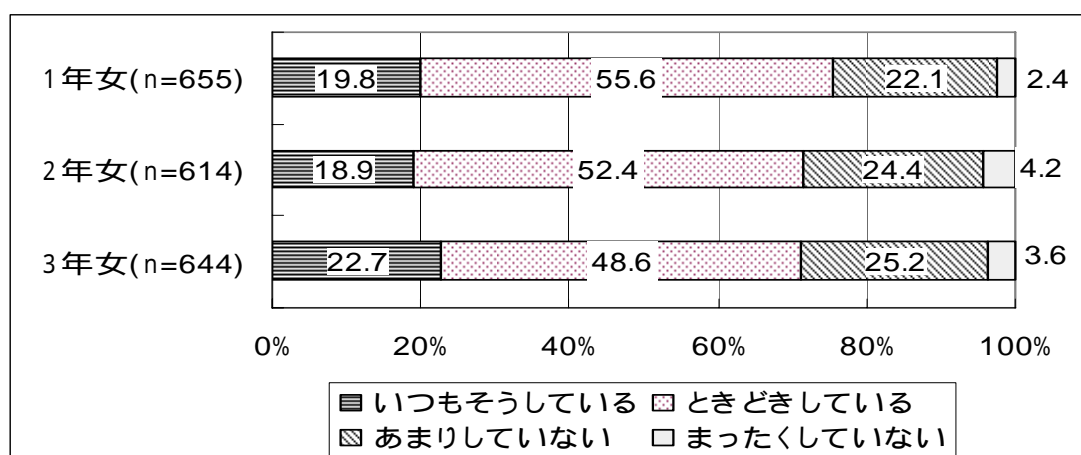


図2 - 32 課題が自分にあっているか考えて活動(女子)

課題(目当て)が自分に合っているか、考えながら活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生73.9%、2年生71.8%、3年生75.5%で、女子は1年生75.4%、2年生71.3%、3年生71.3%と、3学年男女ともに70%以上の生徒が、課題が自分にあっているか考えながら活動していると回答している。

キ 体育の時間に練習の場所や仕方など工夫して活動しているか

【問6】

(3) 練習の場所や仕方など、いろいろ工夫して活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

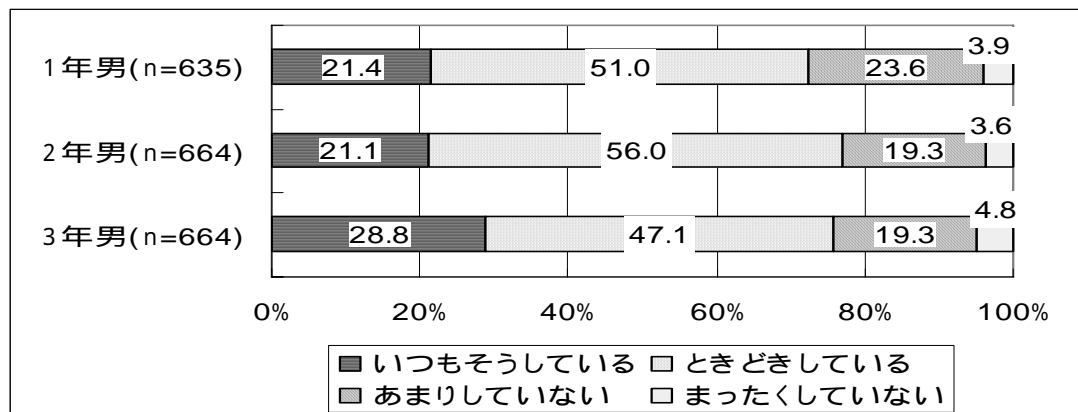


図2 - 33 練習の場所や仕方など工夫して活動(男子)

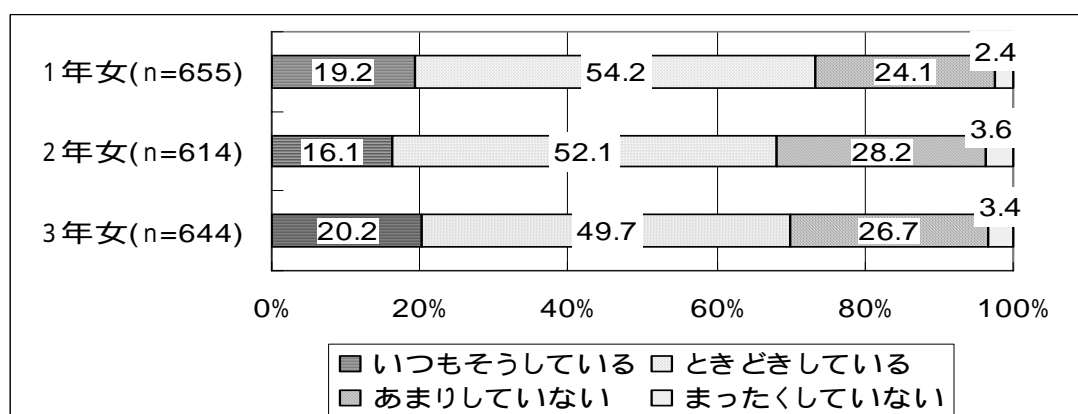


図2 - 34 練習の場所や仕方など工夫して活動(女子)

練習の場所や仕方など、いろいろ工夫して活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生72.4%、2年生77.1%、3年生75.9%で、女子は1年生73.4%、2年生68.2%、3年生69.9%と、全学年男女ともにおよそ70%以上の生徒が、練習の場所や仕方など工夫し活動していることがわかった。

ク 体育の時間に友だちと教えあったり、協力し合ったりして活動しているか

【問6】

(4) 友だちとお互いに教え合ったり、協力し合ったりして活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

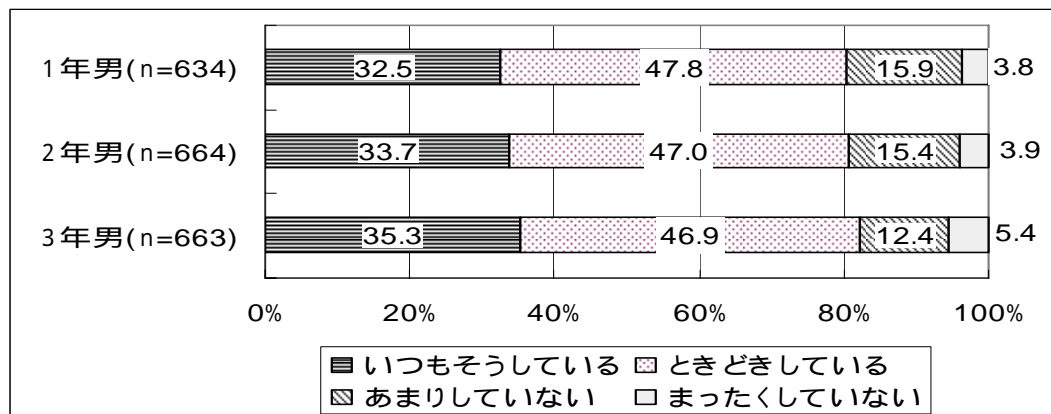


図2 - 35 友だちと教えあったり協力し合ったりして活動(男子)

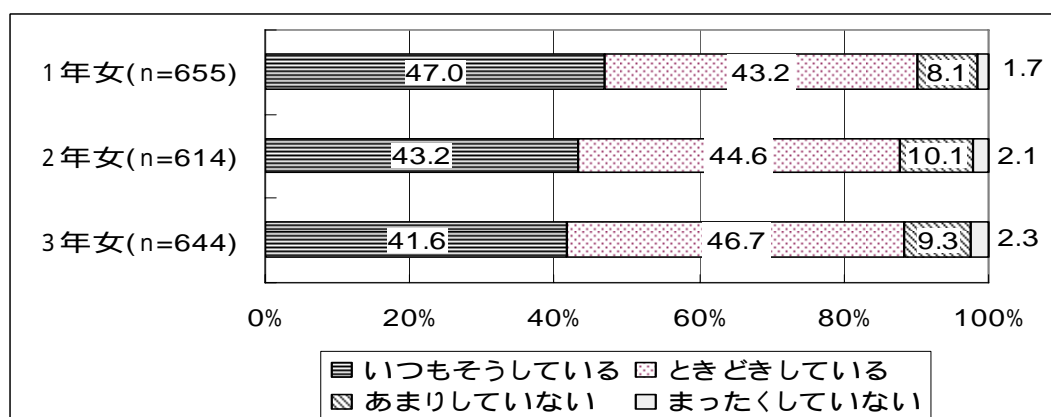


図2 - 36 友だちと教えあったり協力し合ったりして活動(女子)

友だちとお互いに教え合ったり、協力し合ったりして活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生80.3%、2年生80.7%、3年生82.2%で、女子は1年生90.2%、2年生87.8%、3年生88.3%と、全学年男女ともに80%以上の生徒が、友達とお互いに教えあったり、協力し合ったりして活動していることがわかった。

コラム 8

「教えあったり協力し合ったりして活動」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

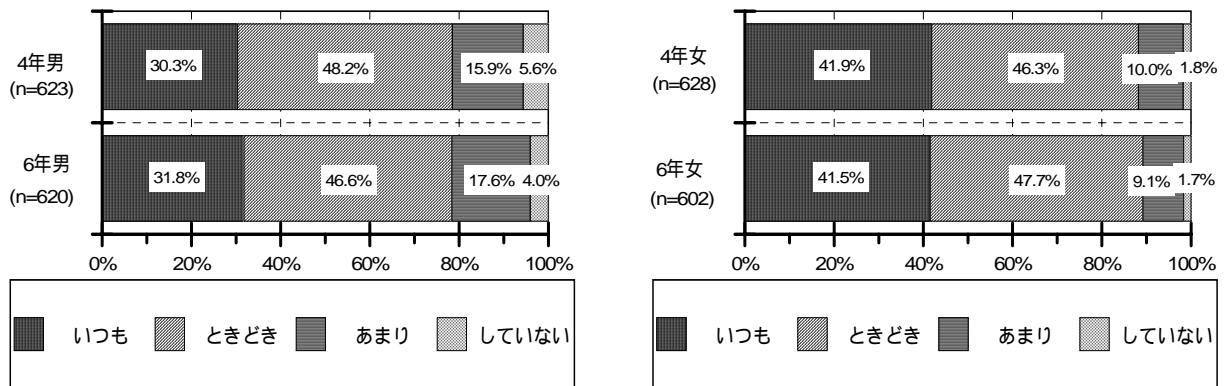


図 (10) 「教えあったり、協力し合ったりして活動」小学生の意識 (平成17年度調査)

「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	78.5%	(30.3%)	小学4年生女子	88.2%	(41.9%)
小学6年生男子	78.4%	(31.8%)	小学6年生女子	89.2%	(41.5%)
中学1年生男子	80.3%	(32.5%)	中学1年生女子	90.2%	(47.0%)
中学2年生男子	80.7%	(33.7%)	中学2年生女子	87.8%	(43.2%)
中学3年生男子	82.2%	(35.3%)	中学3年生女子	88.3%	(41.6%)

()は「いつもしている」

小学生・中学生を通じて、約80~90%の生徒が教えあったり、協力し合ったりしながら活動していることがわかった。男子と女子を比べてみると、男子は小学生78.5%、中学生81.1%で、女子は小学生88.7%、中学生88.8%と小学生で10.2ポイント、中学生で7.7ポイントと女子のほうが男子を上回っており、小学生・中学生ともに女子のほうがその傾向が強いことがわかった。

ケ 体育の時間に学習を反省したりできたか確かめたりして活動しているか

【問6】

(5) 学習を反省したり、できたかどうか確かめたりしながら活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

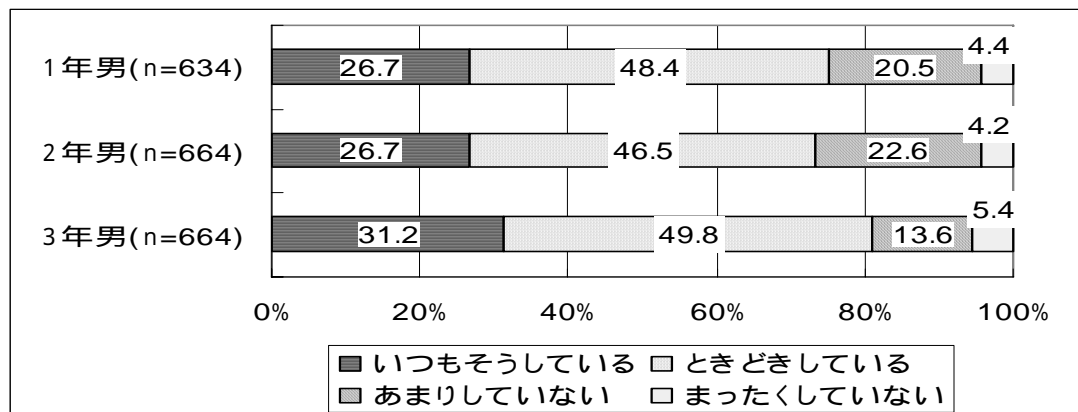


図2 - 37 学習を反省したりできたか確かめたりして活動(男子)

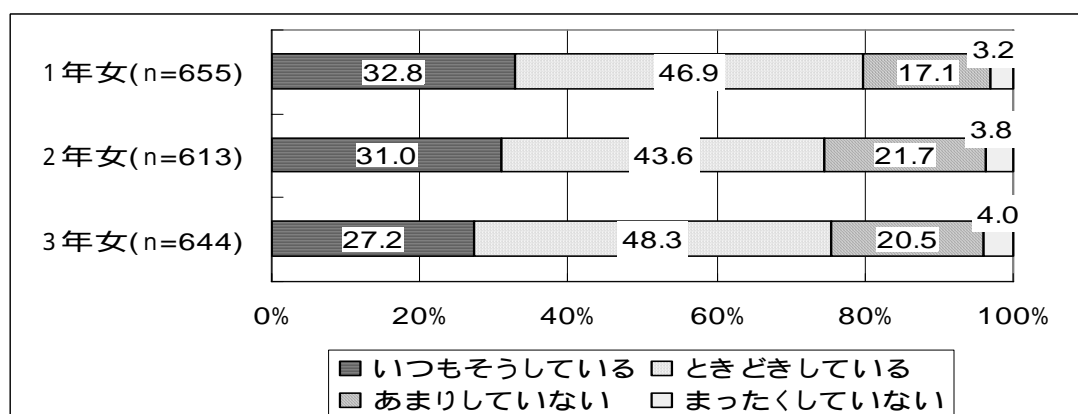


図2 - 38 学習を反省したりできたか確かめたりして活動(女子)

学習を反省したり、できたかどうか確かめたりしながら活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生75.1%、2年生73.2%、3年生81.0%で、女子は1年生79.7%、2年生74.6%、3年生75.5%と、全学年男女ともに73%以上の生徒が、学習を反省したり、できたかどうか確かめたりしながら活動していることがわかった。

コラム 9

「反省したり確かめたりしながら活動」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

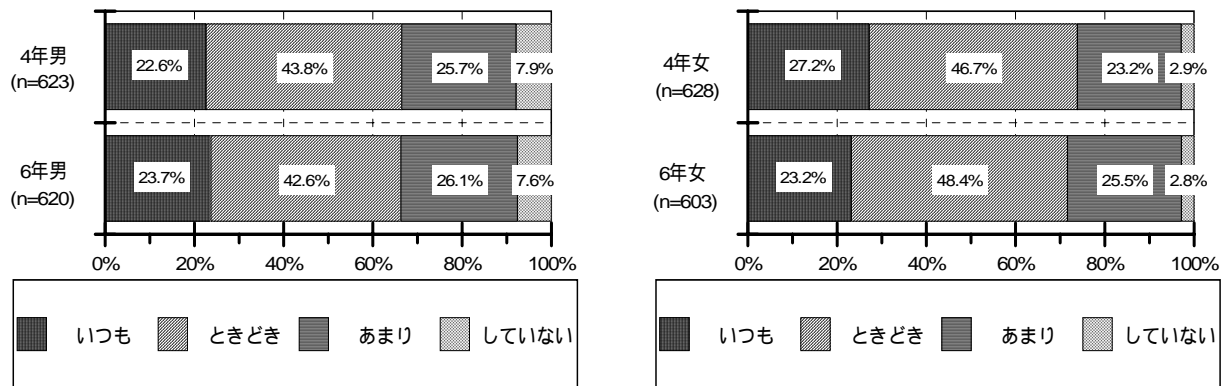


図 (11) 「反省したり確かめたりしながら活動」小学生の意識 (平成17年度調査)

「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	66.4%	(22.6%)	小学4年生女子	73.9%	(27.2%)
小学6年生男子	66.3%	(23.7%)	小学6年生女子	71.6%	(23.2%)
中学1年生男子	75.1%	(26.7%)	中学1年生女子	79.7%	(32.8%)
中学2年生男子	73.2%	(26.7%)	中学2年生女子	74.6%	(31.0%)
中学3年生男子	81.0%	(31.2%)	中学3年生女子	75.5%	(27.2%)

()は「いつもしている」

小学生から中学生にかけて割合が大きく増加していることがわかった。また、男女の割合をみてみると、中学3年生以外は、小学生・中学生を通じて男子よりも女子のほうが高い傾向があることがわかった。

「まったくしていない」の推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	7.9%	小学4年生女子	2.9%
小学6年生男子	7.6%	小学6年生女子	2.8%
中学1年生男子	4.4%	中学1年生女子	3.2%
中学2年生男子	4.2%	中学2年生女子	3.8%
中学3年生男子	5.4%	中学3年生女子	4.0%

男子は小学生よりも中学生のほうが低く、女子は中学生のほうが高いことがわかった。また、小学校・中学校ともに女子よりも男子は中学3年生で大きく増加している。

コ 体育の時間に全力をつくして活動しているか

【問6】

(6) 精一杯最後まで全力をつくして活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

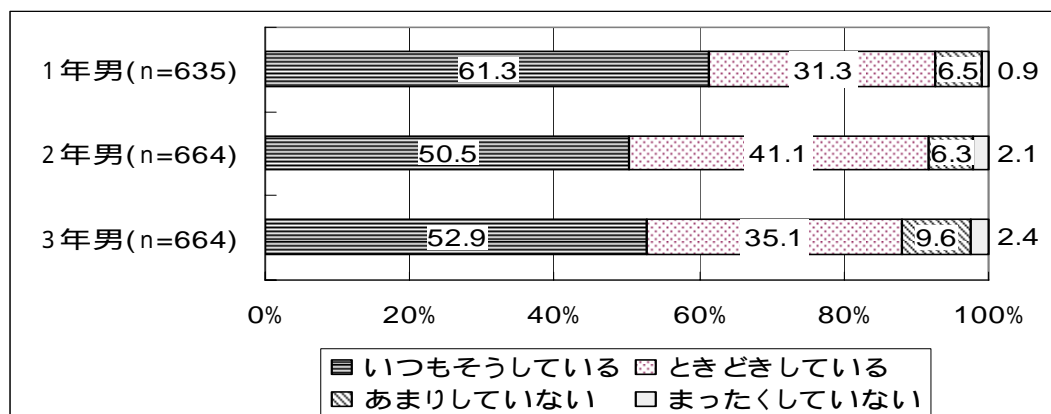


図2 - 39 全力をつくして活動(男子)

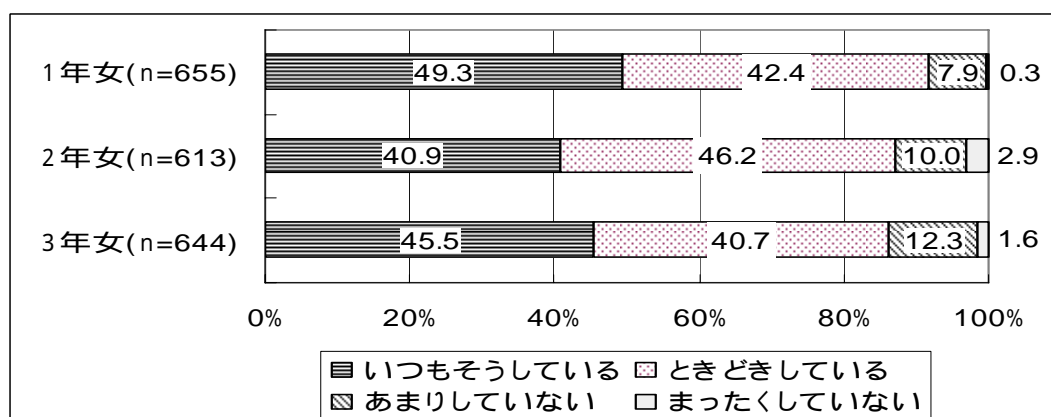


図2 - 40 全力をつくして活動(女子)

精一杯最後まで全力をつくして活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生92.6%、2年生91.6%、3年生88.0%で、女子は1年生91.7%、2年生87.1%、3年生86.2%と、全学年男女ともに86%以上の生徒が、精一杯最後まで全力をつくして活動していることがわかった。

コラム10

「最後まで全力をつくして活動」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

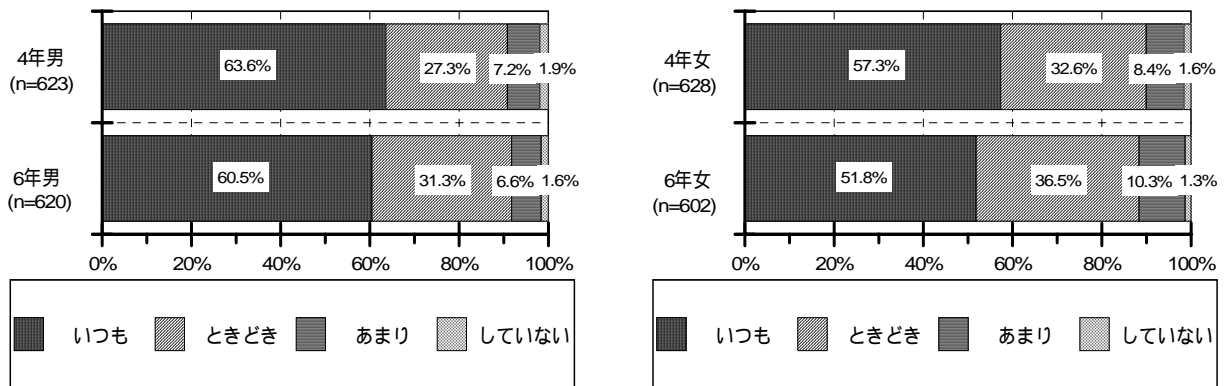


図 (12) 「最後まで全力をつくして活動」小学生の意識(平成17年度調査)

「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	90.9% (63.6%)	小学4年生女子	89.9% (57.3%)
小学6年生男子	91.8% (60.5%)	小学6年生女子	88.3% (51.8%)
中学1年生男子	92.6% (61.3%)	中学1年生女子	91.7% (49.3%)
中学2年生男子	91.6% (50.5%)	中学2年生女子	87.1% (40.9%)
中学3年生男子	88.0% (52.9%)	中学3年生女子	86.2% (45.5%)

()は「いつもしている」

中学1年生をピークにして若干減少していくが、高い割合で最後まで全力をつくして活動していることがわかった。

サ 体育の時間に自分の役割をはたそうとして活動しているか

【問6】

(7) 準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割をはたそうとしたりして活動している

- 1 いつもそうしている 2 ときどきしている
3 あまりしていない 4 まったくしていない

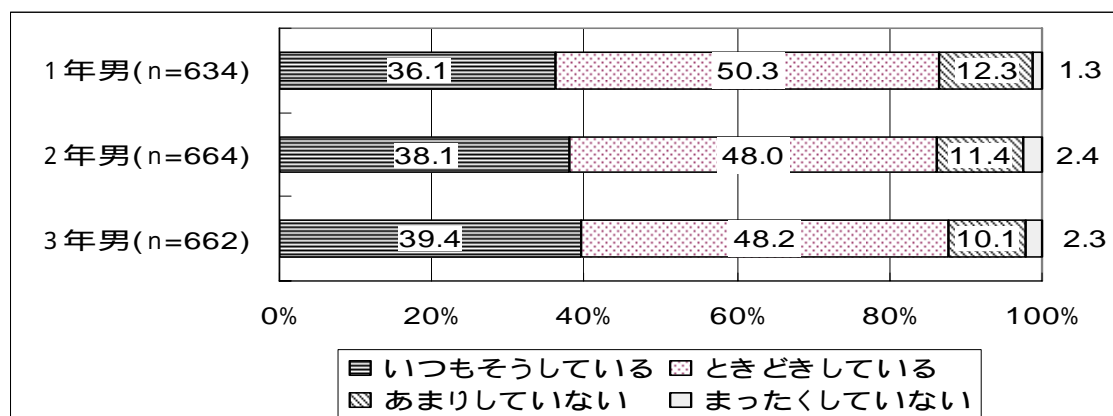


図2 - 41 自分の役割をはたそうとして活動(男子)

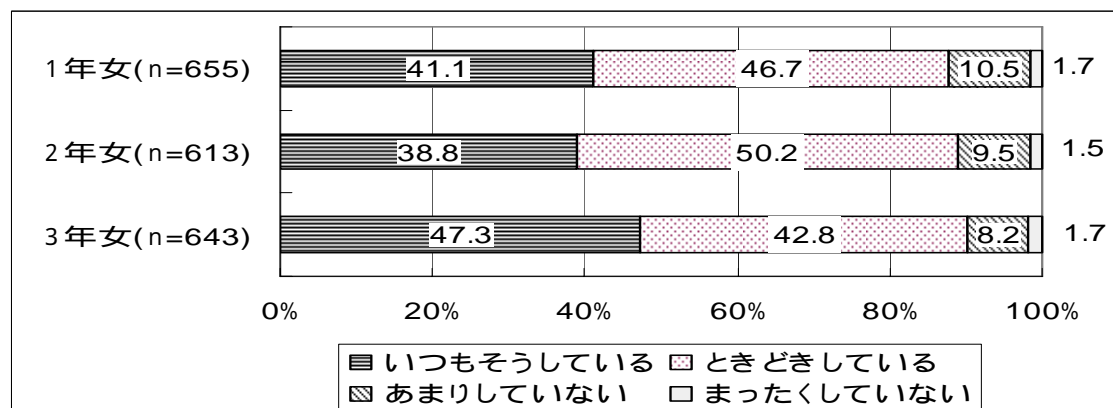


図2 - 42 自分の役割をはたそうとして活動(女子)

準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割をはたそうとしたりして活動しているかたずねたところ、「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生86.4%、2年生86.1%、3年生87.6%で、女子は1年生87.8%、2年生89.0%、3年生90.1%と、全学年男女ともに86%以上の生徒が、準備や片づけに進んで取り組んだり、自分の役割をはたそうとしたりして活動していることがわかった。

コラム11

「準備や片づけに進んで取り組んで活動」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

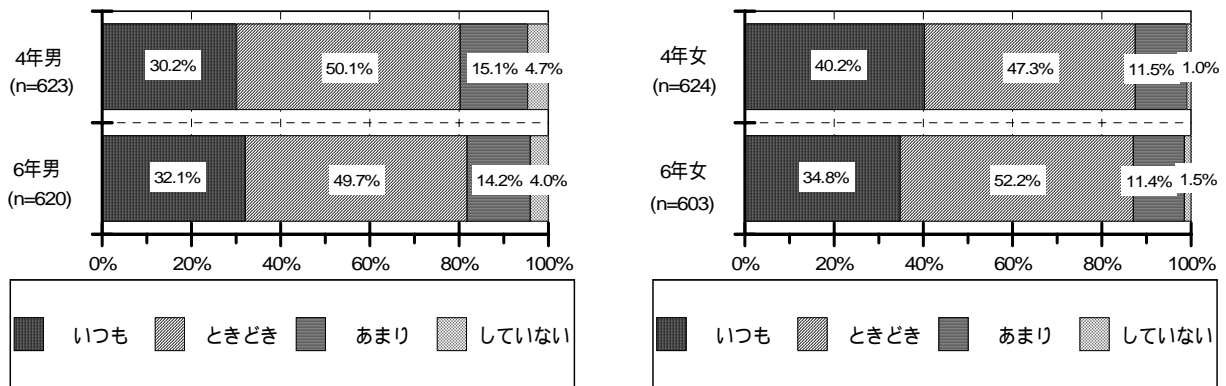


図 (13) 「準備や片づけに進んで取り組んで活動」小学生の意識(平成17年度調査)

「いつもそうしている」「ときどきしている」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	80.3%	(30.2%)	小学4年生女子	87.5%	(40.2%)
小学6年生男子	81.8%	(32.1%)	小学6年生女子	87.0%	(34.8%)
中学1年生男子	86.4%	(36.1%)	中学1年生女子	87.1%	(41.1%)
中学2年生男子	86.1%	(38.1%)	中学2年生女子	89.0%	(38.8%)
中学3年生男子	87.1%	(39.4%)	中学3年生女子	90.1%	(47.3%)

()は「いつもしている」

小学生から中学生にかけて、準備や片づけに進んで取り組んでおり、学年進行に伴ってその割合が増加する傾向にあることがわかった。また、全学年を通じて、男子に比べて女子の割合が高いこともわかった。

シ 自分の課題をどのようにして決めているか

【問7】 あなたは、体育の学習で、自分の課題(めあて)をどのようにして決めますか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 先生に言われたことを課題(めあて)にしている
- 2 友だちと相談して、友だちから言われたことを課題(めあて)にしている
- 3 友だちと相談して、自分で決める
- 4 本や資料などを参考にして、その中から自分で決める
- 5 何も参考にせず、誰にも相談もしないで自分で決める
- 6 学習カード(ノート)で学習を振り返り、その反省や結果分析をもとに自分で決める
- 7 わからないので決めていない
- 8 その他

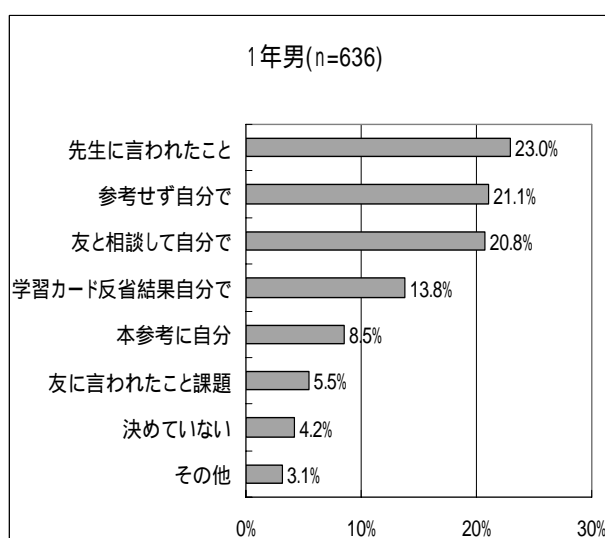


図2-43 自分の課題の決め方
(1年生男子)

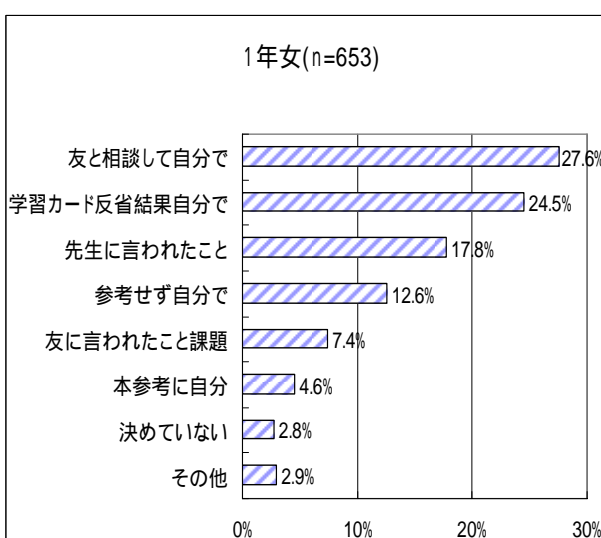


図2-44 自分の課題の決め方
(1年生女子)

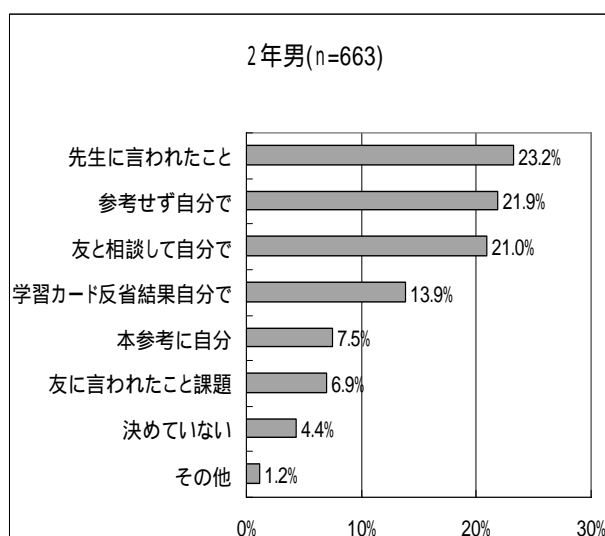


図2-45 自分の課題の決め方
(2年生男子)

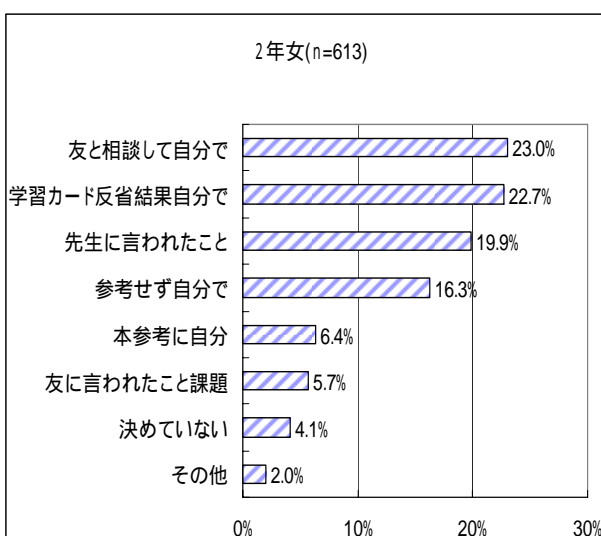


図2-46 自分の課題の決め方
(2年生女子)

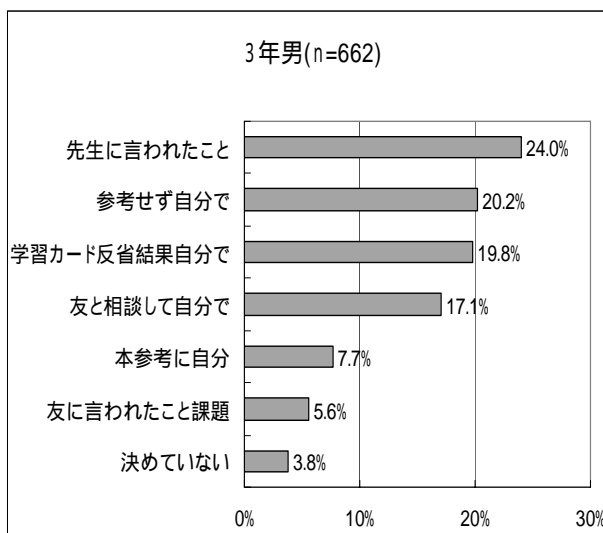


図 2 - 47 自分の課題の決め方
(3 年生男子)

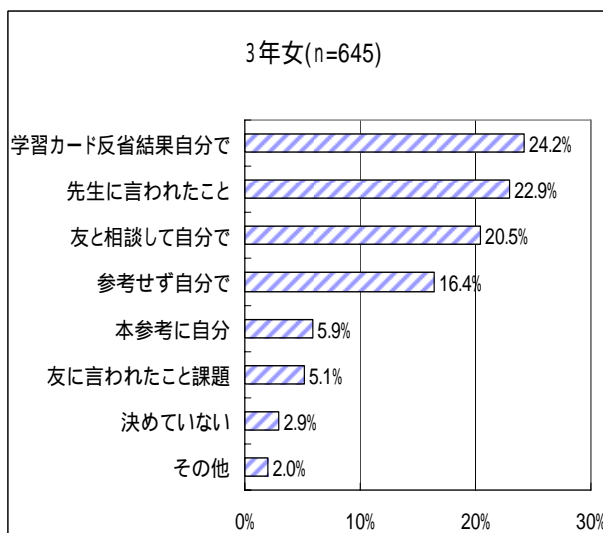


図 2 - 48 自分の課題の決め方
(3 年生女子)

体育の学習で、自分の課題をどのようにして決めるかたずねたところ、男子は3学年とも最高位に「先生に言われたことを課題にしている（以下「先生に言われたこと」という。）」で、次に「何も参考にせず、誰にも相談もしないで自分で決める（以下「参考せず自分で」という。）」であり、主観的な理由が上位にあがっている。

女子は、1・2年生は最高位に「友達と相談して、自分で決める」で、次に「学習カードで学習を振り返り、その反省や結果分析をもとに自分で決める」をあげており、客観性を求めながらも、主体的に行動していることがわかった。

コラム11

「自分の課題(めあて)をどのようにして決めるか」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

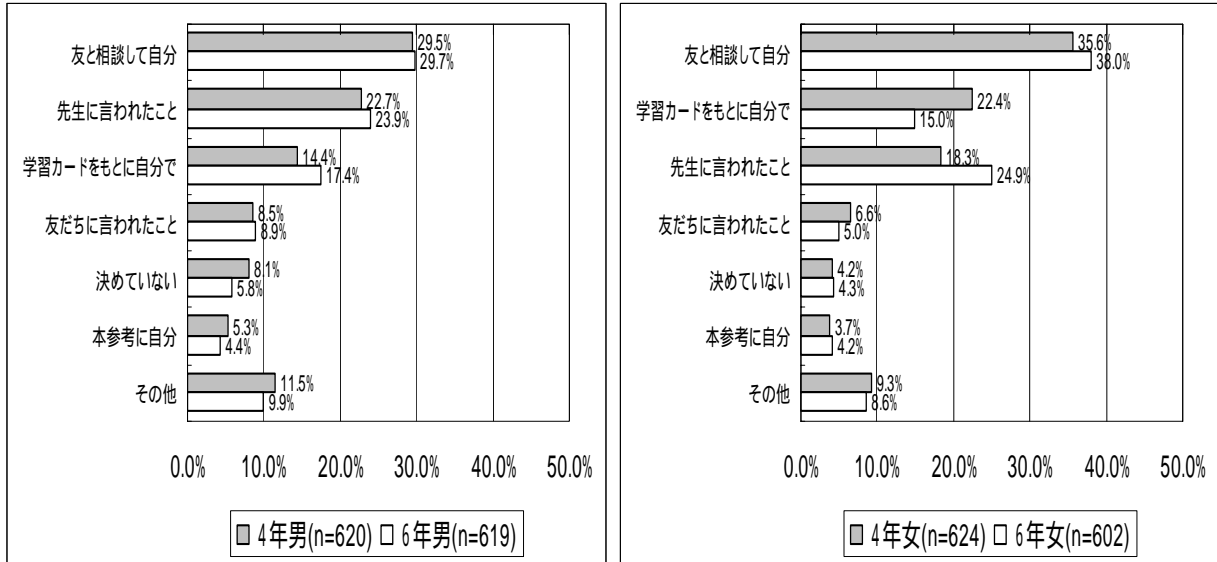


図 (13) 「自分の課題をどのようにして決めるか」小学生の意識 (平成17年度調査)

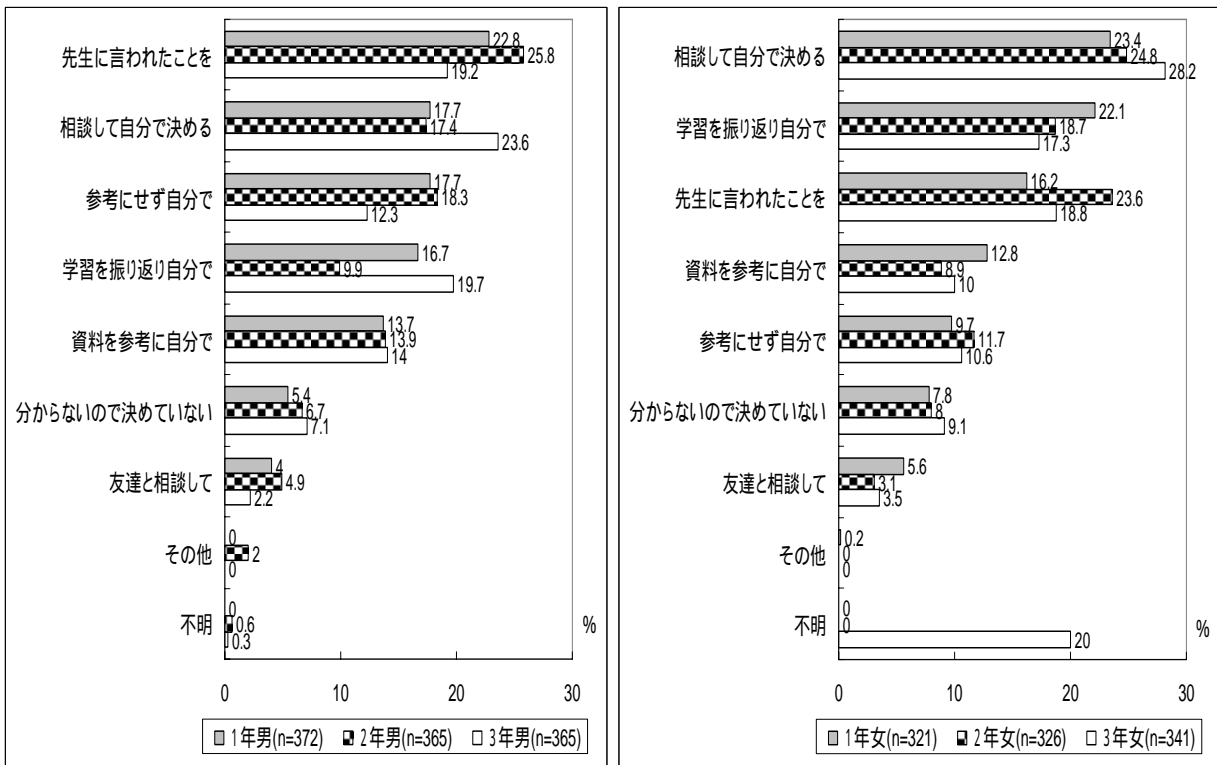


図 (14) 「自分の課題をどのようにして決めるか」中学生の意識 (平成7年度調査)

女子は、小学生の意識(平成17年度調査)および中学生の意識(平成7年度調査)と今回の調査との変化が見られないが、男子に関しては、小学生の意識(平成17年度調査)で「友達と相談」が最高位だったのが、今回調査では「先生に言われたこと」となった。

ス グループ（チーム）の課題をどのようにして決めているか

【問 8】 あなたは、体育の学習で、グループやチームの課題(めあて)をどのようにして決めますか？ 下から1つ選んで番号で答えてください。

- 1 先生に言われたことを課題(めあて)にしている
- 2 リーダーを中心にして話し合い、リーダーや少数の意見を中心に課題(めあて)を決めている
- 3 リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談してみんなで決めている
- 4 みんなで話し合い、本や資料などを参考にして、その中から決めている
- 5 何にも参考にせず、相談もしないでリーダー(または誰か)が決めている
- 6 学習カード(ノート)で学習を振り返り、その反省や結果分析をもとにみんなで決めている
- 7 わからないので決めていない
- 8 その他

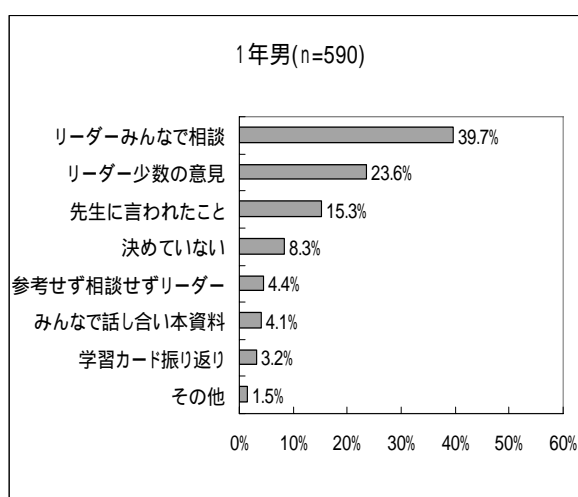


図 2 - 49 チームの課題の決め方
(1年生男子)

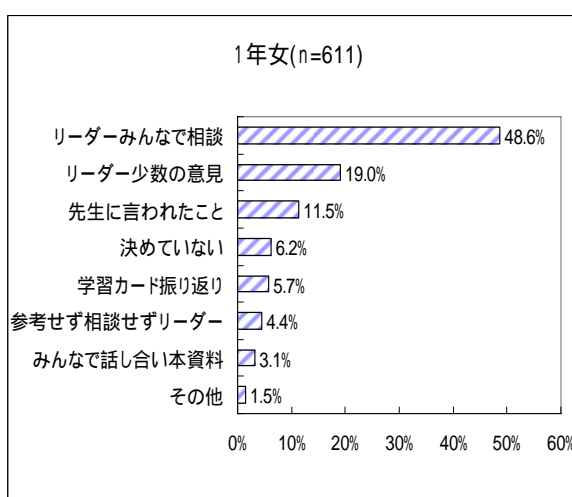


図 2 - 50 チームの課題の決め方
(1年生女子)

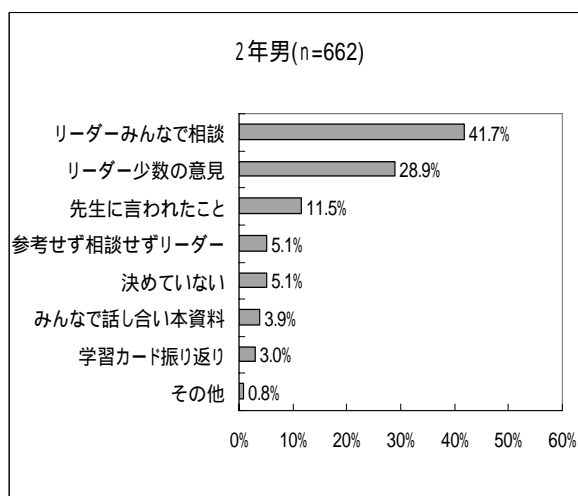


図 2 - 51 チームの課題の決め方
(2年生男子)

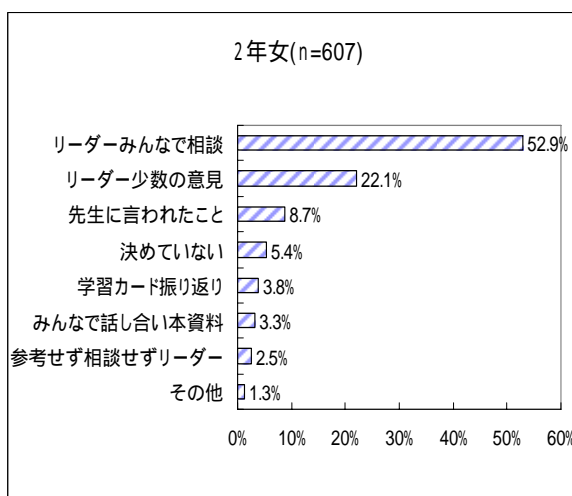


図 2 - 52 チームの課題の決め方
(2年生女子)

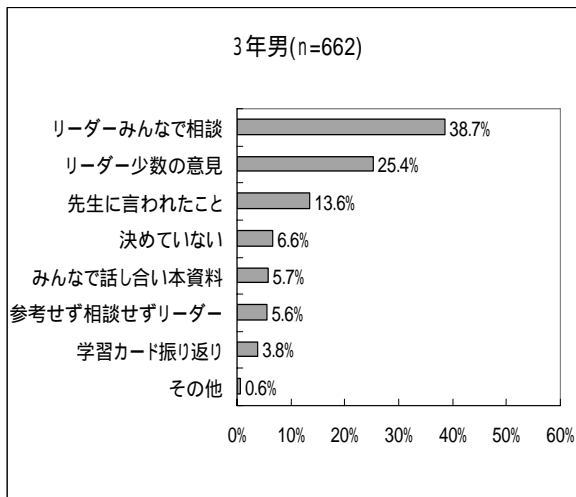


図 2 - 53 チームの課題の決め方
(3 年生男子)

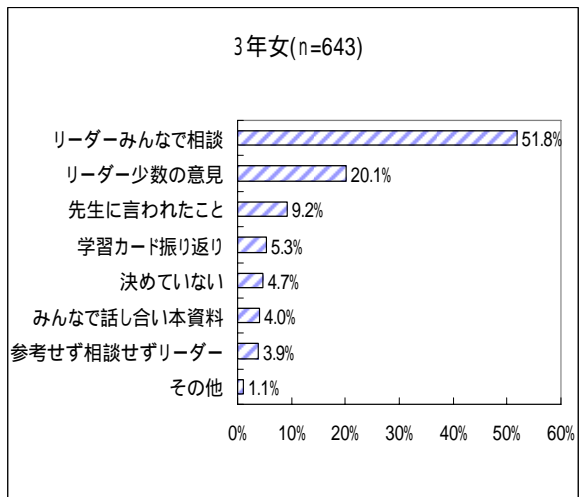


図 2 - 54 チームの課題の決め方
(3 年生女子)

グループやチームの課題をどのようにして決めるかたずねたところ、3学年男女ともに「リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」の割合が最高位だった。特に女子は、ほぼ半数を占めている。

2番は「リーダーを中心にして話し合い、リーダーや少数の意見を中心に決めている」、3番は「先生にいわれたことを課題にしている」であった。

コラム12

「グループの課題をどのようにして決めるか」中学生の意識(平成7年度調査)との比較

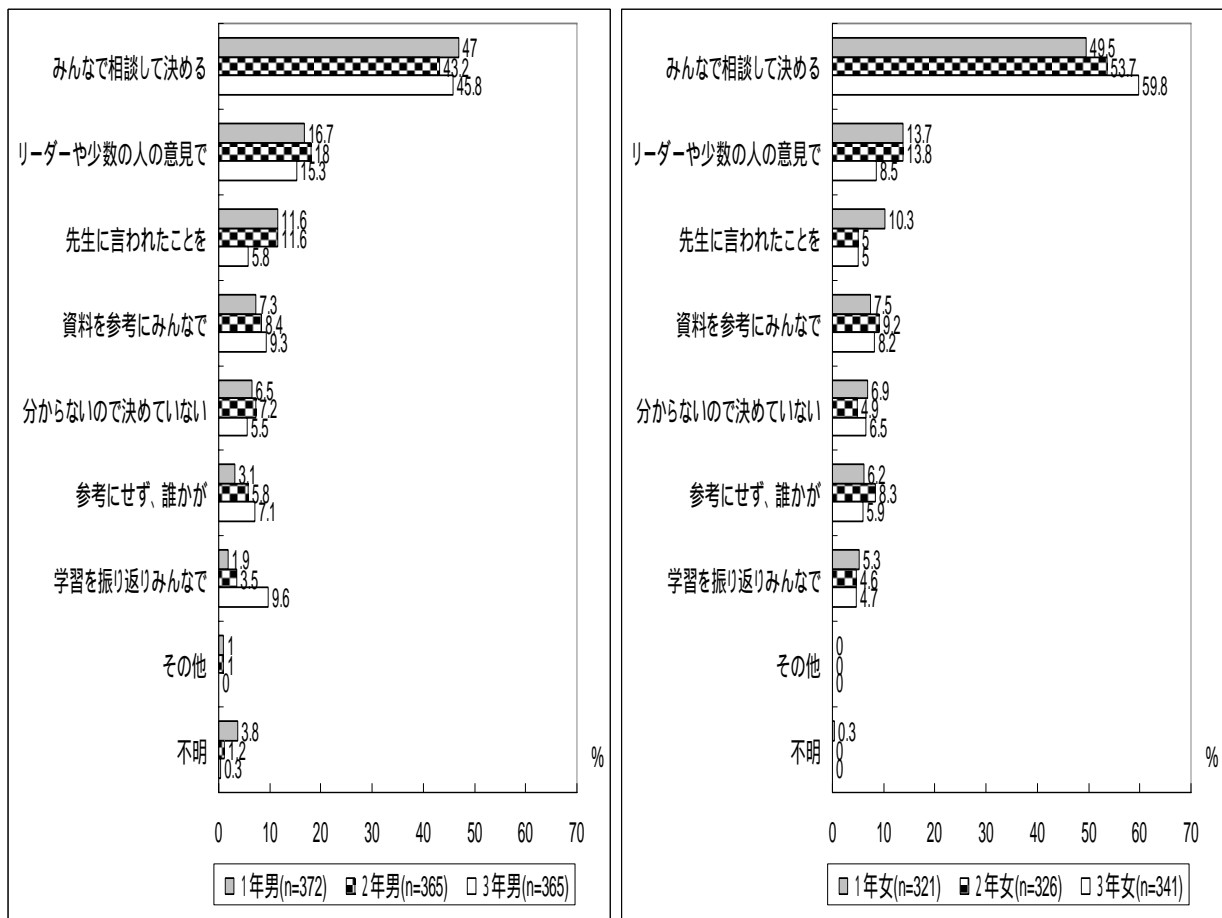


図 (15) 「グループの課題をどのようにして決めるか」中学生の意識(平成7年度調査)

各学年男女ともに、1番は「リーダーを中心に話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」であり、今回調査と同様に、男子よりも女子のほうがその割合が多かった。

セ 課題が達成できないときどうするか

【問9】 あなたは、体育の学習で、課題(めあて)がうまく達成できないとき、どうしますか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 自分だけでがんばる
- 2 先生に直接聞いたり、学習カード(ノート)で質問したりする
- 3 友だちに聞く
- 4 学習カード(ノート)や本をみる
- 5 わからないので、だいたいそのままにしておく
- 6 その他

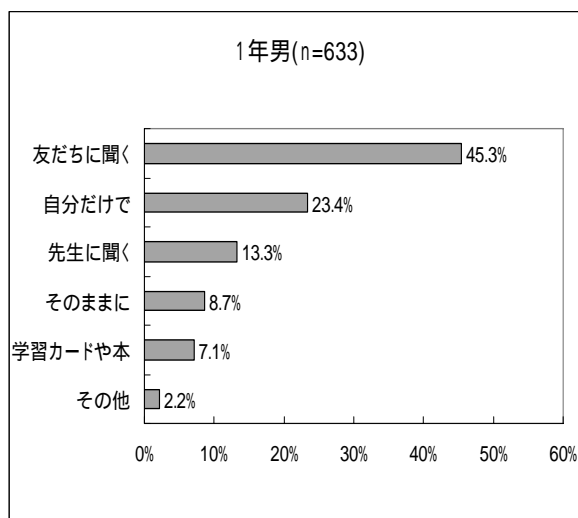


図2-55 課題が達成できないとき
(1年生男子)

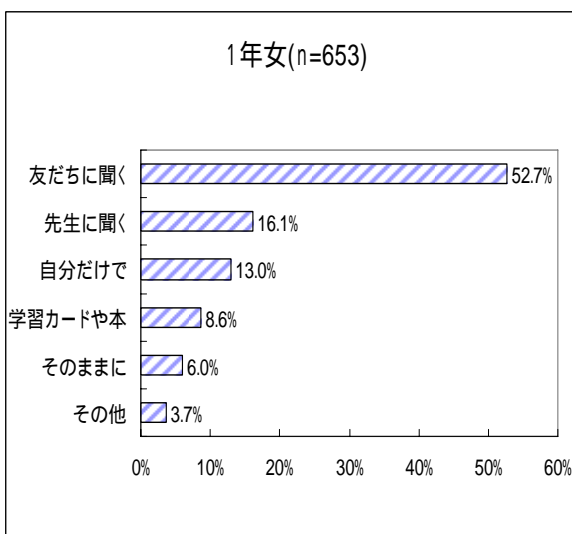


図2-56 課題が達成できないとき
(1年生女子)

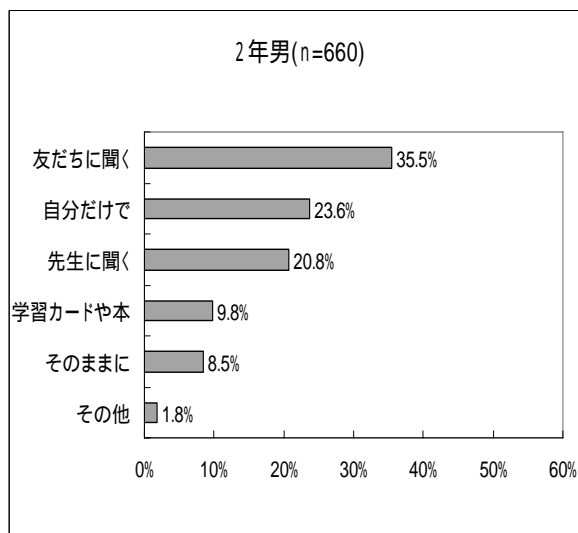


図2-57 課題が達成できないとき
(2年生男子)

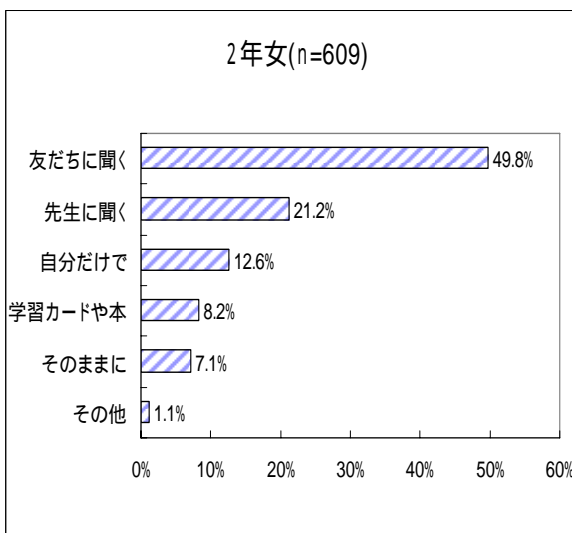


図2-58 課題が達成できないとき
(2年生女子)

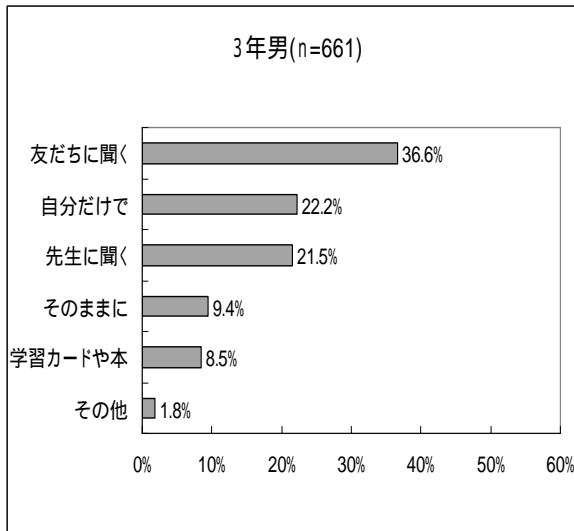


図 2 - 59 課題が達成できないとき
(3年生男子)

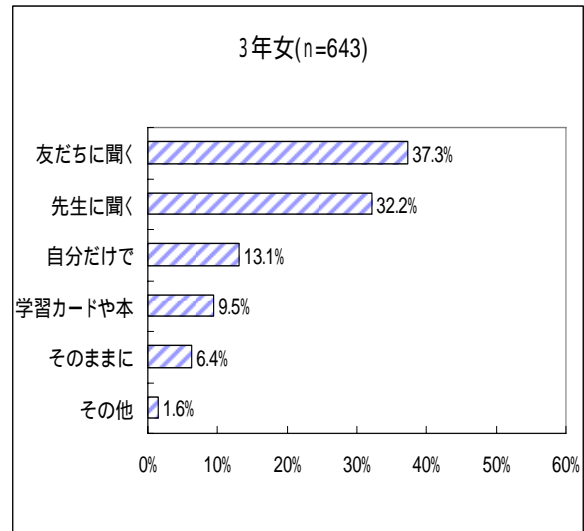


図 2 - 60 課題が達成できないとき
(3年生女子)

体育の学習で、課題(めあて)がうまく達成できないとき、どうしますかたずねたところ、各学年男女ともに最高位は「友達に聞く」であった。
男子の2番は「自分だけでがんばる」であった。
女子の2番は「先生に聞く」で、3年生になると多くなるのがわかる。

コラム13

「課題(めあて)が達成できないときどうするか」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

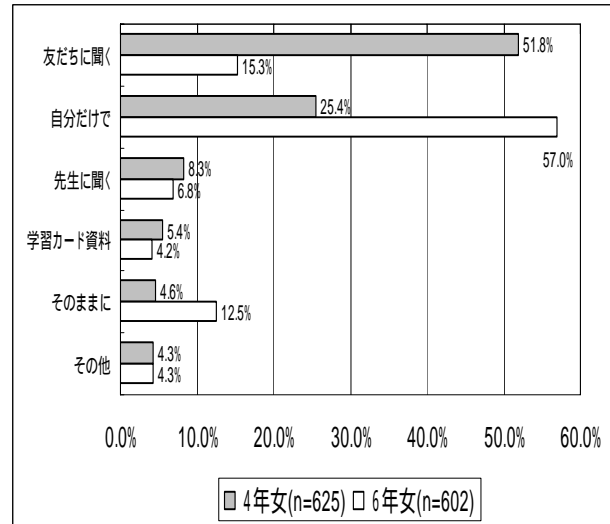
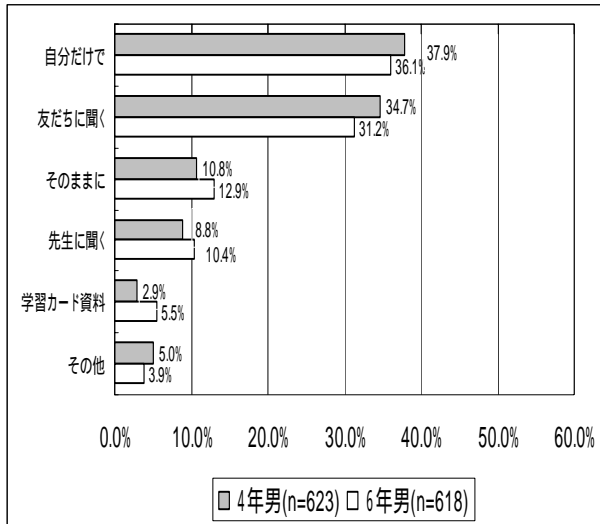


図 (16) 「めあてが達成できないとき」小学生の意識(平成17年度調査)

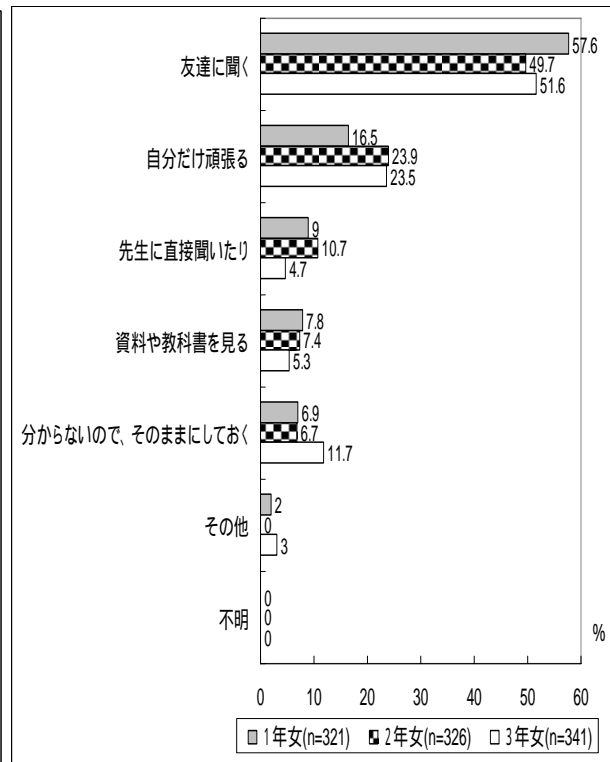
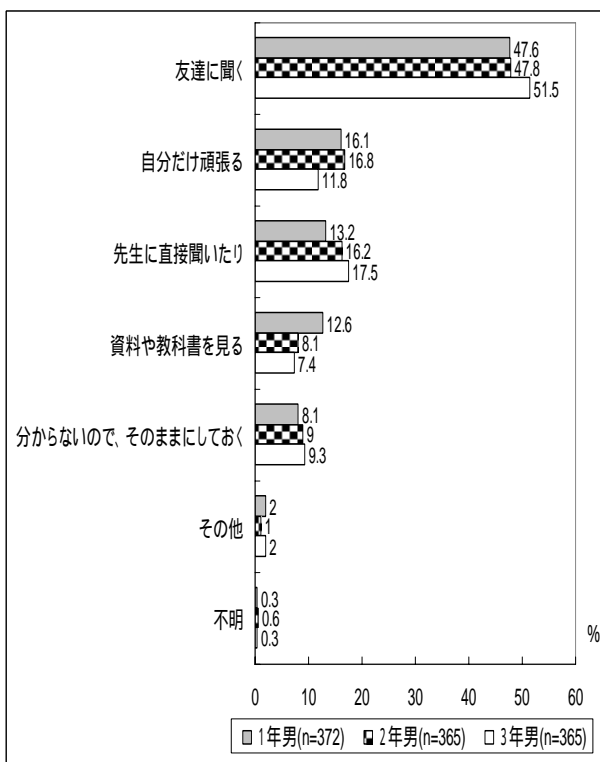


図 (17) 「課題が達成できないとき」中学生の意識(平成7年度調査)

各年代男女別の課題(めあて)決定理由の最高位は、小学4年生男子と小学6年生女子を除いて、「友達に聞く」であった。

問6(1)～(7)から問9の結果から以下のような結果が得られた

問6の1 - 7までの質問は、体育の時間の活動状況を聞いたもので、1・4・6・7は「関心・意欲・態度」について、2・3・5は「思考・判断」についてたずねたものである。

「関心・意欲・態度」に関しては、多くの生徒が自分の目標や課題を持ち、友だちと教えあったり協力し合ったりしながら、準備や片付けに取り組み自分の役割を果たしながら、精一杯最後まで全力をつくして活動していることがわかった。

また、「思考・判断」に関しては、課題が自分にあるか考え、練習の場所や仕方などを工夫し、また学習を反省したり課題の達成状況を確認めたりしながら活動していることもわかった。

小学生の意識（平成17年度調査）と比べてみると、すべての項目において、今回の調査結果のほうが「いつもそうしている」「ときどきしている」を合わせた割合が増えていた。

問7から問9は、課題学習への取組みに関して聞いたものである。

自分の課題の決め方に関しては、男子が3学年ともに「先生に言われたこと」が1番で、次が「何も参考にせず、相談しないで自分で決める」であり、先生への依存が高く、また課題の決定に関して工夫が足りないといえる。それに比べて女子は、「友達と相談して」と「学習カードを振り返り、反省や分析結果をもとに自分で決める」が多く、「学び方」が身につけているといえる。

問8のグループやチームの課題の決め方に関しては、3学年男女ともに「リーダーを中心に話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」が1番で、次に「リーダーを中心に話し合い、リーダーや少数の意見を中心に課題を決めている」であり、主体的にかかわっていくことができない生徒がいることがうかがえる。

問9の課題がうまく達成できないときにどうするかに関しては、3学年男女ともに「友達に聞く」が1番であった。2番には、男子が「自分だけで」、女子は「先生に聞く」をあげている。このことは、問7の自分の課題の決め方に共通するものである。以上のように、課題学習の定着が見られる一方で、自分の課題の決め方に関して「わからないので決めていない」と答えた生徒は全体の3.7%、グループやチームの決め方に関しては全体の6.0%、課題がうまく達成できないときに「わからないので、だいたいそのままにしておく」と答えた生徒は全体の7.7%いることがわかった。したがって、体育の学習を進めていくには、このような生徒がいるということを常に認識して、生徒一人ひとりに目を向けた、きめの細かい指導をしていく必要がある。

ソ 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか

【問10】 あなたは、体育の学習が楽しいと感じたことがありますか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

1 いつも感じる 2 ときどき感じる
3 あまり感じない 4 感じたことがない

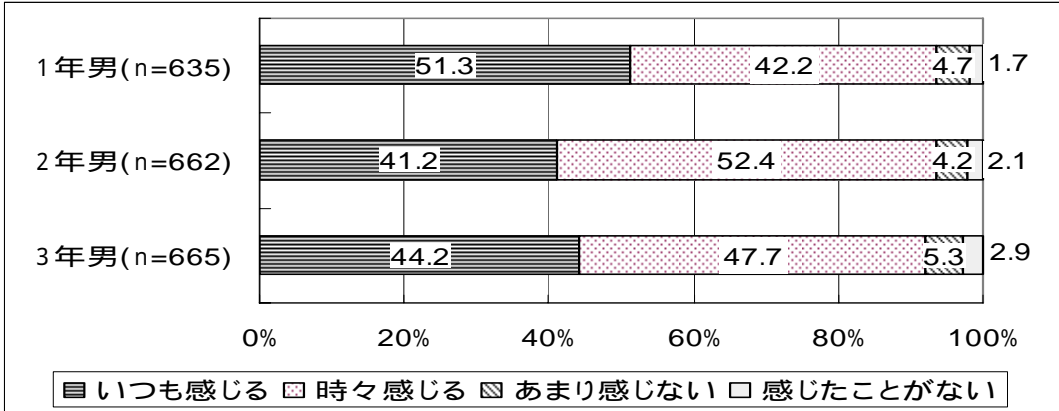


図 2 - 61 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか(男子)

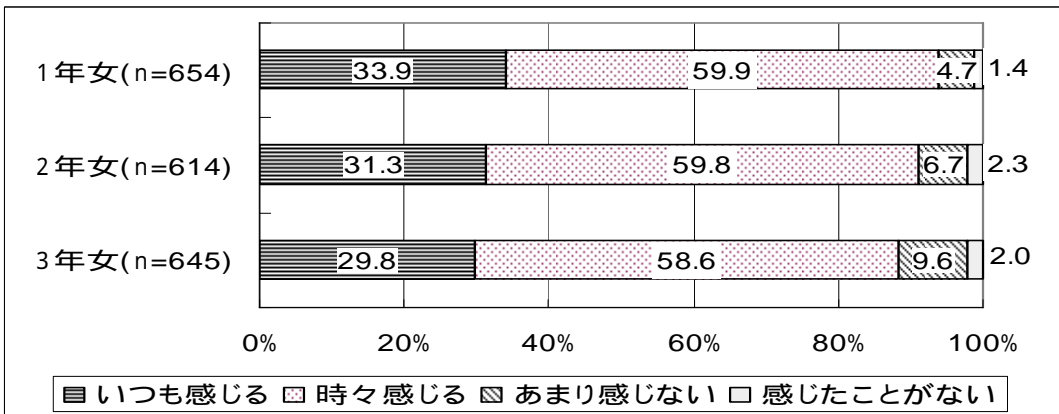


図 2 - 62 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか(女子)

体育の学習が楽しいと感じたことがありますかとたずねたところ、「いつも感じる」と「時々感じる」の回答をあわせた（以下「感じる群」という。）割合は、男子は1年生93.5%、2年生93.6%、3年生91.9%で、女子は1年生93.8%、2年生91.1%、3年生88.4%であった。

「あまり感じない」と「感じたことがない」の回答をあわせた（以下「感じない群」という。）割合は、男子は1年生6.4%、2年生6.3%、3年生8.2%で、女子は1年生6.1%、2年生9.0%、3年生11.6%であった。

コラム14

「体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

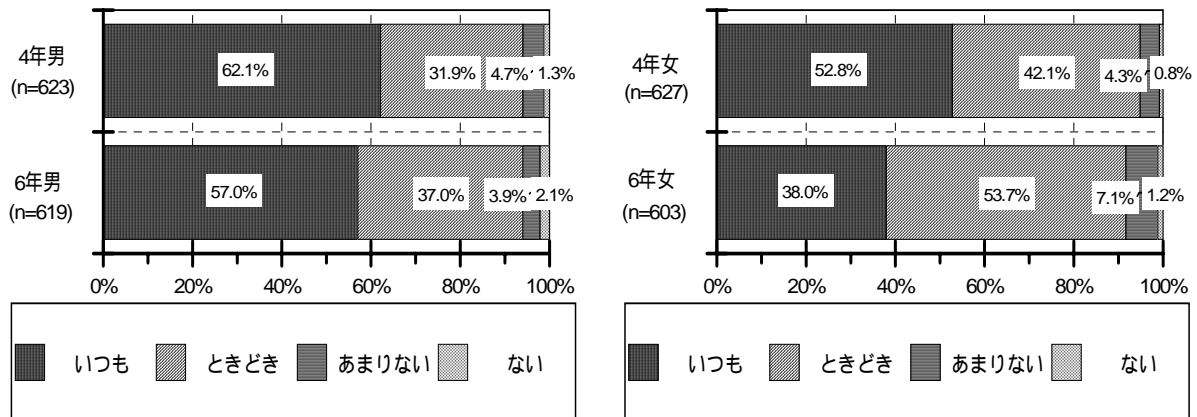


図 (18)小学生の意識 (平成17年度調査) 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか

「いつも感じる」と「ときどき感じる」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	94.0%	(62.1%)	小学4年生女子	94.9%	(52.8%)
小学6年生男子	94.0%	(57.0%)	小学6年生女子	91.7%	(38.0%)
中学1年生男子	93.5%	(51.3%)	中学1年生女子	93.5%	(33.9%)
中学2年生男子	93.6%	(41.2%)	中学2年生女子	91.1%	(31.3%)
中学3年生男子	91.9%	(44.2%)	中学3年生女子	88.4%	(29.8%)

()は「いつも感じる」

小学生・中学生ともに高い割合で体育の学習が楽しいと感じながら授業を行っていることがわかった。しかし、小学生・中学生ともに女子は学年進行とともに減少傾向にある。またその傾向は、「いつも感じる」にもみられた。

「あまり感じない」と「感じたことがない」の回答をあわせたものの推移をみると次のようになる。

小学4年生男子	6.0%	小学4年生女子	5.1%
小学6年生男子	6.0%	小学6年生女子	8.3%
中学1年生男子	6.1%	中学1年生女子	6.1%
中学2年生男子	6.3%	中学2年生女子	9.0%
中学3年生男子	8.2%	中学3年生女子	11.6%

男子は中学3年生でやや減少している以外大きな変化は見られなかったが、女子は学年の進行とともに増加する傾向がみられる。

タ 体育の学習で楽しいと感じるとき

【問11】 【問10】で「1いつも感じる」「2ときどき感じる」「3あまり感じない」と答えた人にお聞きします。今まで、体育の学習で「楽しい」と感じたのはどんなときですか？下から3つまで選んで番号で教えてください。

- 1 思いきり身体を動かすことができたとき
- 2 気持ちがすっきりしたとき
- 3 友だちと仲よく一緒に学習できたとき
- 4 みんなと教えあったり、はげまし合ったり、協力したりしてできたとき
- 5 うまくできたり、がんばったりしたときに、仲間や先生がほめてくれたとき
- 6 友だちと競争したり、みんなで勝敗を争ったりするゲームができたとき
- 7 記録が伸びたり、できなかったことができるようになったりしたとき
- 8 自分たちで練習を工夫したり、作戦を立てたりできたとき
- 9 運動の仕方など、わからないことがわかるようになったとき
- 10 新しい技に挑戦したり、いろいろなスポーツができたりしたとき
- 11 その他

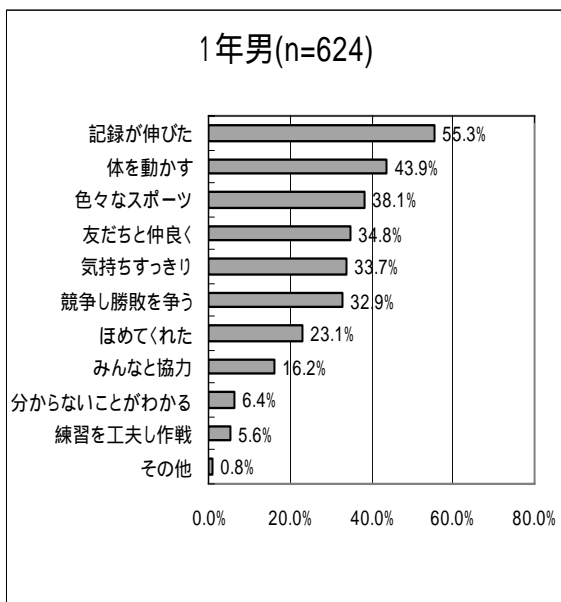


図2 - 63 体育が楽しいと感じるとき
(1年生男子)

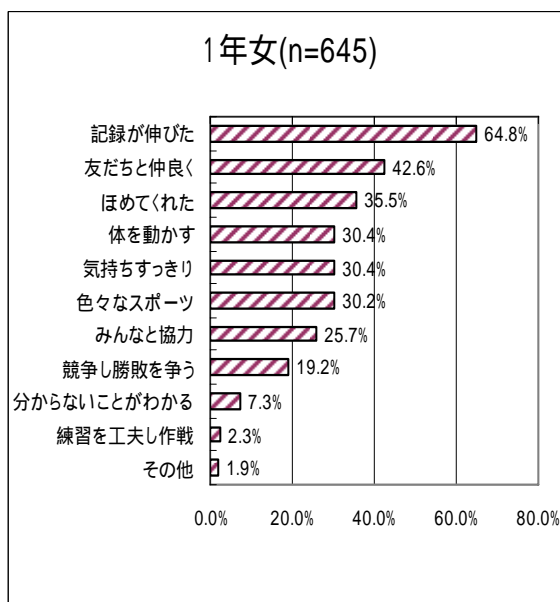


図2 - 64 体育が楽しいと感じるとき
(1年生女子)

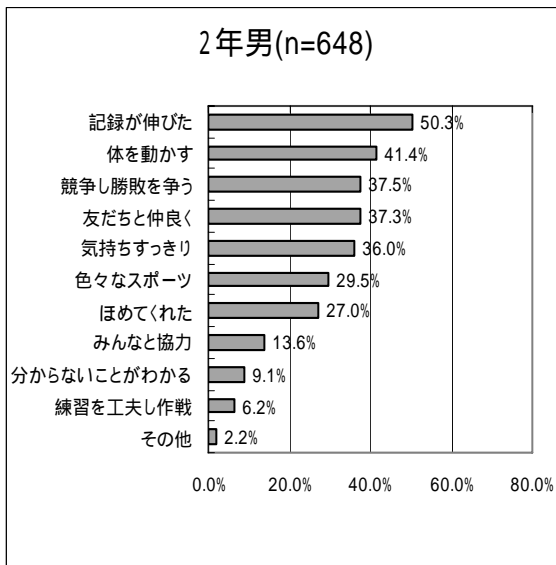


図 2 - 65 体育が楽しいと感じるとき
(2 年生男子)

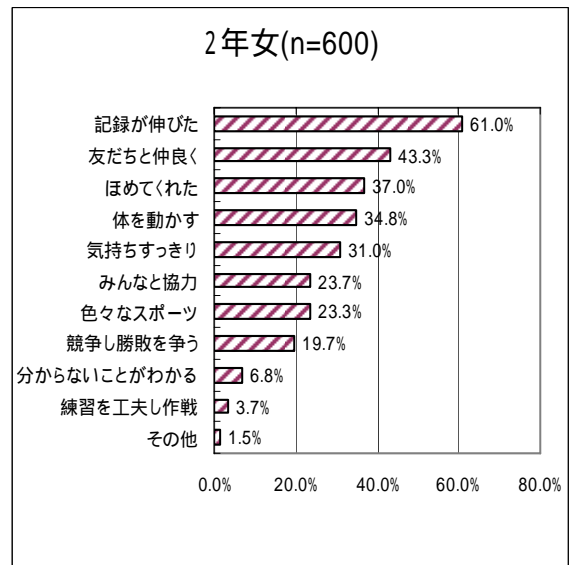


図 2 - 66 体育が楽しいと感じるとき
(2 年生女子)

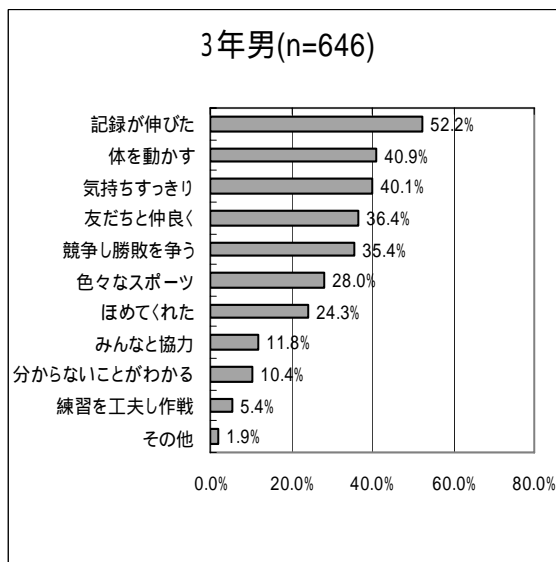


図 2 - 67 体育が楽しいと感じるとき
(3 年生男子)

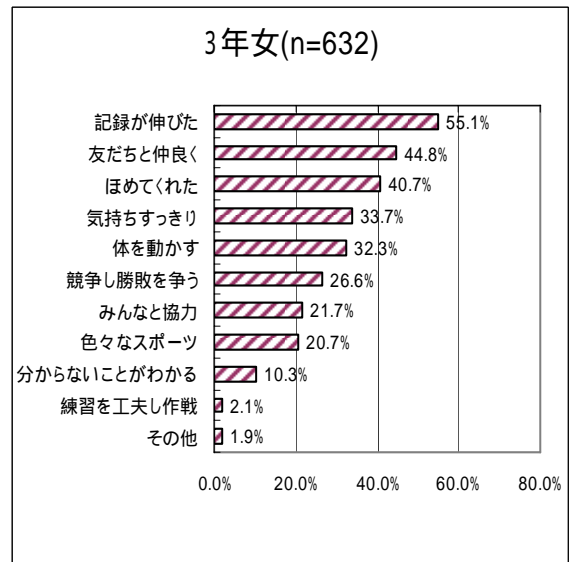


図 2 - 68 体育が楽しいと感じるとき
(3 年生女子)

体育の学習が楽しいのはどんなときかたずねたところ、各学年男女ともに最高位は「記録が伸びたり、できなかったことができるようになったりしたとき」で、各学年男子の2番は「思い切り身体を動かすことができたとき」で、各学年女子の2番は「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」、3番は「うまくできたり、がんばったりしたときに、仲間や先生がほめてくれたとき」となった。男女ともに運動有能感の「統制感(努力すれば、練習すればできるようになるという自信)」が高まったときに「楽しい」と感じる最高位であるが、男子はほかに、様々な種目に取り組み、競争や勝敗を争う中で、「活動の欲求」が満たされたときに楽しいと感じ、女子は友だちとのかわりあいをお互いに大切に、その中で友だちや先生から認められることなど運動有能感の「受容感(教師や仲間から受け入れられているという自信)」が高まったときに楽しさを感じている。

「体育が楽しいと感じるとき」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

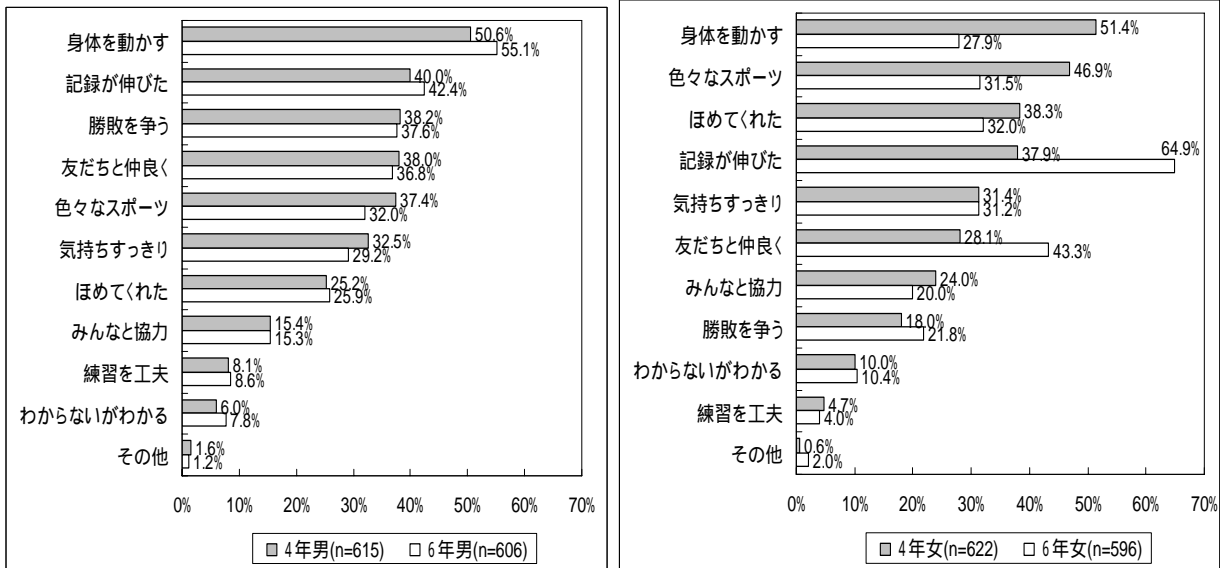


図 (19) 「体育が楽しいと感じるとき」小学生の意識(平成17年度調査)

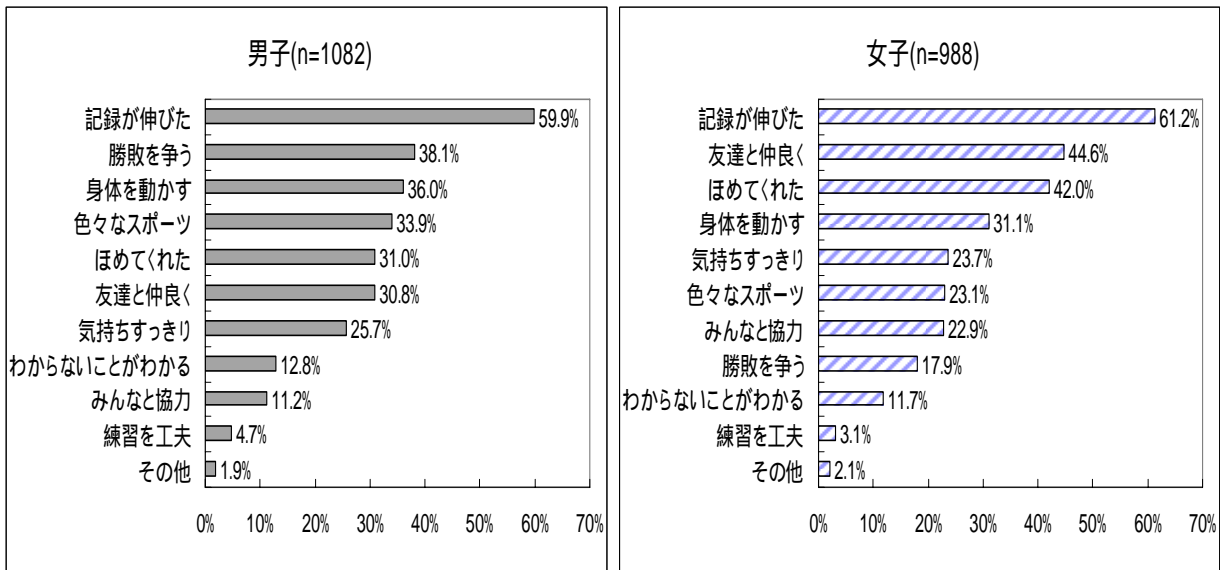


図 (20) 「体育が楽しいと感じるとき」中学生の意識(平成7年度調査)

各調査を通じて小学4年生を除いては、各学年の最高位は「記録が伸びた」であった。男子は次に、「身体を動かす」と「勝敗を争う」が上位にあげられている。女子は各学年を通じて「友達と仲よく」が2番、「ほめてくれた」が3番であった。各学年男女ともに、運動有能感の「統制感(努力すれば、練習すればできるようになるという自信)」が高まったときを最高位にあげており、次に男子は「活動の欲求」が充足されたときをあげ、女子は運動有能感の「受容感(教師や仲間から受け入れられているという自信)」が高まったときに楽しいと感じていることがうかがえる。このことは、小学校4年生から、また10年前とも変わっておらず、恒常的な状況と言えるのではないだろうか。

チ 体育の学習がつまらないと感じたことがあるか

【問12】 あなたは、体育の学習が「つまらない」と感じたことがありますか？
 下から1つ選んで番号で教えてください。
 1 いつも感じる 2 ときどき感じる
 3 あまり感じない 4 感じたことがない

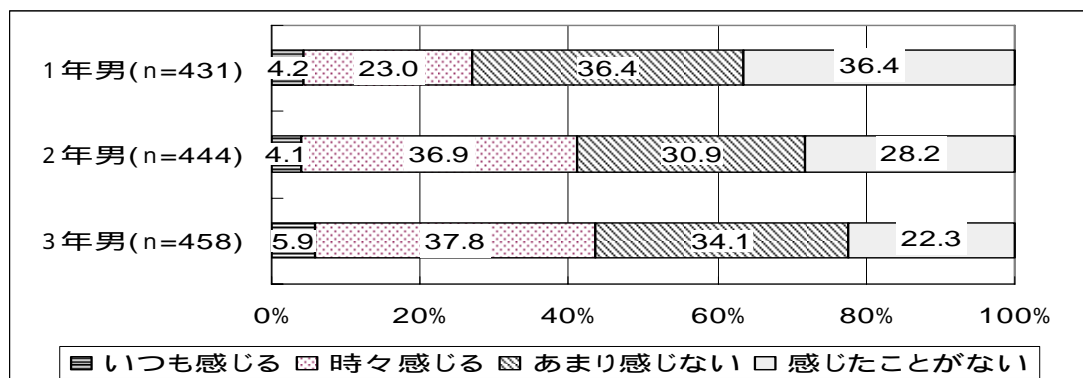


図2 - 69 体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(男子)

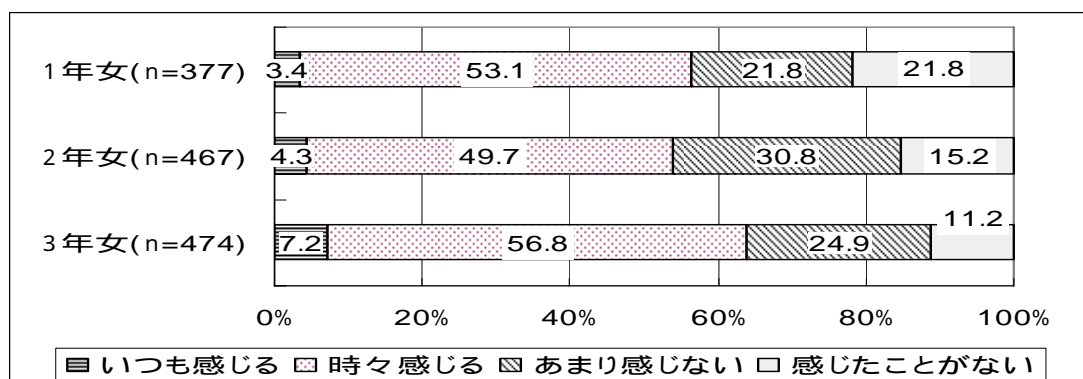


図2 - 70 体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(女子)

体育の学習がつまらないと感じたことがありますかとたずねたところ、「感じる群」の割合は、男子は1年生27.2%、2年生41.0%、3年生43.7%で、女子は1年生56.5%、2年生54.0%、3年生64.0%であった。

このことから、男子よりも女子のほうが、また男女ともに1年生のときよりも3年生のときのほうが増えていることがわかった。

ツ 体育の学習でつまらないと感じるとき

【問13】 【問12】で「1いつも感じる」「2ときどき感じる」「3あまり感じない」と答えた人にお聞きします。今まで、体育の学習で「つまらない」と感じたのはどんなときですか？ 下から3つまで選んで番号で教えてください。

- 1 思いきり身体を動かすことができなかったとき
- 2 気持ちがすっきりせず、つかれたとき
- 3 友だちと仲よくいっしょ一緒に学習できなかったとき
- 4 みんなと教え合ったり、はげまし合ったり、協力したりしてできなかったとき
- 5 うまくできたり、がんばったりしたときに、仲間や先生がほめてくれなかったとき
- 6 うまくできなかったときなどに、友だちから文句を言われたり、先生にしかられたりしたとき
- 7 練習しても記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき
- 8 自分たちで練習を工夫したり、作戦を立てたりできなかったとき
- 9 運動の仕方がわからなかったり、思うように学習できなかったりしたとき
- 10 新しい技に挑戦できなかったり、いろいろなスポーツができなかったりしたとき
- 11 その他

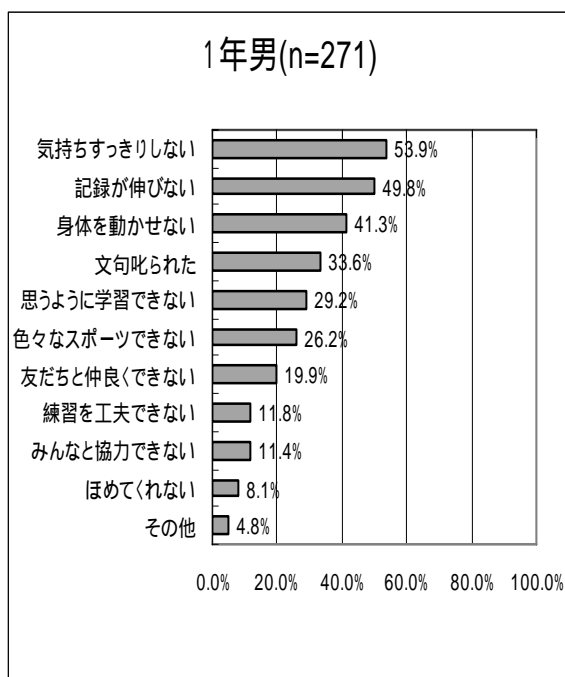


図2-71 体育がつまらないと感じるとき (1年生男子)

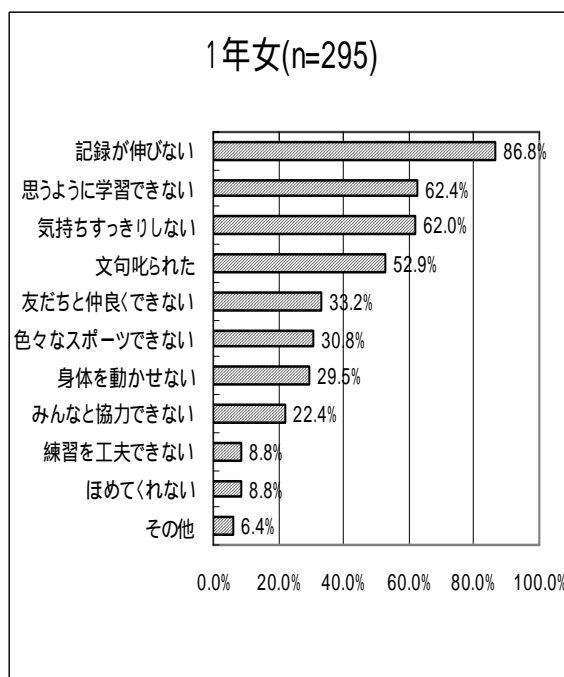


図2-72 体育がつまらないと感じるとき (1年生女子)

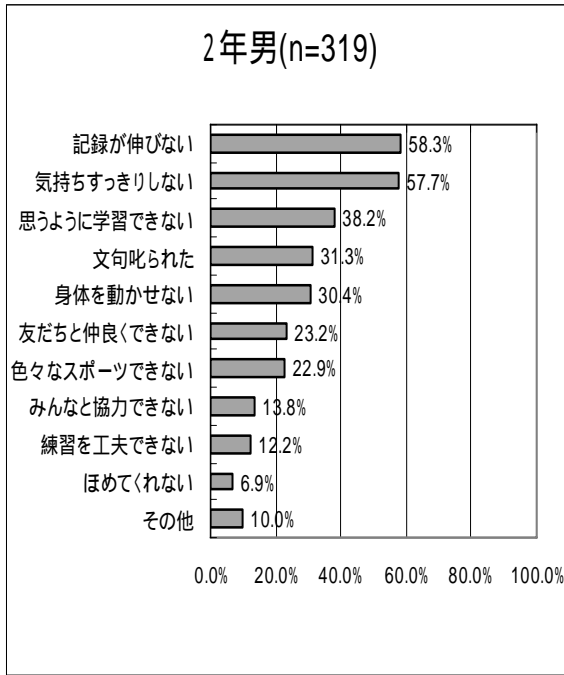


図 2 - 73 体育がつまらないと感じるとき
(2年生男子)

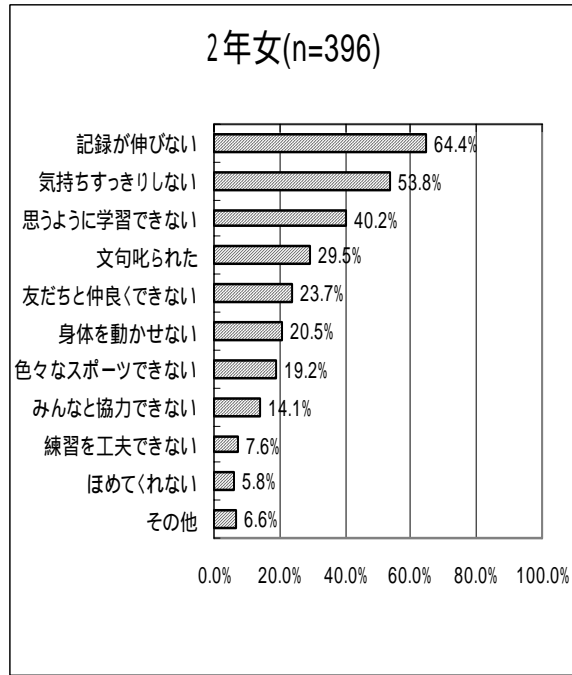


図 2 - 74 体育がつまらないと感じるとき
(2年生女子)

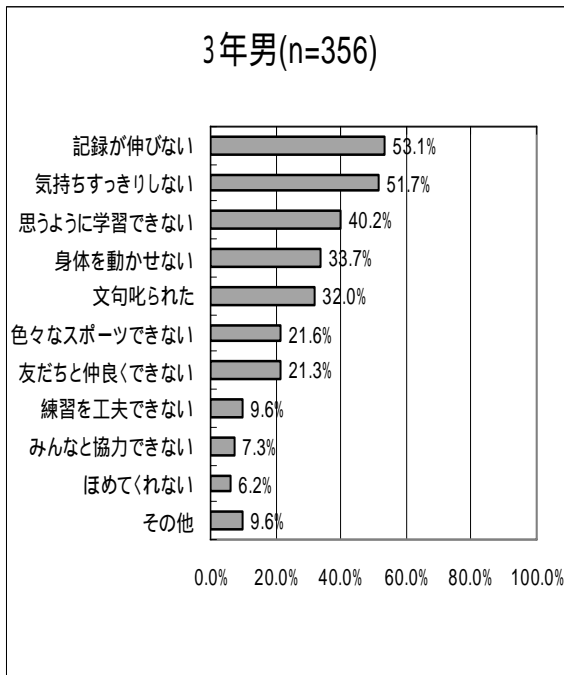


図 2 - 75 体育がつまらないと感じるとき
(3年生男子)

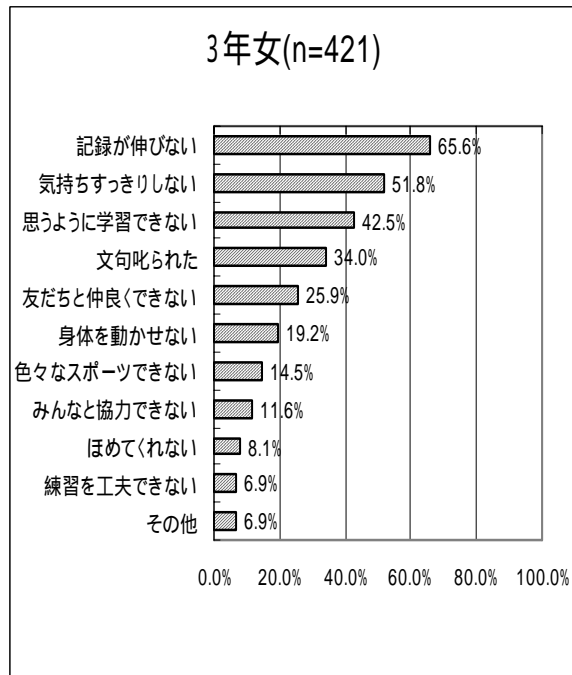


図 2 - 76 体育がつまらないと感じるとき
(3年生女子)

体育の学習がつまらないのはどんなときかたずねたところ、1年生男子を除き男女ともに「練習しても記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき」が最高位となった

テ 安全面で心がけていることについて

【問14】 あなたは、体育の学習で、けがをしないためにどんなことを心がけていますか？下からいくつでも選んで番号で教えてください。

- 1 準備運動や整理運動をじゅうぶんしている
- 2 使用する器具や用具の安全を確かめている
- 3 具合が悪かったり、病気やけがのときは見学するようにしている
- 4 まわりの人や活動する場所の安全を確かめている
- 5 気をぬかないで、集中して取り組むようにしている
- 6 気にはしているが、何もしていない
- 7 まったく気にしていない
- 8 その他

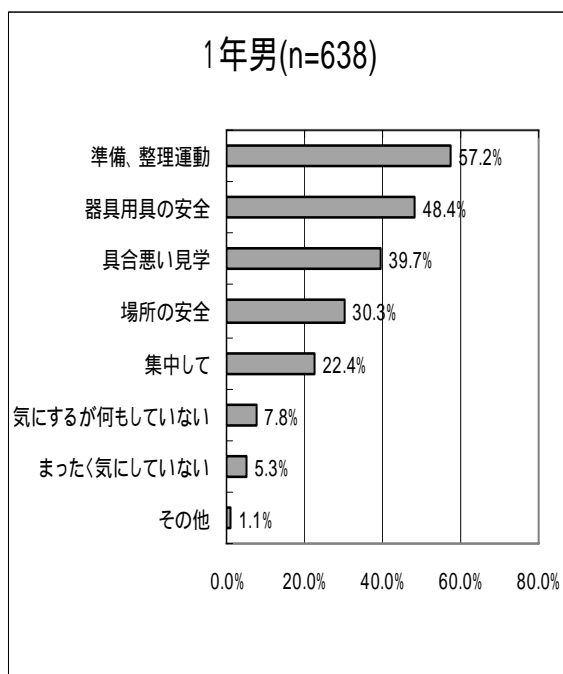


図2 - 77 けがをしないため心がけていること (1年生男子)

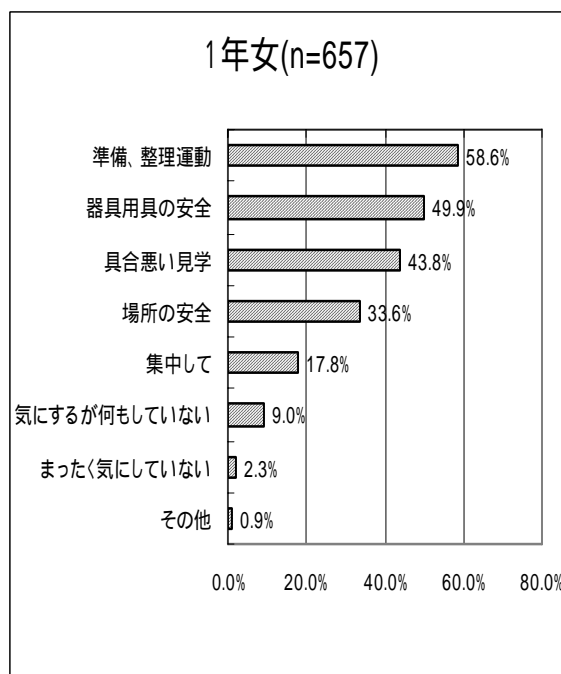


図2 - 78 けがをしないため心がけていること (1年生女子)

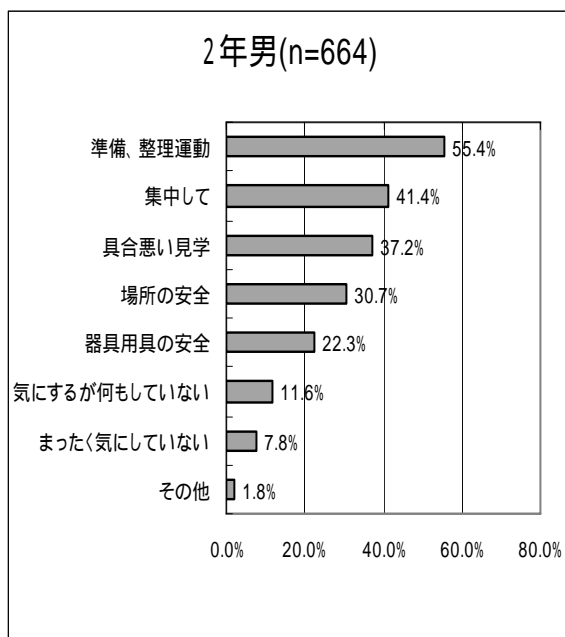


図2 - 79 けがをしないため心がけていること (2年生男子)

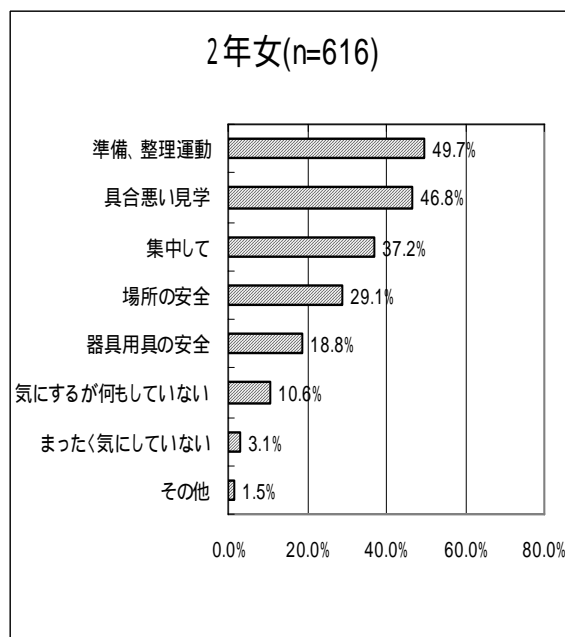


図2 - 80 けがをしないため心がけていること (2年生女子)

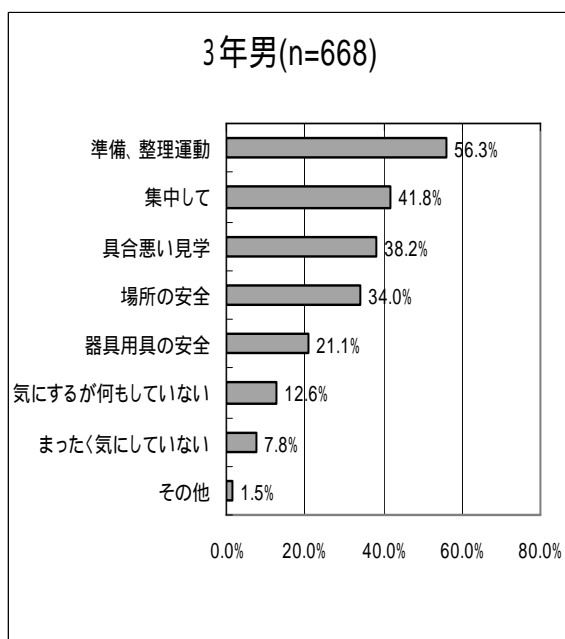


図2 - 81 けがをしないため心がけていること (3年生男子)

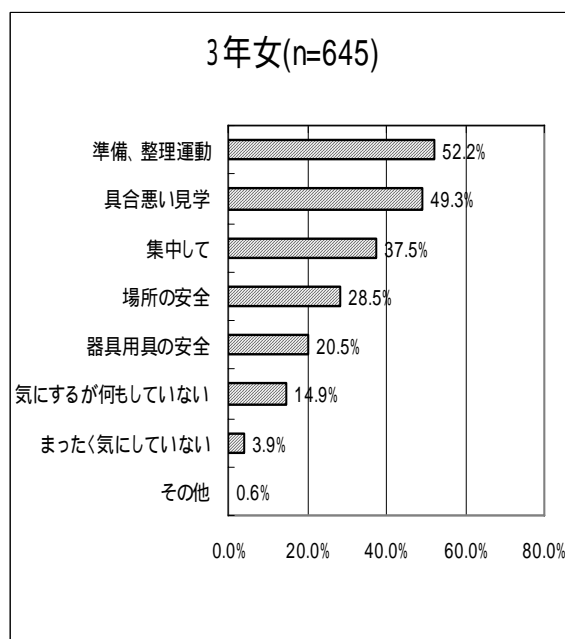


図2 - 82 けがをしないため心がけていること (3年生女子)

体育の学習で、けがをしないためにどんなことを心がけているかたずねたところ、各学年男女ともに「準備運動や整理運動を十分している」（以下「準備、整理運動」という。）が最高位であった。

2番は男子が「気を抜かないで、集中して取り組むようにしている」（以下「集中して」という。）、女子が「具合が悪かったり、病気やけがのときには見学するようにしたりしている」（以下「具合悪い見学」という。）で、3番はその逆であった。

4番には、全学年男女ともに「まわりの人や活動する場所の安全を確かめている」（以下「場所の安全」という。）があげられている。

コラム16

「けがをしないために心がけていること」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

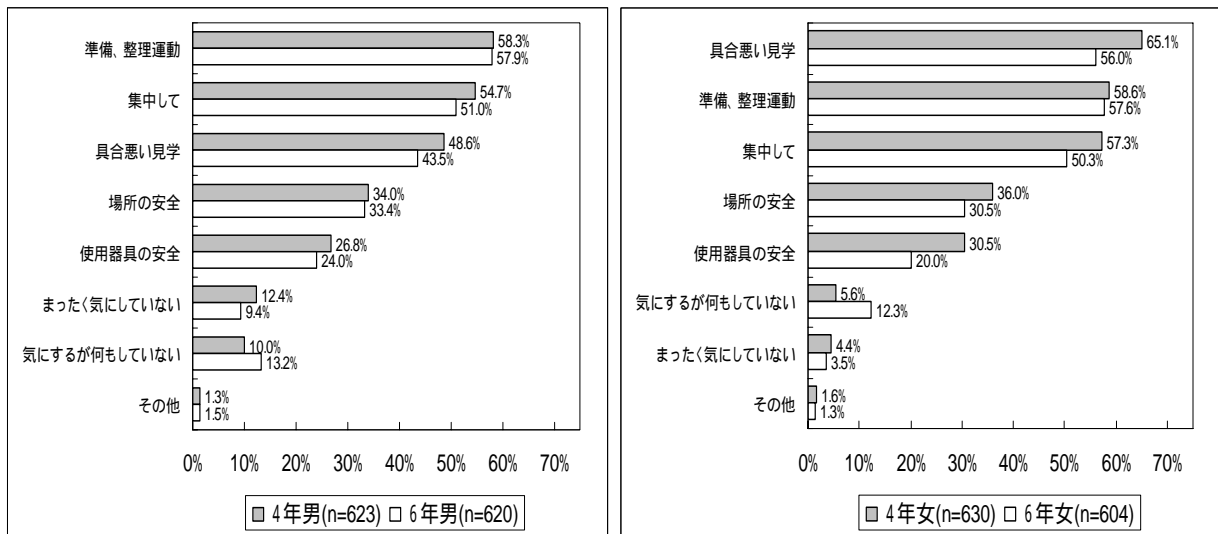


図 (21) 「けがをしないために心がけていること」小学生の意識(平成17年度調査)

生徒は自分自身の身体に気を使いながら、授業に対して集中して取り組んでいることがわかる。また、全学年男女ともに4番目に「場所の安全」をあげており、自分だけでなく周りに対しても配慮しながら授業を実施していることがわかった。

学習環境に対する安全面の配慮は、教師が心がけ実施しなければならないが、生徒に対しても、自分自身と周囲との両面についての安全意識を高める指導を十分に行なわなければならないと考える。

問10から問14の結果から以下のような結果が得られた

問10は、体育の学習が「楽しい」と感じたことがあるかを聞いたものである。

小学生・中学生を通して、男子91.9%、女子88.4%以上の多くの児童生徒が体育の学習が「楽しい」と感じるということがわかった。

問11は、体育の学習が「楽しい」と感じる理由を聞いたものである。

小学6年生から、男女に共通して最高位は「記録が伸びたり、できないことができるようになったりしたとき」であり、運動有能感の「統制感（努力すれば、練習すればできるようになるという自信）」（以下「統制感」という。）が高まったときに

「楽しい」と感じていることが分かった。次に男子は「活動の欲求」が充足されたときをあげ、女子は運動有能感の「受容感（教師や仲間から受け入れられているという自信）」（以下「受容感」という。）が高まったときをあげている。

問12は、体育の学習が「つまらない」と感じたことがあるかを聞いたものである。男子よりも女子のほうが、また1年生のときよりも3年生のときのほうが増加している。

問13は、体育の学習が「つまらない」と感じる理由を聞いたものである。

ここで得られた回答は、問11の「楽しい」と感じる理由の裏返しで、各学年男女に共通して、「練習しても記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき」であり、「統制感」が高めることができなかつたときや「活動の欲求」が満たされなかつたときに「つまらない」と感じていることがわかった。

これらのことから、体育の学習においては、まず「統制感」を高めてあげることが大切であり、次に男子は運動量の確保をして「活動の欲求」を充足させてあげることが大切であり、女子はグループ学習等を通じて、友達と仲よく活動できるような場を多くしたり、やる気や自信を高めるような励ましや賞賛をしたりして、「受容感」を高めてあげることが大切である。

また、「楽しい」と「つまらない」は表裏の関係にあることから、1人の生徒が体育の授業を「楽しい」と感じることもあるし、「つまらない」と感じたりすることがあるということを理解したうえで指導することが必要である。

問14は、安全面で心がけていることを聞いたものである。

各学年男女ともに、多くの生徒がけがの予防や事故防止のために、気を抜かず集中し、自分自身の体調についてよく考えとともに、周りの人や活動場所の安全についても配慮しながら授業に取り組んでいることがわかった。自分自身の体調については、特に女子が気を使っているようである。

生徒の安全に対する取組状況はよいといえるが、教師は、施設・用具の安全点検は常に怠らず、また生徒に対する安全意識をさらに高める指導を十分に行なう必要がある。

ト 男女共習を行なったことがあるか

【問15】 中学生になってから、体育の学習で男女一緒にの学習(男女共習)を行ったことがありますか？ どちらかを選んで、番号で教えてください。
 1 ある 2 ない

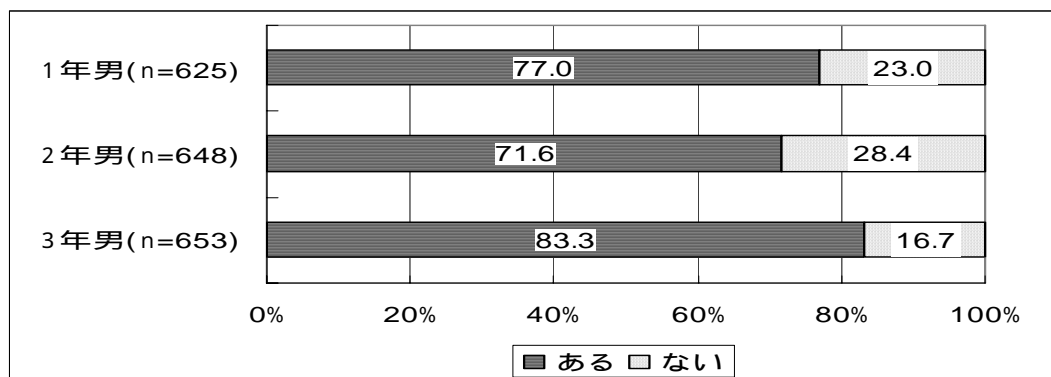


図 2 - 83 男女共習を行ったことがあるか (男子)

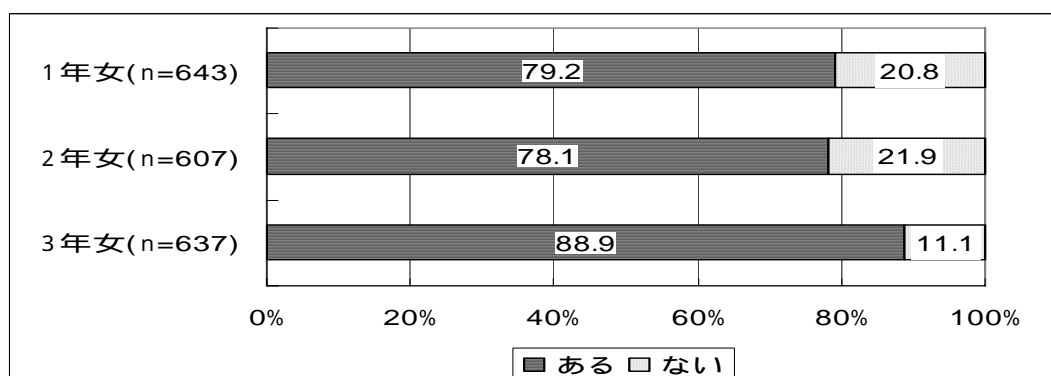


図 2 - 84 男女共習を行ったことがあるか (女子)

中学生になってから、体育の学習で男女共習を行ったことがあるかたずねたところ、男子は、1年生77.0%、2年生71.6%、3年生83.3%で、女子は、1年生79.2%、2年生78.1%、3年生88.9%であった。

選択制の授業を推し進めていく中で、男女共習の学習は避けることのできないものであると思われるが、「ない」の回答が、1・2年生で20～28%、3年生でも10～15%と多かった。

ナ 男女共習についてどう思うか

【問16】 【問15】で「1ある」と答えた人にお聞きします。あなたは、男女一緒に学習(男女共習)についてどのように思いましたか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 楽しい | 2 どちらかという楽しい |
| 3 どちらかという楽しくない | 4 楽しくない |

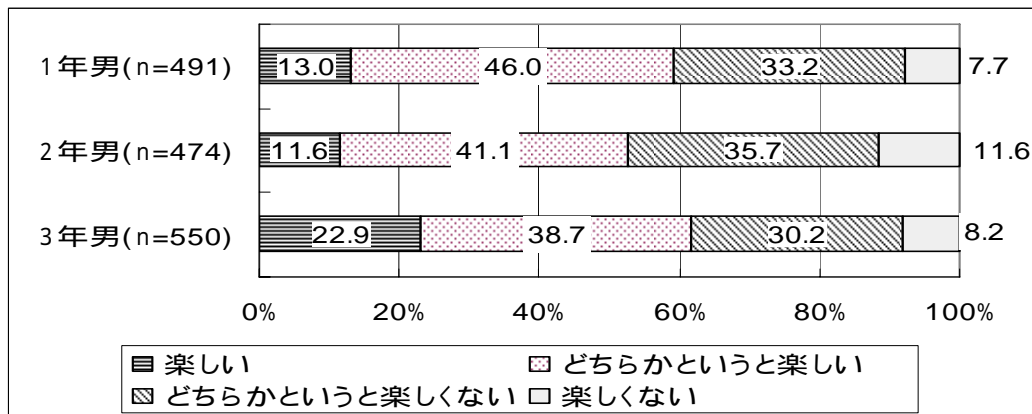


図 2 - 85 男女共習をどう思うか (男子)

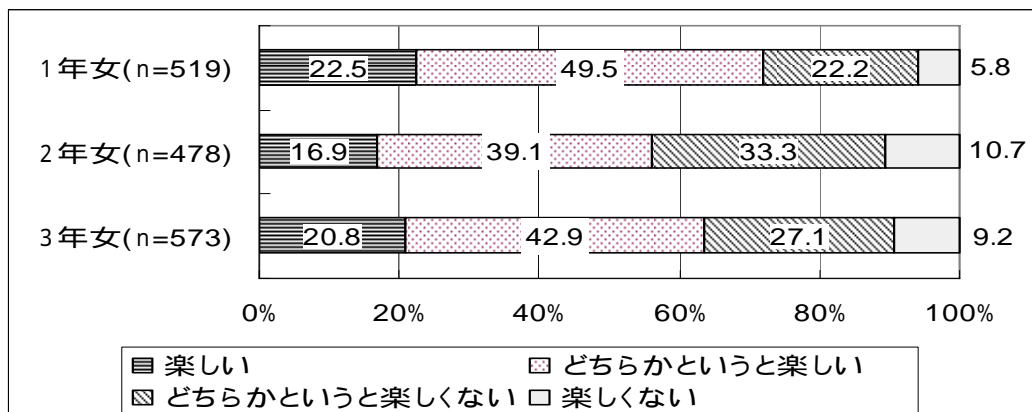


図 2 - 86 男女共習をどう思うか (女子)

男女共習についてどのように思うかをたずねたところ、「楽しい群」の割合は、男子は1年生59.0%、2年生52.7%、3年生61.6%で、女子は1年生72.0%、2年生56.0%、3年生63.7%で、各学年とも男子より女子のほうが多いことがわかった。

二 男女共習が「楽しい」と思う理由について

【問17】 【問16】で「1 楽しい」または「2 どちらかという楽しい」と答えた人にお聞きします。男女一緒にの学習(男女共習)が「楽しい」と思う理由を下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 男女一緒に仲よく、楽しい雰囲気で活動できるから
- 2 男女がお互いに教え合ったり、はげまし合ったりできるから
- 3 男女の体力差、技能差などを克服する工夫が協力してできるから
- 4 男女共習の場合、選択できる種目が増えるから
- 5 その他

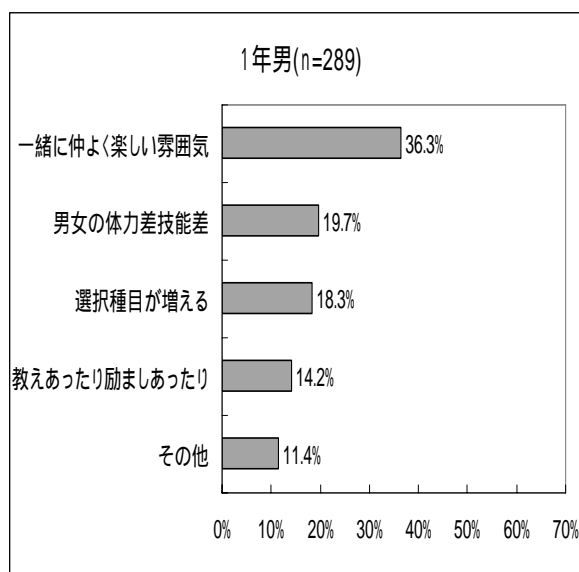


図 2 - 87 男女共習が楽しい理由
(1年生男子)

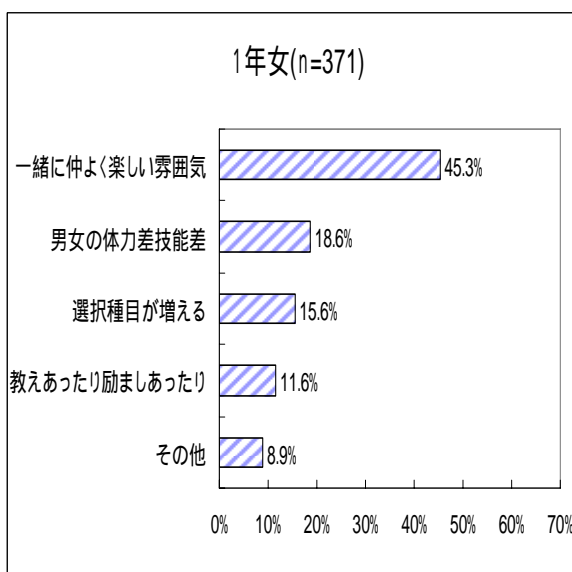


図 2 - 88 男女共習が楽しい理由
(1年生女子)

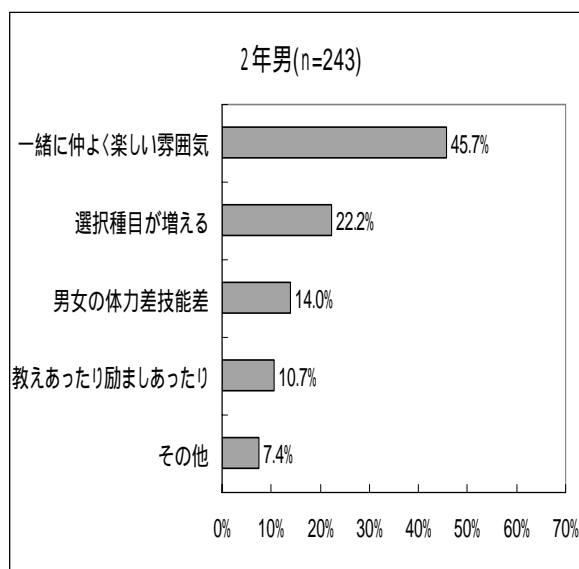


図 2 - 89 男女共習が楽しい理由
(2年生男子)

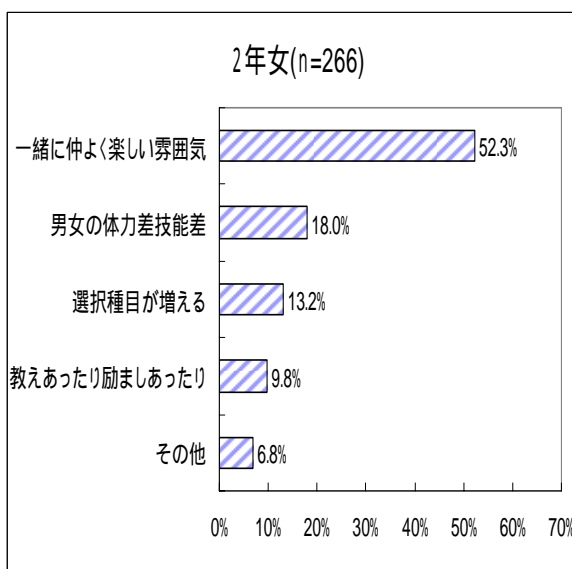


図 2 - 90 男女共習が楽しい理由
(2年生女子)

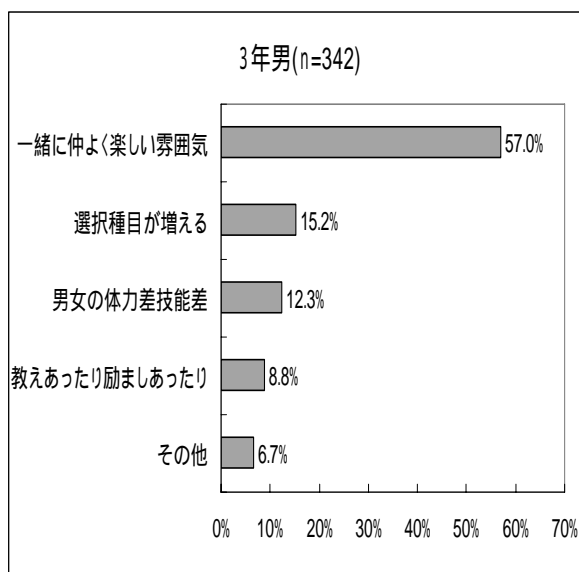


図 2 - 91 男女共習が楽しい理由
(3年生男子)

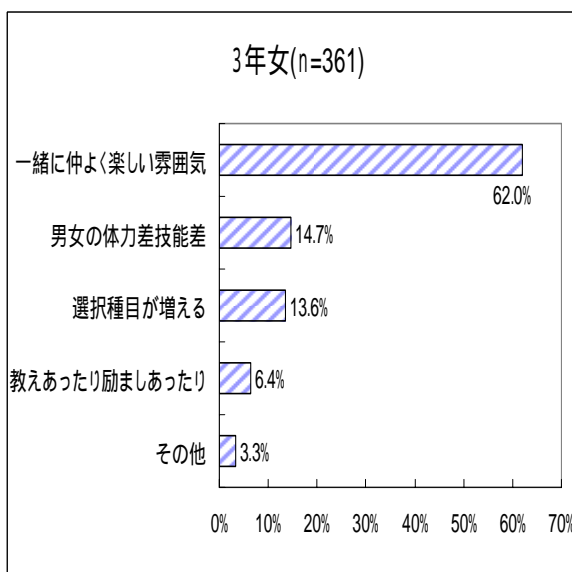


図 2 - 92 男女共習が楽しい理由
(3年生女子)

男女共習が楽しいと思う理由をたずねたところ、各学年男女ともに「男女一緒に仲よく、楽しい雰囲気で活動できるから」が最高位で、男子の2番は、1年生が「男女の体力差、技能差などを克服する工夫が協力してできるから」（以下「男女の体力差克服」という。）で、2・3年生が「男女共習の場合、選択できる種目が増えるから」（以下「選択種目が増える」という。）で、3番は1年生が「選択種目が増える」で、2・3年生が「男女の体力差克服」であった。女子は各学年とも2番は「男女の体力差克服」で、3番が「選択種目が増える」であった。

又 男女共習が「楽しくない」と思う理由について

【問18】 【問16】で「3どちらか」というと楽しくない」または「4楽しくない」と答えた人にお聞きします。男女一緒に学習(男女共習)が「楽しくない」と思う理由を下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 男女の体力差がはつきりしてしまうから
- 2 男女の技能差などがあり、思いきり活動(運動)できないから
- 3 男女一緒に学習すると危険があり、一緒に行うのが無理な種目があるから
- 4 異性がいると恥ずかしいから
- 5 その他

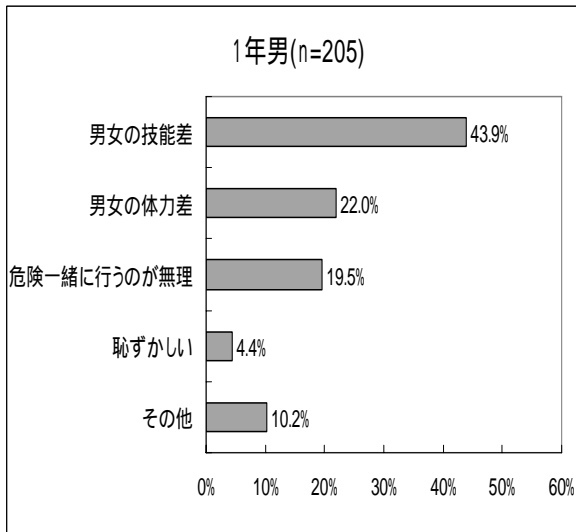


図2-93 男女共習が楽しくない理由 (1年生男子)

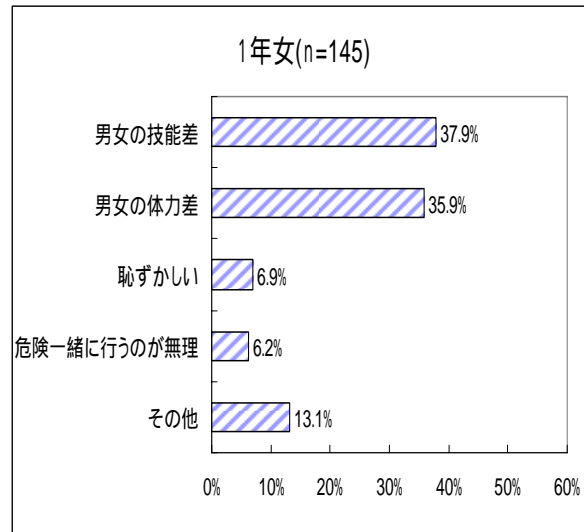


図2-94 男女共習が楽しくない理由 (1年生女子)

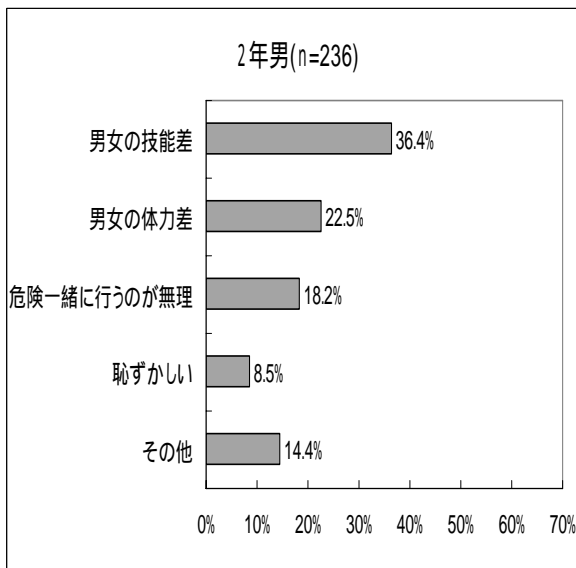


図2-95 男女共習が楽しくない理由 (2年生男子)

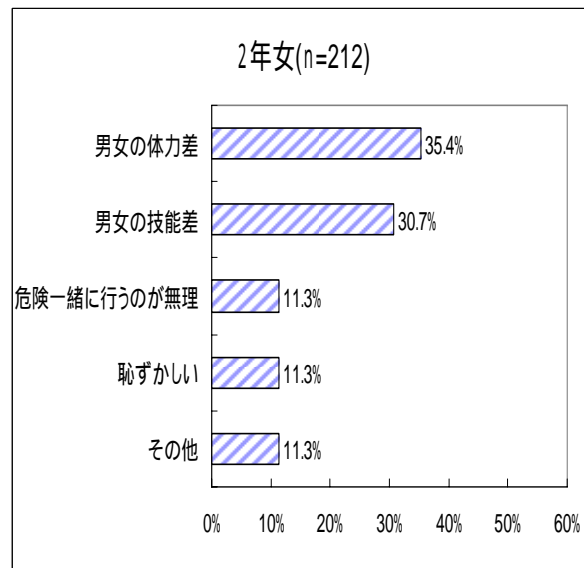


図2-96 男女共習が楽しくない理由 (2年生女子)

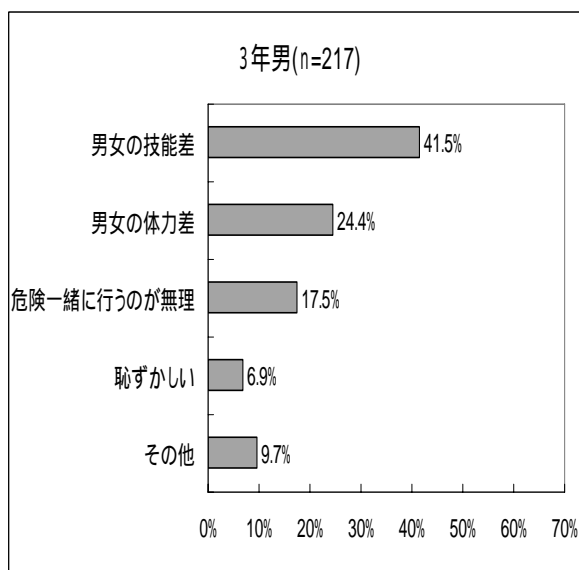


図 2 - 97 男女共習が楽しくない理由
(3年生男子)

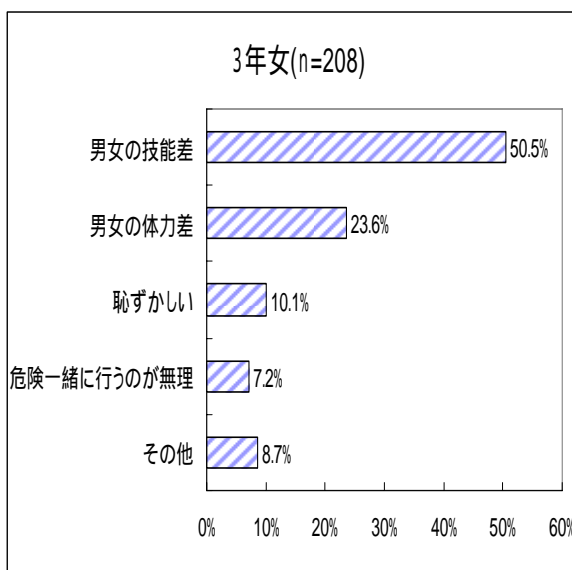


図 2 - 98 男女共習が楽しくない理由
(3年生女子)

男女共習が楽しくないと思う理由をたずねたところ、「男女の技能差などがあり、思い切り活動（運動）できないから」（以下「男女の技能差」という。）が2年生女子を除いて最高位となった。（2年生女子は2番）

2年生女子の最高位は「男女の体力差がはっきりしてしまうから」（以下「男女の体力差」という。）で、この項目は2年生女子以外の2番に入っている。

3番は男子と2年生女子が「男女一緒に学習すると危険があり、一緒に行くのが無理な種目があるから」で、1・3年生の女子は「異性があると恥ずかしいから」であった。

「男女の技能差」「男女の体力差」については、「楽しい」と思う理由の2・3番にあげられている項目であり、表裏の関係にあることがわかる。

ネ 男女共習を行なってみたいと思うか

【問19】 【問15】で「2 ない」と答えた人にお聞きします。あなたは、男女一緒にの学習（男女共習）を行ってみたいと思いますか？ どちらかを選んで番号で教えてください。

- 1 はい 2 いいえ

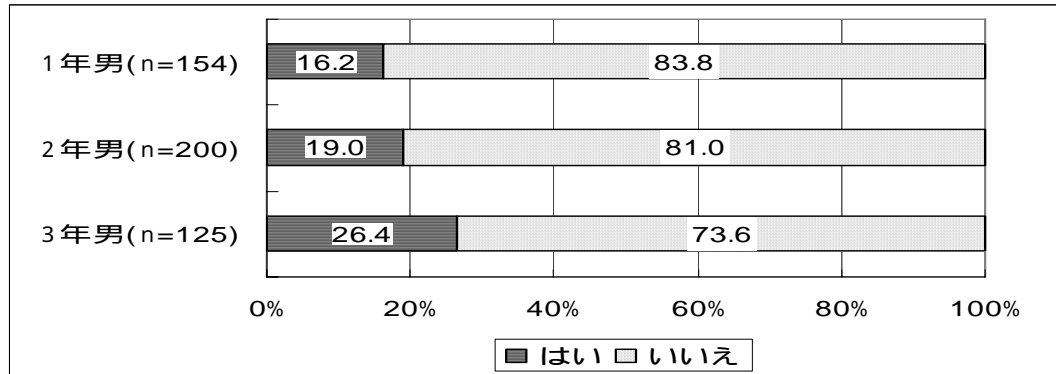


図 2 - 99 男女共習を行ってみたいと思うか（男子）

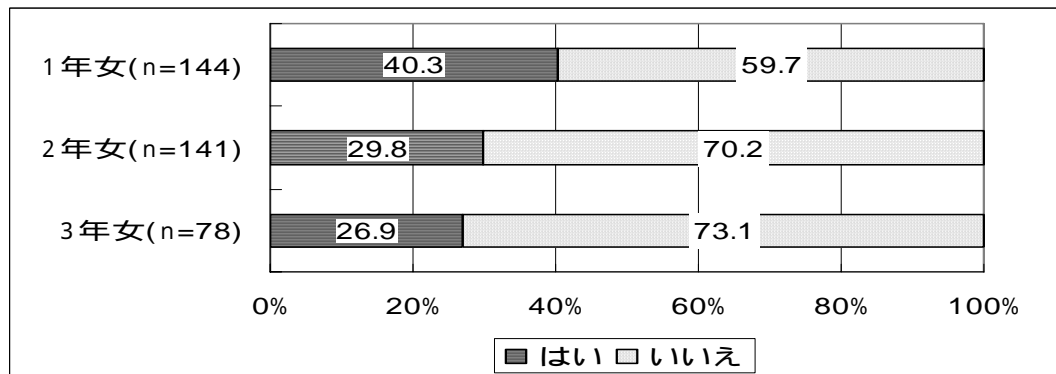


図 2 - 100 男女共習を行ってみたいと思うか（女子）

男女共習を行ってみたいかたずねたところ、男子は、1年生16.2%、2年生19.0%、3年生26.4%で、女子は、1年生40.3%、2年生29.8%、3年生26.9%であった。

問15から問19の結果から以下のような結果が得られた

問17は男女共習が「楽しい」と思う理由について、問18は男女共習が「楽しくない」と思う理由について聞いたものである。

「楽しい」と思う理由は、各学年男女ともに「一緒に仲よく楽しい雰囲気」を最高位にあげている。次にあげられている「男女の技能差」「男女の体力差」については、「楽しくない」と思う理由にもあげられている項目であり、表裏の関係にあることがわかる。

このことから、男女の体力差や技能差を危険だと感じさせたり、あきらめさせたりしないように、男女の体格、体力などの特性を踏まえた上で、練習の仕方や試合のルール、学習内容に応じたグループ編成、教材教具、学習資料などを工夫し、男女が一緒に仲よい雰囲気の中で「楽しさ」を感じさせてあげられるようにすることが必要である。

(3) 体育の学習以外の運動への取り組みについて
 ア 学校で休み時間や放課後に運動をしているか

【問20】 あなたは、学校で、休み時間や放課後に運動をしていますか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

1 いつもしている 2 ときどきしている
 3 あまりしていない 4 まったくしていない

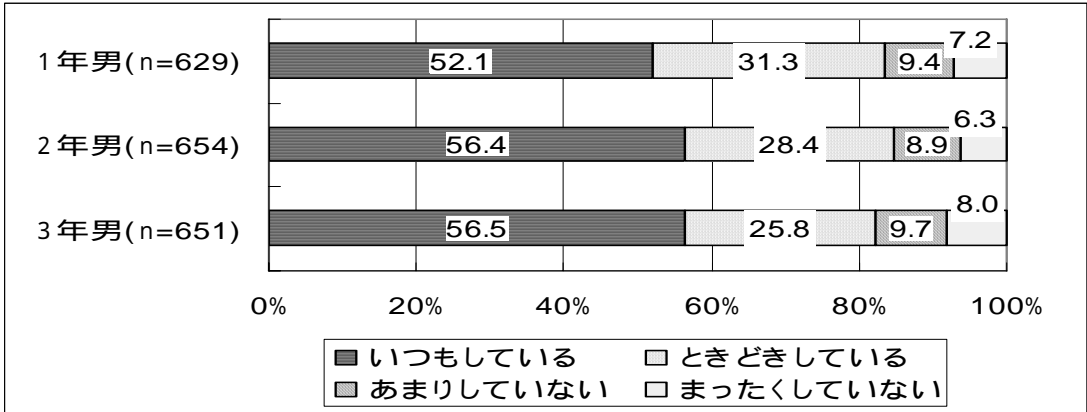


図2 - 101 休み時間や放課後に運動をしているか(男子)

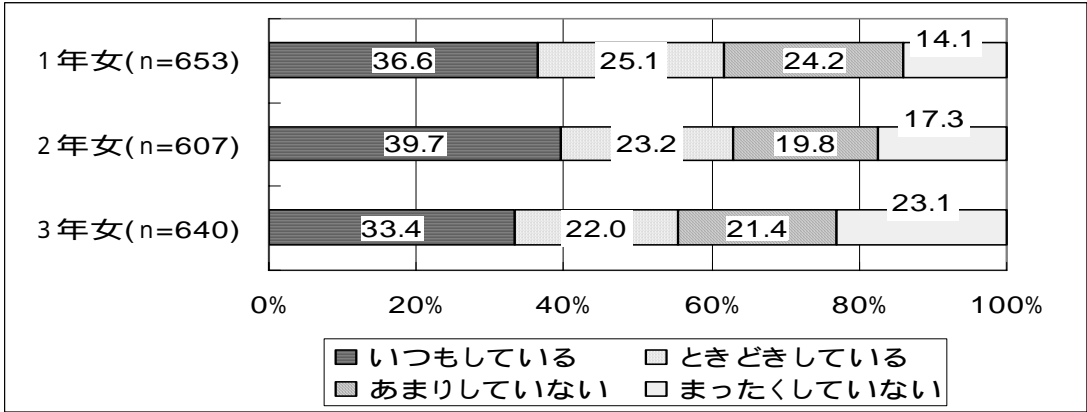


図2 - 102 休み時間や放課後に運動をしているか(女子)

学校で、休み時間や放課後に運動をしているかたずねたところ、「いつもしている」と「ときどきしている」の回答をあわせたもの(以下「している群」という。)をみると、男子1年生83.4%、2年生84.8%、3年生82.3%で、女子は1年生61.7%、2年生62.9%、3年生55.4%となり、男子よりも女子のほうが低く、特に3年生女子の少なさが顕著であった。

コラム17

「学校で休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識(平成17年度調査)

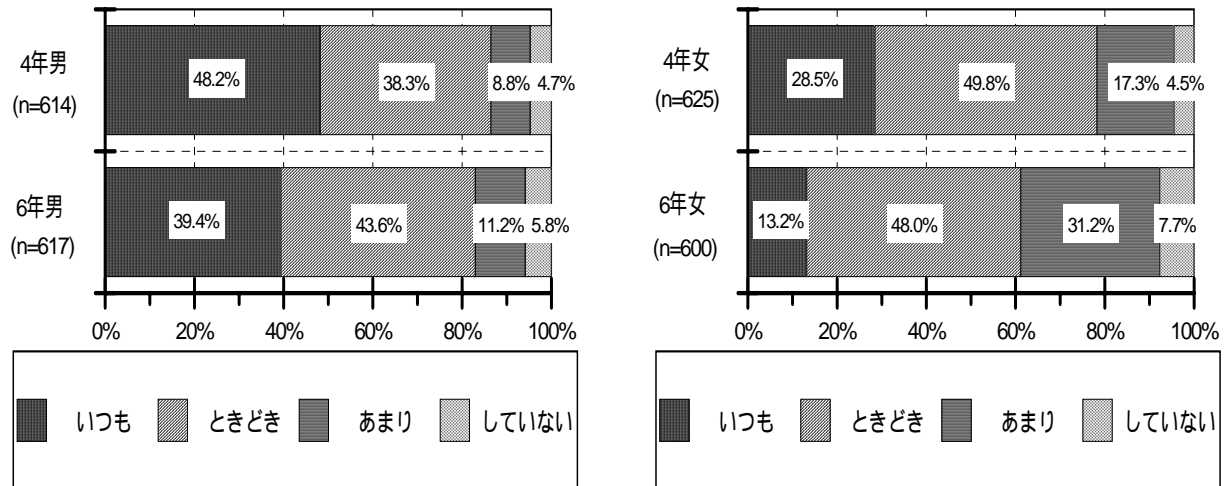


図 (22) 「学校で休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識 (平成17年度調査)

「している群」の推移を見ると次のようになる。

小学4年生男子	86.5% (48.2%)	小学4年生女子	78.3% (28.5%)
小学6年生男子	83.0% (39.4%)	小学6年生女子	61.2% (13.2%)
中学1年生男子	83.4% (52.1%)	中学1年生女子	61.7% (36.6%)
中学2年生男子	84.4% (65.4%)	中学2年生女子	62.9% (39.7%)
中学3年生男子	82.3% (56.5%)	中学3年生女子	55.4% (33.4%)

()内はいつもしている

男子は、小学生から中学生までほぼ同じ割合を示しているのに対して、女子は小学4年生から小学6年生と中学2年生から中学3年生のときに大きく減少しており、小・中を通して男女差が出ている。

「まったくしていない」の推移を見ると次のようになる

小学4年生男子	4.7%	小学4年生女子	4.5%
小学6年生男子	5.8%	小学6年生女子	7.7%
中学1年生男子	7.2%	中学1年生女子	14.1%
中学2年生男子	6.3%	中学2年生女子	17.3%
中学3年生男子	8.0%	中学3年生女子	23.1%

男子には大きな変化はないが、女子は小学生から学年の進行とともに、減少している。

イ なぜ学校で休み時間や放課後に運動をするのか

【問21】 【問20】で「1いつもしている」または「2ときどきしている」と答えた人にお聞きします。あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をしているのですか？ 下からいくつでも選んで番号で教えてください。

- 1 運動することが好きで、楽しいから
- 2 好きな運動ができるから
- 3 運動がもっとうまくなりたいから
- 4 もっと体力を高めたいから
- 5 友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから
- 6 運動をするのにふさわしい場所があるから
- 7 運動をする仲間や友だちがいるから
- 8 その他

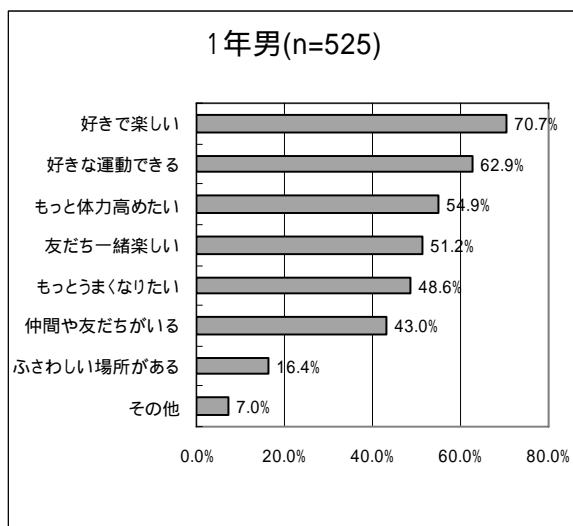


図2 - 103 休み時間や放課後に運動をする理由 (1年生男子)

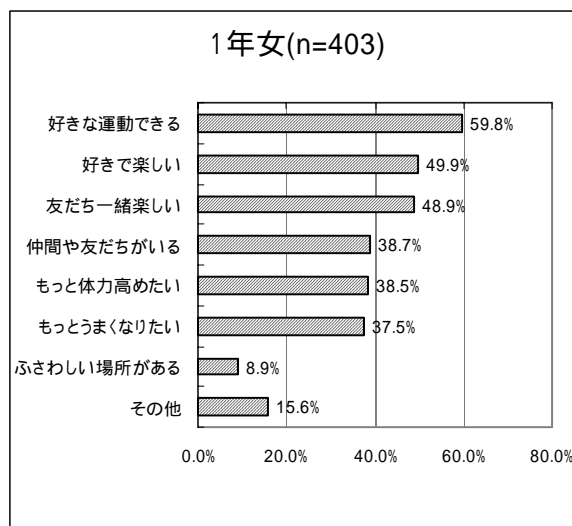


図2 - 104 休み時間や放課後に運動をする理由 (1年生女子)

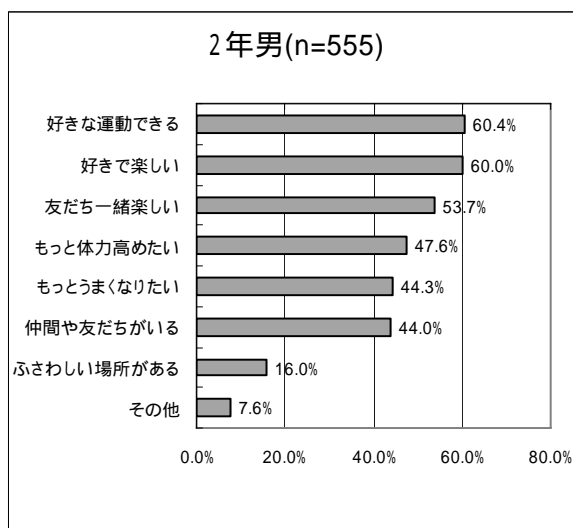


図2 - 105 休み時間や放課後に運動をする理由 (2年生男子)

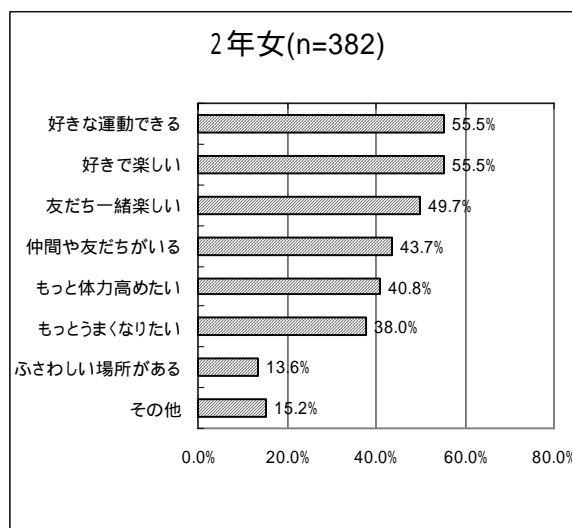


図2 - 106 休み時間や放課後に運動をする理由 (2年生女子)

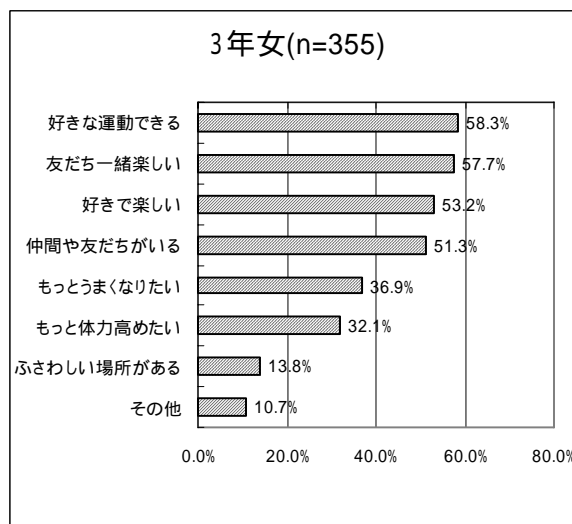
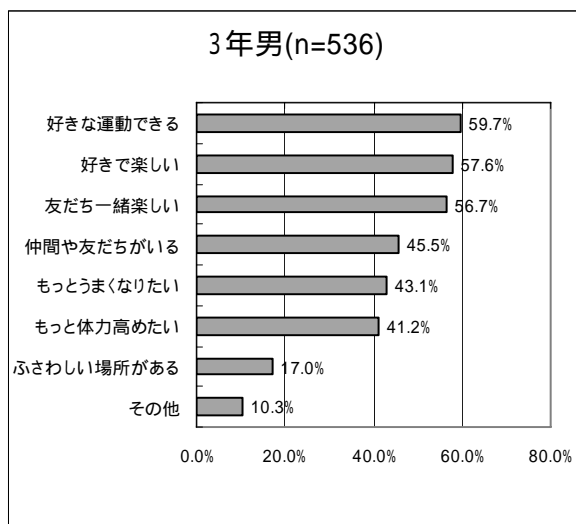


図 2 - 107 休み時間や放課後に運動をする理由 (3年生男子)

図 2 - 108 休み時間や放課後に運動をする理由 (3年生女子)

なぜ休み時間や放課後に運動をするのかたずねたところ、「好きな運動ができるから」が1年生男子を除いて最高位となった。(1年生男子は2番)1年生男子の最高位は「運動することが好きで、楽しいから(以下「好きで楽しい」という。)」で、この項目は男子の2・3年生と女子1・2年生の2番に入っている。3年生女子の2番は「友達と一緒にゲームや運動をすると楽しいから」で、この項目は男子の1・2年生と女子の1・2年生の3番に入っている。1年生男子の3番は「もっと体力を高めたいから」で、3年生女子の3番は「好きで楽しい」であった。

コラム18

「学校で休み時間や放課後に運動をする理由」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

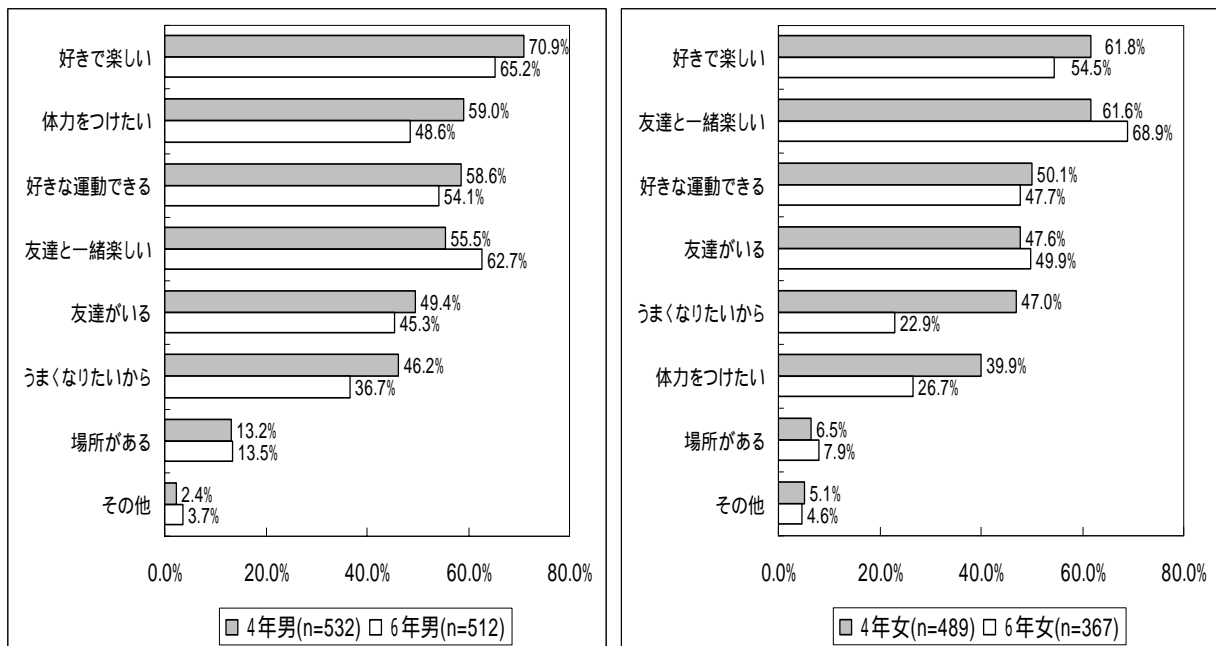


図 (28) 「学校で休み時間や放課後に運動をする理由」小学生の意識(平成17年度調査)

各年代男女別の休み時間や放課後に運動をする理由の上位2つの項目は次のようになる。
(上段が上位)

小学4年生男子	好きで楽しい 体力高めたい	小学4年生女子	友だち一緒に楽しい 好きで楽しい
小学6年生男子	好きで楽しい 友だち一緒に楽しい	小学6年生女子	友だち一緒に楽しい 好きで楽しい
中学1年生男子	好きで楽しい 好きな運動できる	中学1年生女子	好きな運動できる 好きで楽しい
中学2年生男子	好きな運動できる 好きで楽しい	中学2年生女子	好きな運動できる 好きで楽しい
中学3年生男子	好きな運動できる 好きで楽しい	中学3年生女子	好きな運動できる 友だち一緒に楽しい

小学生・中学生ともに、「好きで楽しいから」と「好きな運動できる」「友だち一緒に楽しい」が上位となった。女子の方が「友だちと一緒に」が上位に多いことから、体育の学習以外の運動においても、友だちとのかわりを大切にする傾向がうかがえる。

ウ なぜ学校で休み時間や放課後に運動をしないのか

【問22】 【問20】で「3あまりしていない」または「4まったくしていない」と答えた人にお聞きします。あなたは、なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのですか？ 下からいくつでも選んで番号で教えてください。

- 1 運動がきらいで、したいと思わないから
- 2 運動をするとつかれるから
- 3 勉強や次の準備で時間がとれないから
- 4 いっしょ一緒に運動したり、遊んだりする友だちがいないから
- 5 うまくなろうとか体力をつけようとは思わないから
- 6 身体が弱い(病気がち)から
- 7 運動がへたで、うまくできないから
- 8 ほかにやりたいことがあるから
- 9 その他

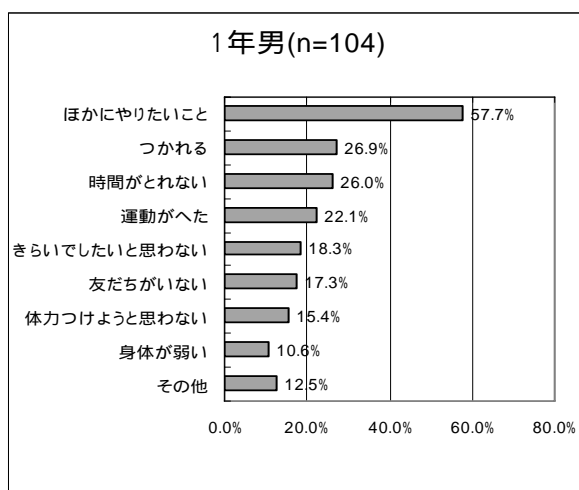


図2 - 109 休み時間や放課後に運動をしない理由（1年生男子）

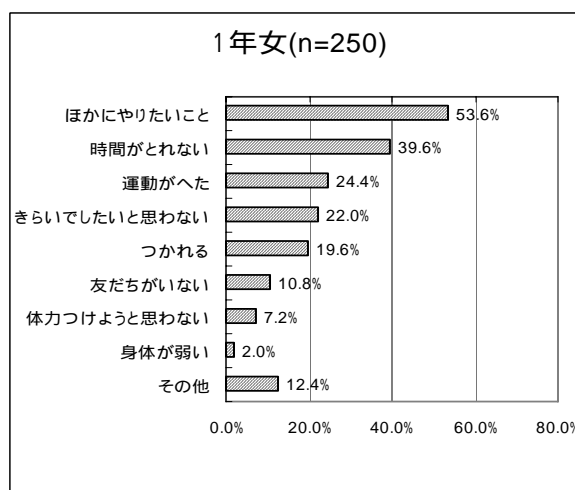


図2 - 110 休み時間や放課後に運動をしない理由（1年生女子）

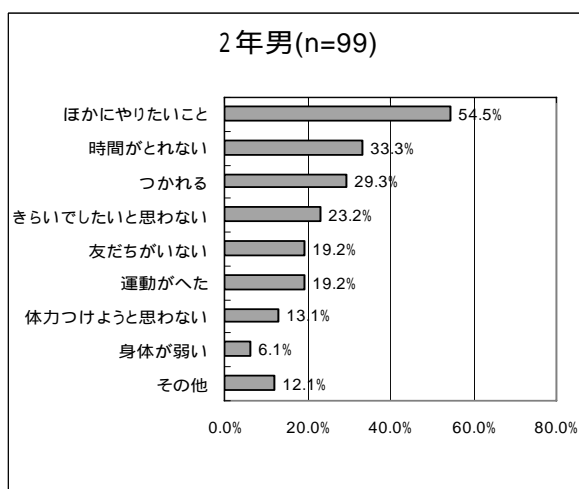


図2 - 111 休み時間や放課後に運動をしない理由（2年生男子）

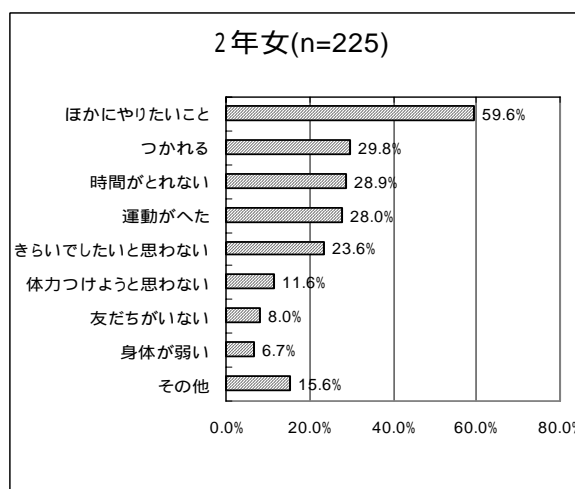


図2 - 112 休み時間や放課後に運動をしない理由（2年生女子）

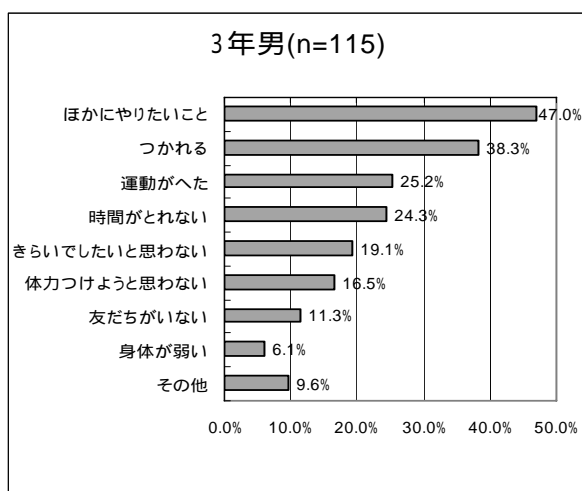


図2 - 113 休み時間や放課後に運動をしない理由（3年生男子）

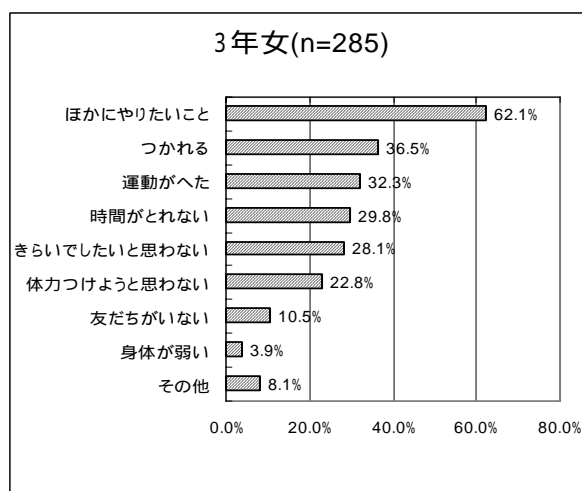


図2 - 114 休み時間や放課後に運動をしない理由（3年生女子）

なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのかたずねたところ、各学年男女ともに「ほかにやりたいことがあるから」が最高位となった。

2番は、男子の1・3年生と女子の2・3年生が「運動をすると疲れるから（以下疲れるからという。）」で、男子の2年生と女子の1年生が「勉強や次の準備で時間がとれないから（以下時間が取れないという。）」であった。

3番は、男子の1年生と女子の2・3年生が「時間が取れない」で、男子の2年生が「疲れるから」で、男子の3年生と女子の1年生が「運動がへたで、うまくできないから」であった。

コラム19

「休み時間や放課後に運動をしない理由」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

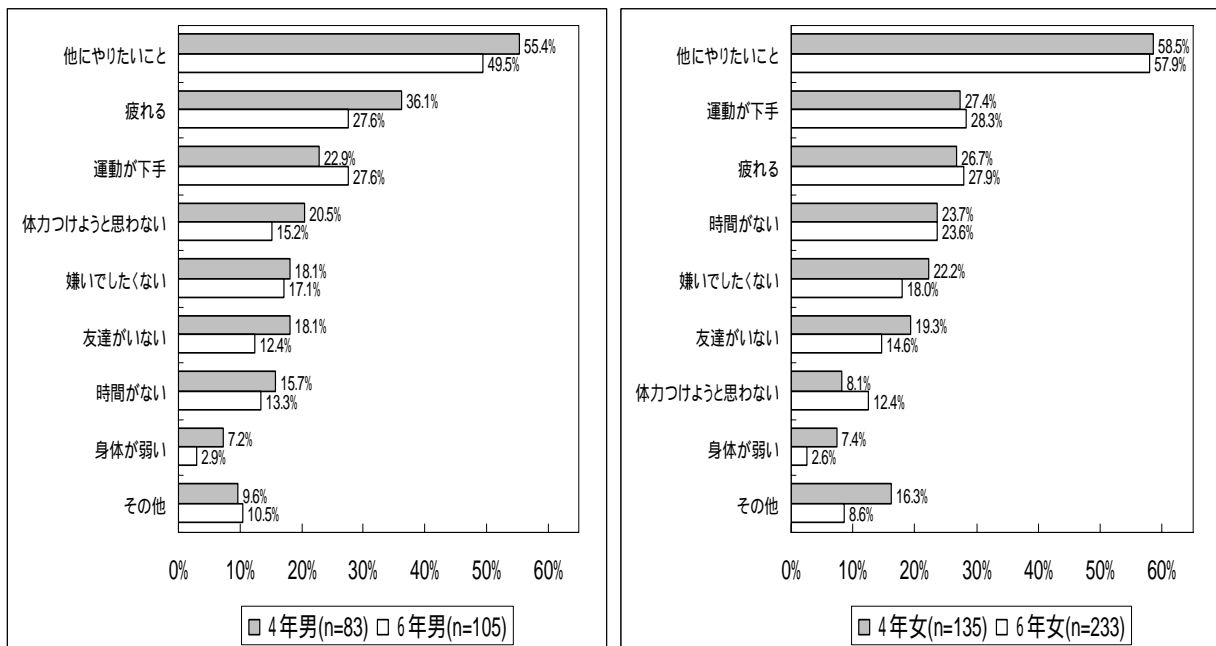


図 (24) 「休み時間や放課後に運動をしない理由」小学生の意識(平成17年度調査)

各年代男女別の休み時間や放課後に運動をしない理由の上位3つの項目は次のようになる。

(上段が上位)

小学4年生男子	他にやりたいこと 疲れる 運動が下手	小学4年生女子	他にやりたいこと 運動が下手 疲れる
小学6年生男子	他にやりたいこと 疲れる 運動が下手	小学6年生女子	他にやりたいこと 運動が下手 疲れる
中学1年生男子	他にやりたいこと 疲れる 時間がとれない	中学1年生女子	他にやりたいこと 時間がとれない 運動下手
中学2年生男子	他にやりたいこと 時間がとれない 疲れる	中学2年生女子	他にやりたいこと 疲れる 時間がとれない
中学3年生男子	他にやりたいこと 疲れる 運動が下手	中学3年生女子	他にやりたいこと 疲れる 運動が下手

小学生・中学生を通じて男女ともに同じような傾向にあり、最高位は「他にやりたいこと」であり、つづいて「疲れる」「運動が下手」「時間がとれない」であった。

問20から問22の結果から以下のような結果が得られた

問20は、学校で休み時間や放課後に運動をしているかを聞いたものである。休み時間や放課後の過ごし方については、男女差が出た結果となった。特に中学3年の女子の運動実施率が低く、まったくしていない生徒も増加している。このことは文部科学省で実施している体力・運動能力調査結果で上体起こしなどの種目が女子は14歳でピークとなるということを裏付けているような結果であり、運動を実施していない生徒に対する働きかけが必要である。

問21は、なぜ学校で休み時間や放課後に運動をしているのかを聞いたものである。上位にあげられた回答は、「好きな運動ができる」や「好きで楽しい」、「友だち一緒に楽しい」であり、運動をする生徒を増やすには、自分の好きな運動を仲間と一緒に楽しむことができるような「時間」「空間」「仲間」の三つの間を増やすことが必要である。

問22は、なぜ学校で休み時間や放課後に運動をしていないのかを聞いたものである。「他にやりたいこと」や「時間がとれない」などの回答が上位にあることから、塾や習い事、テレビやテレビゲームの視聴時間の増加など、生徒を取り巻く環境の変化が放課後の運動実施率を低下させている原因となっていることがうかがえる。

「疲れる」という回答は、まさに最近の体力の低下傾向を象徴しているものであり、「運動は疲れる 運動しない 運動が下手・体力の低下 ますますは疲れる ますます運動しない ますます運動が下手・体力の低下・・・」というような、悪循環に陥らないように、運動に対する苦手意識のある生徒や、技能面で劣る生徒、また体力のない生徒に対して、ここに応じたきめの細かい指導を行い、運動習慣の定着を図るような取り組みが必要である。

エ 運動部活動に入っているか

【問23】 あなたは、学校の運動部活動に入っていますか？ どちらかを選んで、番号で教えてください。

- 1 入っている 2 入っていない

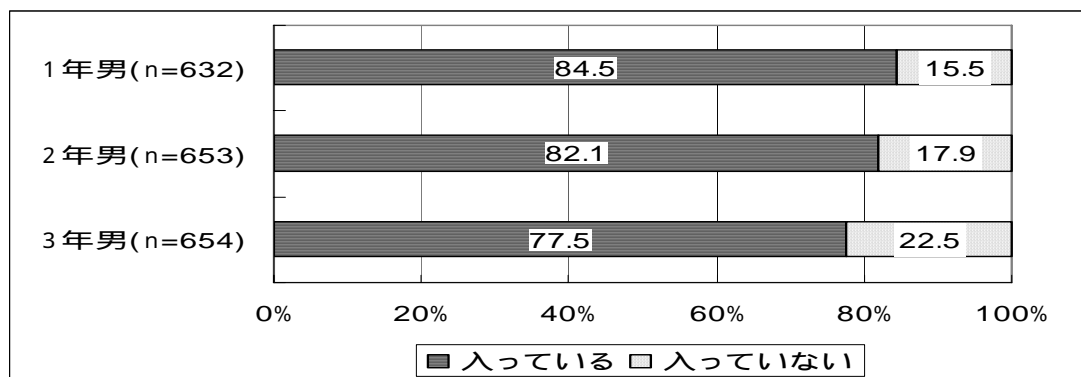


図 2 - 115 学校の運動部活動に入っているか (男子)

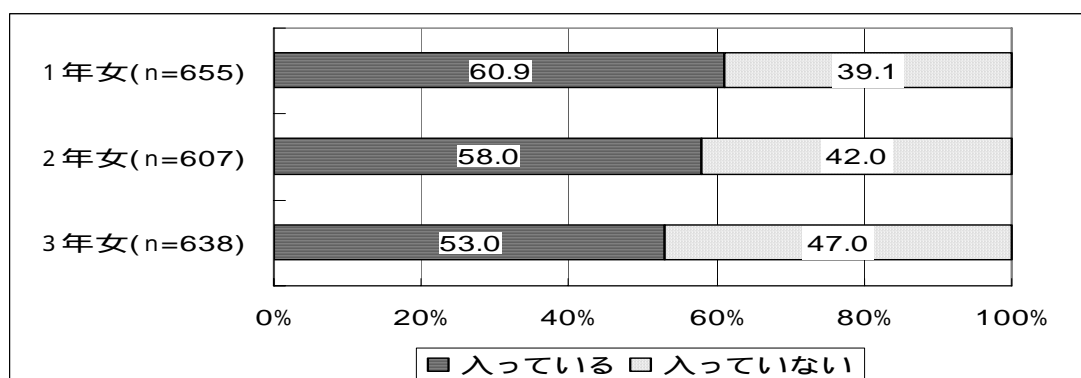


図 2 - 116 学校の運動部活動に入っているか (女子)

学校の運動部活動に入っているかたずねたところ、男子は、1年生84.5%、2年生82.1%、3年生77.5%で、女子は、1年生60.9%、2年生58.0%、3年生53.0%であり、男子のほうが女子よりも入部率が高いことがわかった。

「運動部活動の加入率」中学生の意識(平成7年度調査)との比較

中学生の意識(平成7年度調査)と比べてみると次のようになる。

表 - 3 部活動加入率

	男子			女子		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
平成7年度	86.0%	85.8%	69.0%	64.5%	54.3%	46.9%
平成18年度	84.5%	82.1%	77.5%	60.9%	58.0%	53.0%

前回調査と比べると今回調査のほうが、男子1・2年生、女子1年生の加入率はやや落ちるが、定着率が高いことがわかった。

オ スポーツクラブに入っているか

【問24】 あなたは、学校外のスポーツクラブ(スクール、道場などを含む)に入っていますか？ どちらかを選んで、番号で教えてください。

- 1 入っている 2 入っていない

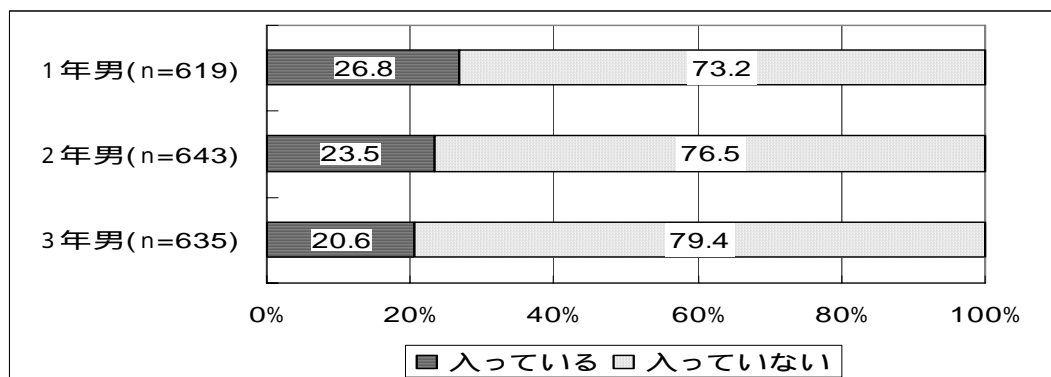


図2 - 117 学校外のスポーツクラブに入っているか (男子)

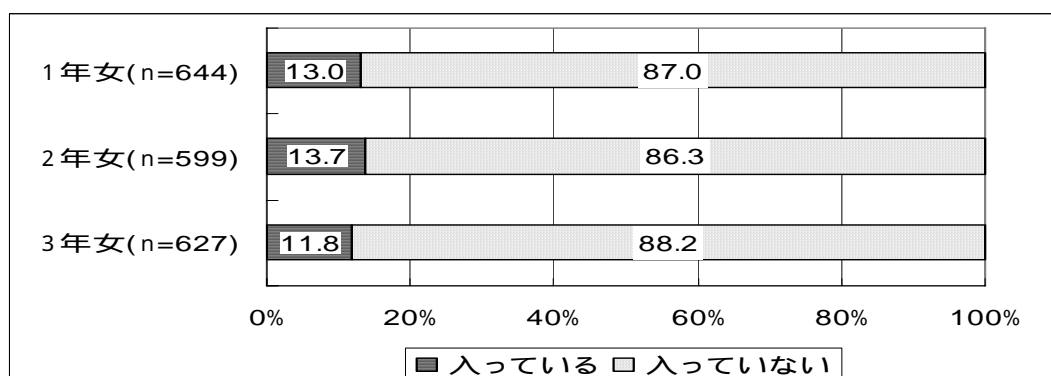


図2 - 118 学校外のスポーツクラブに入っているか (女子)

学校外のスポーツクラブ等に入っているかたずねたところ、男子は、1年生26.8%、2年生23.5%、3年生20.6%で、女子は、1年生13.0%、2年生13.7%、3年生11.8%であり、男子のほうが、女子よりもスポーツクラブ等への加入率が高いことがわかった。

コラム21

「学校外のスポーツクラブに入っているか」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

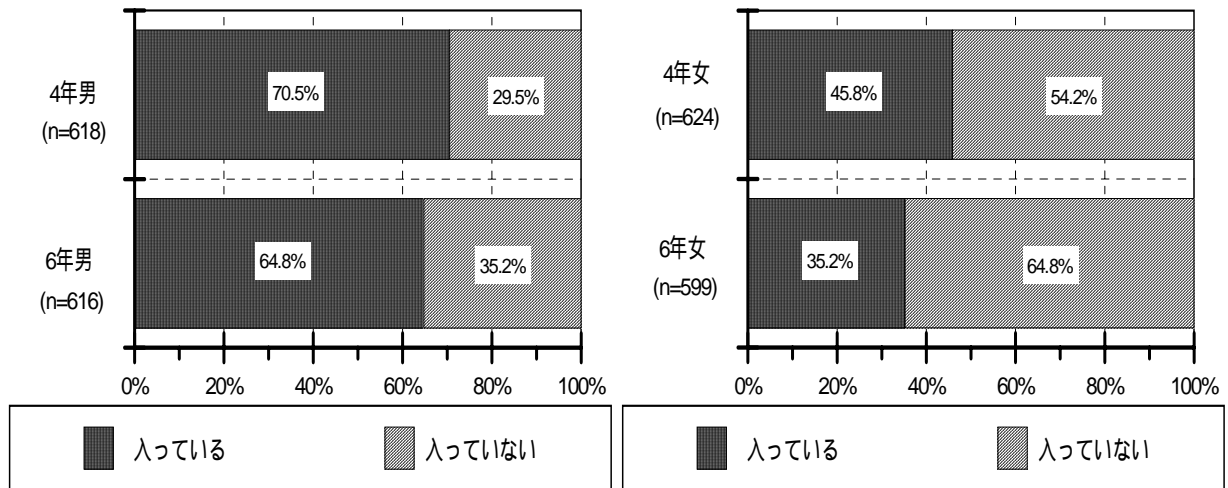


図 (25) 「学校外のスポーツクラブに入っているか」小学生の意識 (平成17年度調査)

スポーツクラブ加入率の推移は次のようになる。

男子	小学4年生	70.5%	女子	小学4年生	45.8%
	小学6年生	64.8%		小学6年生	35.2%
	中学1年生	26.8%		中学1年生	13.0%
	中学2年生	23.5%		中学2年生	13.7%
	中学3年生	20.6%		中学3年生	11.8%

スポーツクラブの加入率は小学生が高いが、中学生になると減少する。これは運動部活動への加入のためと思われる。

小・中学校を通じて、男子のほうが女子よりも運動に対する興味・関心が高いことがわかる。

カ 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか

【問25】 【問23】と【問24】の両方とも「2 入っていない」と答えた人にお聞きします。あなたは、放課後や帰宅後、また、休みの日に運動やスポーツをしていますか？ 下から1つ選んで番号で教えてください。

- 1 いつもしている
- 2 ときどきしている
- 3 あまりしていない
- 4 まったくしていない

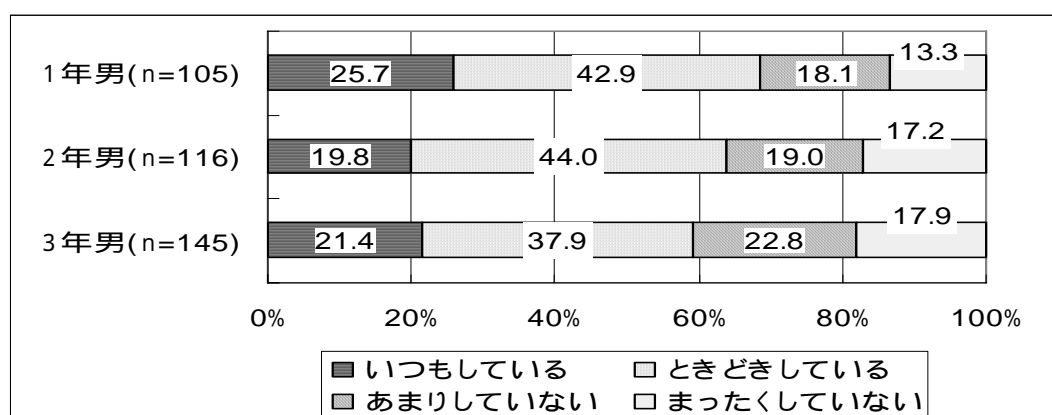


図2 - 119 放課後や休みの日に運動やスポーツをしているか (男子)
(運動部活動、スポーツクラブいずれにも入っていないと答えた生徒)

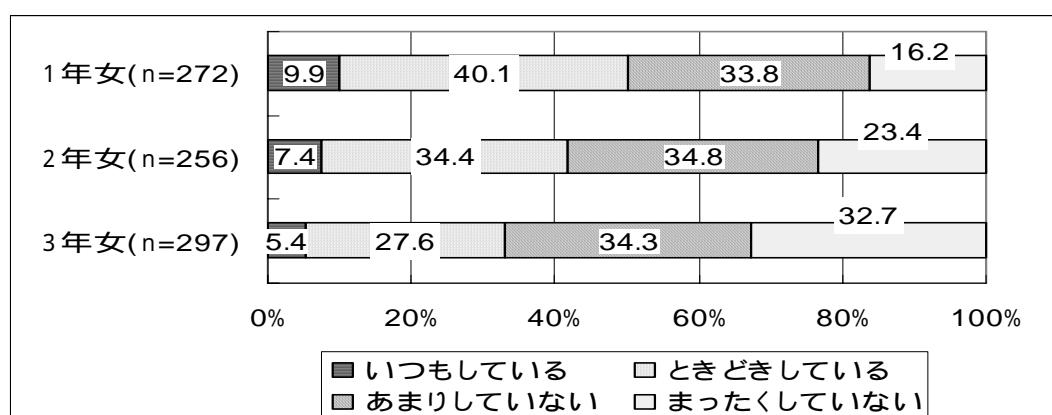


図2 - 120 放課後や休みの日に運動やスポーツをしているか (女子)
(運動部活動、スポーツクラブいずれにも入っていないと答えた生徒)

部活動・スポーツクラブに入っていないと答えた生徒に対して放課後や帰宅後、また、休みの日に運動やスポーツをしているかたずねたところ、「している群」は男子1年生68.6%、2年生63.8%、3年生59.3%で、女子は1年生50.0%、2年生41.8%、3年生33.0%と、男子は9.3ポイント、女子は17ポイント学年進行とともに減少している。

キ なぜ放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをするのか

【問26】 【問25】で「1いつもしている」または「2ときどきしている」と答えた人にお聞きします。あなたは、なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのですか？ 下から3つまで選んで番号で教えてください。

- 1 運動することが好きで、好きな運動ができるから
- 2 運動すると楽しく、気持ちがよいから
- 3 運動がもっとうまくなりたいから
- 4 もっと体力を高めたいから
- 5 友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから
- 6 運動するのに適した場所があるから
- 7 運動をする仲間や友だちがいるから
- 8 その他

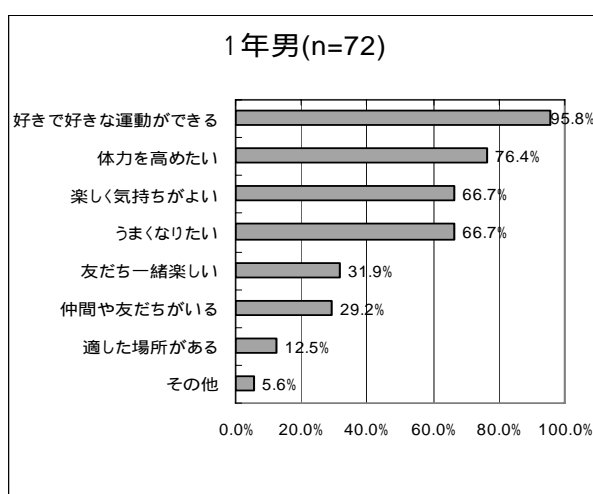


図2 - 121 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (1年生男子)

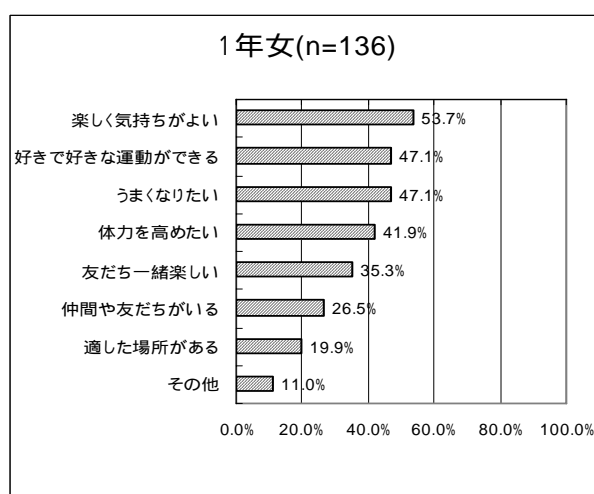


図2 - 122 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (1年生女子)

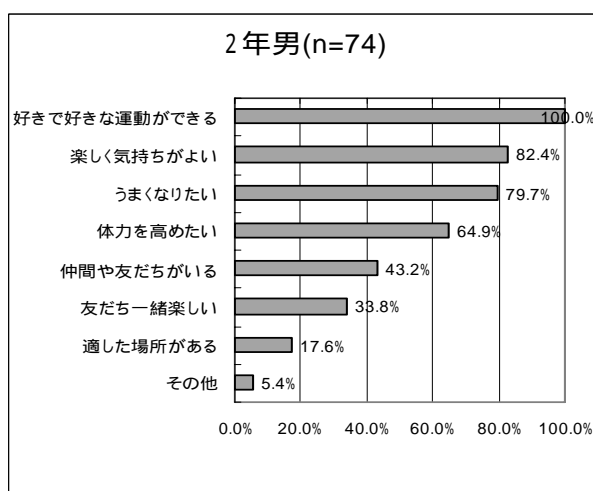


図2 - 123 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (2年生男子)

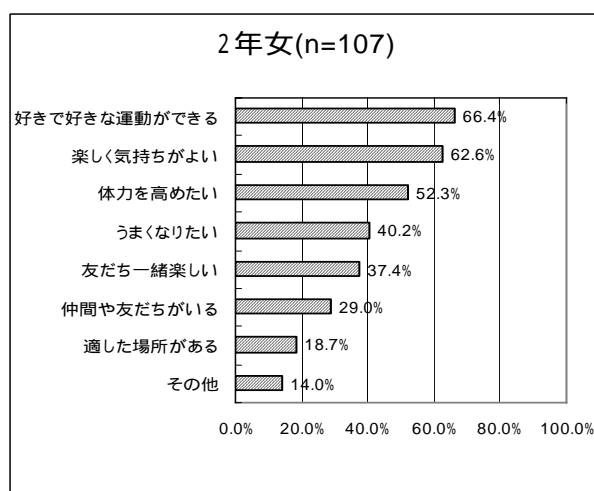


図2 - 124 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (2年生女子)

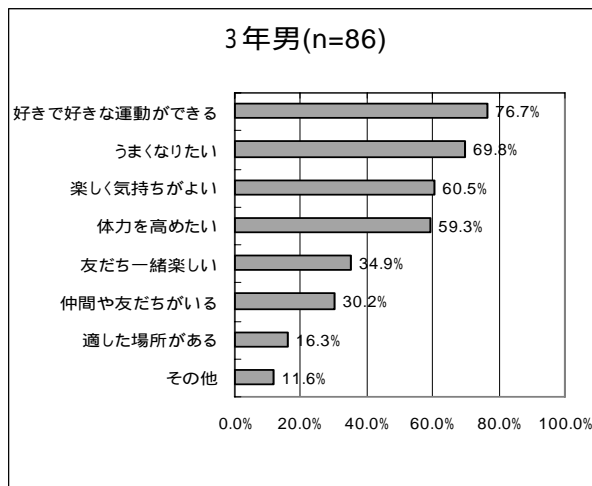


図 2 - 125 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (3年生男子)

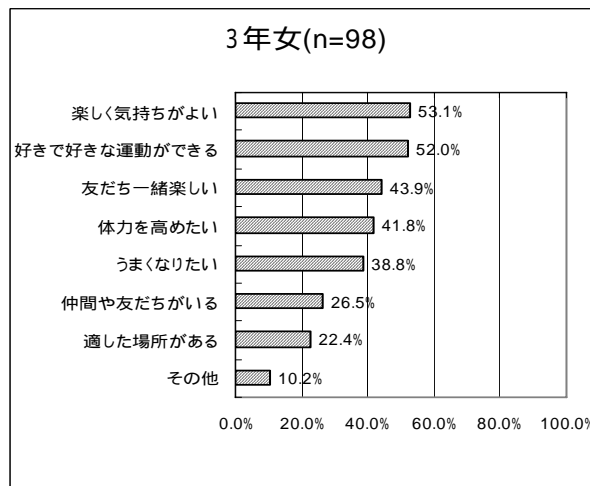


図 2 - 126 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (3年生女子)

なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのかたずねたところ、「運動することが好きで、好きな運動ができるから」(以下「好きで好きな運動ができる」という。)が男子の全学年と女子の2年生で最高位となった。女子の1・3年生の最高位は「運動すると楽しく、気持ちよいから」(以下「楽しく気持ちがいい」という。)であった。

2・3番は、1年生男子が「もっと体力を高めたい(以下「体力を高めたい」という。)」、「楽しく気持ちがいい」、2年生男子が「楽しく気持ちよい」「運動がもっとうまくなりたい(以下「うまくなりたい」という。)」、3年生男子が「うまくなりたい」「楽しく気持ちがいい」で、1年生女子は「好きで好きな運動ができる」「うまくなりたい」、2年生女子は、「楽しく気持ちがいい」「体力を高めたい」、3年生女子は、「好きで好きな運動ができる」「友だちと一緒にゲームや運動をすると楽しいから」であった。

ク なぜ放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしないのか

【問27】 【問25】で「3あまりしていない」または「4まったくしていない」と答えた人にお聞きします。あなたは、なぜ放課後や帰宅後運動をしていないのですか？ 下から3つまで選んで番号で教えてください。

- 1 運動がきらいで、したいと思わないから
- 2 運動をすると疲れるから
- 3 塾や勉強、習い事で時間がとれないから
- 4 いっしょ一緒に運動をしたり、遊んだりする友だちがいないから
- 5 うまくなろうとか体力をつけようとは思わないから
- 6 身体が弱い(病気がち)から
- 7 運動がにがて苦手で、うまくできないから
- 8 ほかにやりたいことがあるから
- 9 その他

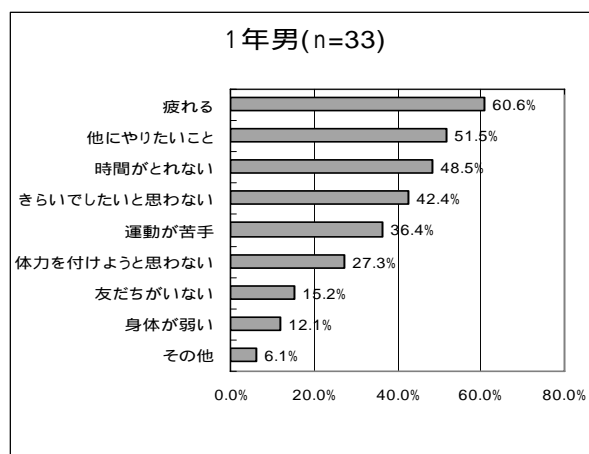


図2-127 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (1年生男子)

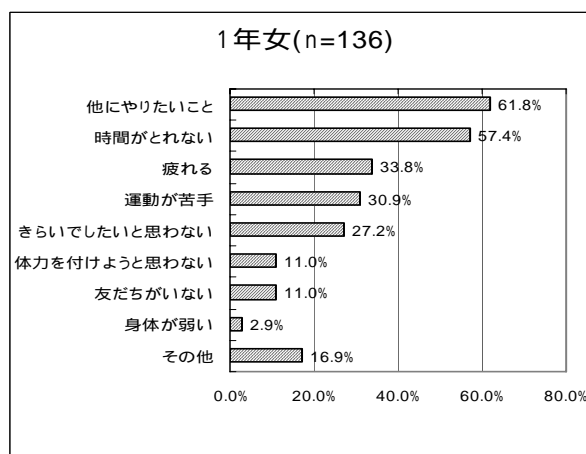


図2-128 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (1年生女子)

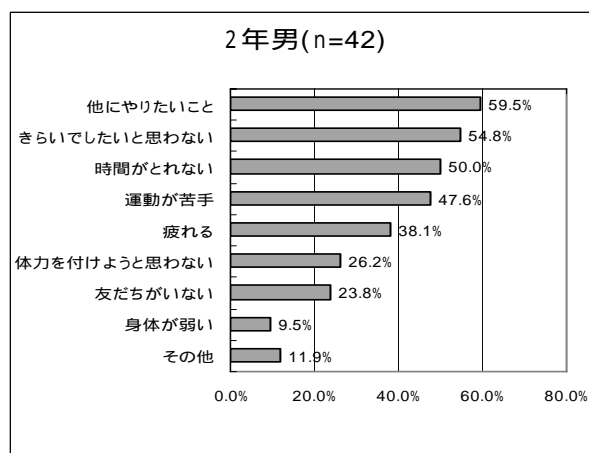


図2-129 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (2年生男子)

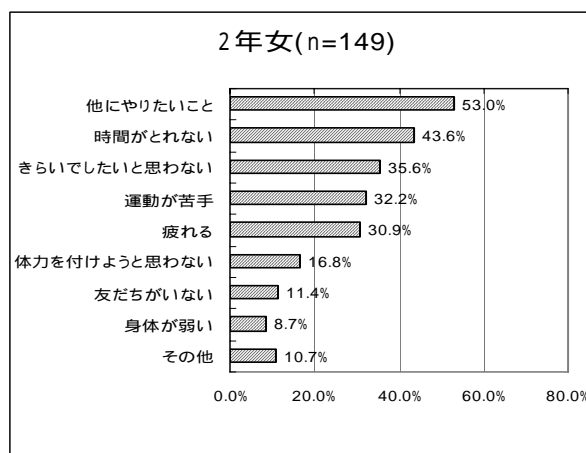


図2-130 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (2年生女子)

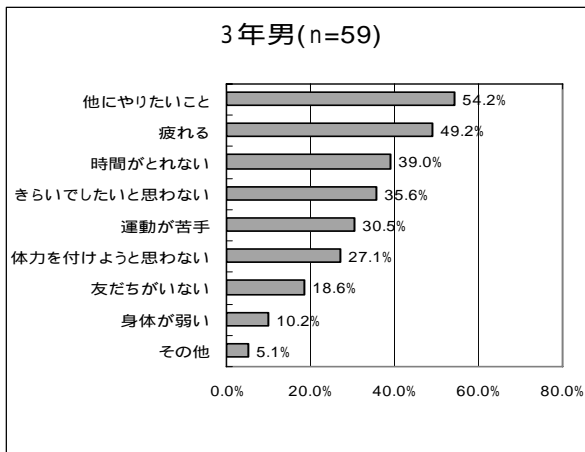


図 2 - 131 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (3年生男子)

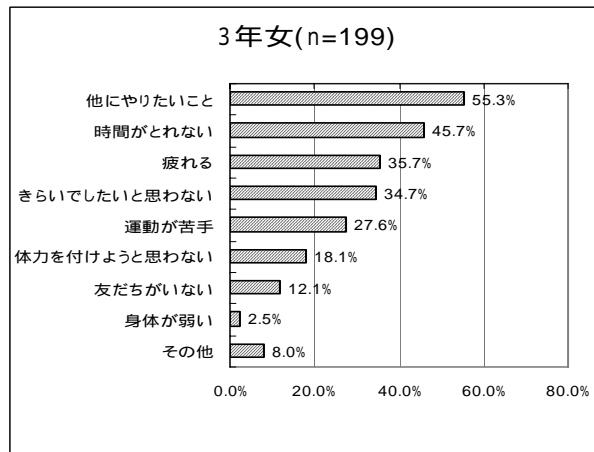


図 2 - 132 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか (3年生女子)

なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのかたずねたところ最高位は、1年生男子を除くすべての学年で「他にやりたいことがあるから」(以下「他にやりたいこと」という。)で、1年生男子は「運動すると疲れるから」(以下「疲れる」という。)であった。

2番以降は、「塾や勉強、習い事で時間がとれないから」「運動がきれいでほしいと思わないから」「時間がとれない」などがつづいている。

(4) 好きな(行いたい・続けたい)運動やスポーツについて

ア 好きな、または行いたい運動やスポーツについて

【問28】 あなたが特に好きな、または行いたい(続けたい)運動やスポーツを下から3つ選んで番号で答えてください。

1 短距離走	2 長距離走	3 跳躍	4 器械運動	5 自転車
6 ヨット	7 登山	8 水泳	9 テニス	10 バスケットボール
11 サッカー	12 バレーボール	13 ラグビー	14 野球	15 ハンドボール
16 ソフトボール	17 レスリング	18 ゲートボール	19 フォークダンス	20 ジャズダンス
21 剣道	22 柔道	23 相撲	24 卓球	25 バドミントン
26 スキー	27 スケート	28 ホクシング	29 ホッケー	30 アメリカンフットボール
31 ゴルフ	32 空手	33 体操	34 新体操	35 サーフィン
36 スノーボード	37 合気道	38 スケートボード	39 ウェイトリフティング	40 バレエ
41 その他()				

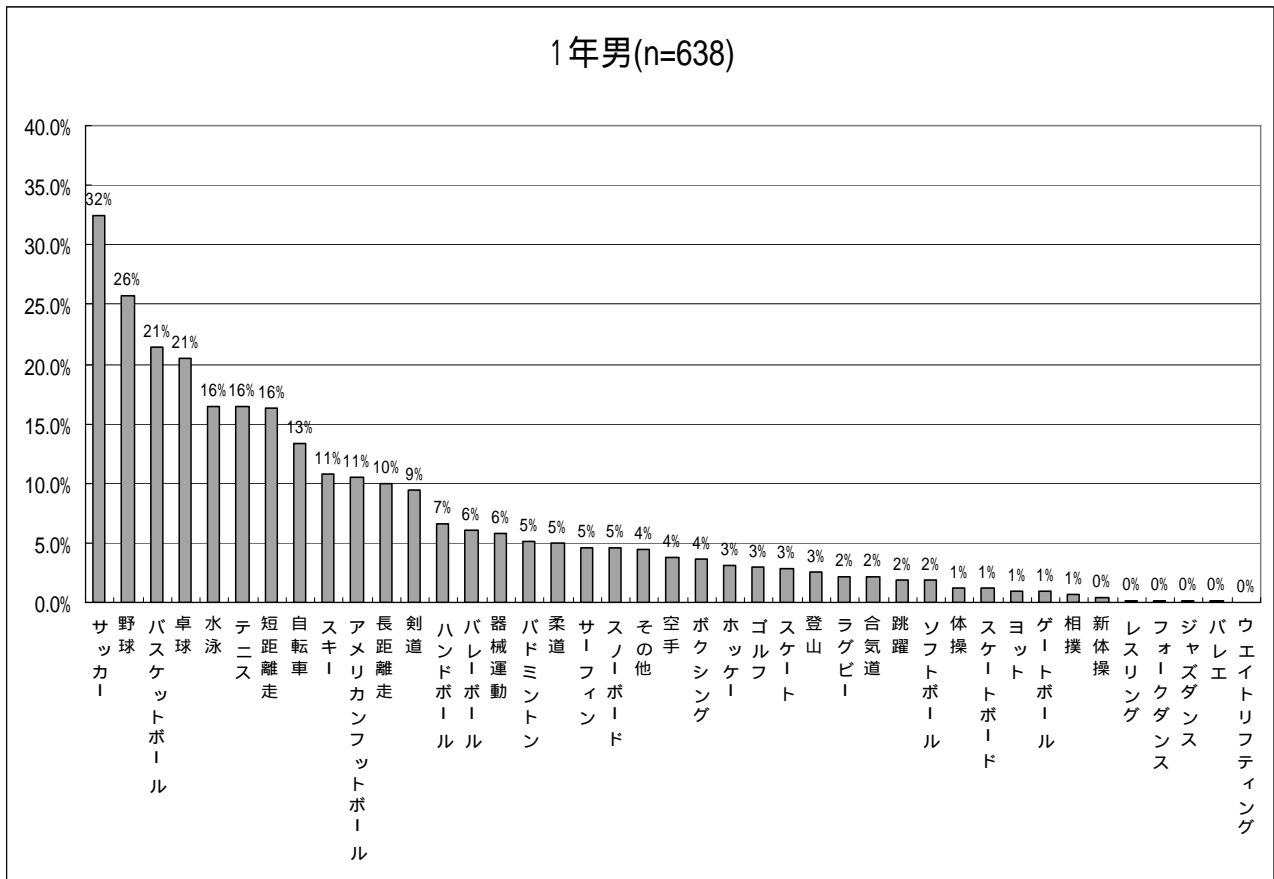


図2 - 133 好きな、または行いたい運動やスポーツ(1年男子)

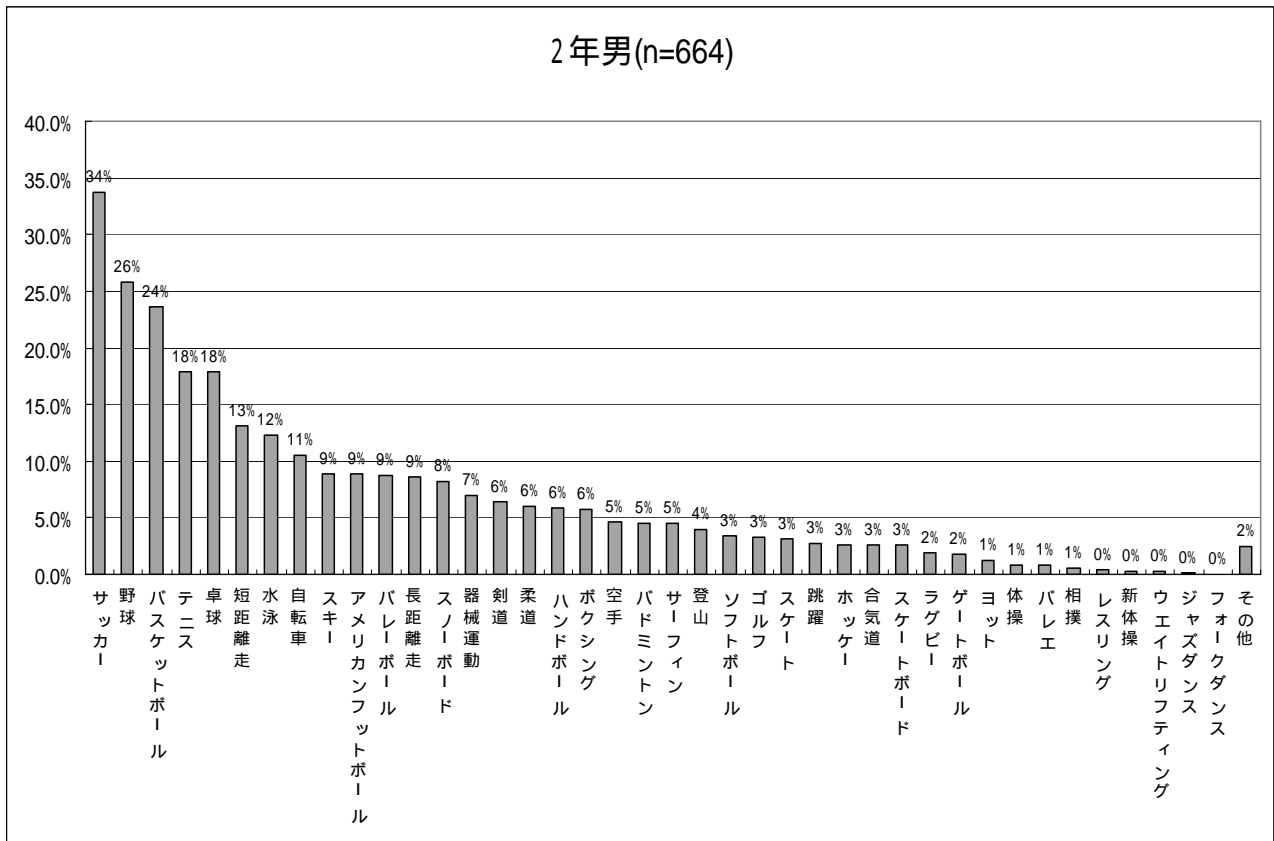


図 2 - 134 好きな、または行いたい運動やスポーツ (2年男子)

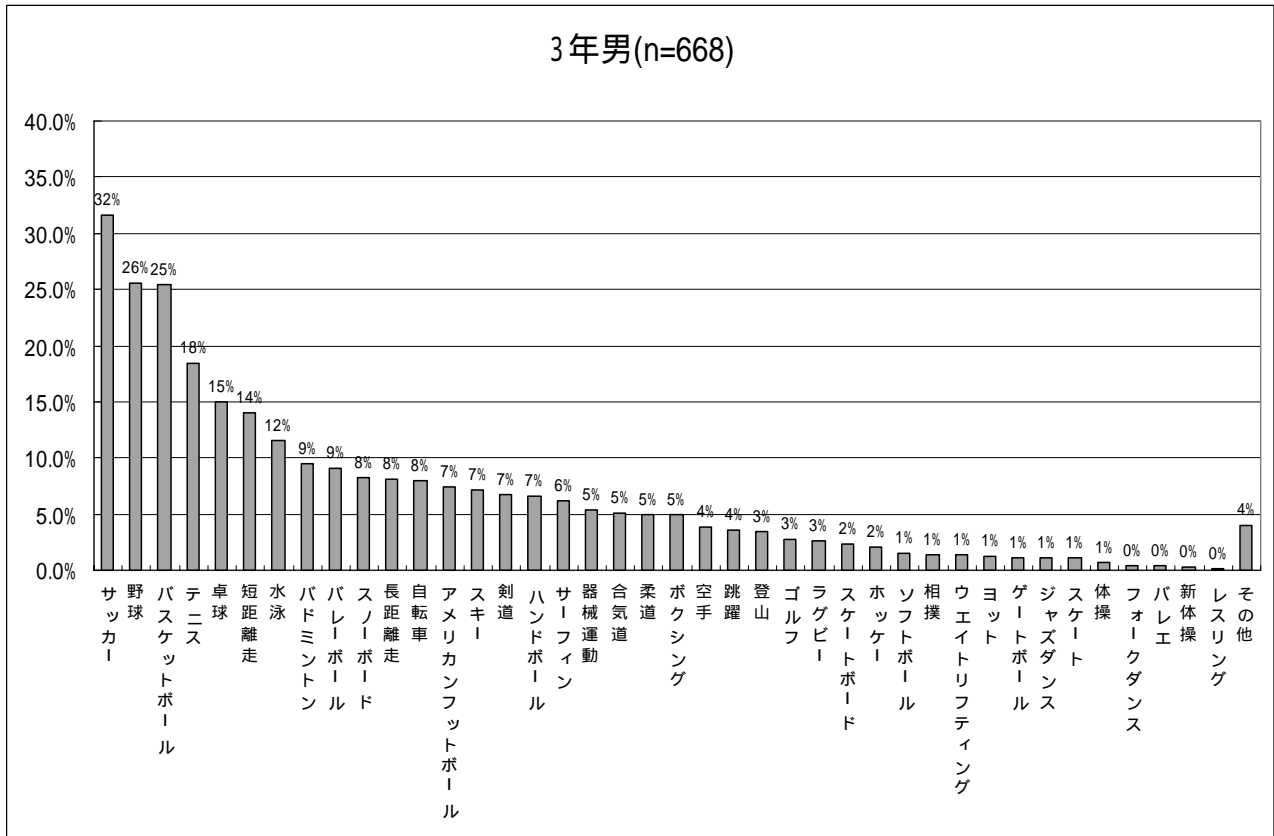


図 2 - 135 好きな、または行いたい運動やスポーツ (3年男子)

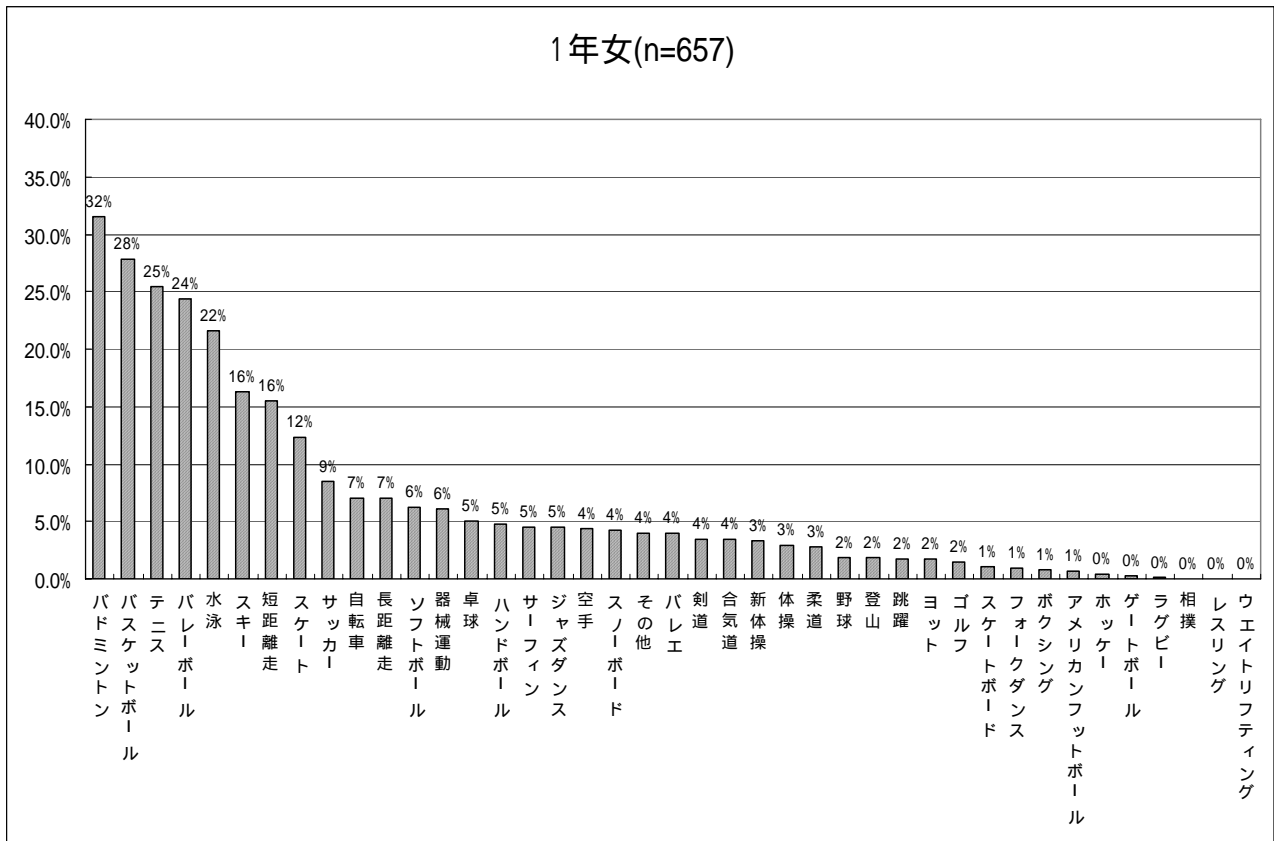


図 2 - 136 好きな、または行いたい運動やスポーツ (1年女子)

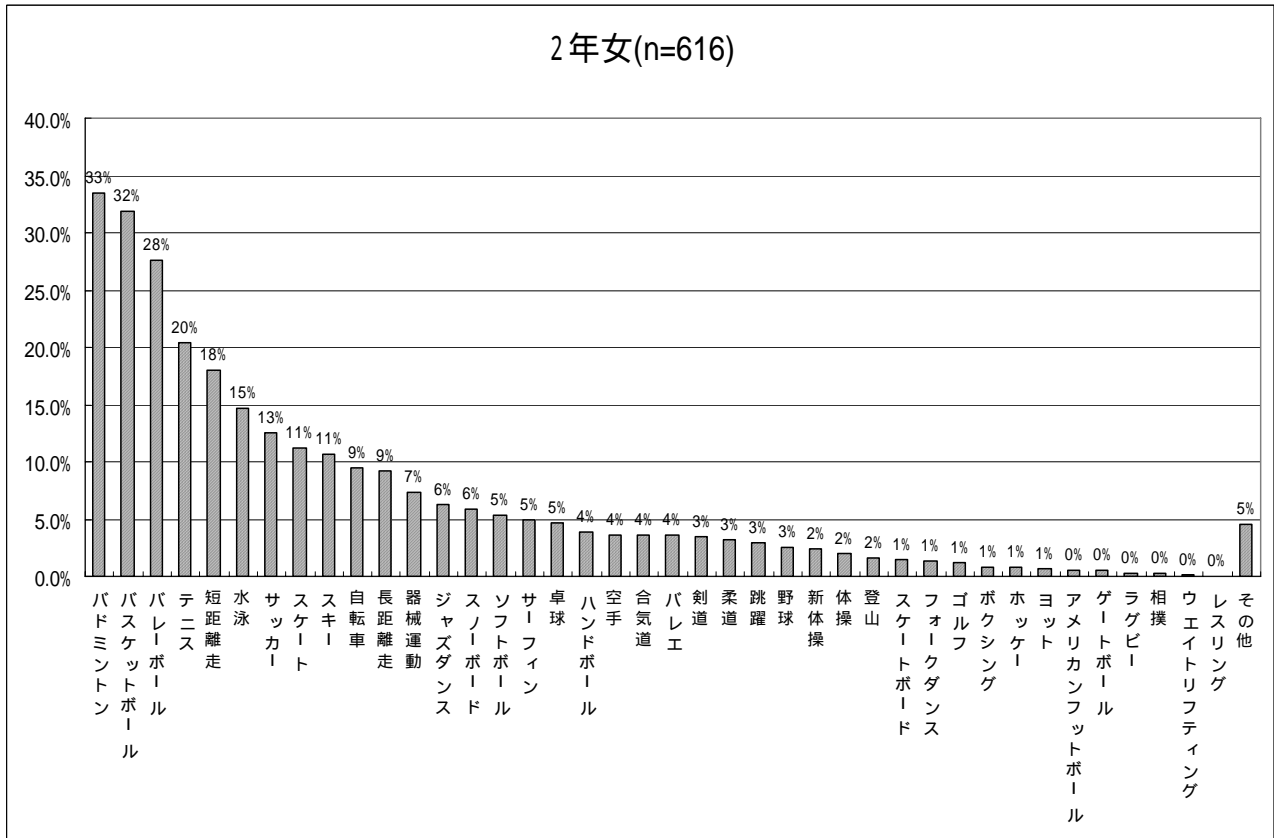


図 2 - 137 好きな、または行いたい運動やスポーツ (2年女子)

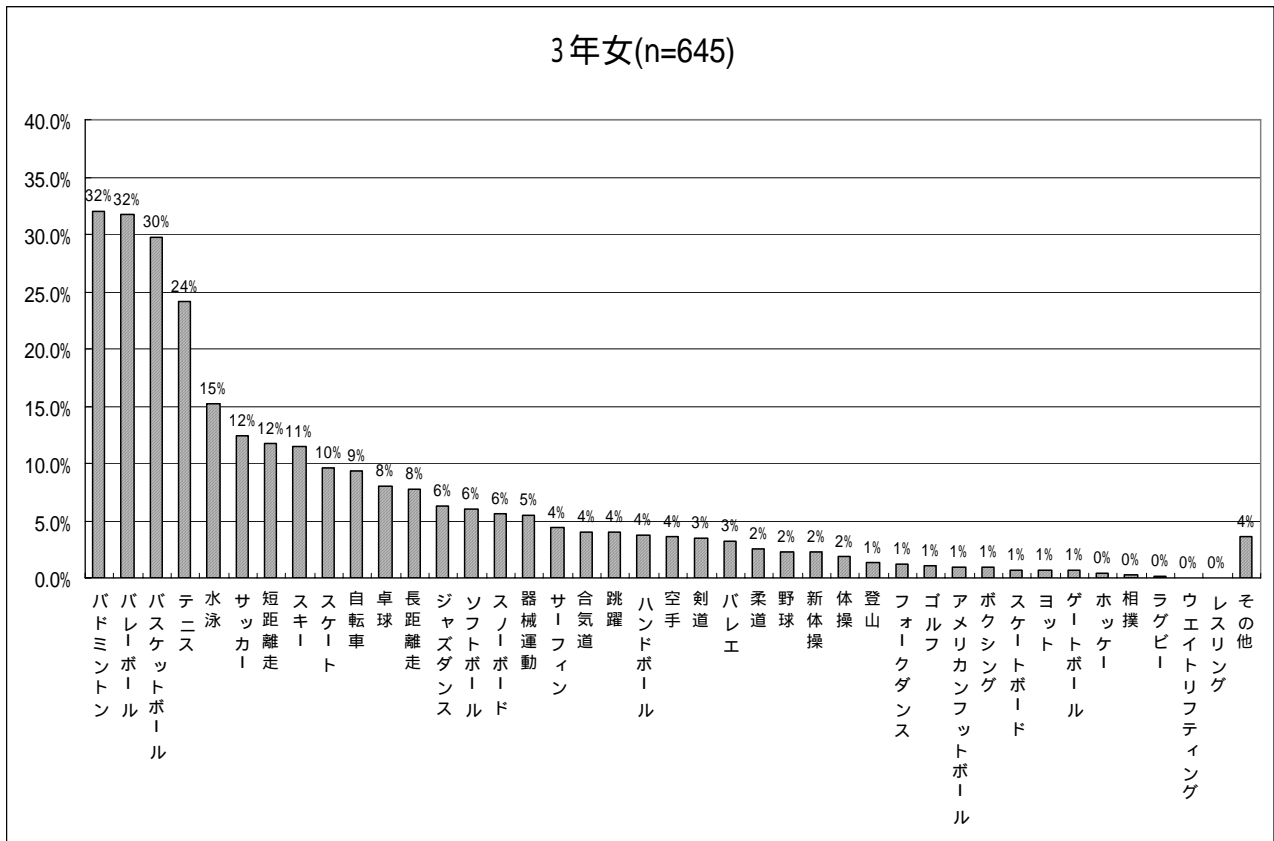


図 2 - 138 好きな、または行いたい運動やスポーツ (3年女子)

好きな、または行いたい運動やスポーツについてたずねたところ、男子は各学年「サッカー」「野球」「バスケットボール(以下「バスケ」という。)」の順で、女子は各学年最高位が「バドミントン」、2番は1・2年生が「バスケ」、3年生が「バレーボール(以下「バレー」という。)」で、3番は1年生が「テニス」、2年生が「バレー」、3年生が「バスケ」となった。

問23から問28の結果から以下のような結果が得られた

問25は、運動部活動やスポーツクラブに入っていない生徒の中で、放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているかについて聞いたものである。

「いつもしている」「ときどきしている」と答えた生徒は、部活やスポーツクラブに加入していなくても、運動を実践しており、「生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質」がある生徒といえる。

問25で、「まったくしてない」と答えた生徒の中で、学校でも休み時間や放課後に運動を「まったくしていない」生徒の今回調査の総数に対する割合は、次のようになる。

男子	1年生	0.3%	女子	1年生	1.0%
	2年生	0.3%		2年生	1.2%
	3年生	0.4%		3年生	2.1%

学校の休み時間や放課後、また帰宅後や休日にもまったく運動をしていない生徒は、わずかであり、逆に言えばほとんどの中学生は、何らかの形で運動を行っているということが言える。

しかし、この生徒たちは、体育の授業でしか運動をしていないということであり、決して見過ごしてはいけないと考える。

問28は、好きな、または行ないたいスポーツについて聞いたものである。

男子はサッカー、女子はバドミントンを最高位にあげている。また、各学年男女ともに上位4位までを球技が占めている。

(5) 体育を指導してくれる理想の教師像について

ア 体育をどんな先生に教えてもらいたいのか、望む先生のタイプについて

【問29】 あなたは、体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいですか？ あなたが望む先生のタイプを下から3つ選んで番号で教えてください。

- 1 明るく活発できびきびした先生
- 2 ユーモアのあるやさしい先生
- 3 一人ひとりによく声をかけてくれる先生
- 4 よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生
- 5 生徒の意見を受け止め一緒に考えてくれる先生
- 6 一緒に運動してくれる先生
- 7 できない人、わからない人に最後まで教えてくれる先生
- 8 どんな運動でもできるスポーツ万能の先生
- 9 わけへだてなく教えてくれる先生
- 10 運動の方法などをわかりやすく説明してくれる先生
- 11 時間など約束を守ってくれる先生
- 12 楽しい工夫のある授業をしてくれる先生
- 13 熱心に授業に取り組んでくれる先生
- 14 できない人をけなしたり、怒ったりしない先生
- 15 その他

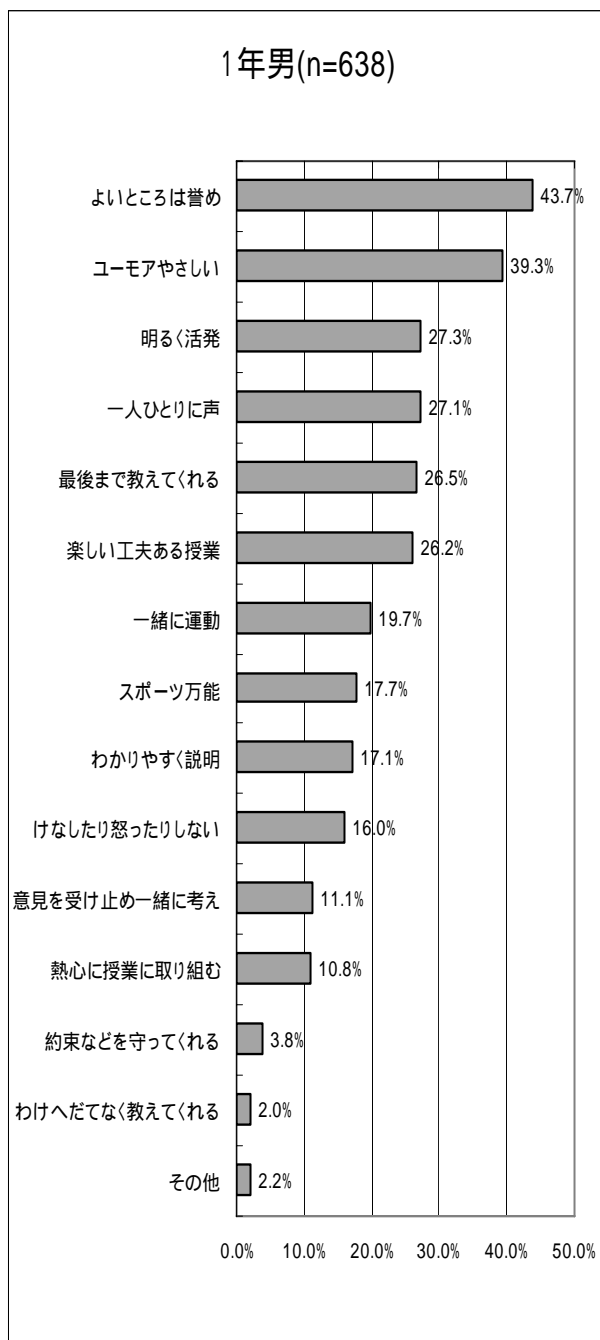


図 2 - 139 どんな先生に教えてもらいたいのか (1年男子)

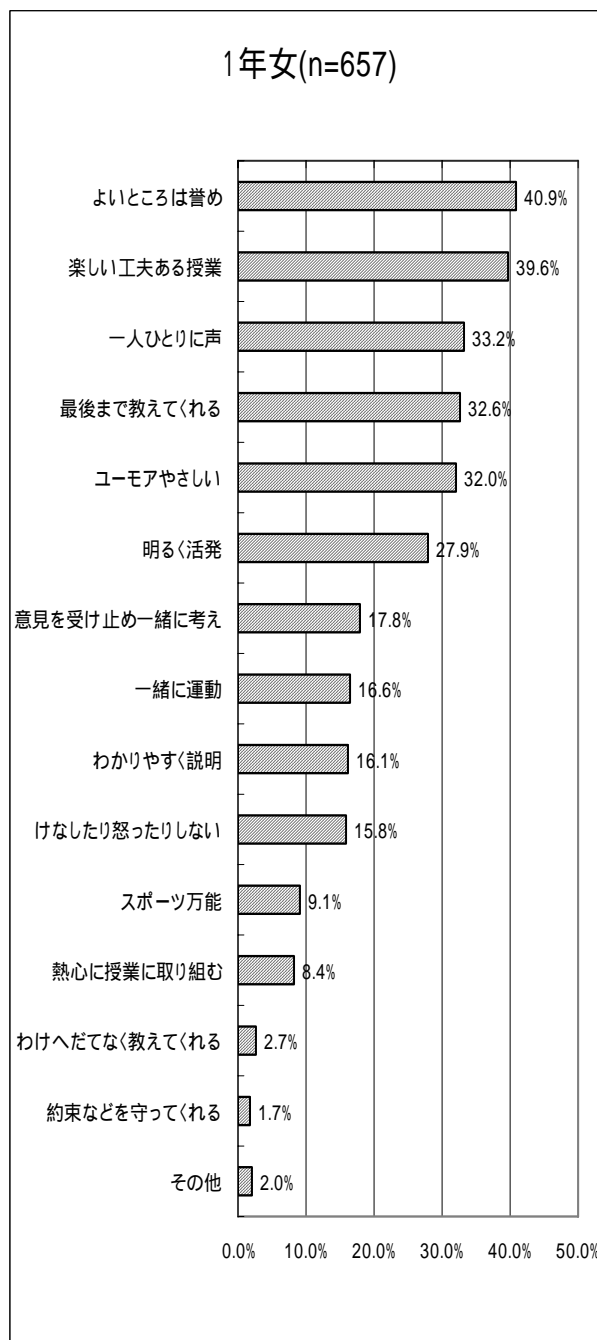


図 2 - 140 どんな先生に教えてもらいたいのか (1年女子)

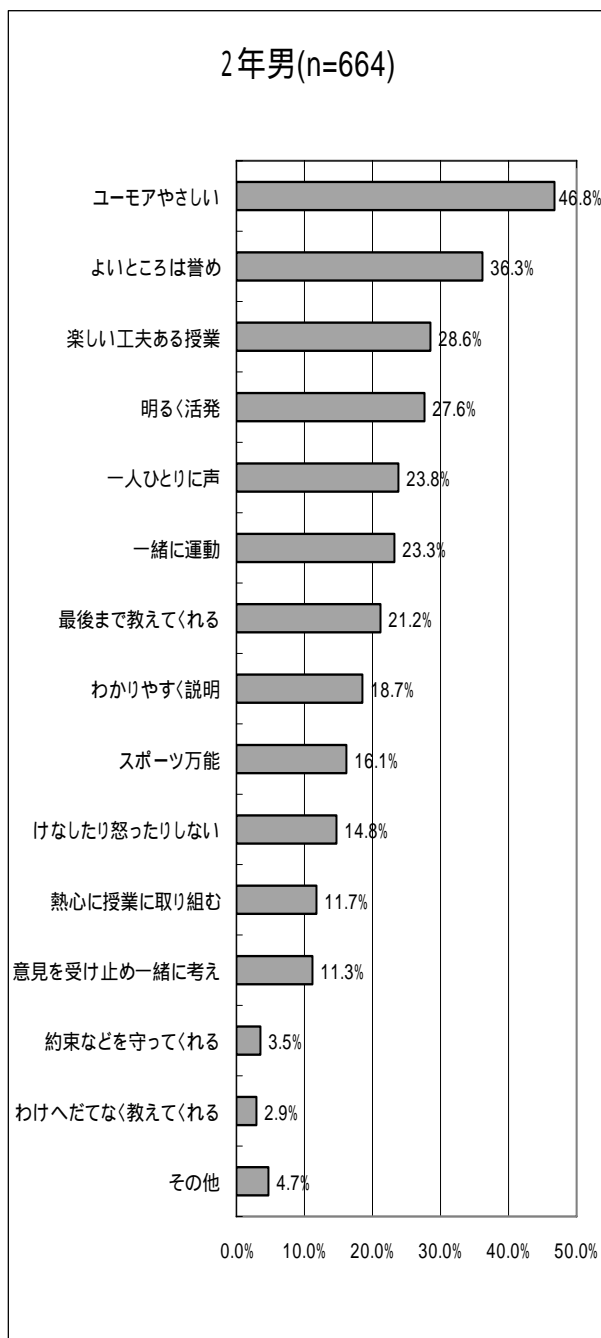


図 2 - 141 どんな先生に教えてもらいたいのか (2年男子)

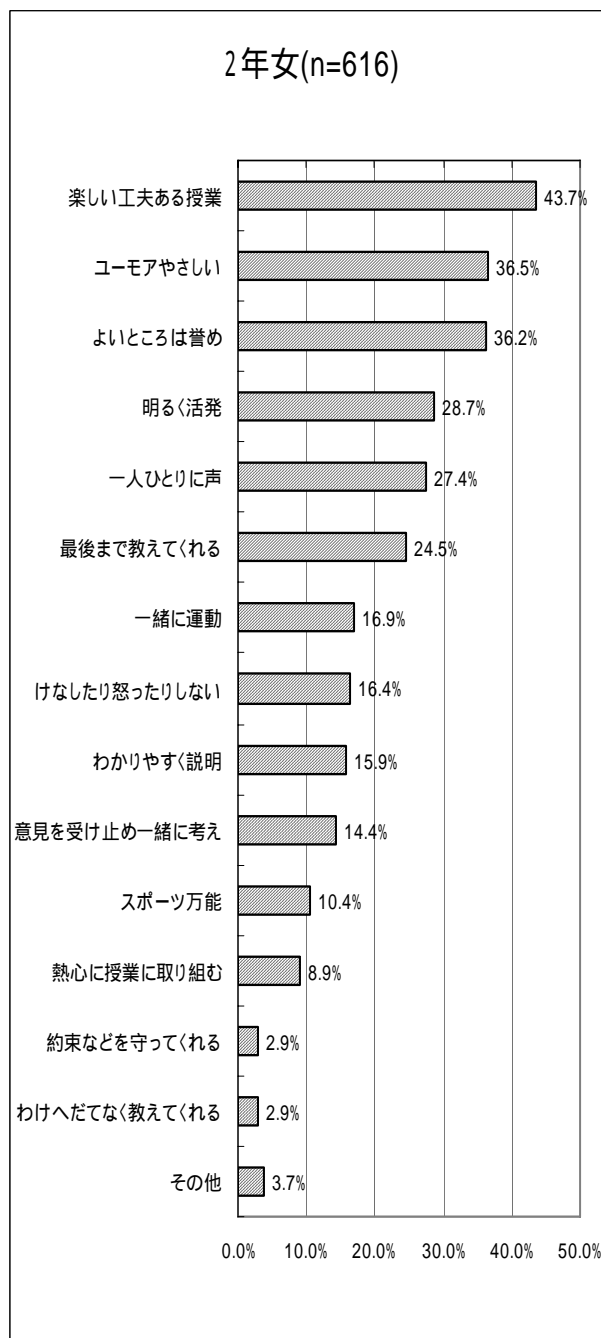


図 2 - 142 どんな先生に教えてもらいたいのか (2年女子)

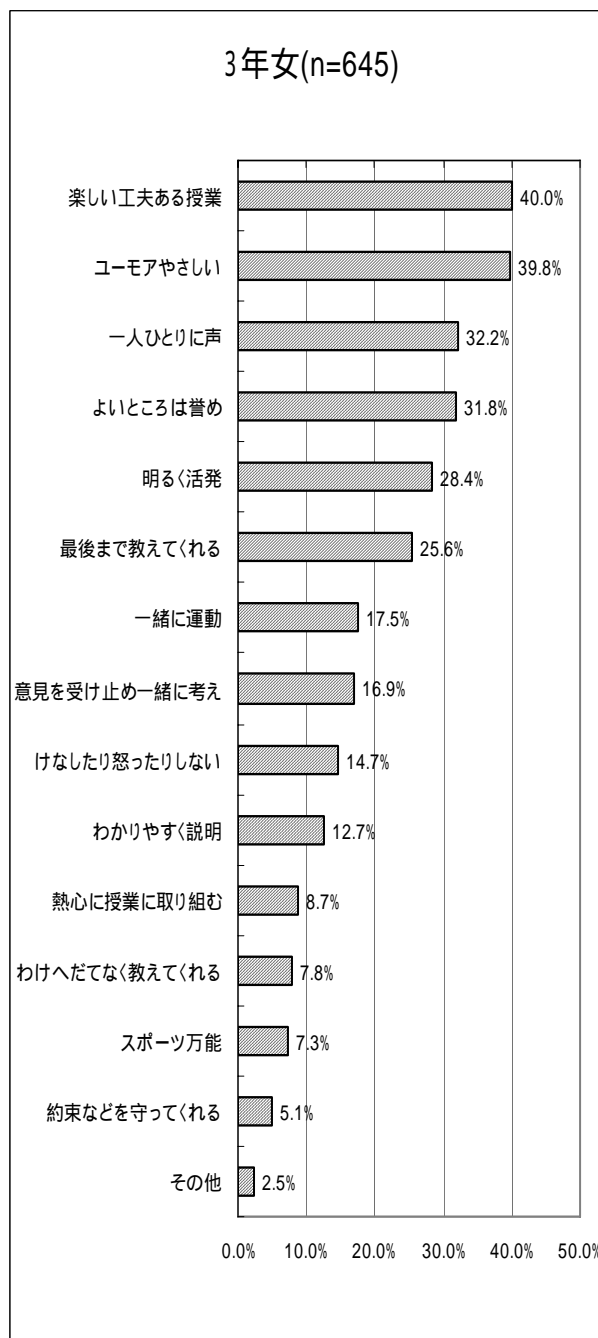
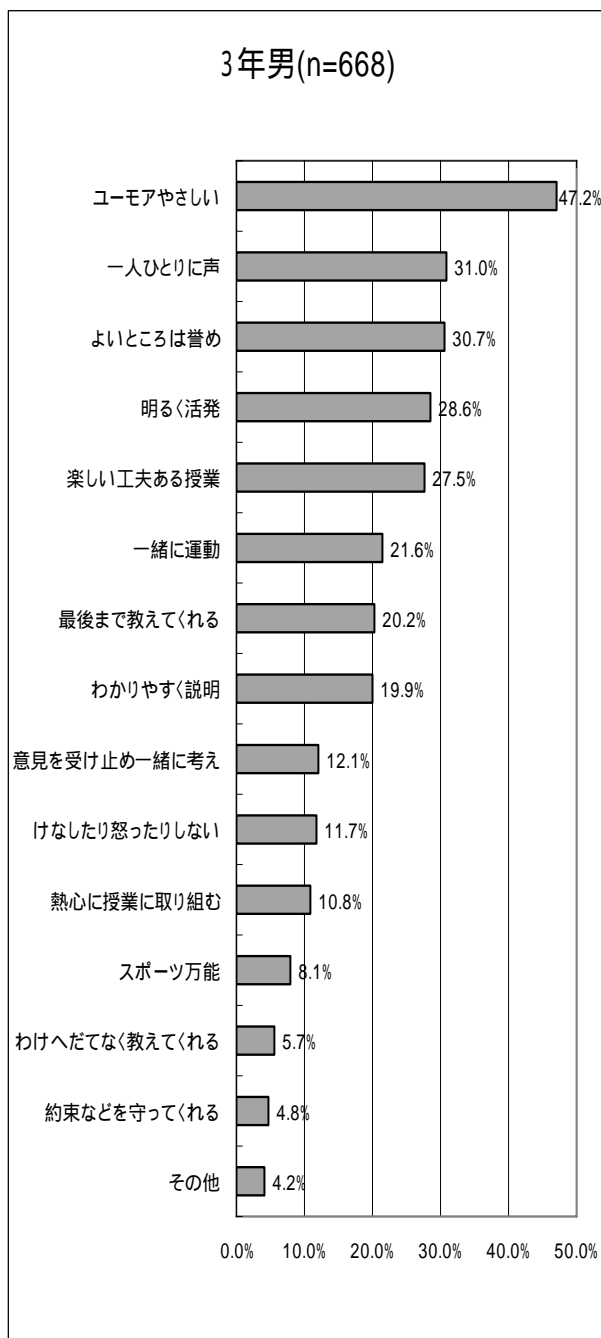


図 2 - 143 どんな先生に教えてもらいたいのか (3年男子)

図 2 - 144 どんな先生に教えてもらいたいのか (3年女子)

体育をどんな先生に教えてもらいたいのか、望む先生のタイプについてたずねたところ、最高位は、男女の1年生が「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」で、男子の2・3年生が「ユーモアのあるやさしい先生」で、女子の2・3年生が「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」であった。他には「一人ひとりによく声をかけてくれる先生」「明るく活発できびきびして先生」などが3番までに入っていた。

コラム22

「どんな先生に教えてもらいたいか」
小学生の意識(平成17年度調査)・中学生の意識(平成7年度調査)との比較

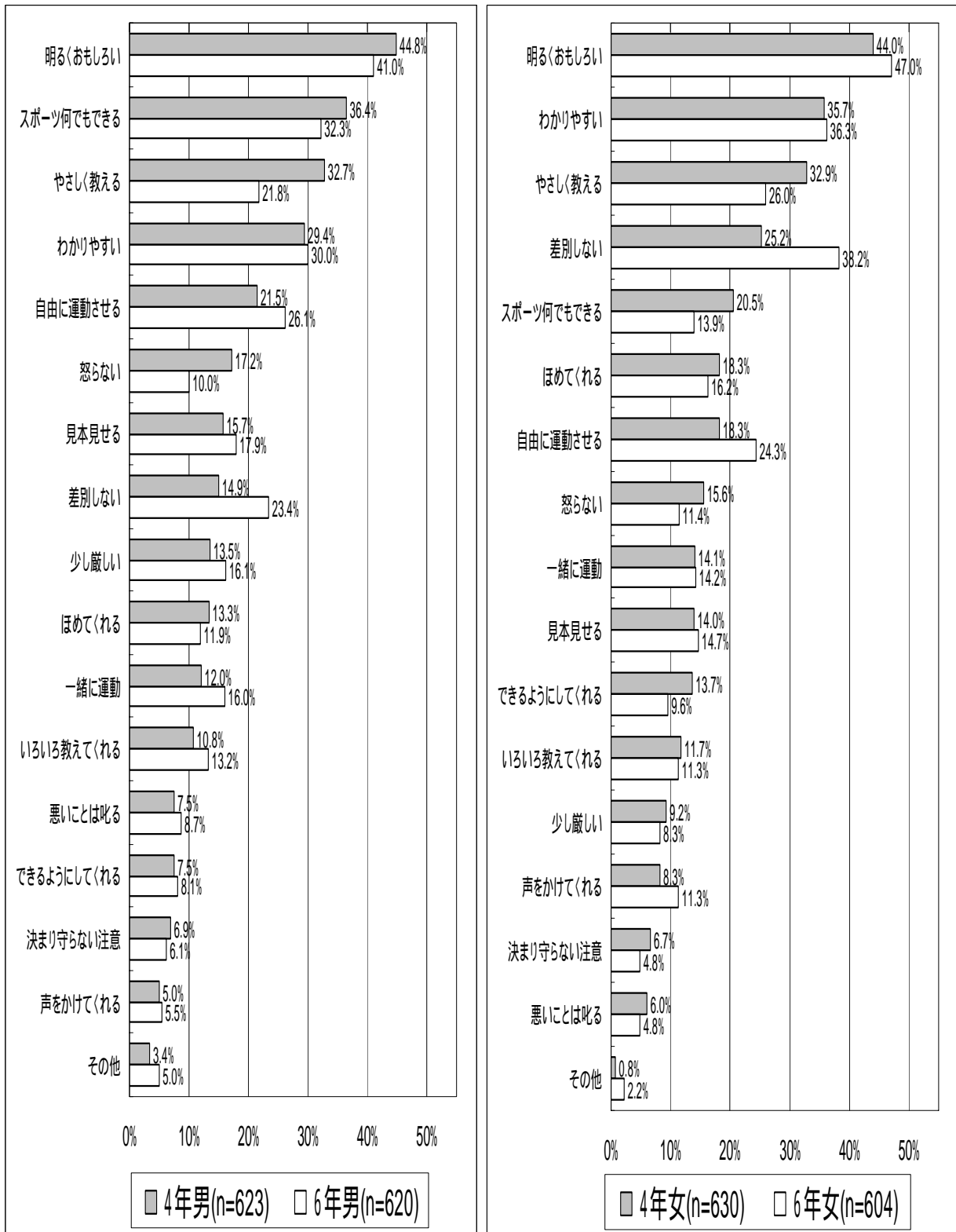
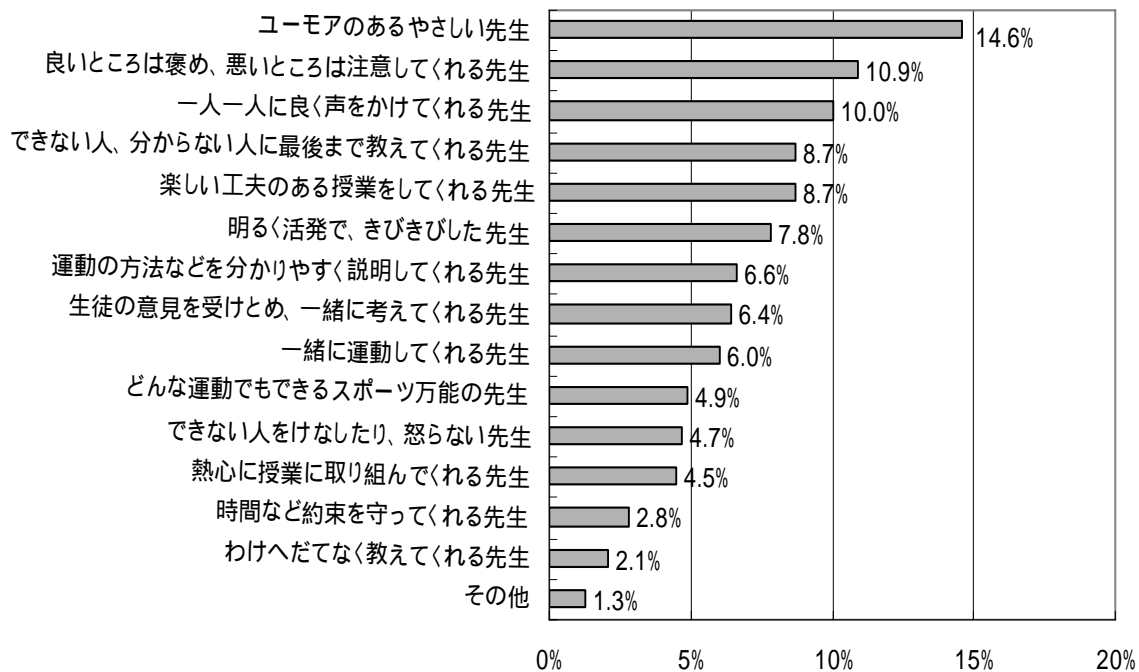


図 (26) 「どんな先生に教えてもらいたいか」小学生の意識(平成17年度調査)

教えてもらいたい先生(男子)



教えてもらいたい先生(女子)

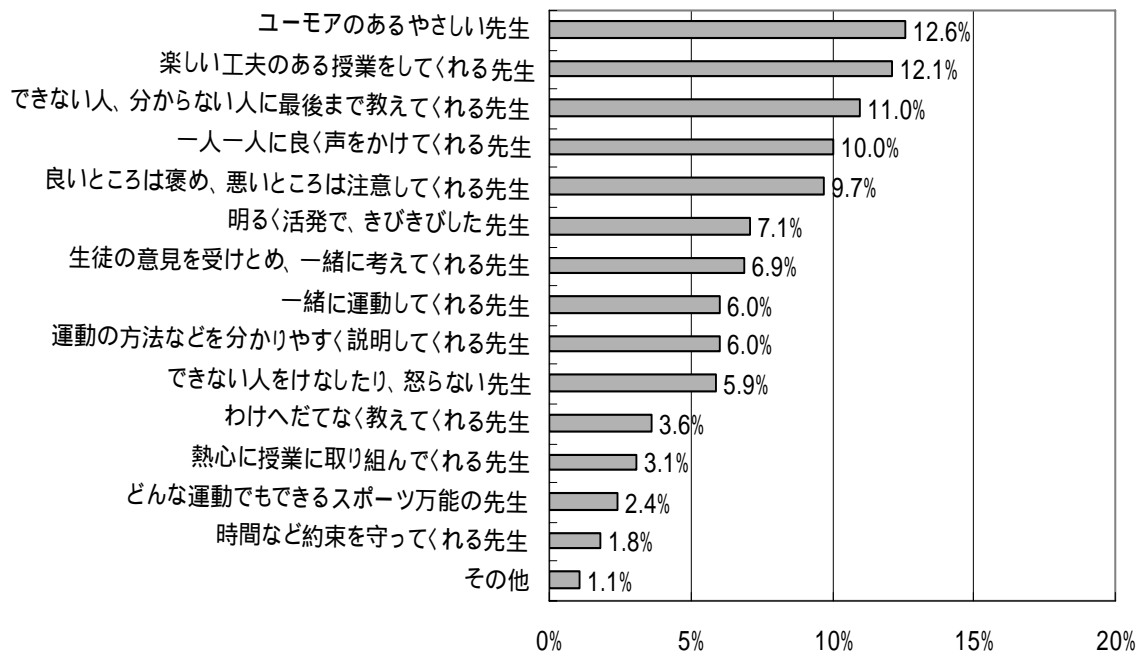


図 (27) 「どんな先生に教えてもらいたいのか」中学生の意識(平成7年度調査)

各年代男女別の理想の教師の1・2番は次のようになる。

(上段が1位)

H17	小学4年生男子	明るくて面白い スポーツ何でも	小学4年生女子	明るくて面白い わかりやすい
	小学6年生男子	明るくて面白い スポーツなんでも	小学6年生女子	明るくて面白い 差別しない
H7	中学生男子	ユーモアやさしい よいところ誉め	中学生女子	ユーモアやさしい 楽しい工夫
H18	中学1年生男子	よいところ誉め ユーモアやさしい	中学1年生女子	よいところ誉め 楽しい工夫
	中学2年生男子	ユーモアやさしい よいところ誉め	中学2年生女子	楽しい工夫 ユーモアやさしい
	中学3年生男子	ユーモアやさしい 一人ひとりに声	中学3年生女子	楽しい工夫 ユーモアやさしい

小・中学生各年代を通じて、最高位は明るくて面白い(ユーモアがある)やさしい先生をあげている。小学生男子の2位にあった「スポーツが何でもできる」は、中学生では上位にははいていなかった。かわって、「よいところは誉め」「楽しい工夫」「一人ひとりに声」などがあげられていることから、生徒一人ひとりの気持ちを大切に、個々に応じた授業展開を工夫していくことが必要だと思われる。

問29の質問から以下のような結果が得られた

問29は、体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいかについてきいたものである。「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」「ユーモアのあるやさしい先生」「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」が上位にあげられた。前回の中学生の意識（平成7年度）でも、「ユーモアのあるやさしい先生」「よいところは誉め悪いところは注意してくれる先生」「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」が上位に入っていた。

今回の調査から、生徒が考える理想の先生像は、生徒一人ひとりに目をむけ、個に応じたきめの細かい指導を行い、生徒の問題点だけを指摘するだけでなく、生徒のよい点をしっかりと評価し、仲間とともに楽しく活動できる場を提供できる先生ということになる。

3 「体育の学習の好き、きれい」と他の質問との連関について

「体育の学習が好きですか」と聞いた質問の回答を次の図 - 1 の3つの群に分け、その他の質問とクロス集計を行ない、結果をグラフに表すとともに、有意差の見られたものについて、特徴的な点を記述した。

なお、図の表示は〔体育の学習が『好き群』『どちらでもない群』『きれい群』〕を〔3群〕で表すことにする。

表 - 1 3群の内訳

3 群	内 容
す き 群	とても好き + どちらかという好き
どちらでもない	どちらでもない
き ら い 群	どちらかというきれい + とてもきれい

表 - 2 学年・男女別のクロス集計データ（男子）

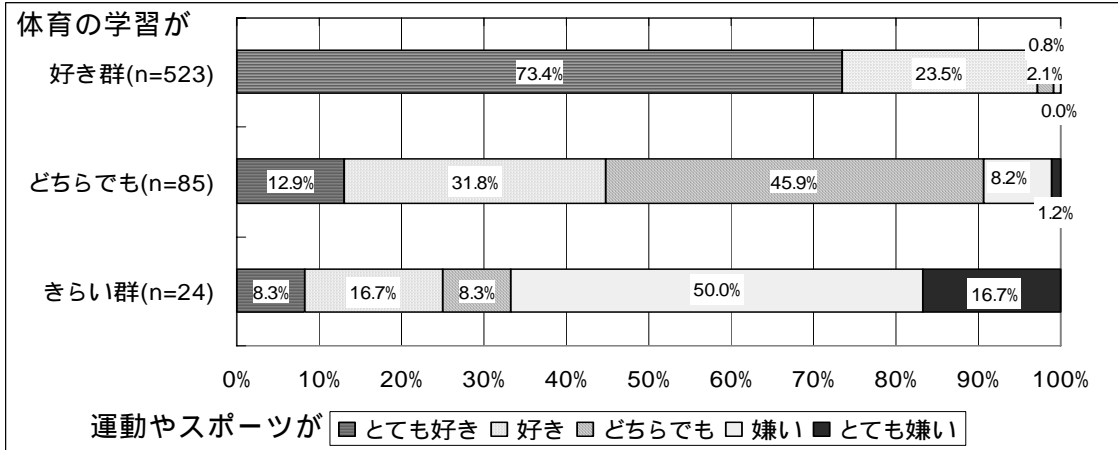
	人 数				比 率		
	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生
好き群	523	530	494	1,547	82.8%	80.4%	74.3%
どちらでもない	85	88	126	299	13.4%	13.4%	18.9%
きれい群	24	41	45	110	3.8%	6.2%	6.8%
計	632	659	665	1,956	100.0%	100.0%	100.0%

表 - 3 学年・男女別のクロス集計データ（女子）

	人 数				比 率		
	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生
好き群	421	378	371	1,170	64.3%	62.1%	57.7%
どちらでもない	148	131	160	439	22.6%	21.5%	24.9%
きれい群	86	100	112	298	13.1%	16.4%	17.4%
計	655	609	643	1,907	100.0%	100.0%	100.0%

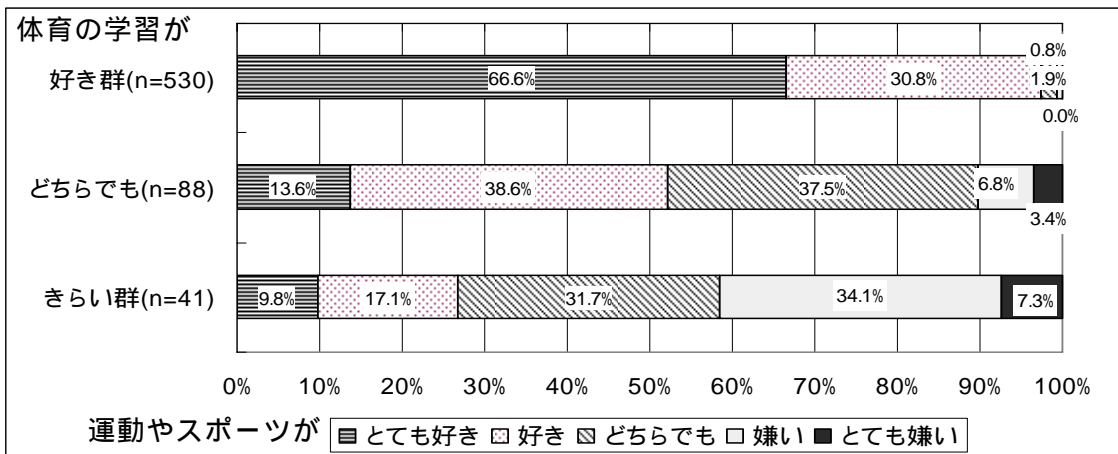
(1) 運動やスポーツの好き、きれいについて
 ア 運動やスポーツをすることが好きかきれいかについて

3群×〔問1 あなたは、運動やスポーツをすることが好きですか（単一回答）〕



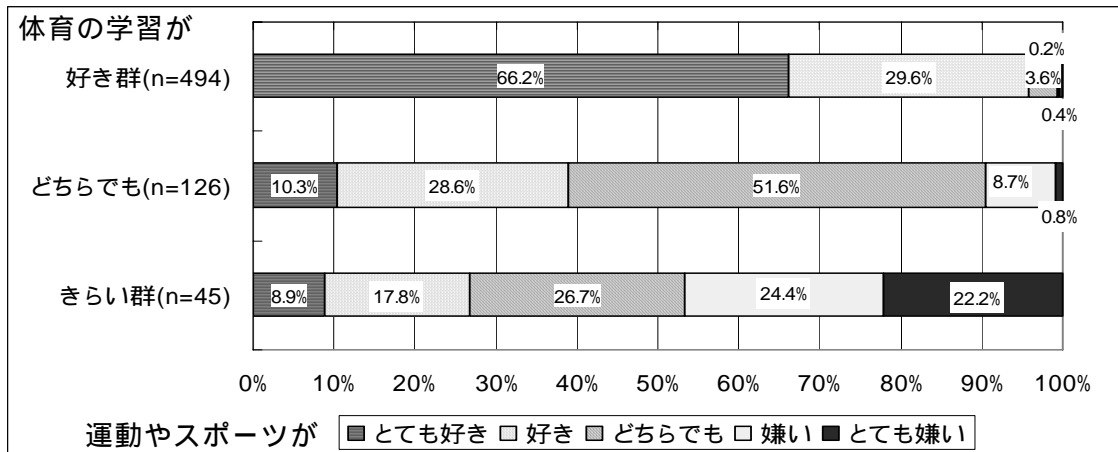
*** p<0.001

図3 - 1 3群×運動やスポーツの好き、きれい(1年生男子)



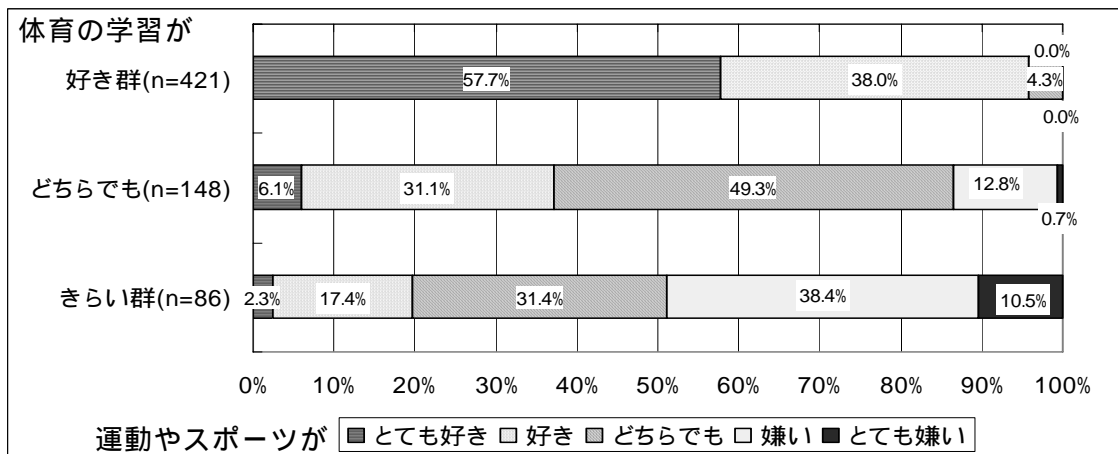
*** p<0.001

図3 - 2 3群×運動やスポーツの好き、きれい(2年生男子)



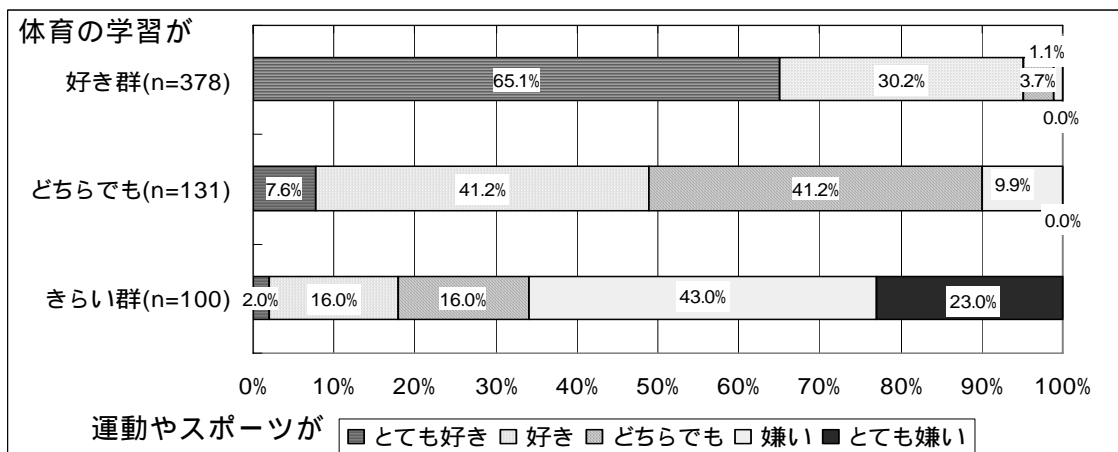
*** p<0.001

図3 - 3 3群×運動やスポーツの好き、きれい(3年生男子)



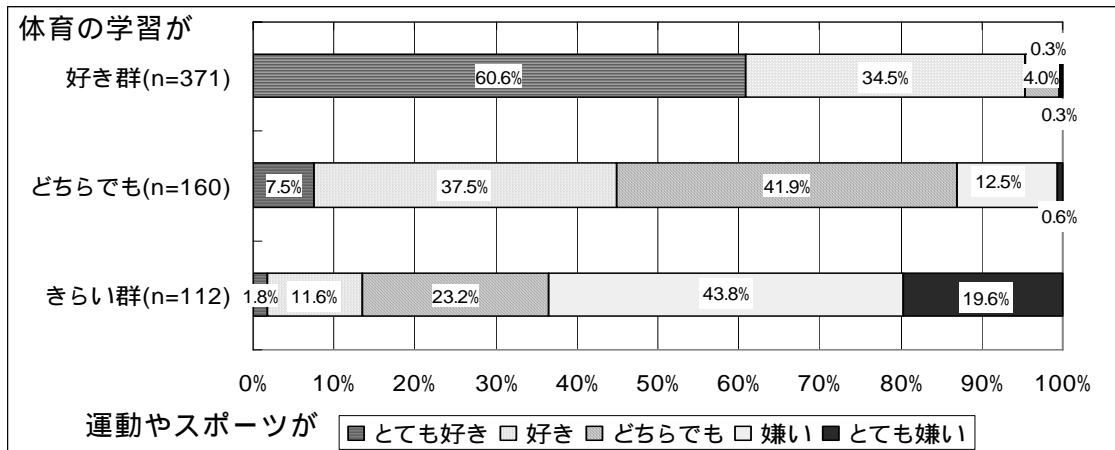
*** p<0.001

図3 - 4 3群×運動やスポーツの好き、きれい(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 5 3群×運動やスポーツの好き、きれい(2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 6 3群×運動やスポーツの好き、きらい(3年生女子)

体育の学習が「好き群」の生徒は、運動やスポーツも「好き」であることがわかった。

体育の学習が「きらい群」の中で運動やスポーツが「好き」な生徒は、男子で1年生25.0%、2年生26.9%、3年生26.7%、女子で1年生19.7%、2年生18.0%、3年生13.4%であった。

体育の学習が「きらい群」の中で、運動やスポーツが「きらい」な生徒は、男子で1年生66.7%、2年生41.4%、3年生46.6%、女子は1年生48.9%、2年生66.0%、3年生63.4%であり、女子のほうが運動やスポーツが「きらい」の傾向が強いことがわかった。

「運動やスポーツの好き、きれい」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

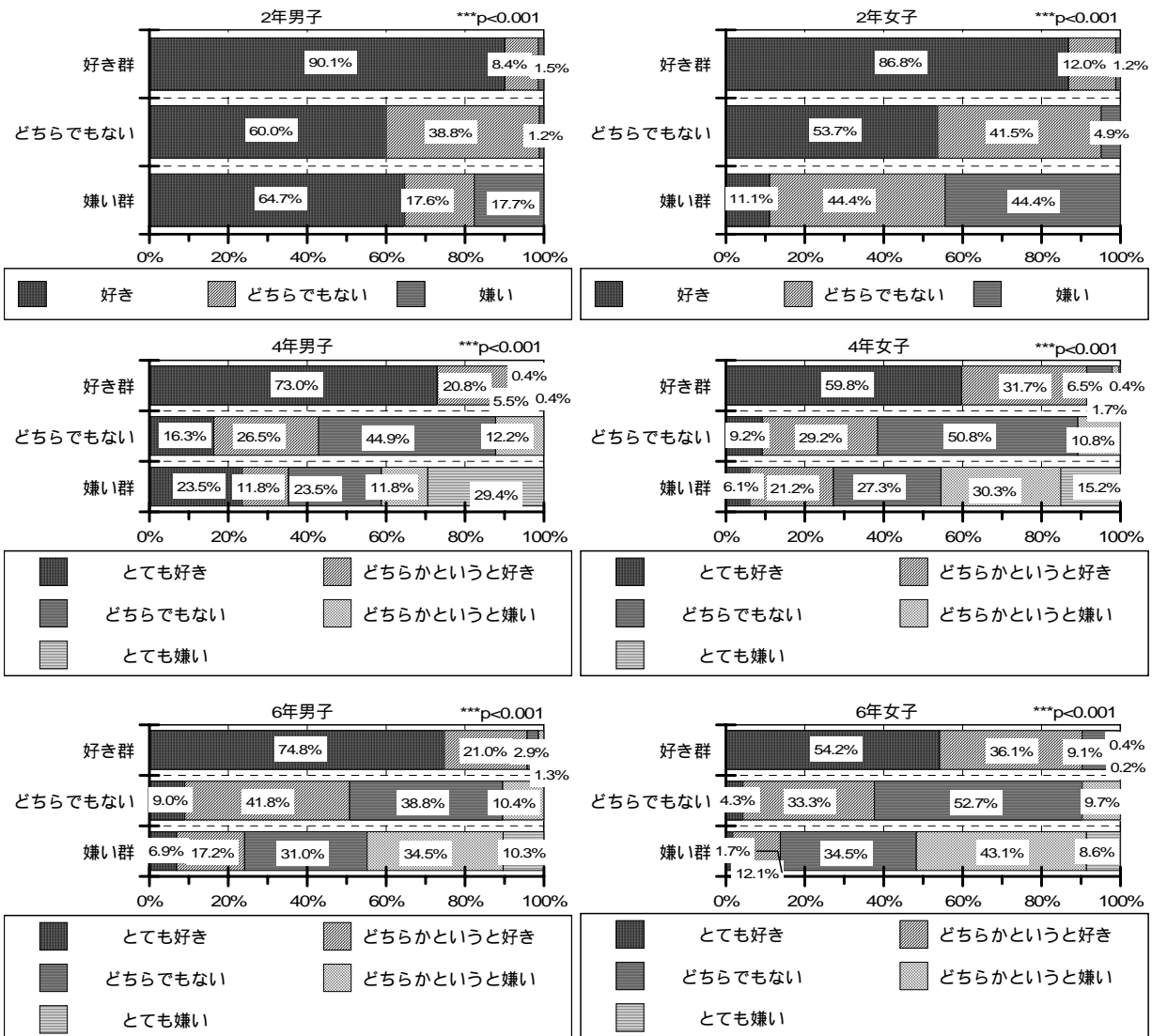


図 (1) 「運動やスポーツの好き、きれい」小学生の意識(平成17年度調査)

体育の学習が「好き群」のなかで、運動やスポーツが「とても好き」「どちらかという好き」をあわせた割合の推移をみると次のようになる。

男子	小学2年生	90.1%	女子	小学2年生	86.8%
	4年生	93.8%		小学4年生	91.5%
	6年生	95.8%		6年生	90.3%
	中学1年生	97.2%		中学1年生	95.7%
	2年生	97.4%		2年生	95.3%
	3年生	95.8%		3年生	95.4%

小学生・中学生を通じて体育の学習が「好き」な児童生徒は、運動やスポーツも「好き」ということがわかった。

体育の学習が「きれい群」のなかで、運動やスポーツが「とても好き」「どちらかというが好き」をあわせたものをその学年の総数に対する割合にすると次のようになる。

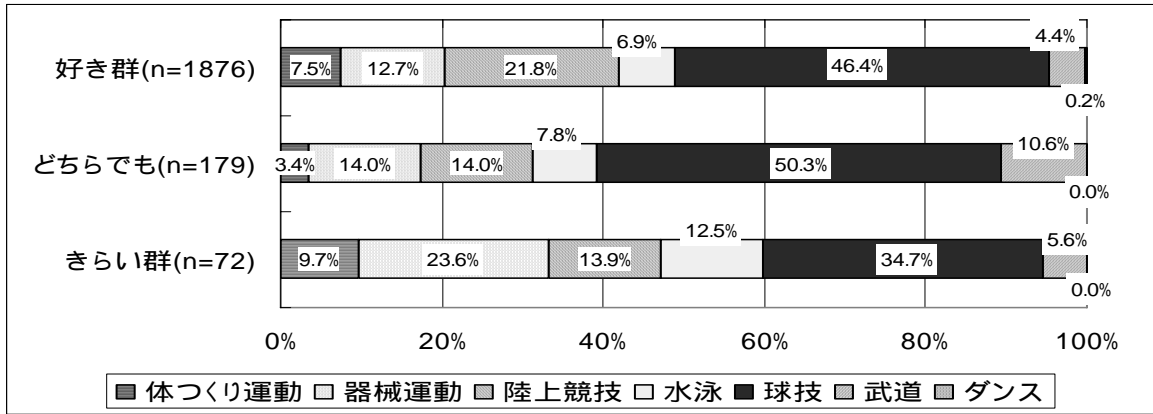
男子	小学2年生	0.9%	女子	小学2年生	0.2%
	4年生	0.5%		小学4年生	0.7%
	6年生	0.6%		6年生	0.7%
	中学1年生	0.5%		中学1年生	1.3%
	2年生	0.9%		2年生	1.4%
	3年生	0.9%		3年生	1.1%

小学生・中学生ともに「体育きれいの運動好き」はほとんど認められなかった。しかし、ごくわずかでもいるということを忘れてはならない。

イ 好きな運動種目について

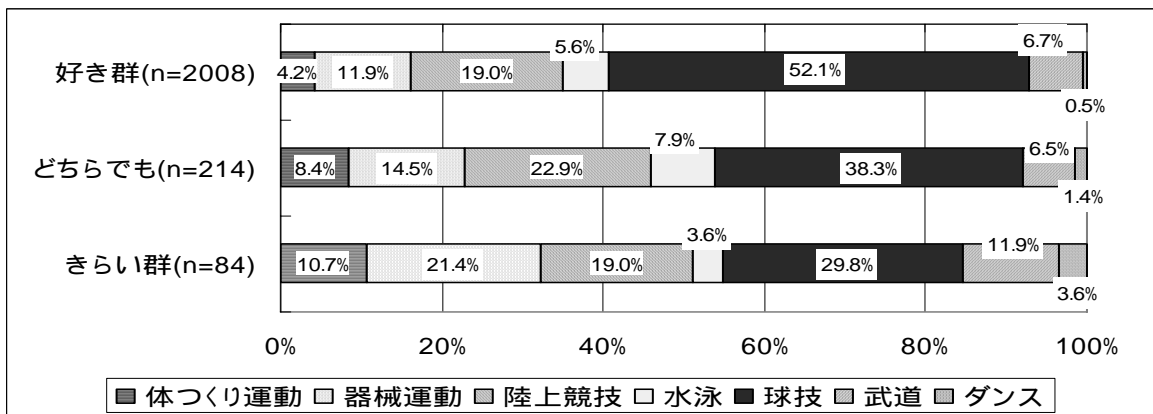
3群×〔問5 中学校の体育で行っている運動の中で、あなたが好きなものを5つまで選んで、番号で答えて下さい。(5つまで回答)〕

体育の学習で好きな運動種目で得た回答を領域別にまとめたものにクロス集計をかけた。



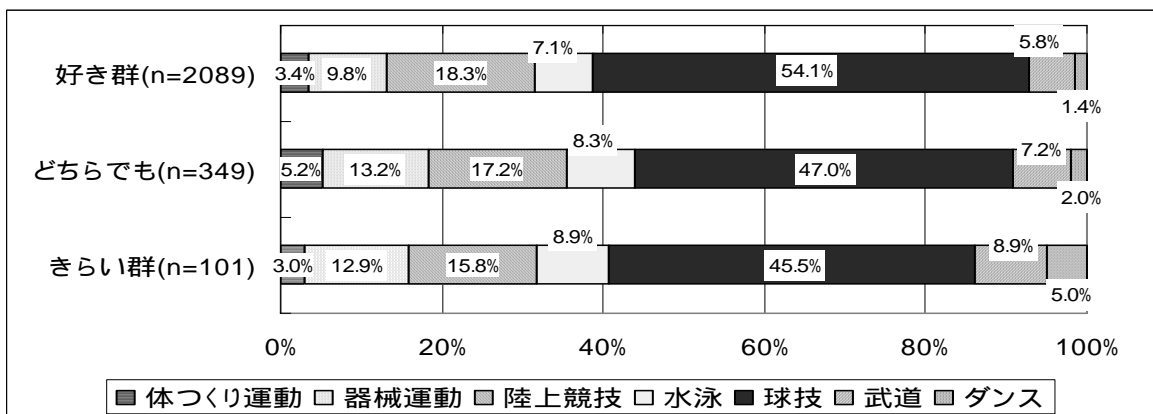
*** p<0.001

図3 - 19 3群×好きな運動種目(1年生男子)



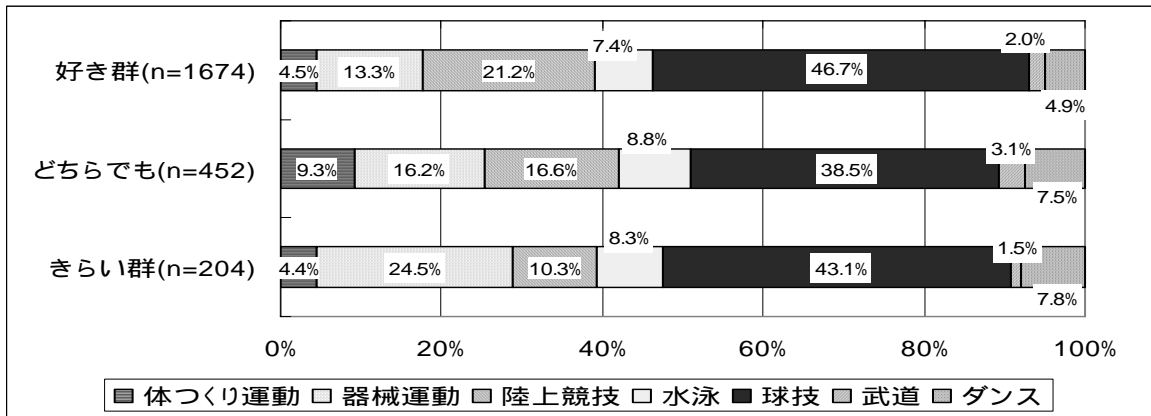
*** p<0.001

図3 - 20 3群×好きな運動種目(2年生男子)



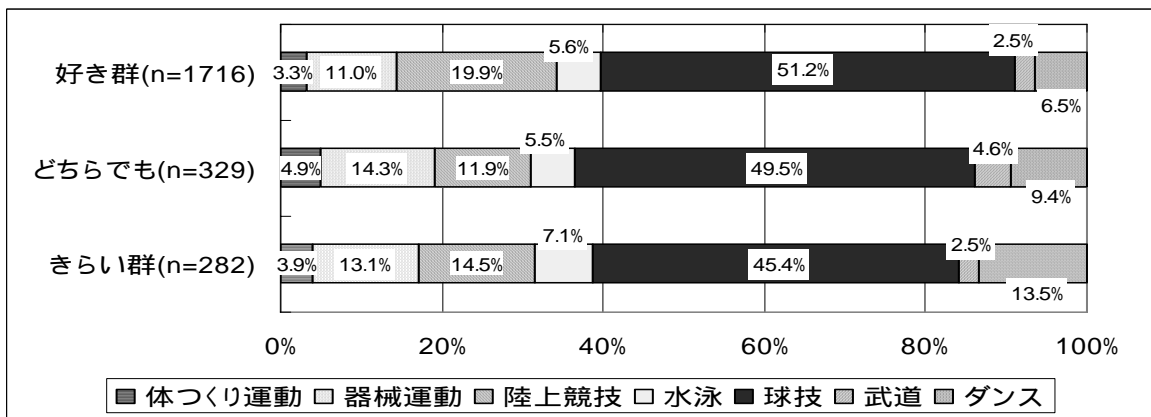
*** p<0.001

図3 - 21 3群×好きな運動種目(3年生男子)



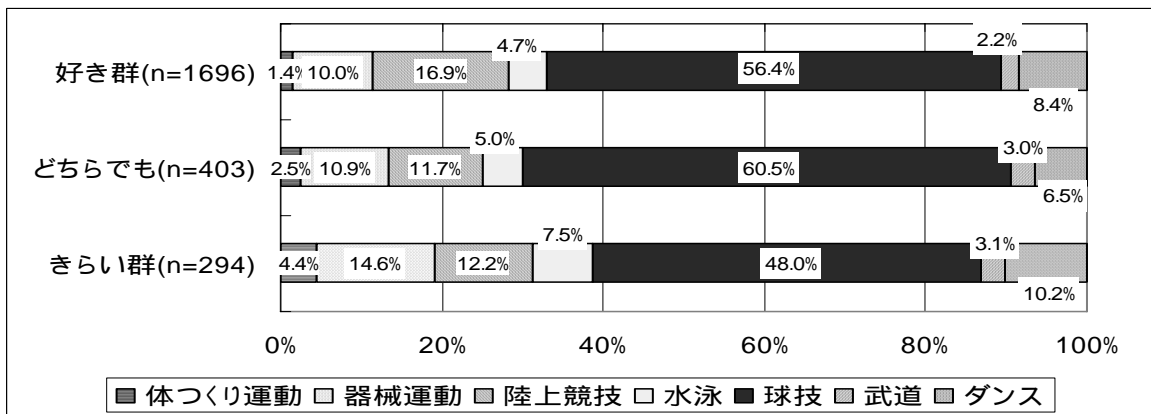
*** p<0.001

図3 - 22 3群×好きな運動種目(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 23 3群×好きな運動種目(2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 24 3群×好きな運動種目(3年生女子)

体育の「好き」「きれい」に関係なく、行ないたい種目は「球技」であることがわかった。

コラム24

「好きな運動種目」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

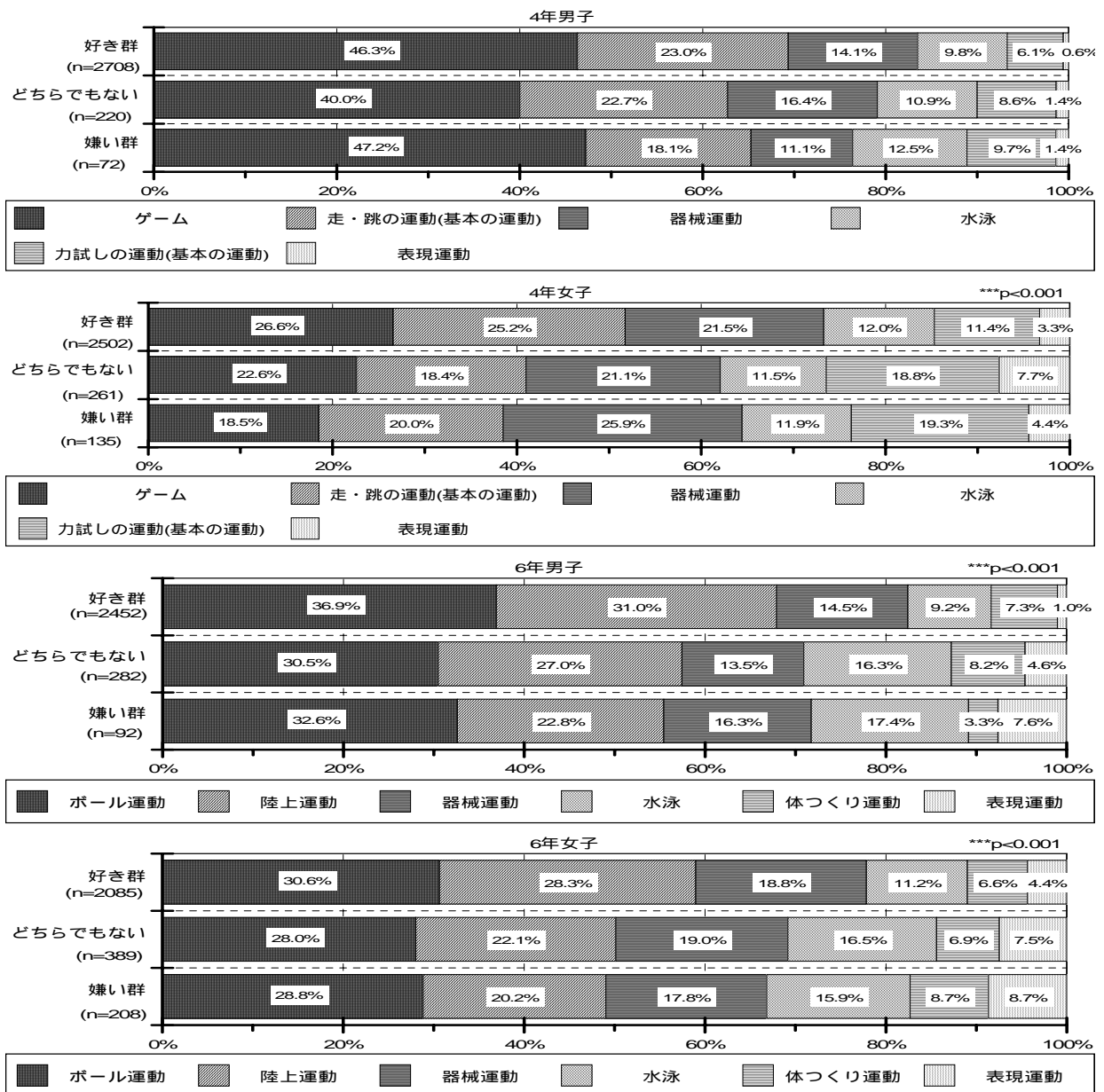
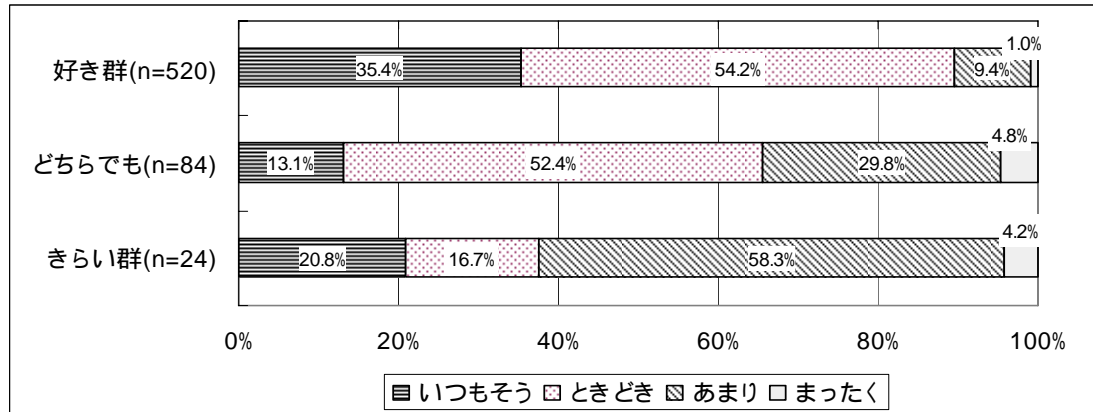


図 (2) 「好きな運動種目」小学生の意識(平成17年度調査)

小学では、4年生女子で「好き群」は「ゲーム」を好み、「嫌い群」は器械運動を好んだり、6年生では男女ともに好き、嫌いにかかわらず「ボール運動」を好んだりといった傾向があったが、中学生は学年や男女、好き、嫌いにかかわらず「球技」が最高位で、「陸上競技」「器械運動」がその次であり、小学6年生からの状況がそのまま3年間続いている。

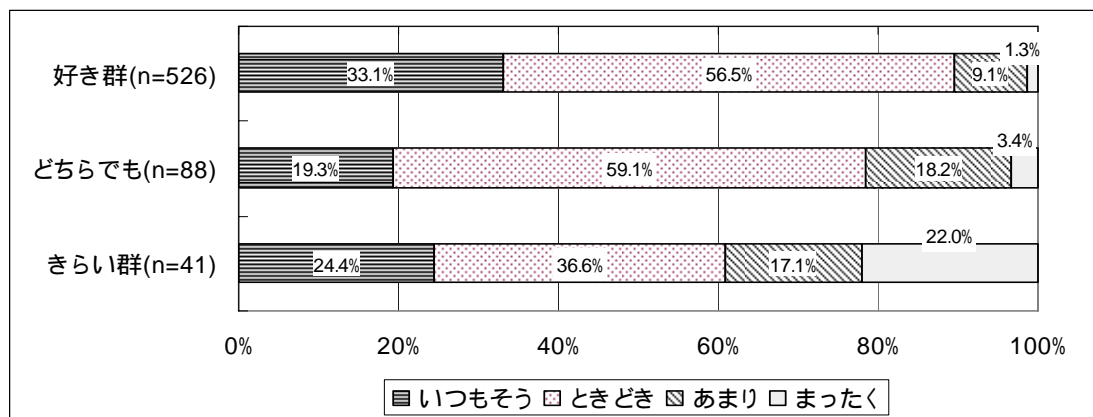
ウ 体育の時間の活動状況について

3群×〔問6 - 1 うまくなったり記録を伸ばすために、自分なりの目標や課題（めあて）をもって活動している。（単一回答）〕



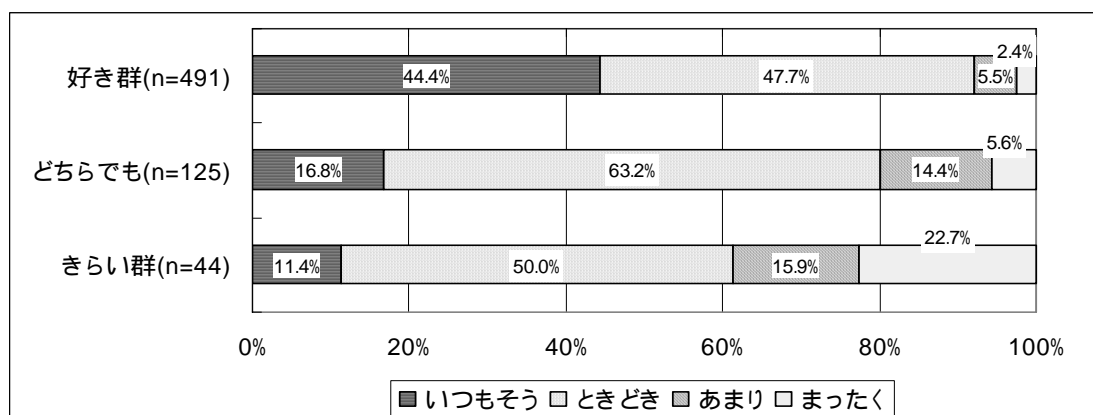
*** p<0.001

図3 - 25 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（1年生男子）



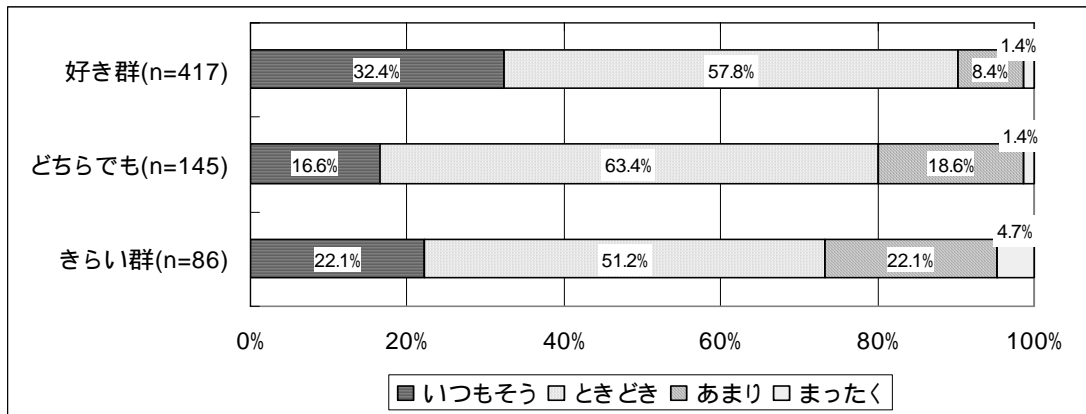
*** p<0.001

図3 - 26 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（2年生男子）



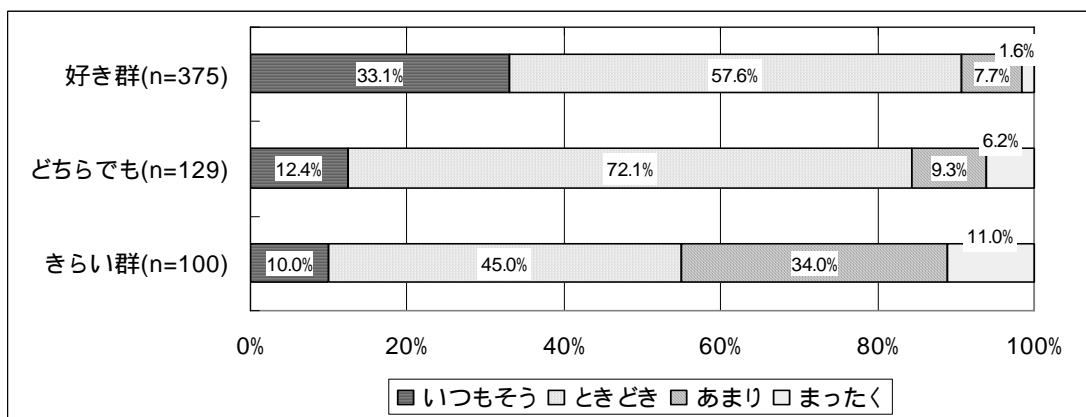
*** p<0.001

図3 - 27 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（3年生男子）



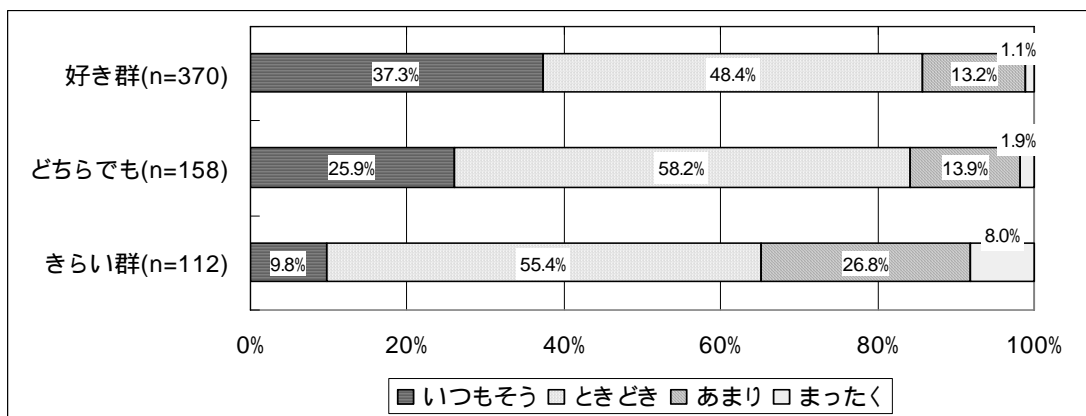
*** p<0.001

図3 - 28 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（1年生女子）



*** p<0.001

図3 - 29 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（2年生女子）



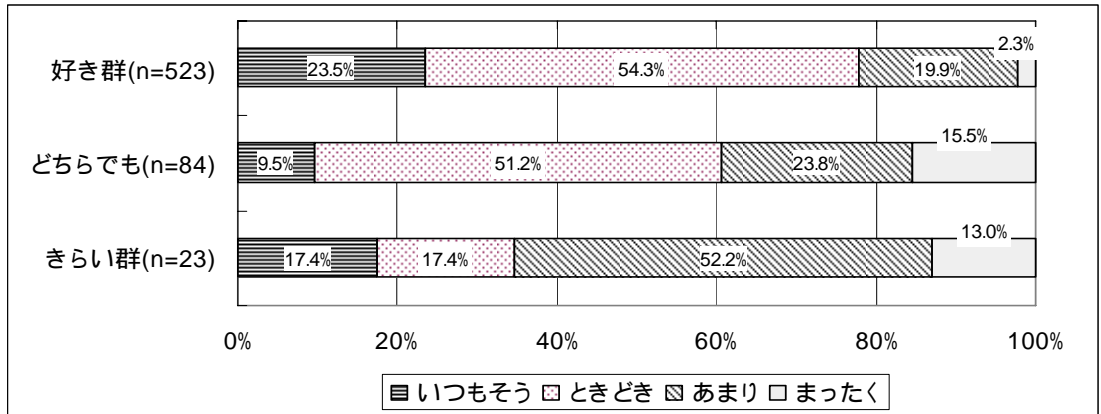
*** p<0.001

図3 - 30 3群×自分なりの目標や課題を持って活動（3年生女子）

「好き群」が自分なりの目標や課題を持って活動している割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって低下している。

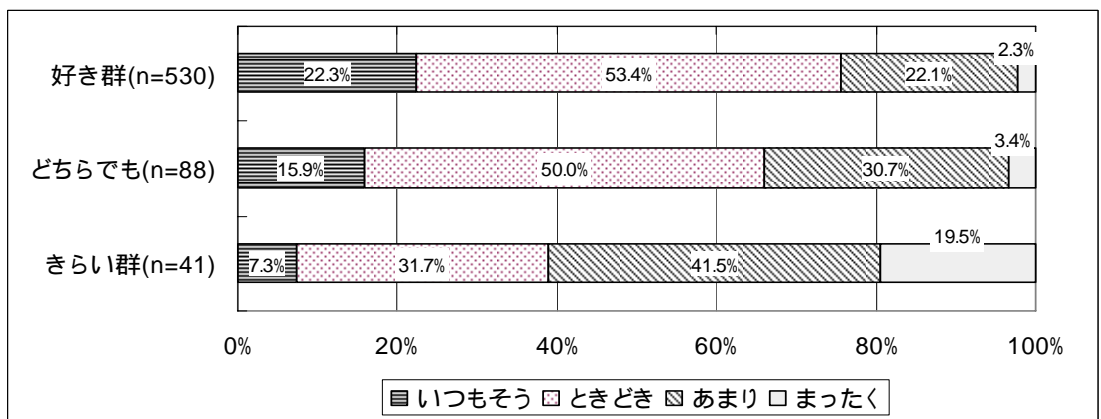
エ 課題が自分にあっているか考えているか

3群×〔問6-2 課題(めあて)が自分にあっているか、考えながら活動している(単一回答)〕



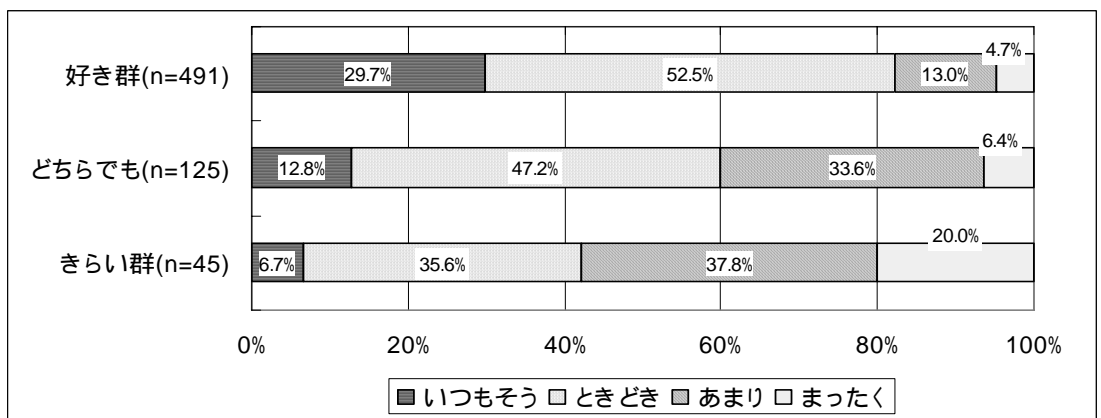
*** p<0.001

図3-31 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(1年生男子)



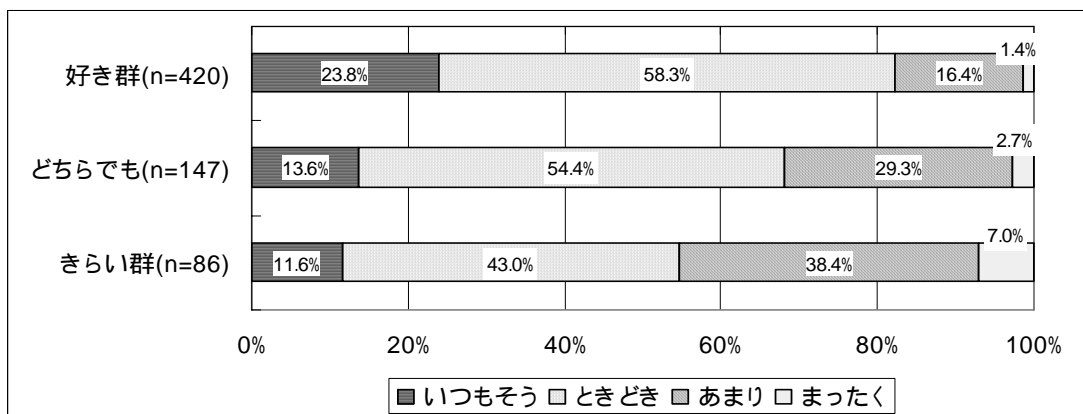
*** p<0.001

図3-32 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(2年生男子)



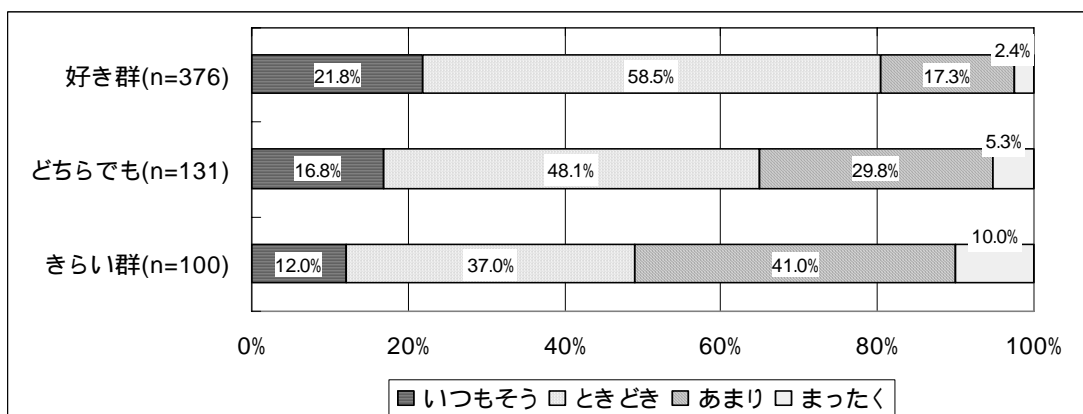
*** p<0.001

図3-33 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(3年生男子)



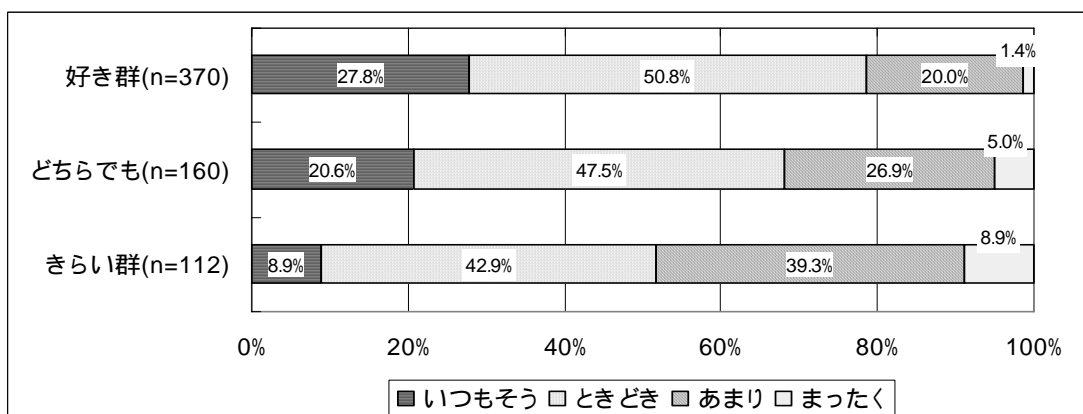
*** p<0.001

図3 - 34 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 35 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(2年生女子)



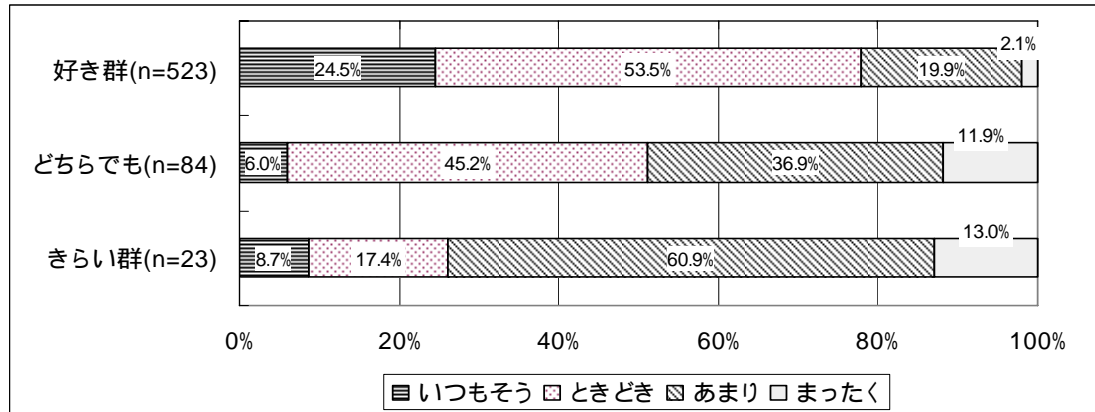
*** p<0.001

図3 - 36 3群×課題がじぶんにあっているか考えて活動(3年生女子)

「好き群」が「課題が自分にあっているか考えて活動」している割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって低下している。

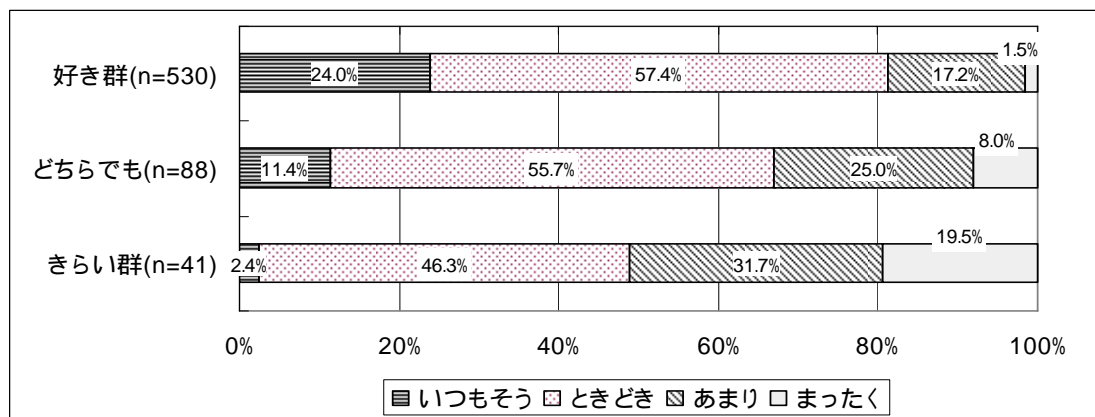
オ 練習の場所や仕方を工夫しているか

3群×〔問6-3 練習の場所や仕方など、いろいろ工夫して活動している（単一回答）〕



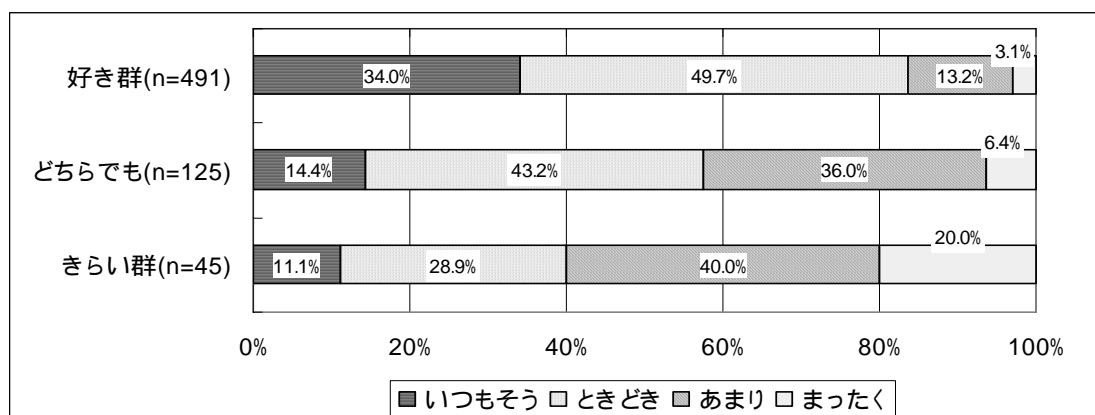
*** p<0.001

図3-37 3群×練習の場所や仕方など工夫して活動（1年生男子）



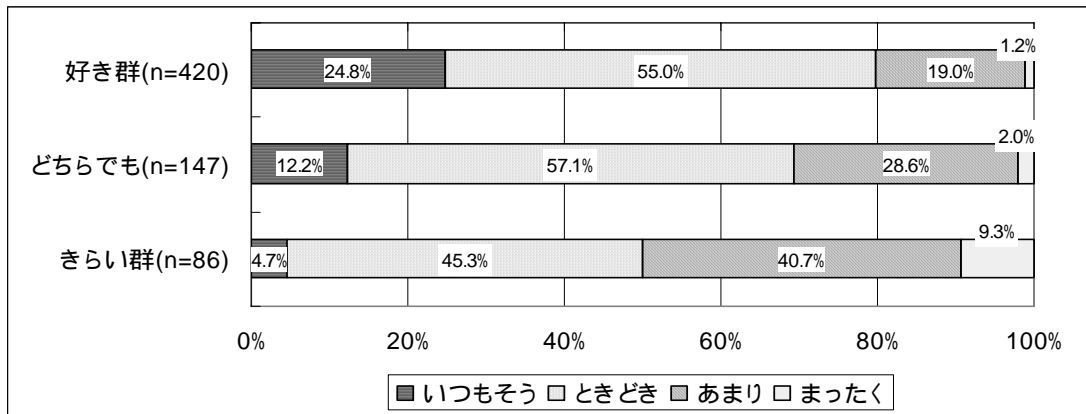
*** p<0.001

図3-38 3群×練習の場所や仕方など工夫して活動（2年生男子）



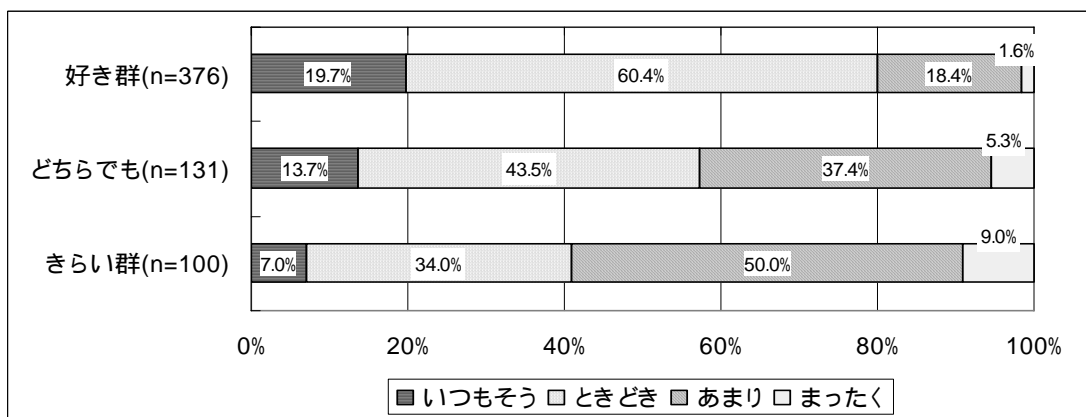
*** p<0.001

図3-39 3群×練習の場所や仕方など工夫して活動（3年生男子）



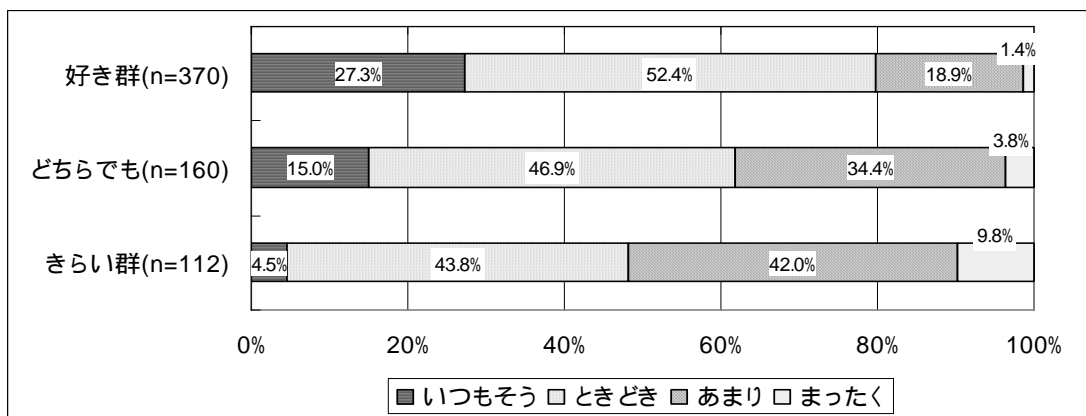
*** p<0.001

図 3 - 40 3 群 × 練習の場所や仕方など工夫して活動 (1 年生女子)



*** p<0.001

図 3 - 41 3 群 × 練習の場所や仕方など工夫して活動 (2 年生女子)



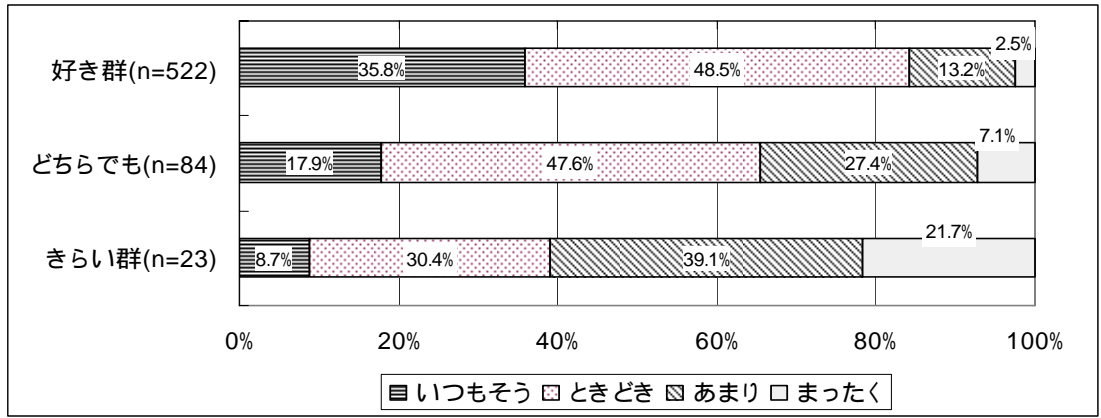
*** p<0.001

図 3 - 42 3 群 × 練習の場所や仕方など工夫して活動 (3 年生女子)

「好き群」が「練習の場所や仕方など工夫して活動」している割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって、低下している。

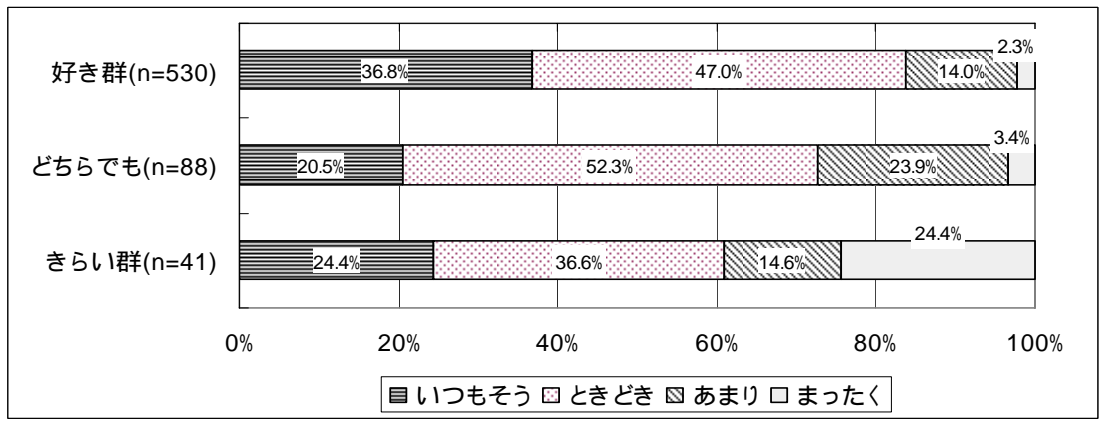
カ 友だちと教えあったり協力し合ったりしているか

3群×〔問6 - 4 友だちとお互いに教えあったり、協力し合ったりして活動している（単一回答）〕



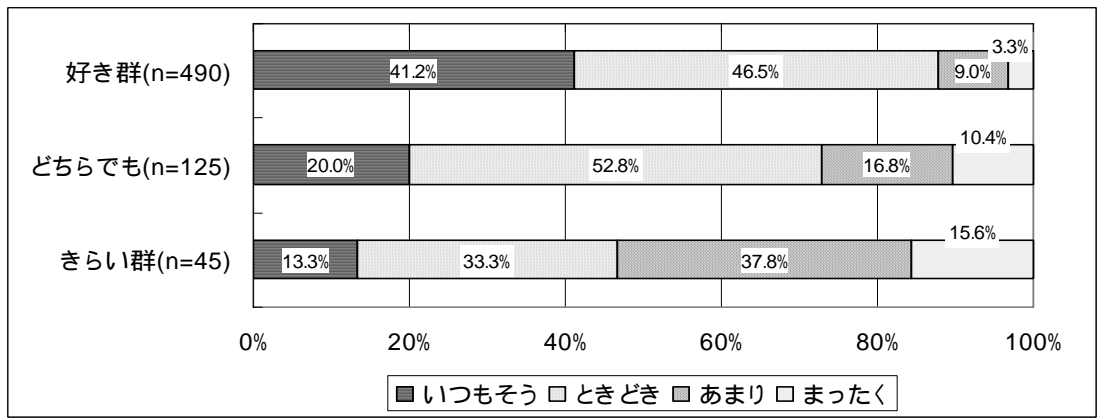
*** p<0.001

図3 - 43 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動（1年生男子）



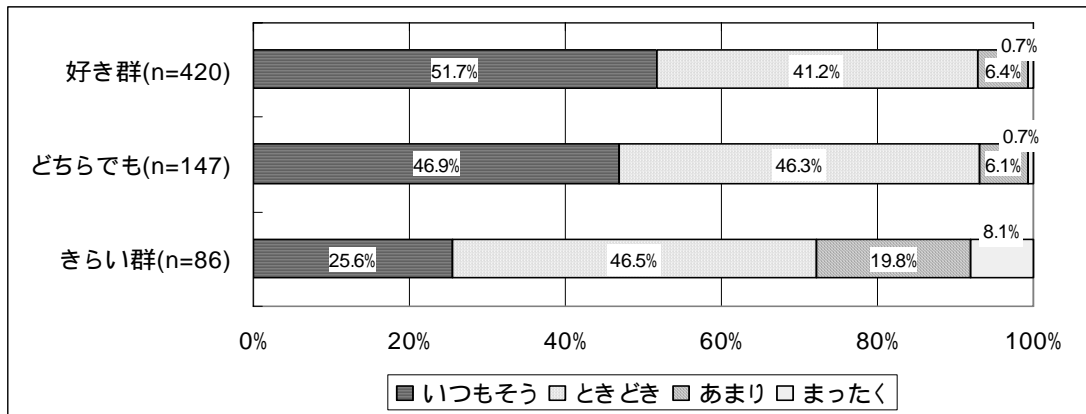
*** p<0.001

図3 - 44 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動（2年生男子）



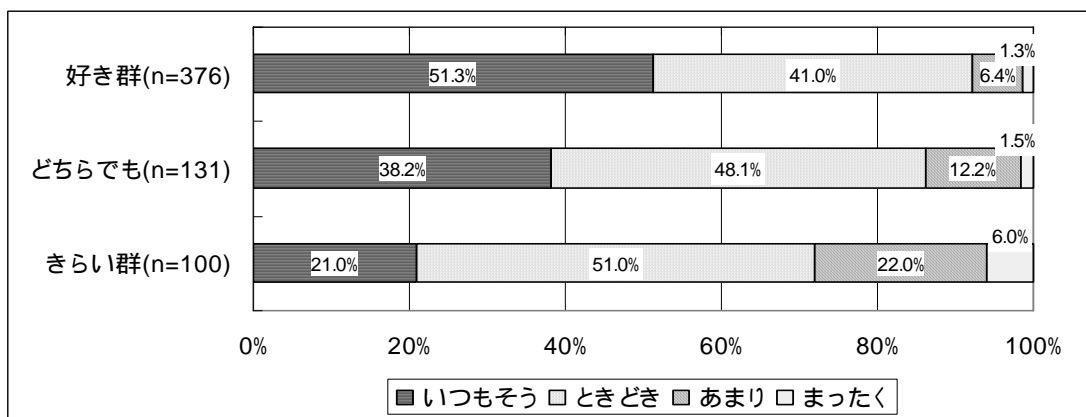
*** p<0.001

図3 - 45 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動（3年生男子）



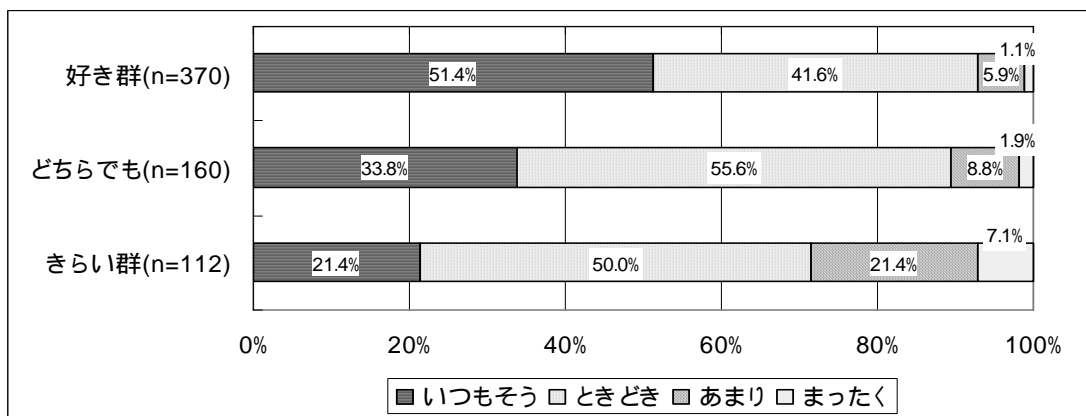
*** p<0.001

図3 - 46 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 47 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動(2年生女子)

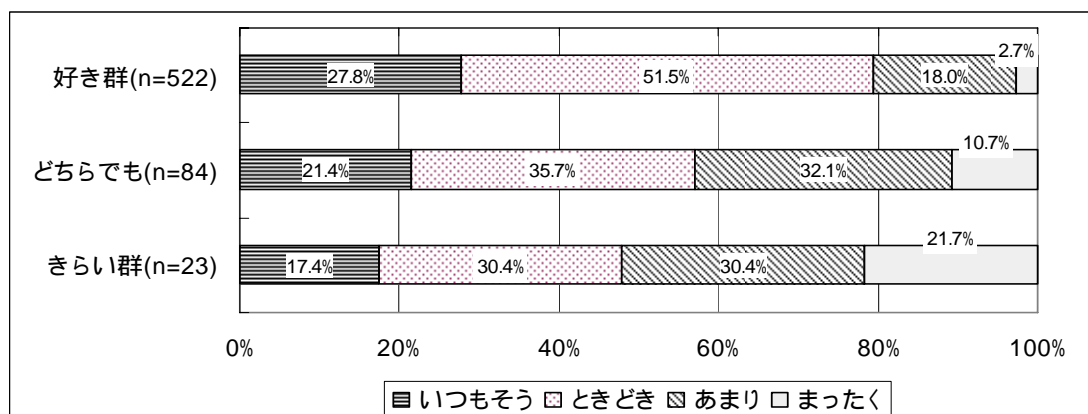


*** p<0.001

図3 - 48 3群×友だちと教えあったり協力し合ったりして活動(3年生女子)

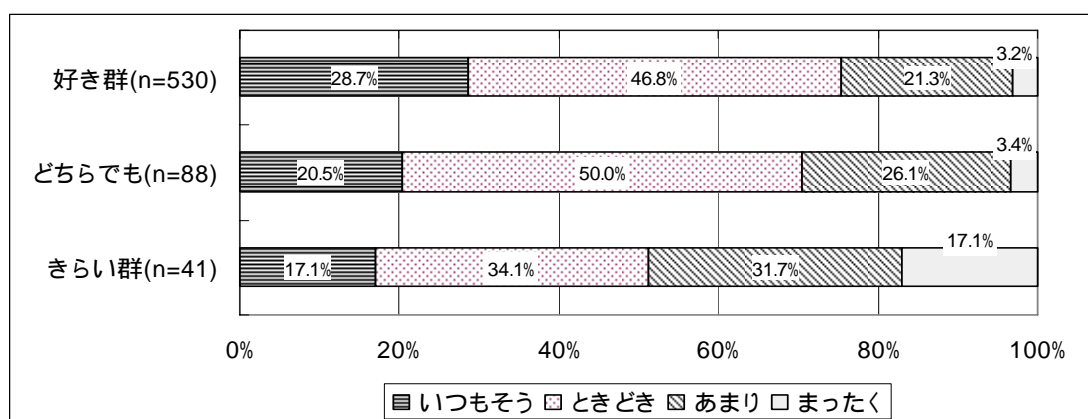
「好き群」が「友だちと教えあったり協力し合ったり」する割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって、低下している。しかし、女子は「きれい群」の生徒でも70%以上の生徒が「教えあい、協力し合い」をしており、男子に比べて高い取り組みをしていることがわかる。

3群×〔問6 - 5 学習を反省したり、できたかどうか確かめたりしながら活動している（単一回答）〕



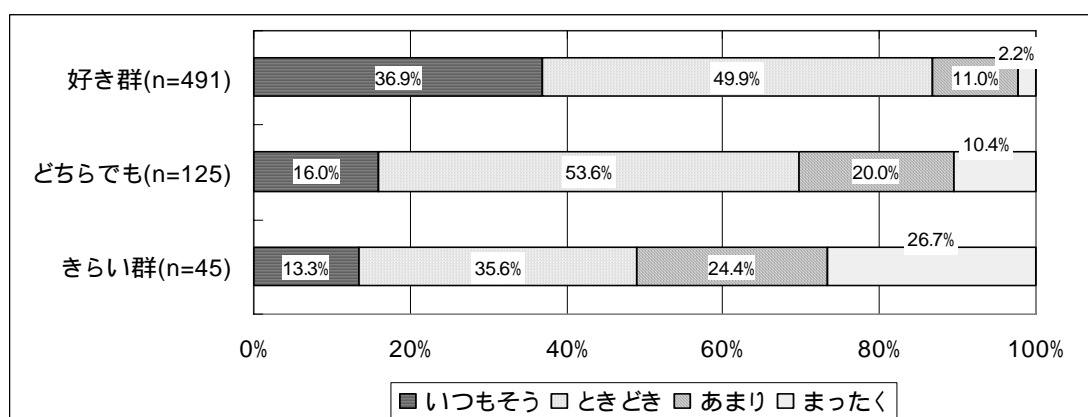
*** p<0.001

図3 - 49 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（1年生男子）



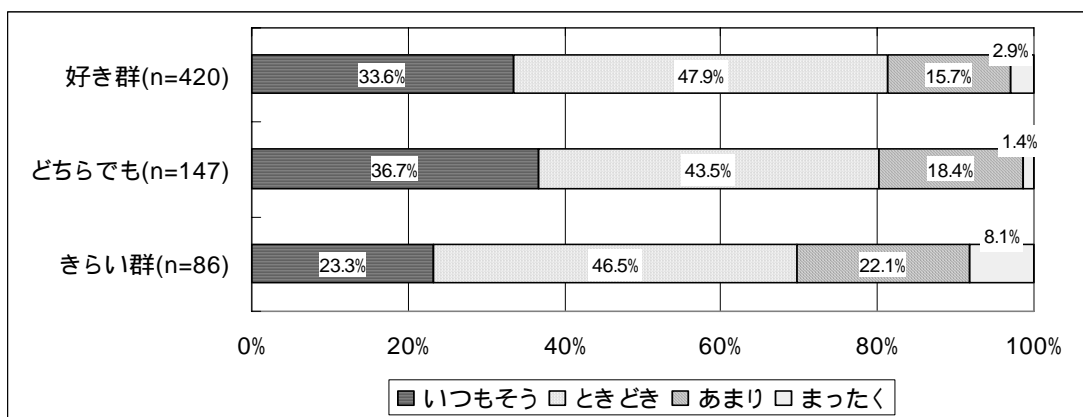
*** p<0.001

図3 - 50 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（2年生男子）



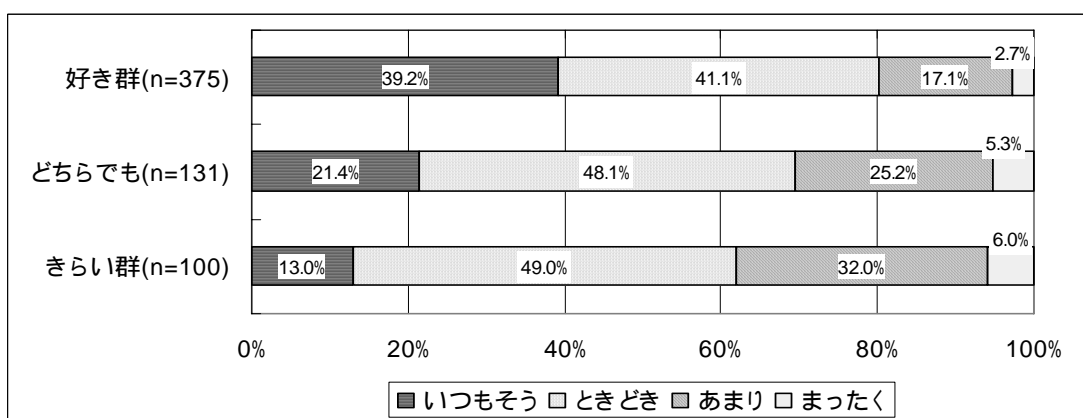
*** p<0.001

図3 - 51 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（3年生男子）



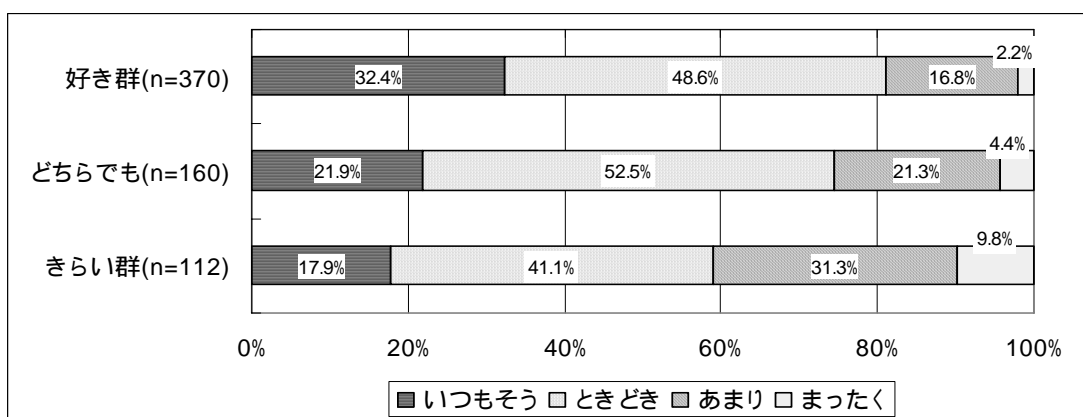
* p<0.05

図3 - 52 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（1年生女子）



*** p<0.001

図3 - 53 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（2年生女子）



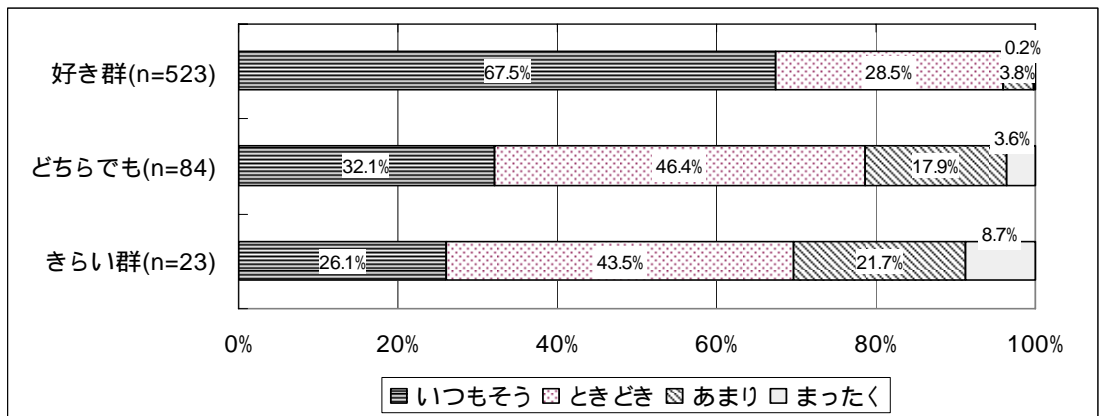
*** p<0.001

図3 - 54 3群×学習を反省したりできたか確かめたりして活動（3年生女子）

「好き群」が「学習を反省したりできたか確かめたりして活動」する割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって低下している。全学年で男子に比べて女子のほうが取り組みが高いことがわかった。

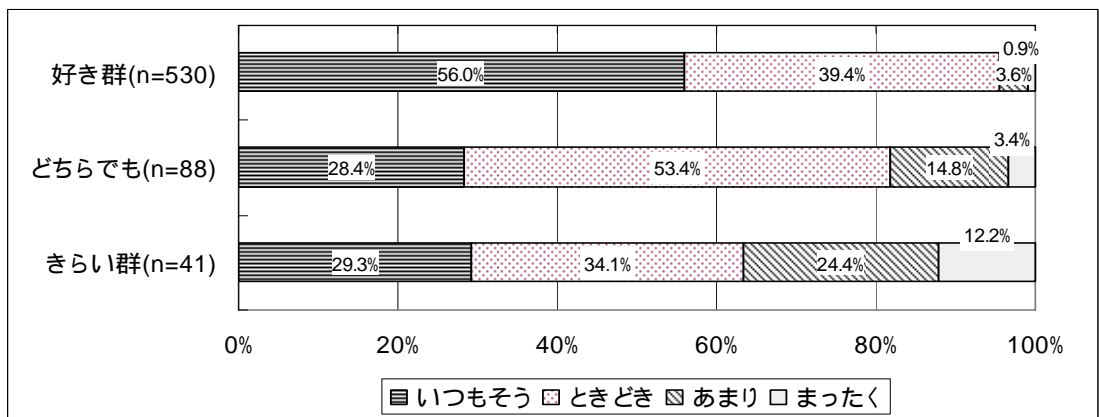
ク 全力をつくして活動しているか

3群×〔問6 - 6 せいっぱい最後まで全力をつくして活動している（単一回答）〕



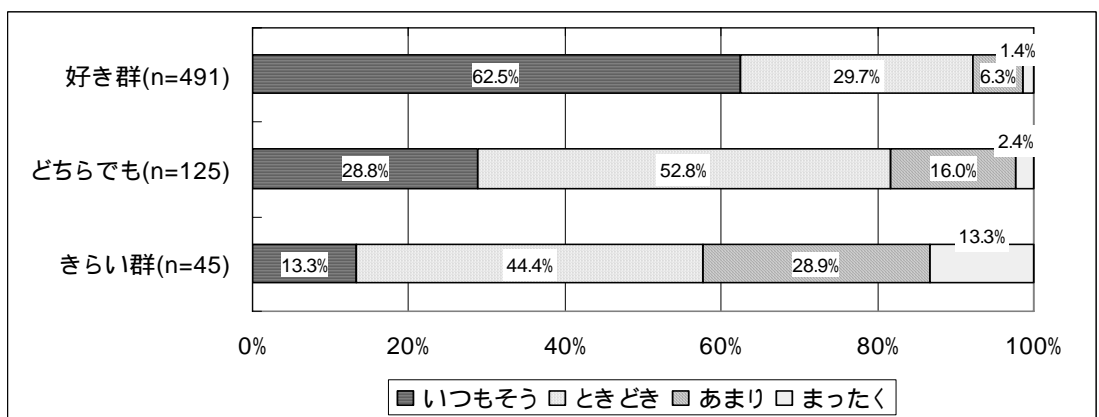
*** p<0.001

図3 - 55 3群×全力をつくして活動（1年生男子）



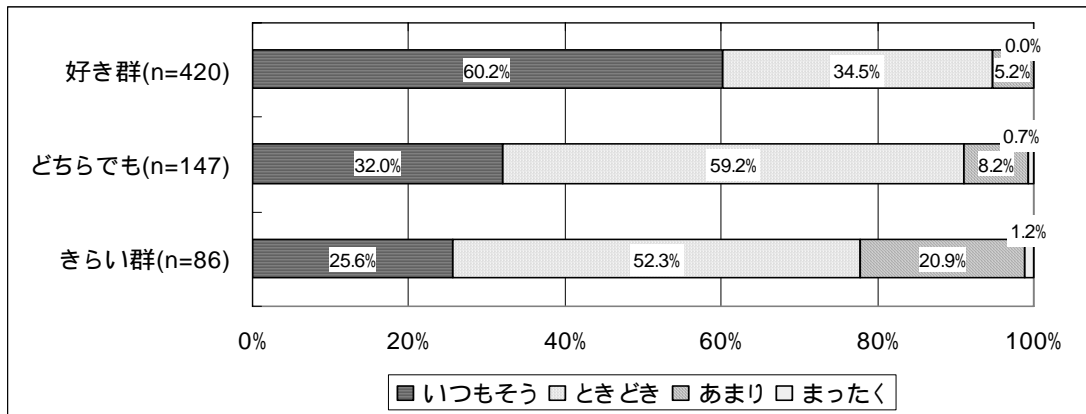
*** p<0.001

図3 - 56 3群×全力をつくして活動（2年生男子）



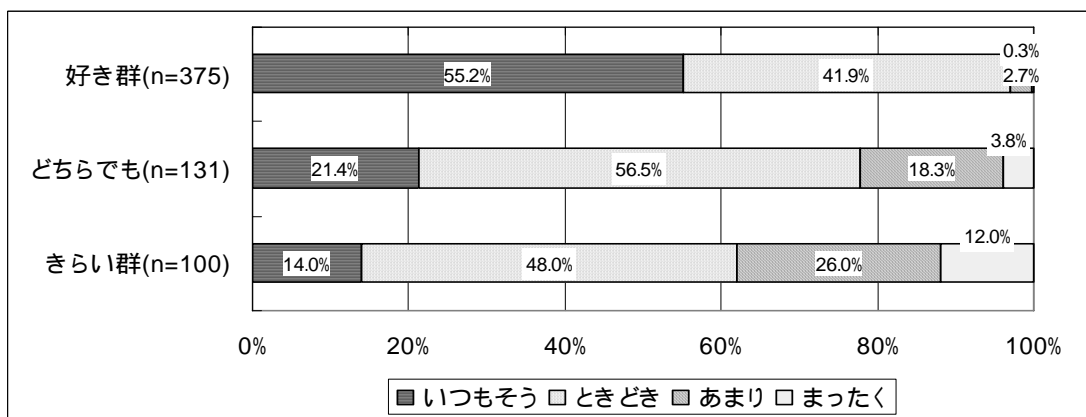
*** p<0.001

図3 - 57 3群×全力をつくして活動（3年生男子）



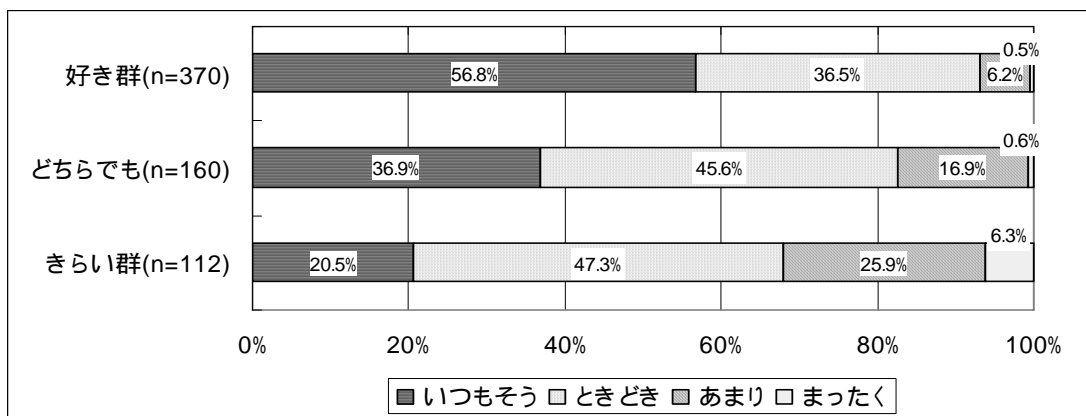
*** p<0.001

図3 - 58 3群×全力をつくして活動（1年生女子）



*** p<0.001

図3 - 59 3群×全力をつくして活動（2年生女子）



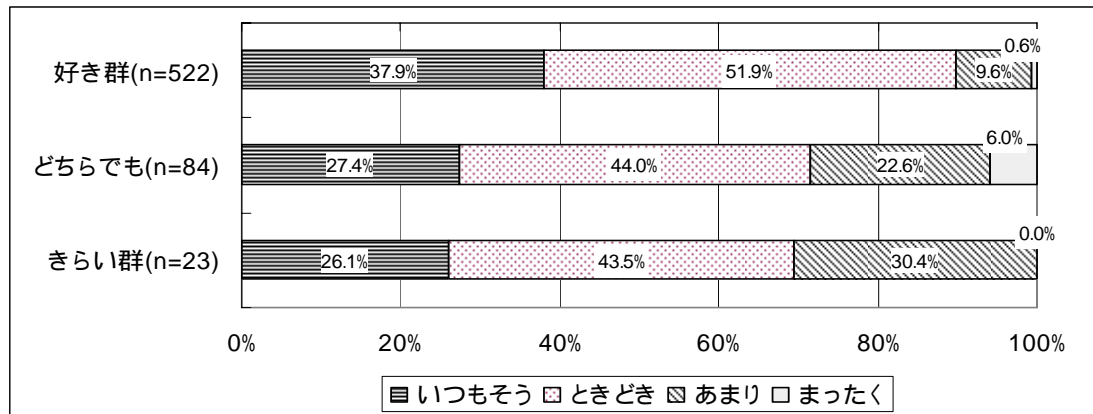
*** p<0.001

図3 - 60 3群×全力をつくして活動（3年生女子）

「好き群」のほとんどの生徒が、全力をつくして活動しており、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって、低下している。

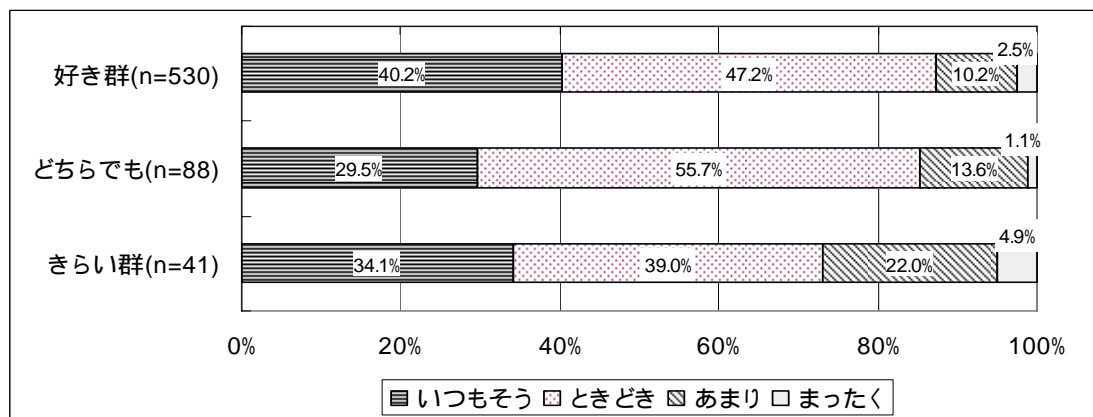
ケ 自分の役割を果たそうとしているか

3群×〔問6 - 7 準備や片づけに取り組んだり、自分の役割をはたそうとしたりして活動している（単一回答）〕



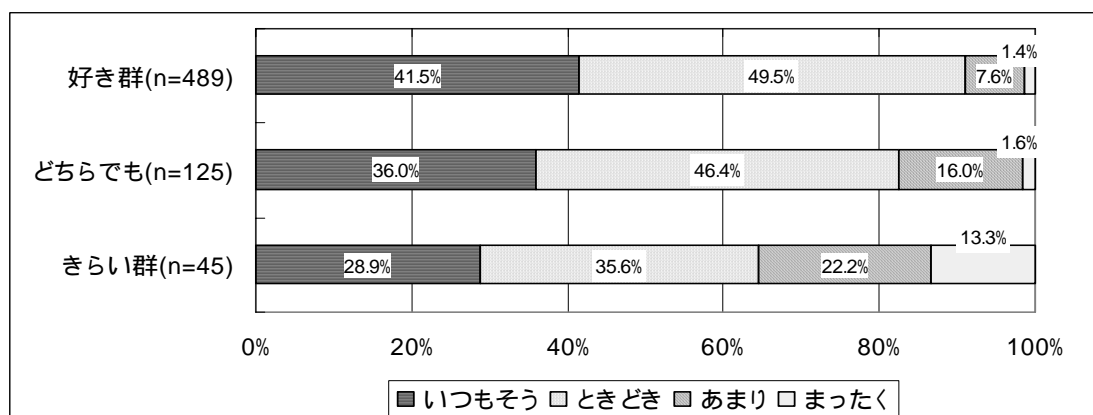
** p<0.01

図3 - 61 3群×自分の役割をはたそうとして活動（1年生男子）



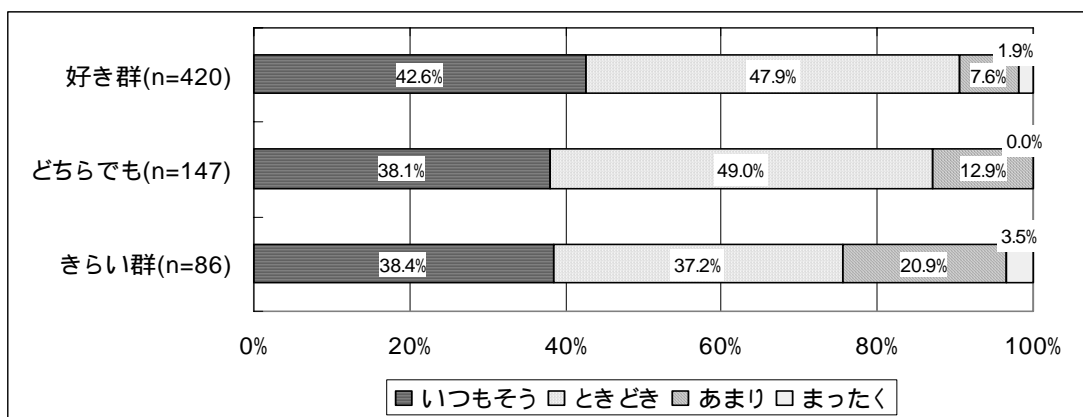
** p<0.01

図3 - 62 3群×自分の役割をはたそうとして活動（2年生男子）



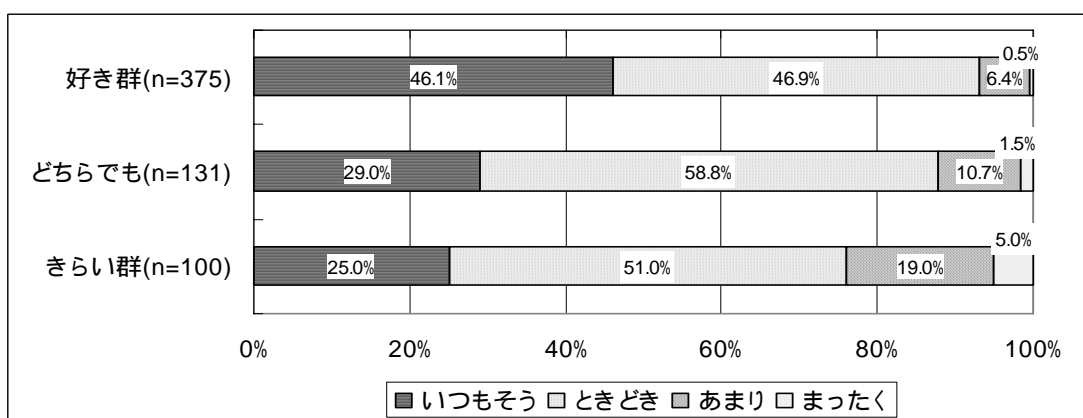
*** p<0.001

図3 - 63 3群×自分の役割をはたそうとして活動（3年生男子）



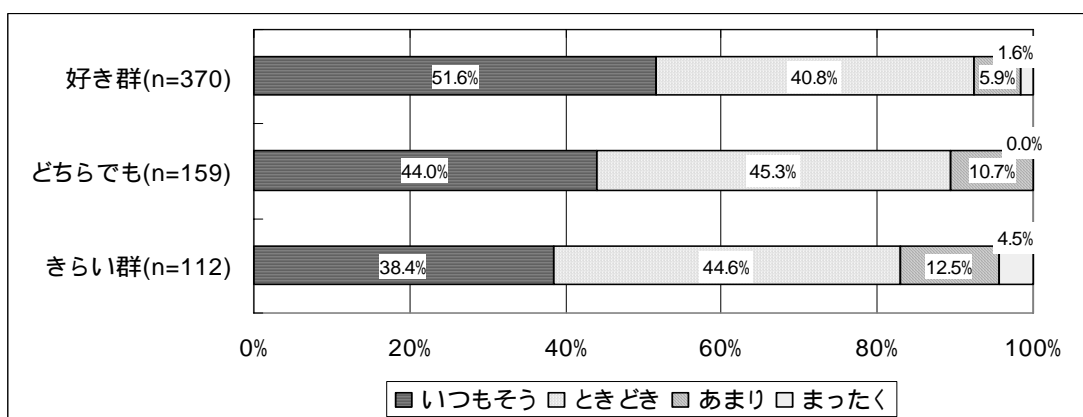
** p<0.01

図3 - 64 3群 × 自分の役割をはたそうとして活動 (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 65 3群 × 自分の役割をはたそうとして活動 (2年生女子)



** p<0.01

図3 - 66 3群 × 自分の役割をはたそうとして活動 (3年生女子)

「好き群」が「準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動」する割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって、低下している。しかし、「きれい群」の生徒でも男子2年生73.1%、女子1年生75.6%、2年生76.0%、3年生83.0%と、多くの生徒が「自分の役割を果たそうとして活動」をしていることがわかった。

「体育の時間の活動状況」とのクロス集計結果

「体育の学習の好き、きれい」と「体育の時間の活動状況」には、関連性があることがわかった。

すべての質問において、「好き群」の活動状況が高く、「どちらでもない」「きれい群」と減少していく傾向がみられた。

しかし、「きれい群」の生徒も「友だちとお互いに教えあったり、協力し合ったりして活動」や「準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動」など「関心・意欲・態度」の面では、高い割合で積極的な取り組みをしており、そういった面を適切に評価することで、「きれい群」から「どちらでもない」や「好き群」への変化を促すことができるのではないかと考える。

問6の(1) - (7)までの質問は、体育の時間の活動状況を聞いたもので、1・4・6・7は「関心・意欲・態度」を2・3・5は「思考・判断」をたずねたものである。

「きれい群」についてみると、表 - 4空もわかるように、「思考・判断」が求められる場面のほうが「関心・意欲・態度」を求められる場面よりも、取組状況が低いことがわかった。

課題学習については、「課題の設定」「課題に基づいた学習」「学習の過程や結果の評価」「次の課題の設定」というサイクルの中で、「思考・判断」が大切であるので、学び方が十分に身につけていない場合には、段階的な指導を重ねていく必要がある。

参考 表 - 4

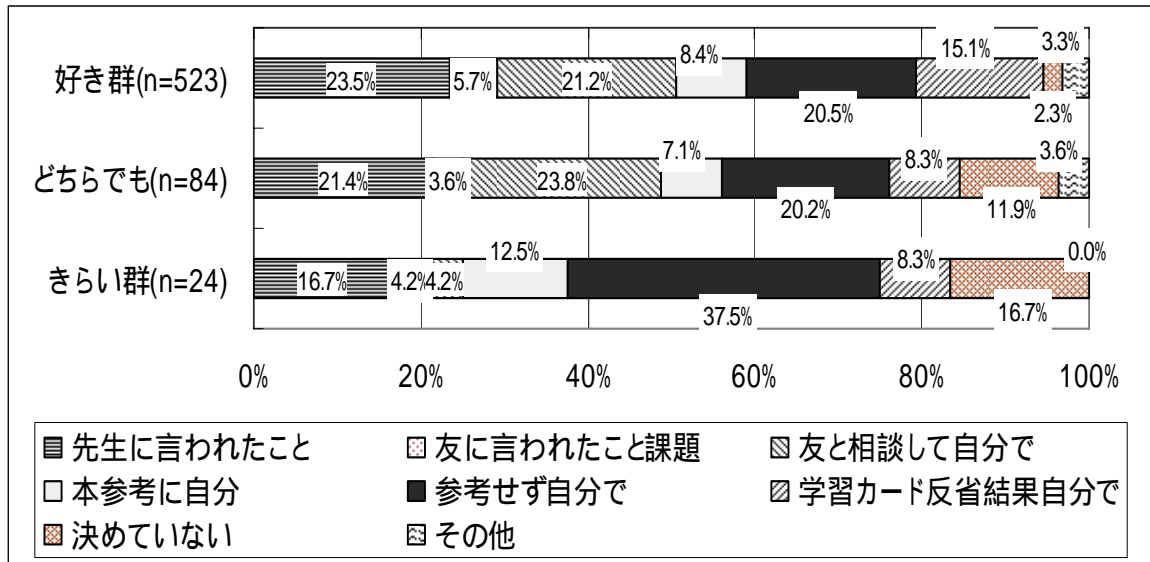
きれい群の「いつもそうしている」と「ときどきそうしている」を足した割合

	問 6						
	関心・意欲・態度				思考・判断		
	(1)	(4)	(6)	(7)	(2)	(3)	(5)
1年男子	37.5	39.1	69.4	69.6	34.8	26.1	47.7
2年男子	61.0	61.0	63.4	73.1	39.0	48.7	51.2
3年男子	66.4	46.6	57.7	64.5	42.3	40.0	48.9
1年女子	73.3	72.1	77.9	75.6	54.6	60.0	69.8
2年女子	55.0	72.0	62.0	76.0	49.0	41.0	62.0
3年女子	65.2	71.4	67.8	83.0	51.8	48.3	59.0

(%)

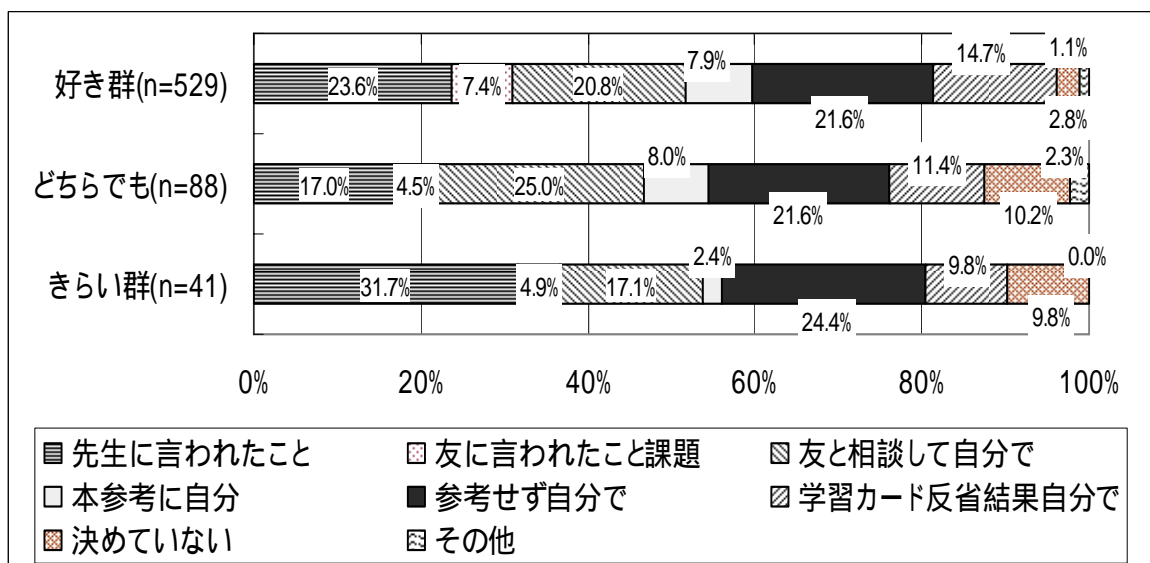
コ 自分の課題をどのように決めるか

3群×〔問7 あなたは、体育の学習で、自分の課題（めあて）をどのようにして決めますか（単一回答）〕



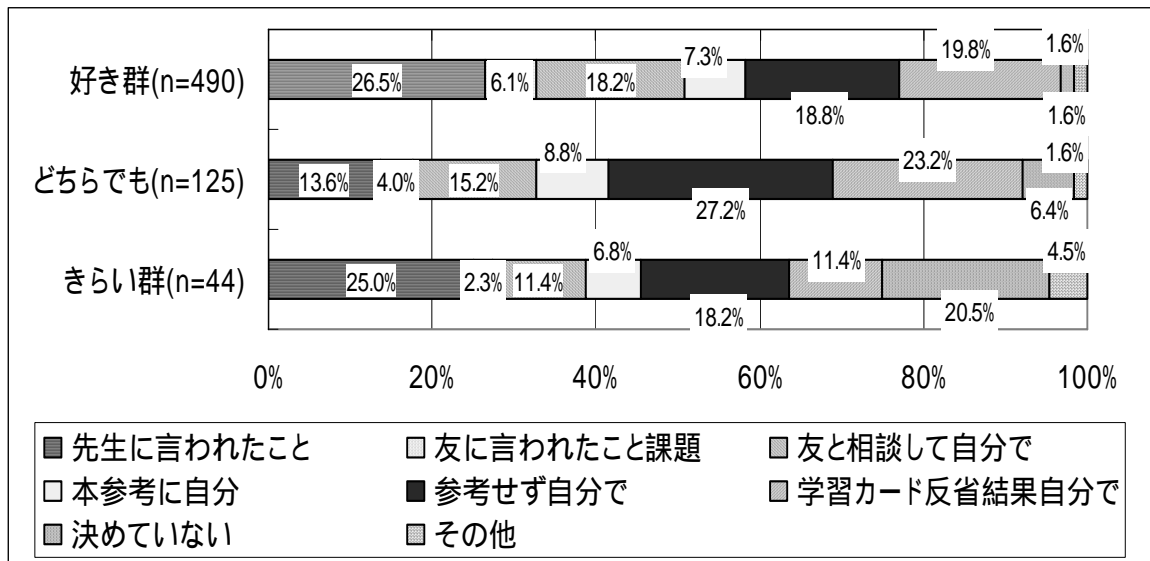
*** p<0.001

図3 - 67 3群×自分の課題の決め方（1年生男子）



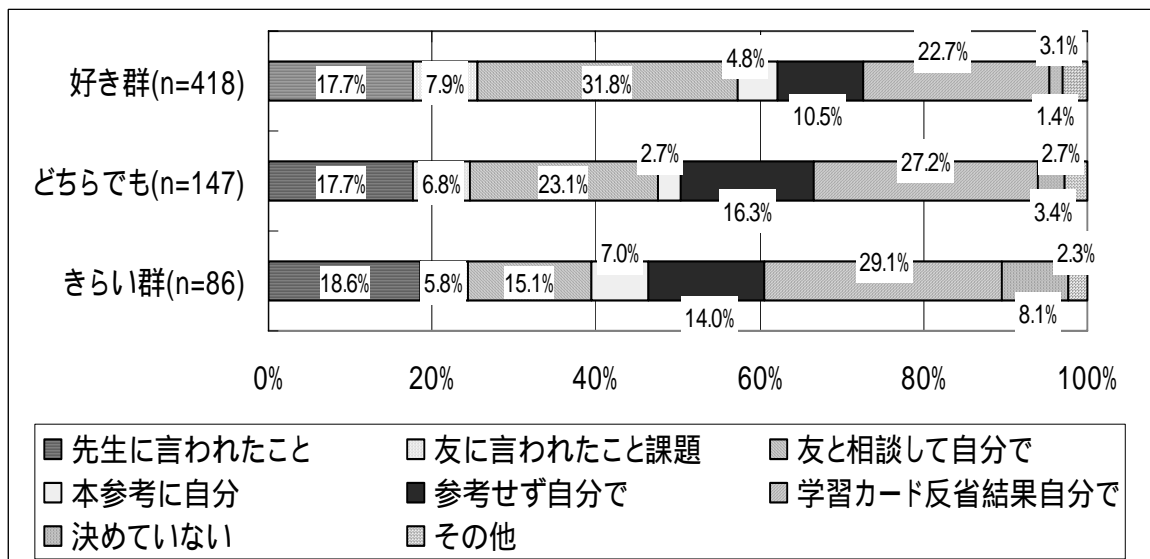
n s

図3 - 68 3群×自分の課題の決め方（2年生男子）



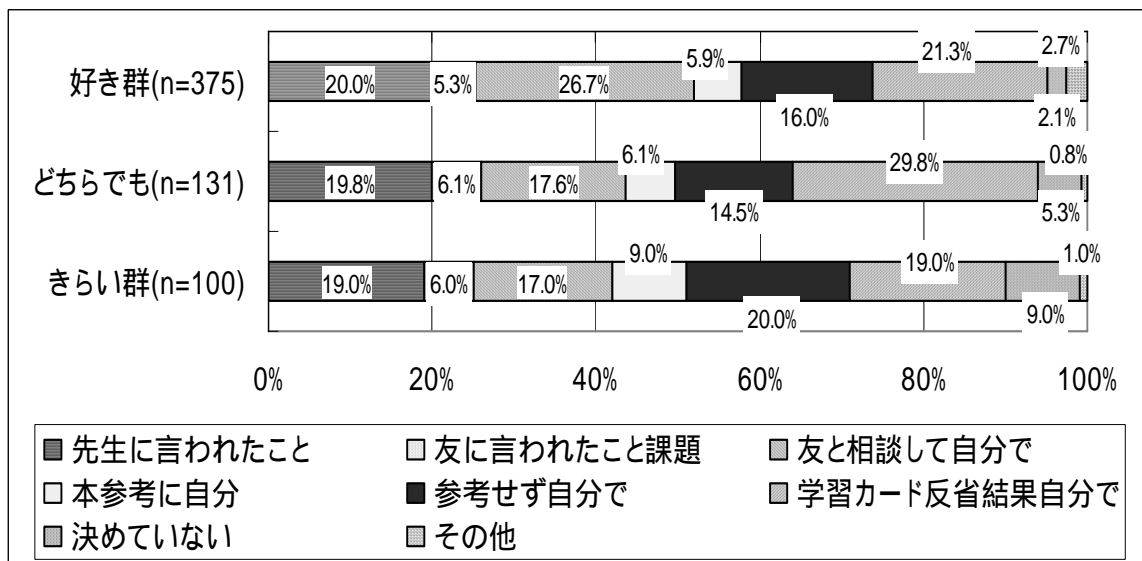
*** p<0.001

図3 - 69 3群 × 自分の課題の決め方 (3年生男子)



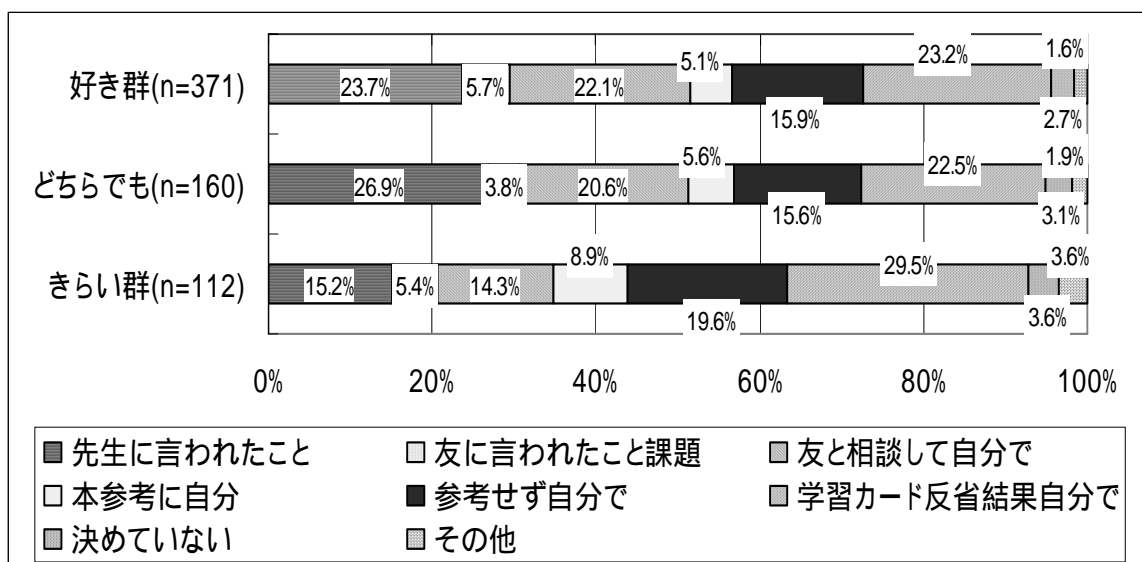
* p<0.05

図3 - 70 3群 × 自分の課題の決め方 (1年生女子)



* p<0.05

図3 - 71 3群×自分の課題の決め方(2年生女子)



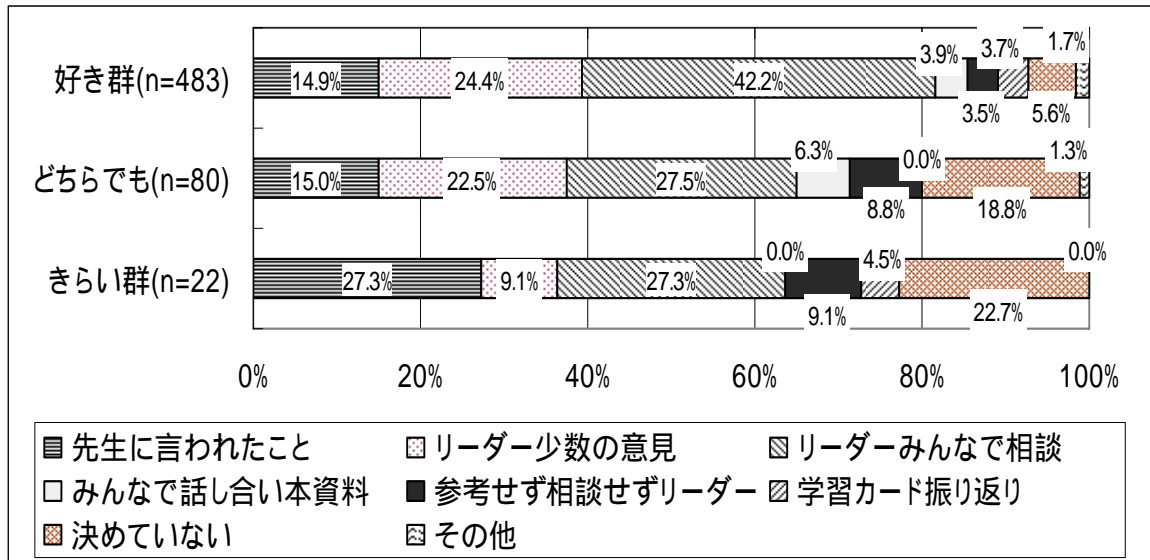
n s

図3 - 72 3群×自分の課題の決め方(3年生女子)

男子2年生、女子3年生で有意な差がみられなかった。
 女子1・2年生の「友達と相談して自分で決める」は「好き群」が多く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって、少なくなっていくのがわかった。

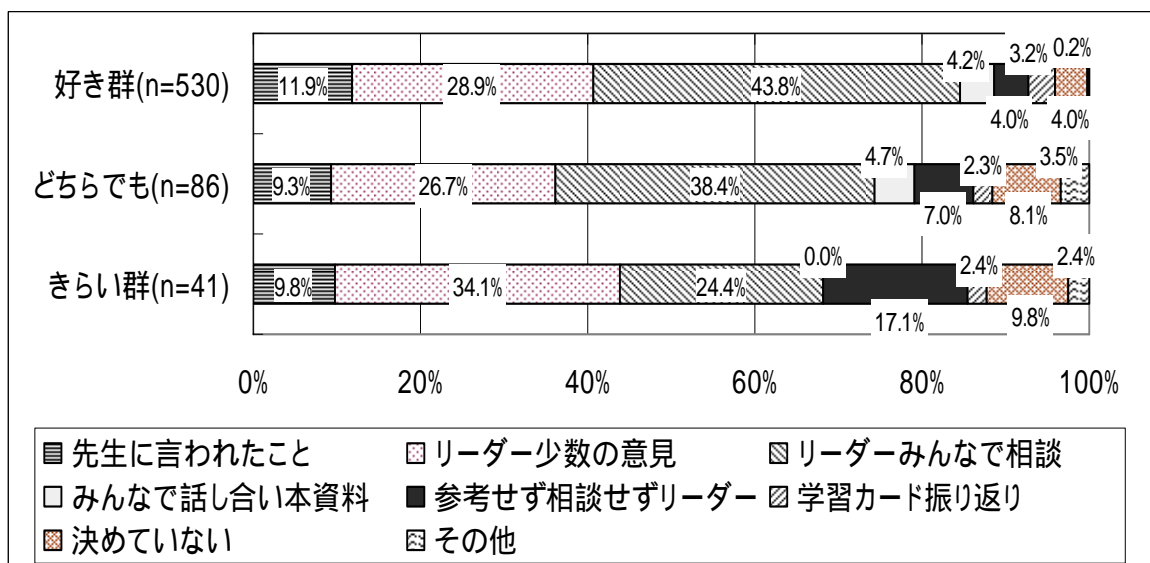
サ チームの課題をどのように決めるのか？

3群×〔問8 あなたは、体育の学習で、グループやチームの課題（めあて）をどのようにして決めますか（単一回答）〕



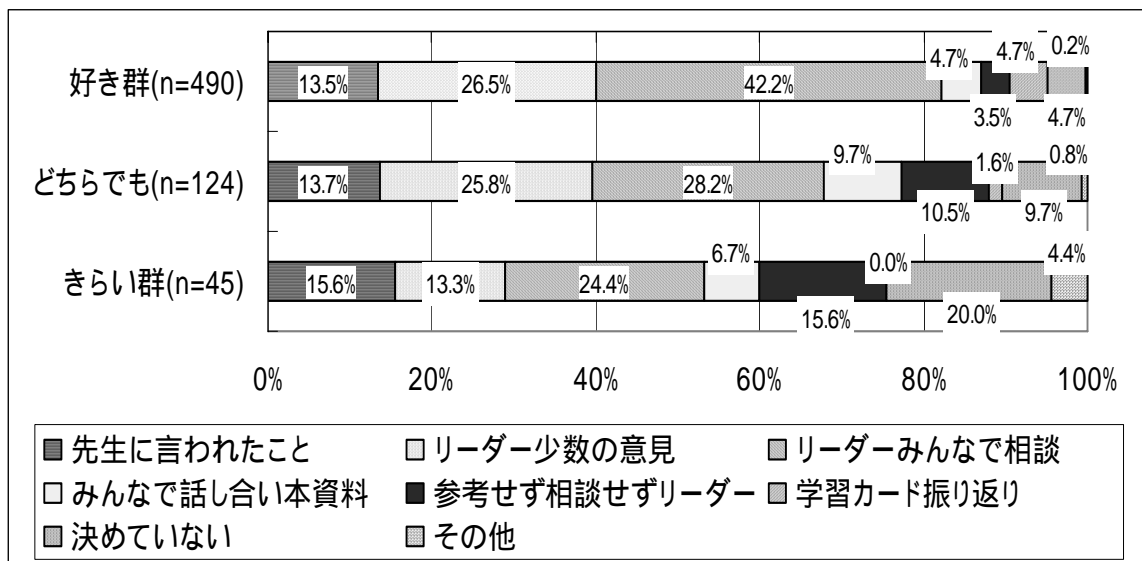
*** p<0.001

図3 - 73 3群×チームの課題の決め方（1年生男子）



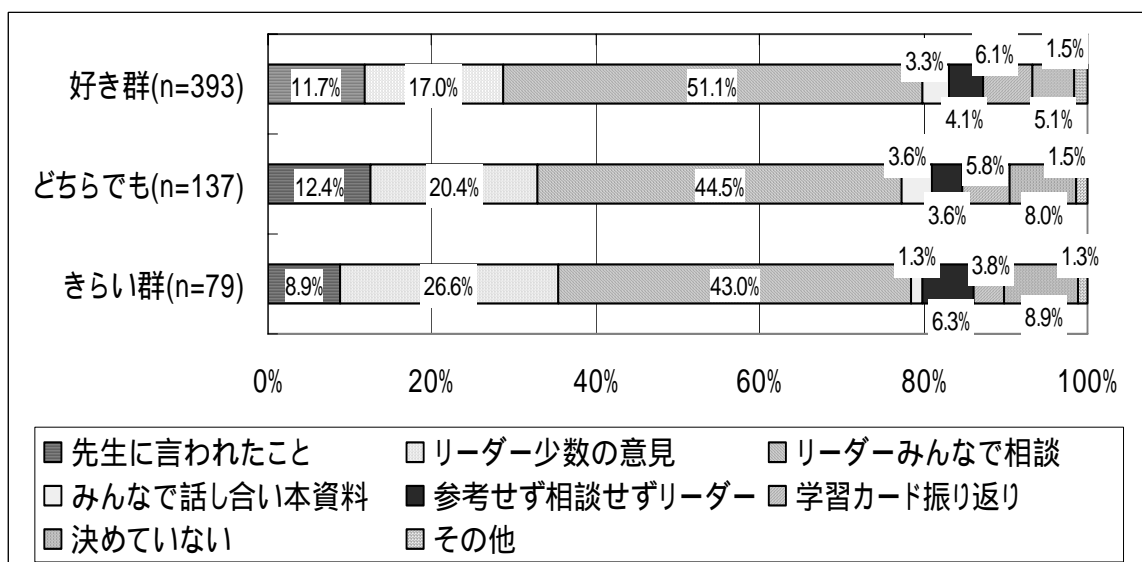
* p<0.05

図3 - 74 3群×チームの課題の決め方（2年生男子）



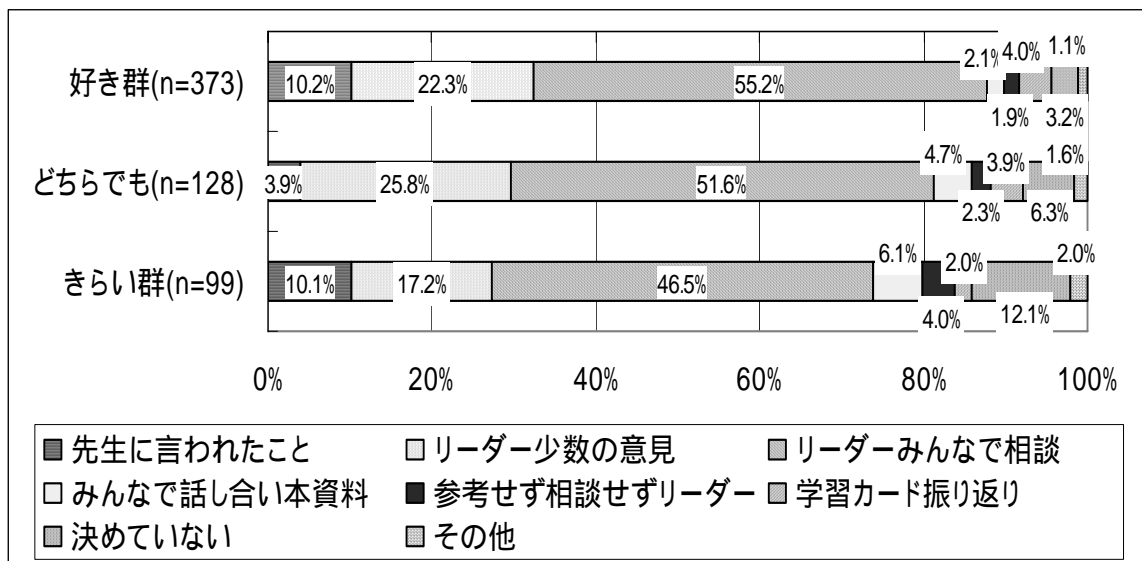
*** p<0.001

図3 - 75 3群×チームの課題の決め方(3年生男子)



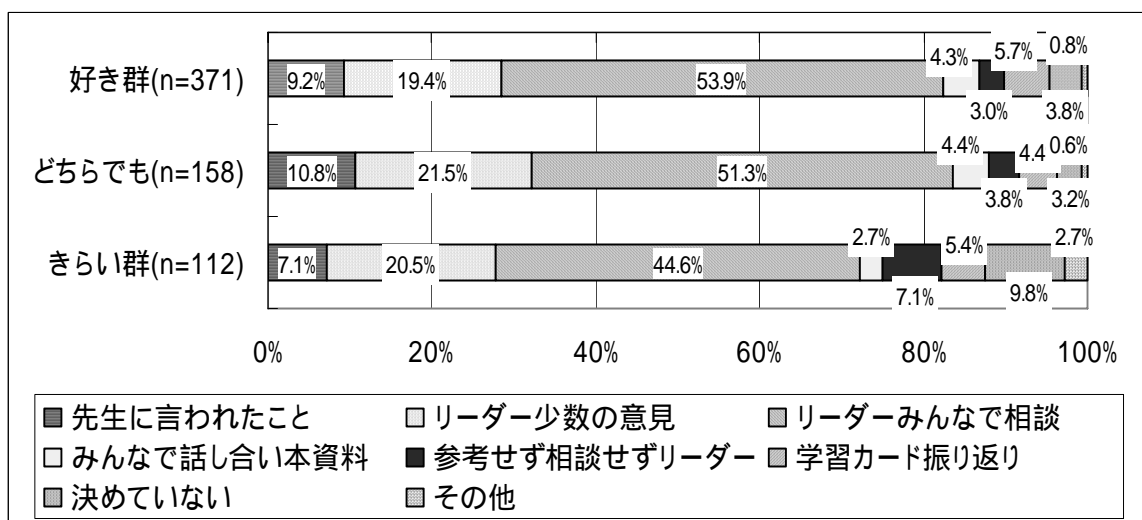
n s

図3 - 76 3群×チームの課題の決め方(1年生女子)



* p<0.05

図3 - 77 3群×チームの課題の決め方（2年生女子）



n s

図3 - 78 3群×チームの課題の決め方（3年生女子）

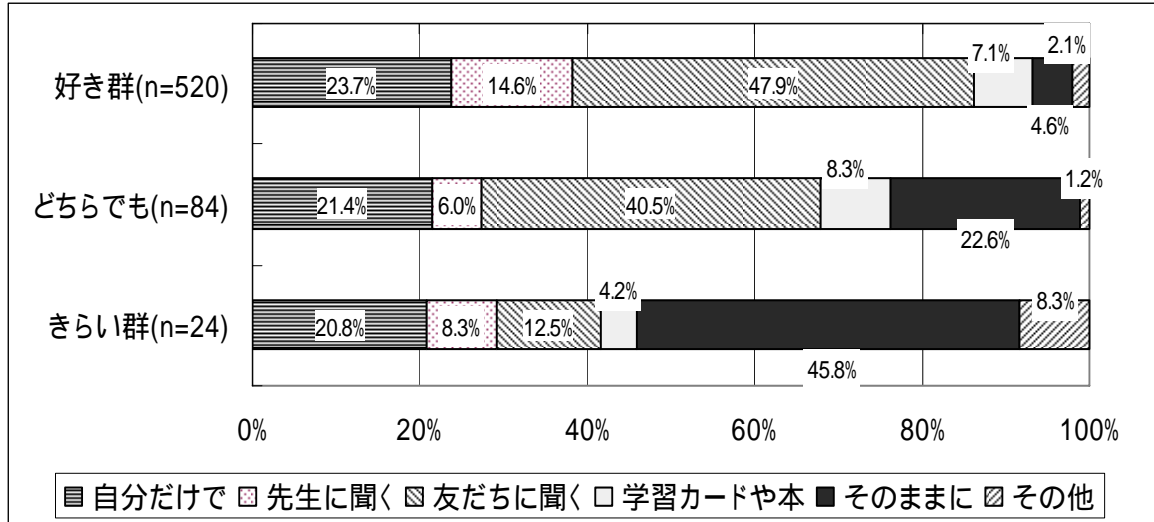
女子の1・3年生に有意な差がみられなかった。

各学年男女ともに「リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」は、「好き群」が多く、「どちらでもない」「きらい群」になるにしたがって少なくなっているのがわかった。

各学年男女ともに「何にも参考にせず、相談もしないでリーダー（または誰か）が決めている」と「わからないので決めていない」は、「好き群」が1番少なく、「どちらでもない」「きらい群」と多くなっているのがわかった。

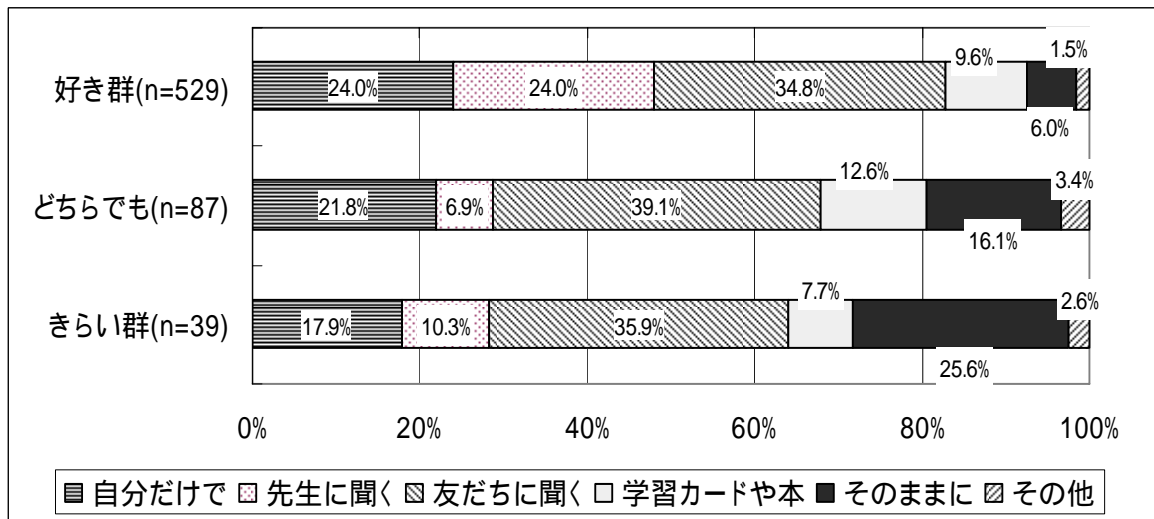
課題がうまく達成できないとき

3群×〔問9 あなたは、体育の学習で、課題（めあて）がうまく達成できないとき、どうしますか（単一回答）〕



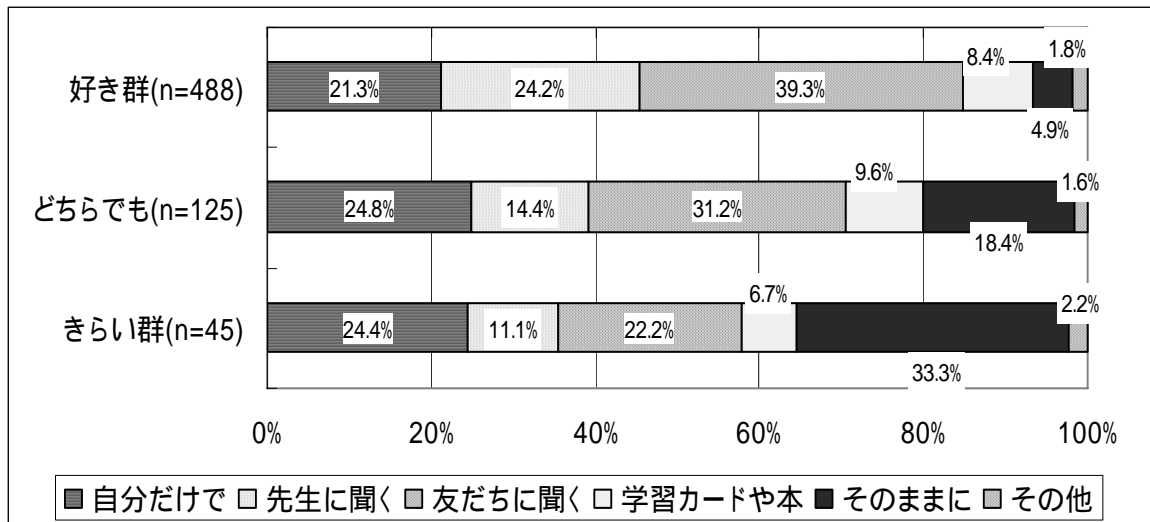
*** p<0.001

図3 - 79 3群×課題が達成できないとき（1年生男子）



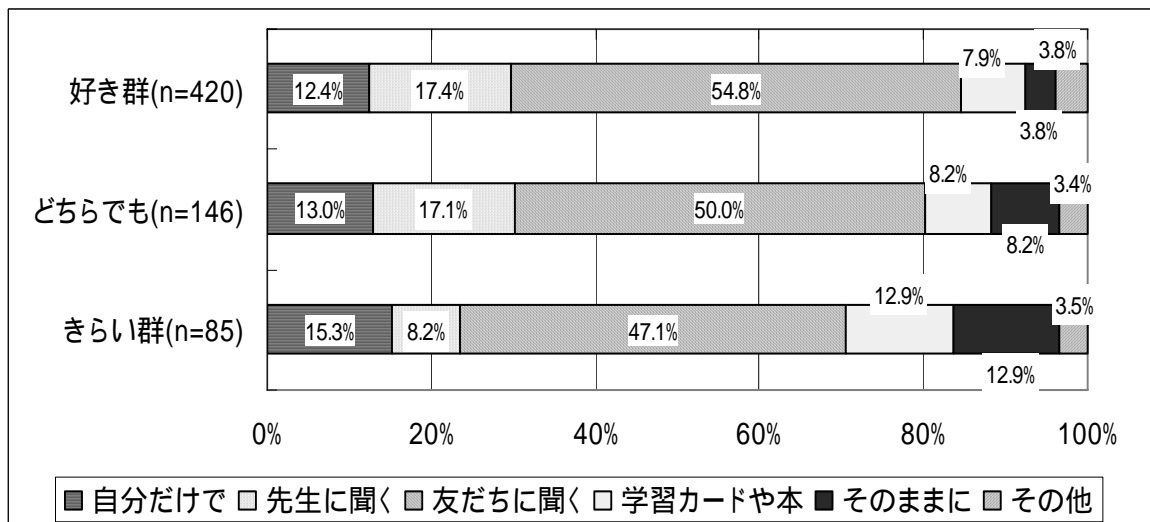
*** p<0.001

図3 - 80 3群×課題が達成できないとき（2年生男子）



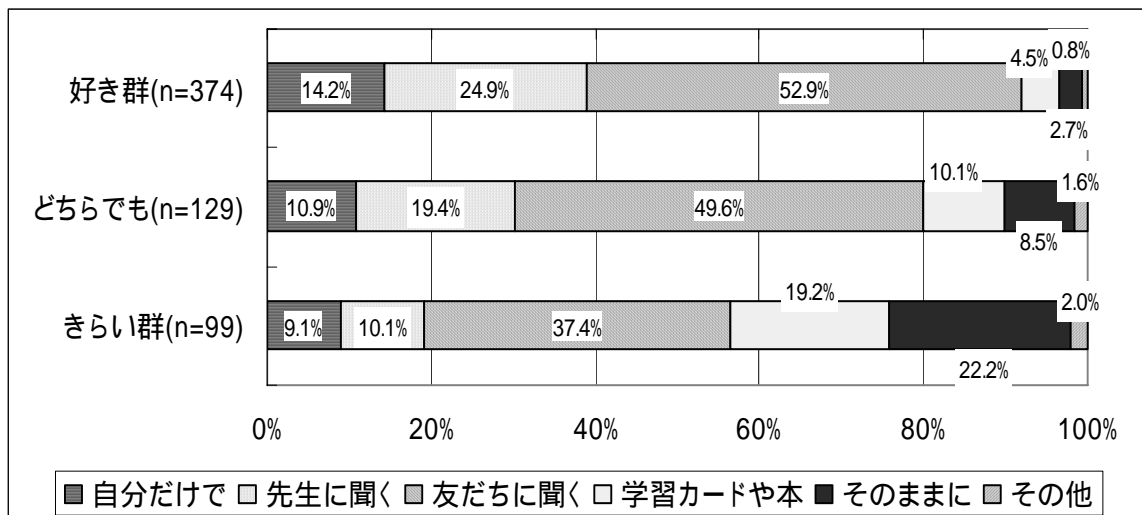
*** p<0.001

図3 - 81 3群 × 課題が達成できないとき (3年生男子)



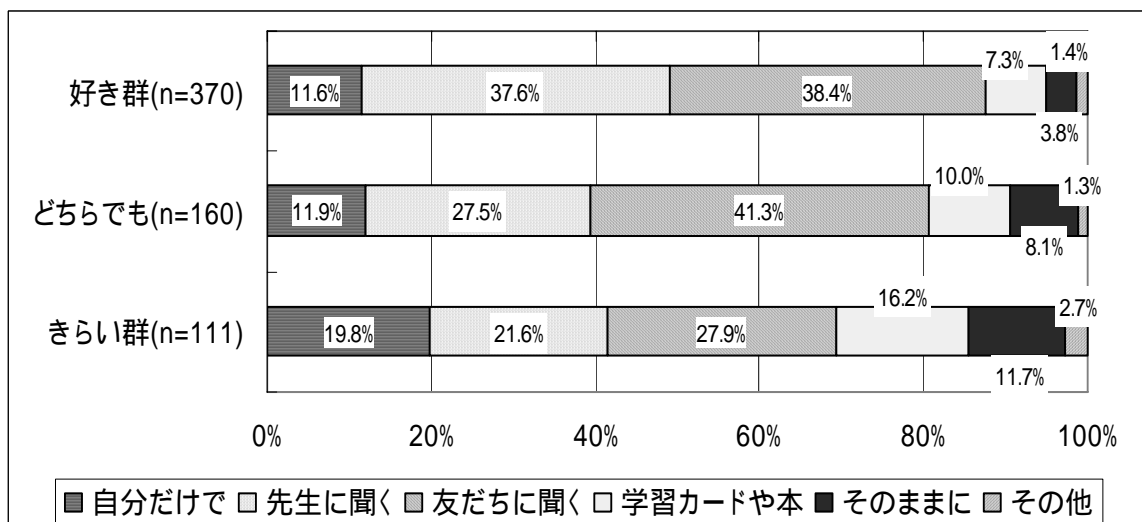
* p<0.05

図3 - 82 3群 × 課題が達成できないとき (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 83 3群 × 課題が達成できないとき (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 84 3群 × 課題が達成できないとき (3年生女子)

各学年男女ともに「わからないのでだいたいそのままにしておく」が、「好き群」が一番少なく、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって多くなっているのがわかった。

女子の「先生に直接聞いたり、学習カード(ノート)で質問したりする」は、「好き群」が一番多く、「どちらでもない」「きれい群」になるにしたがって減少していることがわかった。

コラム41

「課題が達成できないときクロス集計」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

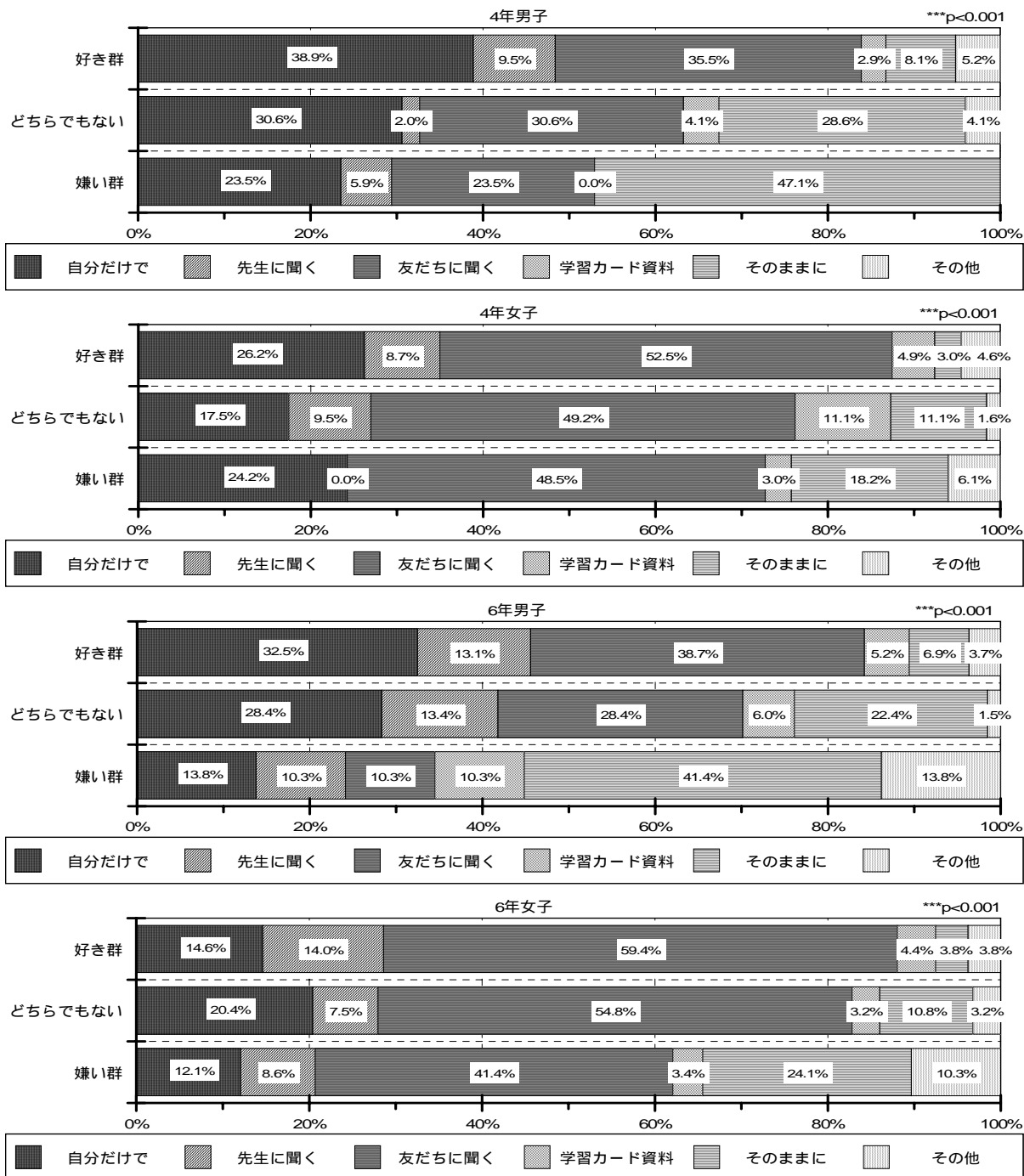


図 (11) 「課題が達成できないときクロス集計」小学生の意識 (平成17年度調査)

男女ともに「わからないのでだいたいそのままにしておく」が「好き群」よりも「どちらでもない」「嫌い群」と多くなっていくことが、小学生・中学生に共通していることがわかった。

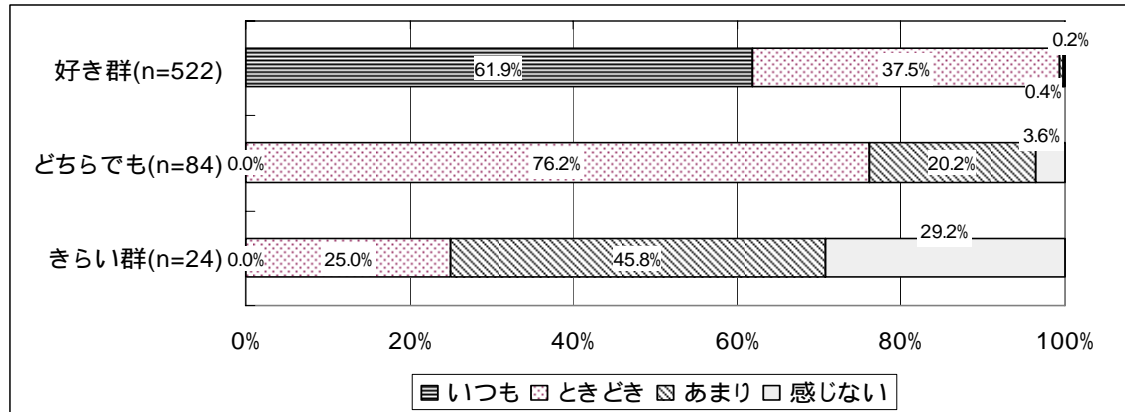
「課題解決を目指した学習への取り組み」とのクロス集計結果

課題の設定の仕方については、「友達と相談して自分で決める」が「好き群」で最も多く、「どちらでもない」「きらい群」になるにしたがって減少している。このことから、「どちらでもない」「きらい群」に他者とのかかわりが少なくなってしまう傾向が見られる。

課題がうまく達成できないときをみると、「好き群」から「きらい群」になるにしたがって、「わからないのでだいたいそのままにしておく」が多くなってきている。体育の学習が「好き」な生徒は課題を解決しようとする取り組みを見せるが、「きらい」な生徒には、その取り組みが見られないことがわかった。

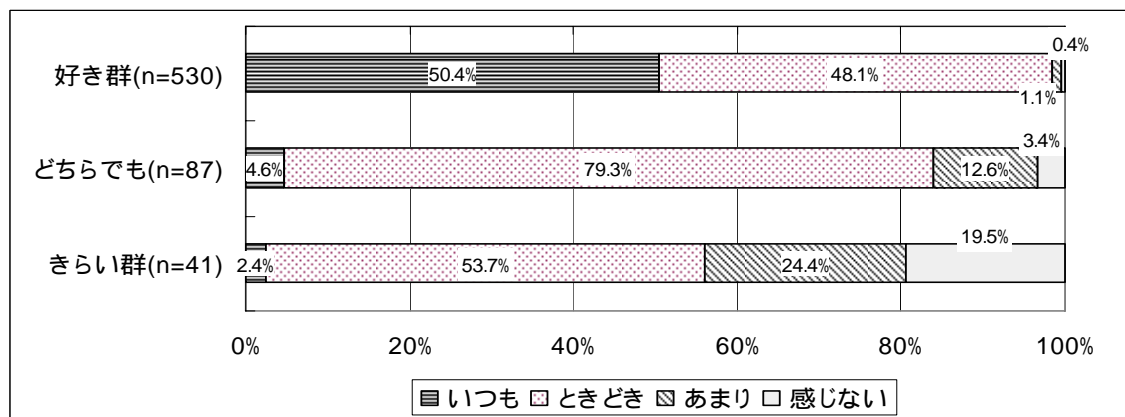
ス 体育の学習が楽しいと感じるときについて

3群×〔問10 あなたは、体育の学習が楽しいと感じたことがありますか
(単一回答)〕



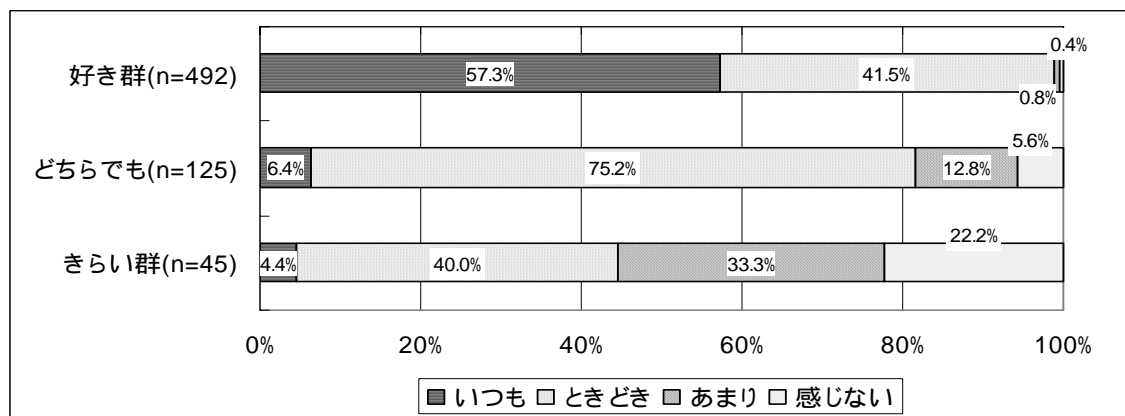
*** p<0.001

図3 - 85 3群×体育の学習が楽しいと感じたことがあるか(1年生男子)



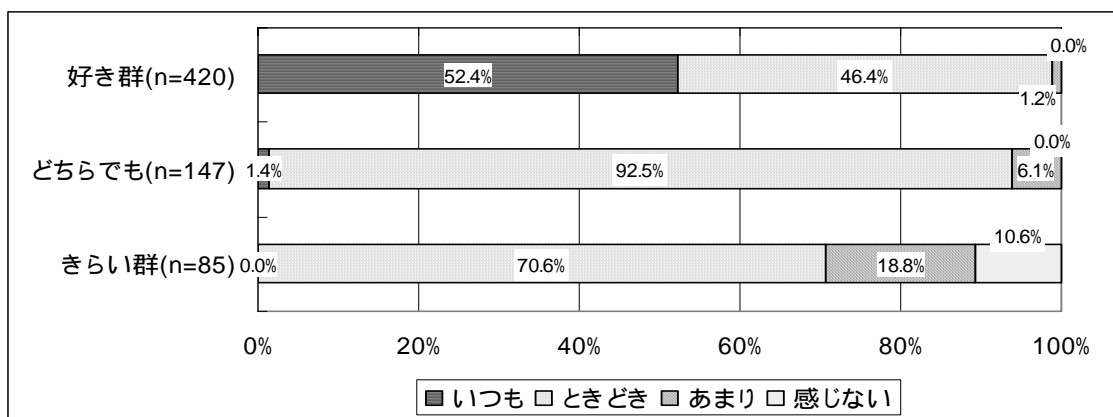
*** p<0.001

図3 - 86 3群×体育の学習が楽しいと感じたことがあるか(2年生男子)



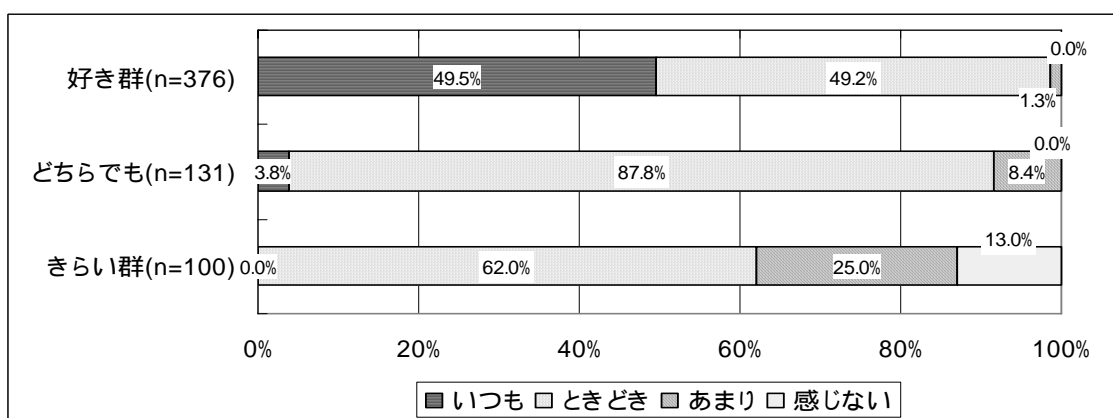
*** p<0.001

図3 - 87 3群×体育の学習が楽しいと感じたことがあるか(3年生男子)



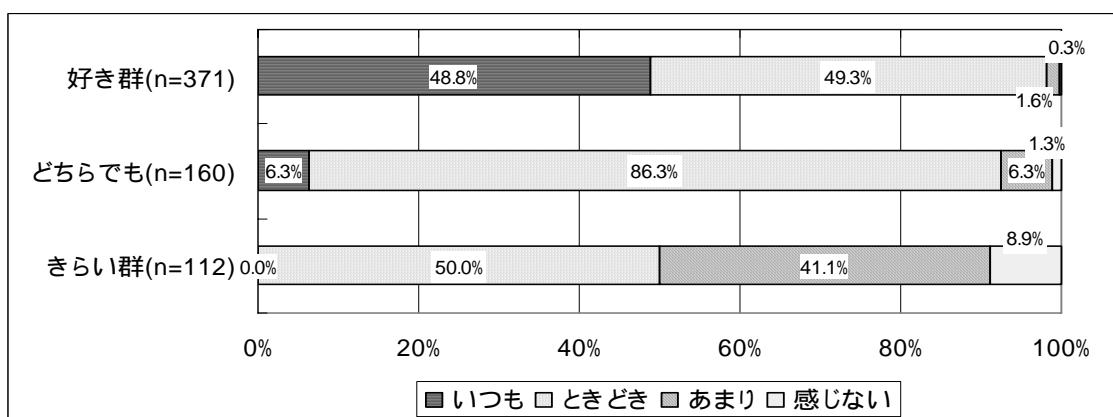
*** p<0.001

図3 - 88 3群 × 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 89 3群 × 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 90 3群 × 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか (3年生女子)

体育の学習が楽しいと感じたことがありますかとたずねたところ、「好き群」で体育の学習が「いつも感じる」と「時々感じる」を合わせた(以下「感じる群」という。)の割合は、男女とも全学年で98%以上であった。

「きらい群」の「感じる群」は、男子1年生25.0%、2年生56.1%、3年生44.4%で、女子1年生70.6%、2年生62.0%、3年生50.0%であった。

コラム25

「体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

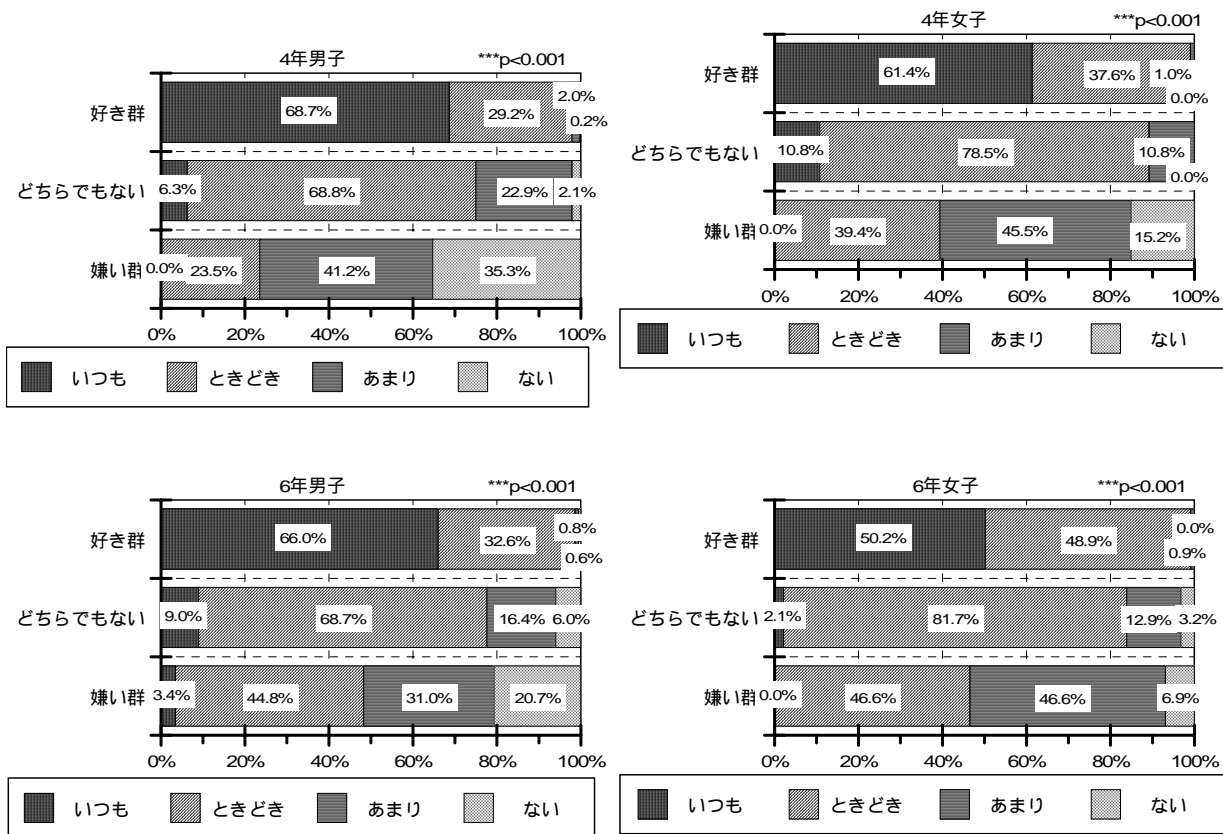
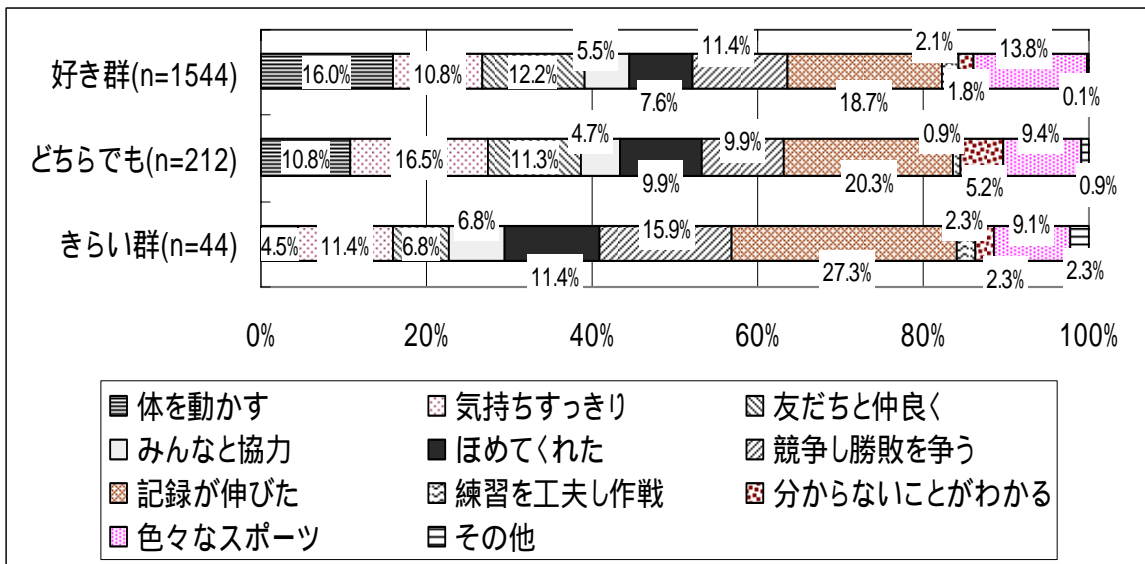


図 (3) 「体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」小学生の意識(平成17年度調査)

小学生・中学生を通じて、体育の学習が「好き群」の児童生徒は、いつも体育の学習が「楽しい」と感じていることがわかった。一方「嫌い群」の児童生徒の中にも体育の学習が「楽しい」と感じたことのある生徒がかなりの割合でいることがわかった。

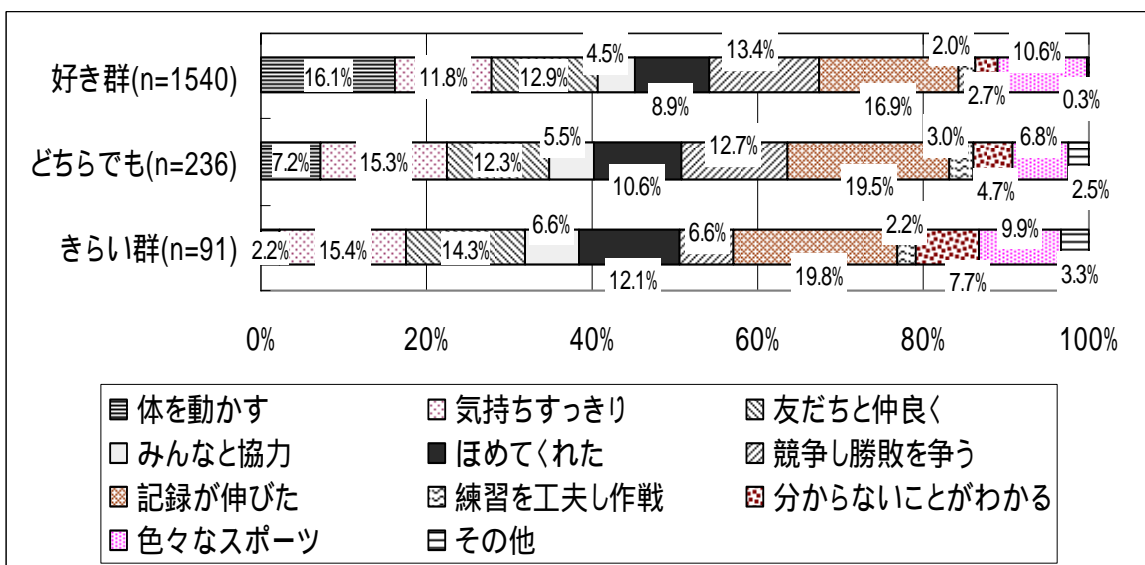
セ 体育の学習で楽しいと感じるとき

3群×〔問11 今まで体育の学習で「楽しい」と感じたのはどんなときですか (3つまで回答)〕



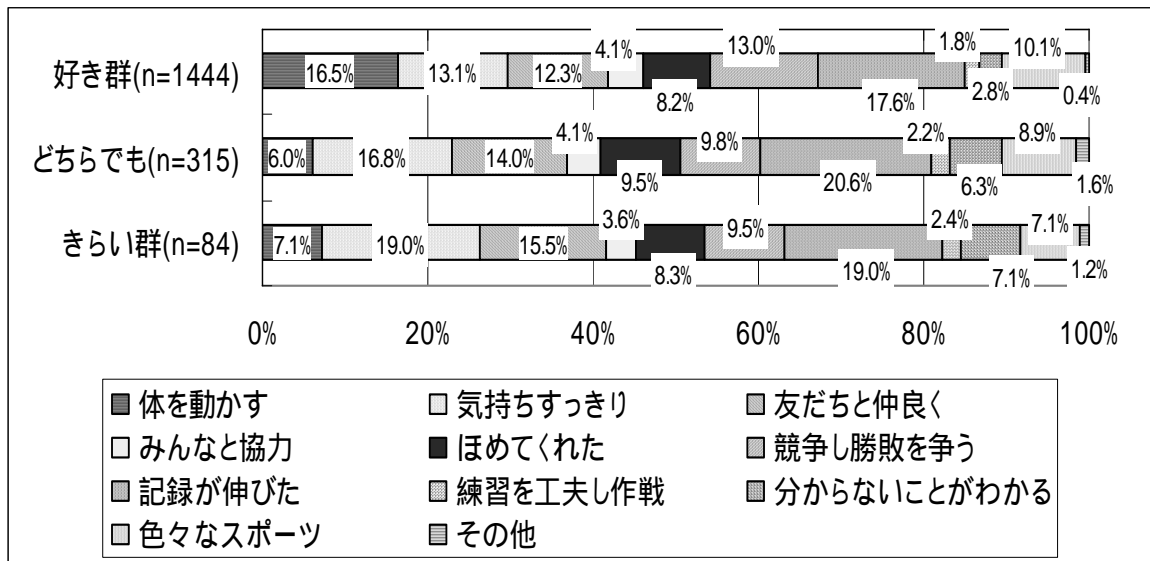
*** p<0.001

図3 - 91 3群×体育が楽しいと感じるとき(1年生男子)



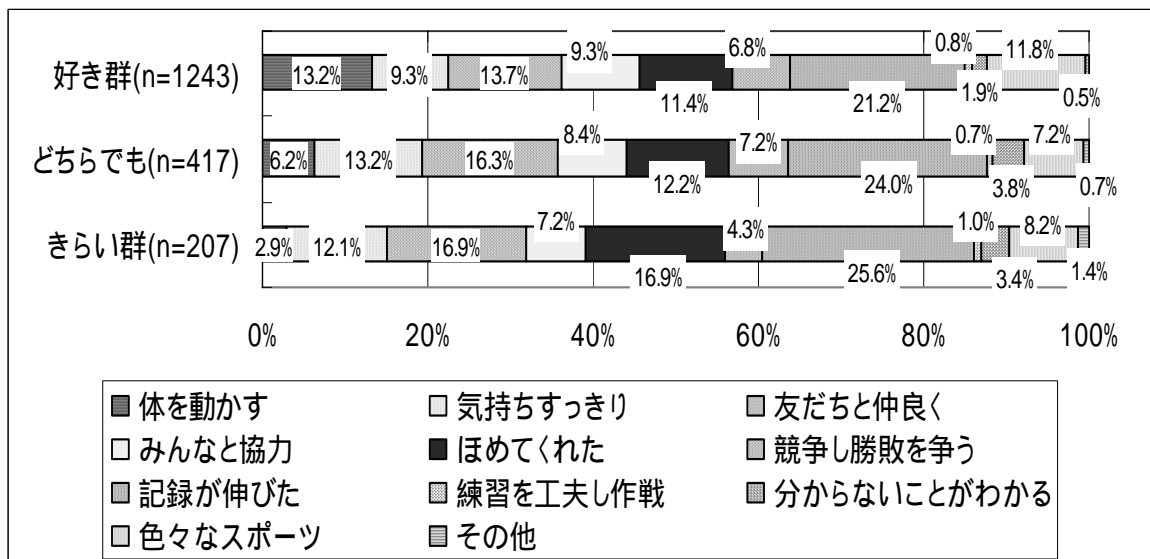
*** p<0.001

図3 - 92 3群×体育が楽しいと感じるとき(2年生男子)



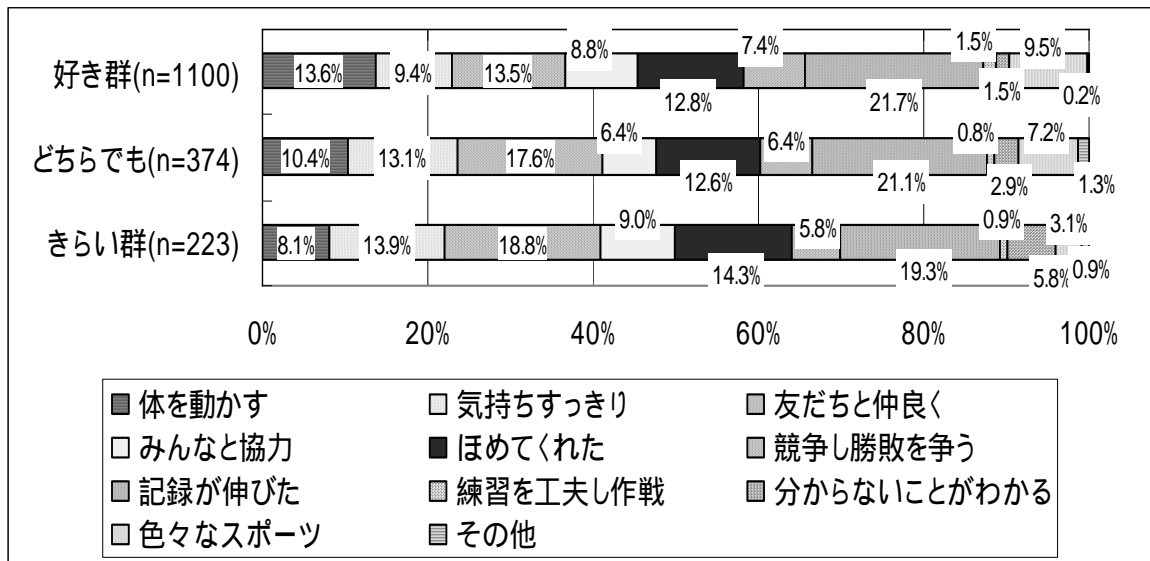
** p<0.01

図3 - 93 3群 × 体育が楽しいと感じるとき (3年生男子)



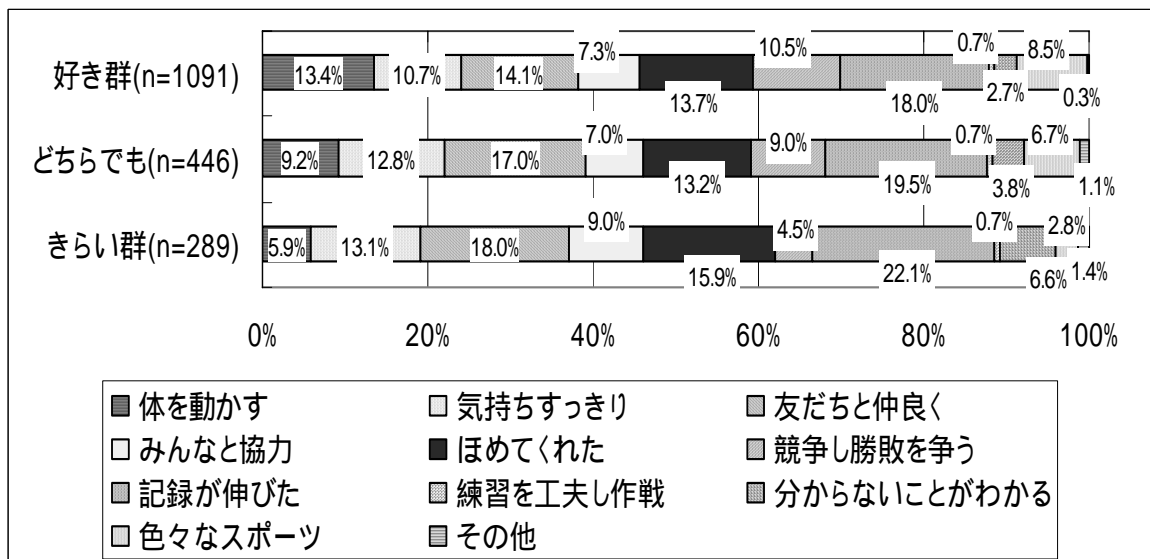
*** p<0.001

図3 - 94 3群 × 体育が楽しいと感じるとき (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 95 3群×体育が楽しいと感じるとき(2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 96 3群×体育が楽しいと感じるとき(3年生女子)

「好き群」「きれい群」で差のあった項目は、「思いきり身体を動かすことができたとき」で、各学年男女ともに「好き群」が1番多く、「どちらでもない」「きれい群」と減少していることがわかった。

また、「記録が伸びたり、できなかったことができるようになったりしたとき」が「好き群」「どちらでもない」「きれい群」に関係なく、「楽しい」と感じていることがわかった。

コラム26

「体育が楽しいと感じるとき」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

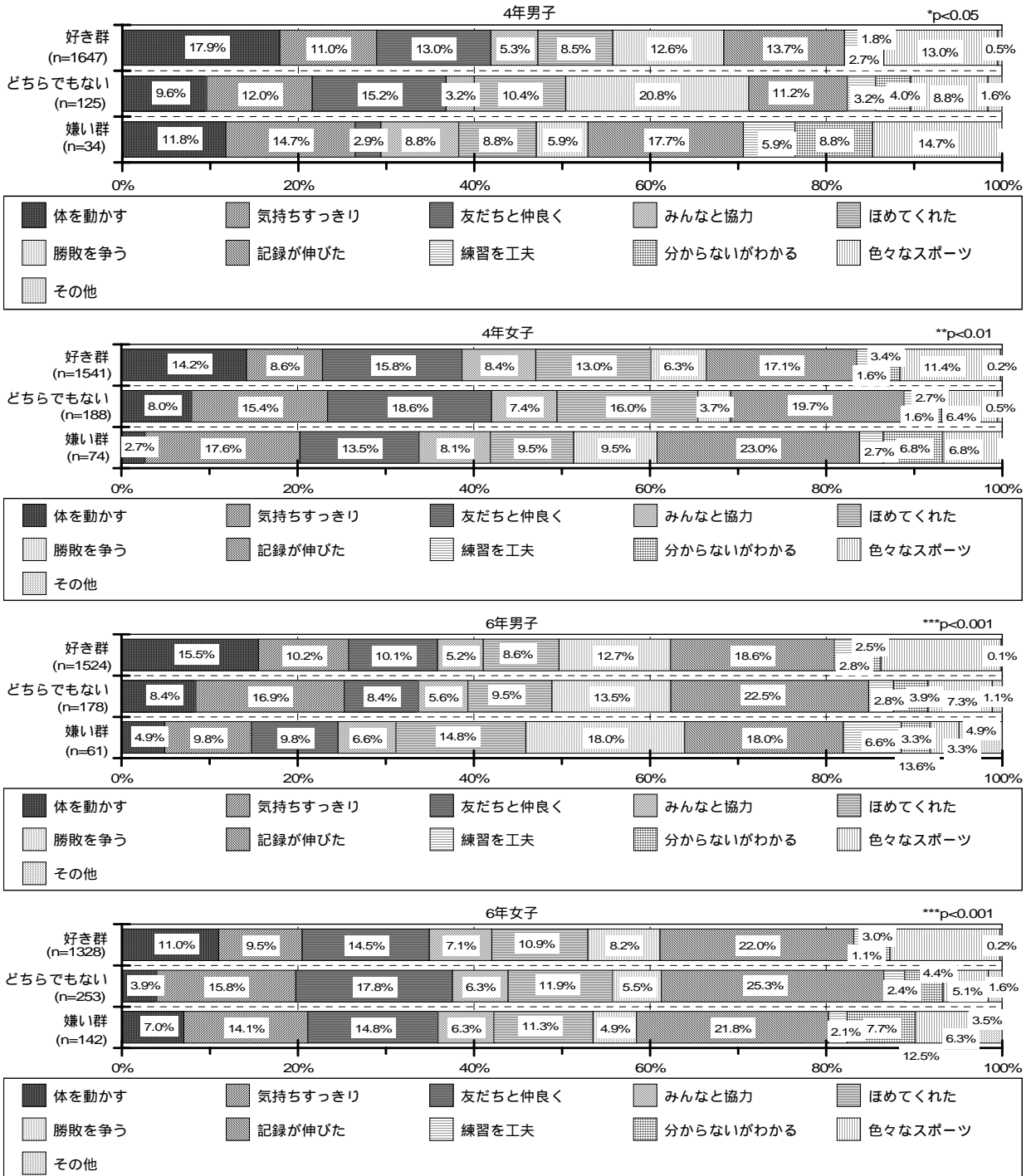
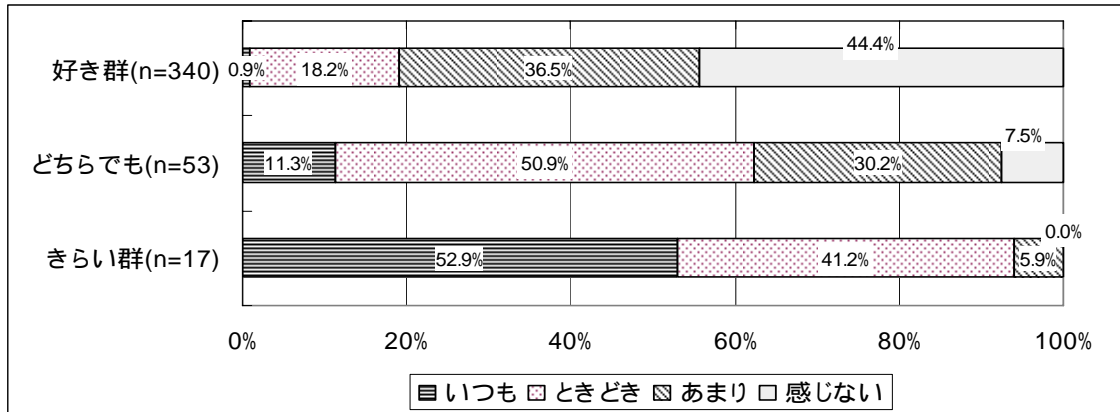


図 (4) 「体育の学習が楽しいと感じるとき」小学生の意識(平成17年度調査)

4年生の男子を除いては、すべての「好き群」「きらい群」にかかわらず、「記録が伸びたり、できないことができるようになったり」が最高位であった。

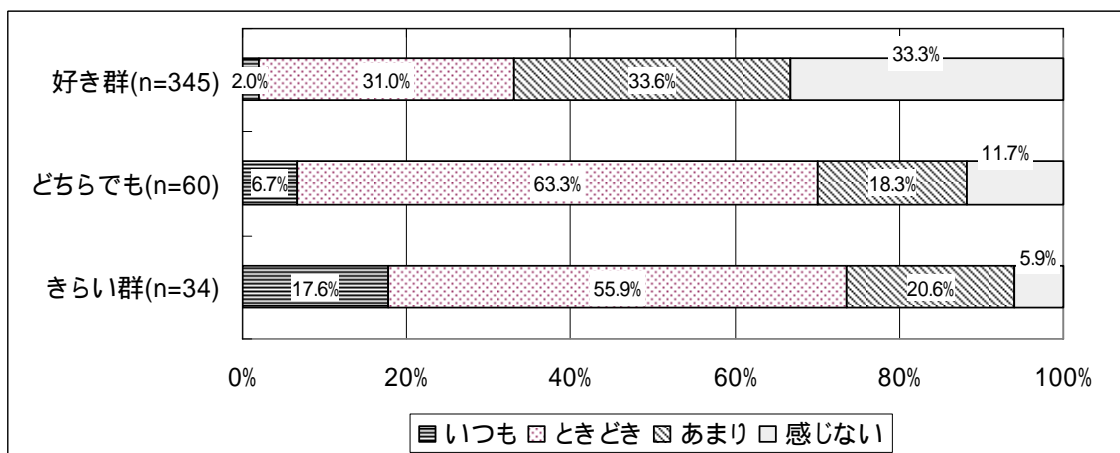
ソ 体育の学習がつまらないと感じるときについて

3群×〔問12 あなたは、体育の学習がつまらないと感じたことがありますか
(単一回答)〕



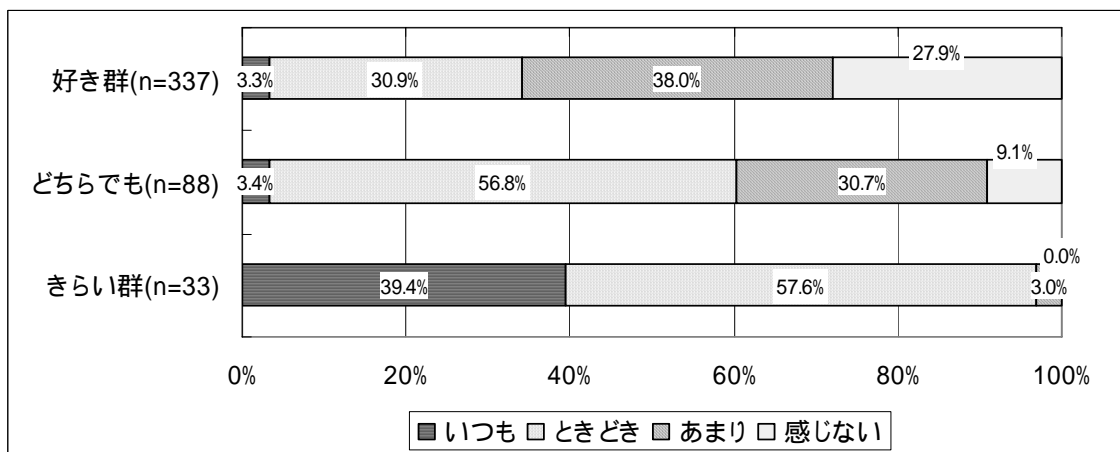
*** p<0.001

図3 - 97 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(1年生男子)



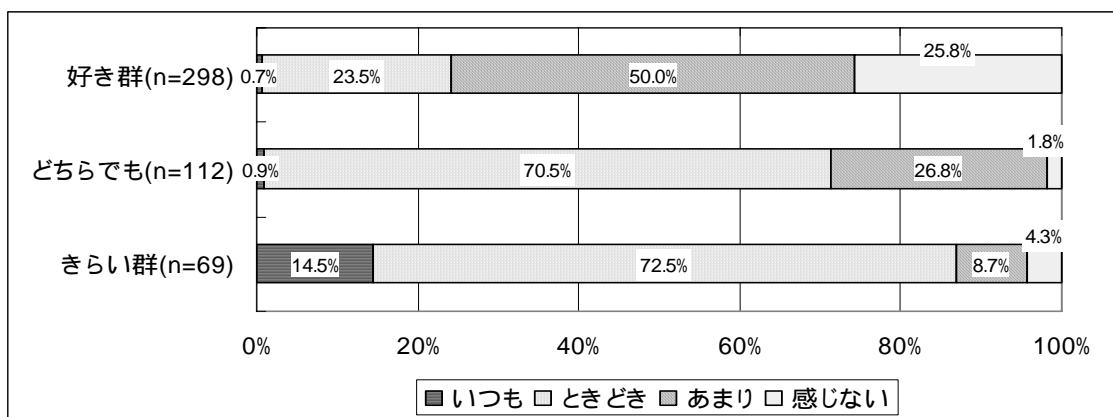
*** p<0.001

図3 - 98 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(2年生男子)



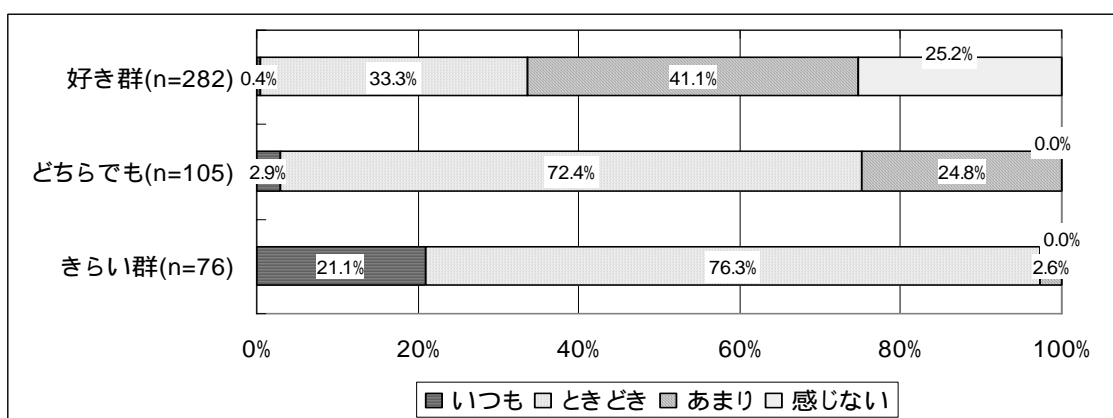
*** p<0.001

図3 - 99 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか(3年生男子)



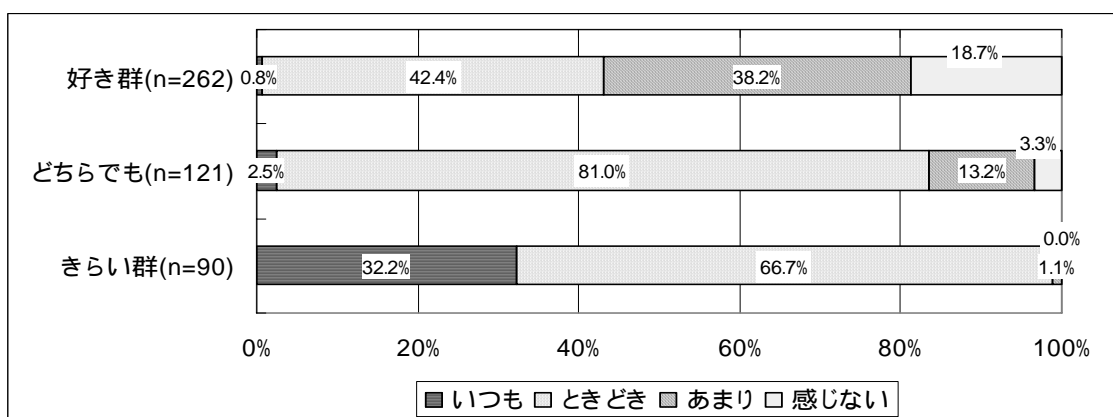
*** p<0.001

図3 - 100 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか（1年生女子）



*** p<0.001

図3 - 101 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか（2年生女子）

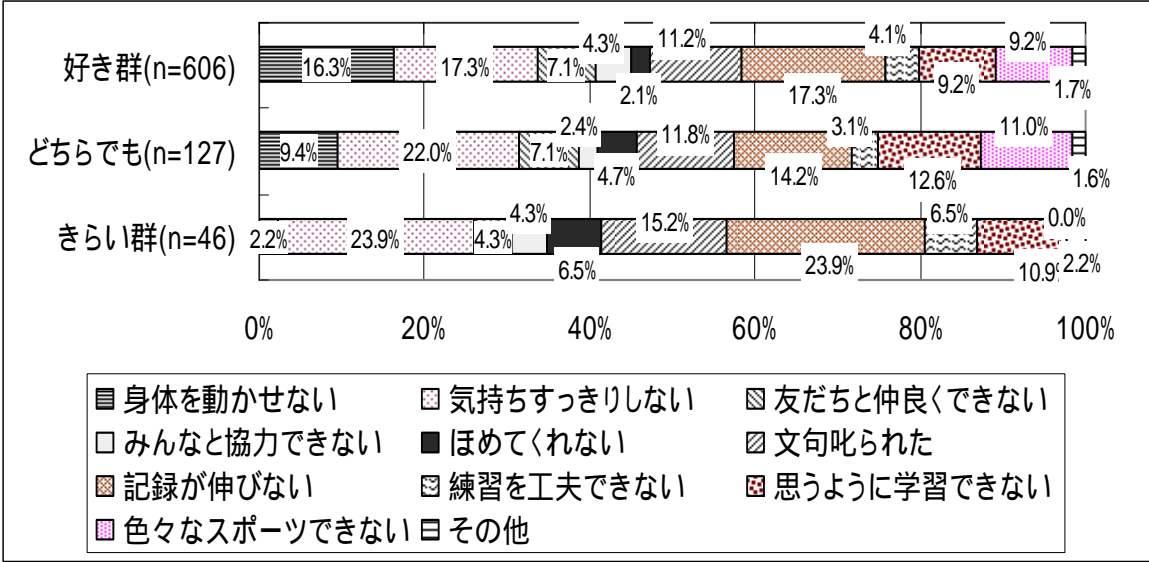


*** p<0.001

図3 - 102 3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか（3年生女子）

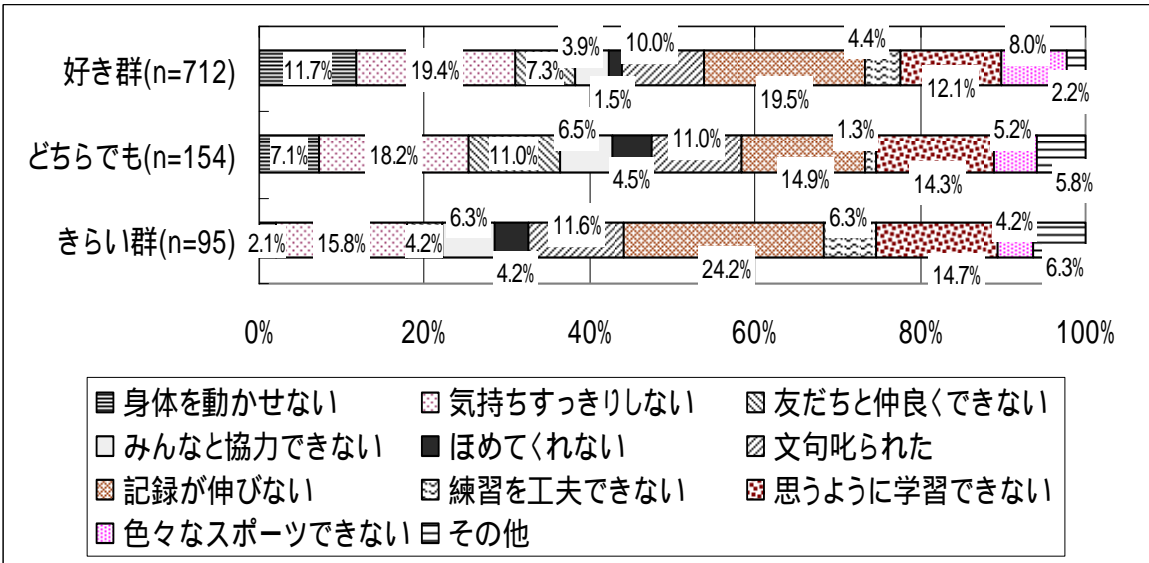
あなたは体育の学習がつまらないと感じたことがあるかとたずねたところ、「好き群」でも男子1年生19.1%、2年生33.0%、3年生34.2%、女子1年生24.2%、2年生33.7%、3年生43.2%であった。しかも、学年進行にともなって増加していることがわかった。

3群 × 〔問13 今まで体育の学習で「つまらない」と感じたのはどんなときですか (3つまで回答)〕



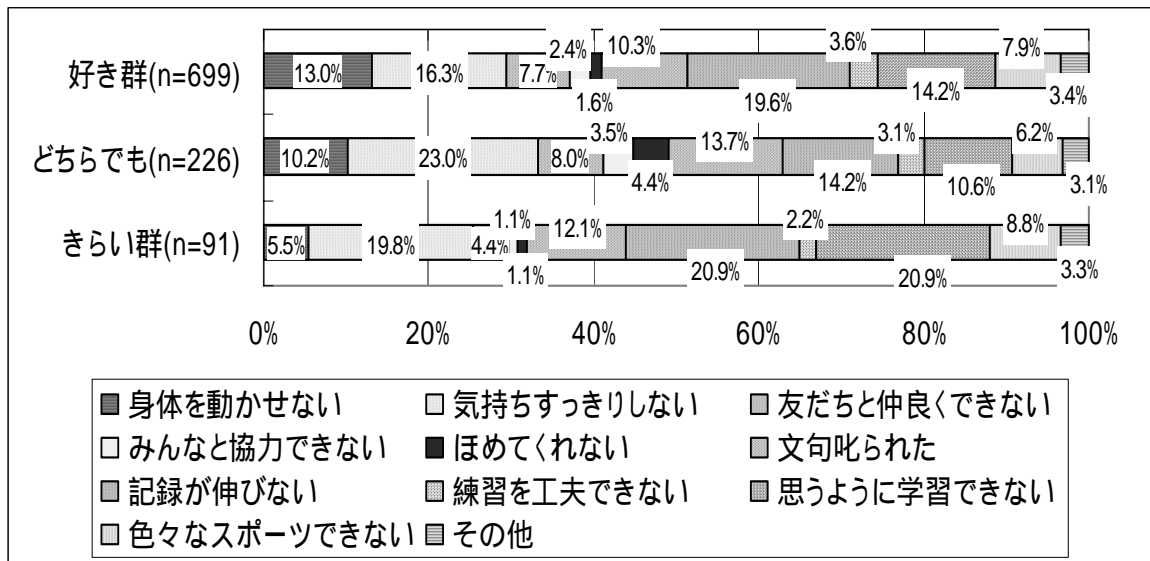
* p<0.05

図3 - 103 3群 × 体育の学習がつまらなさと感じる時 (1年生男子)



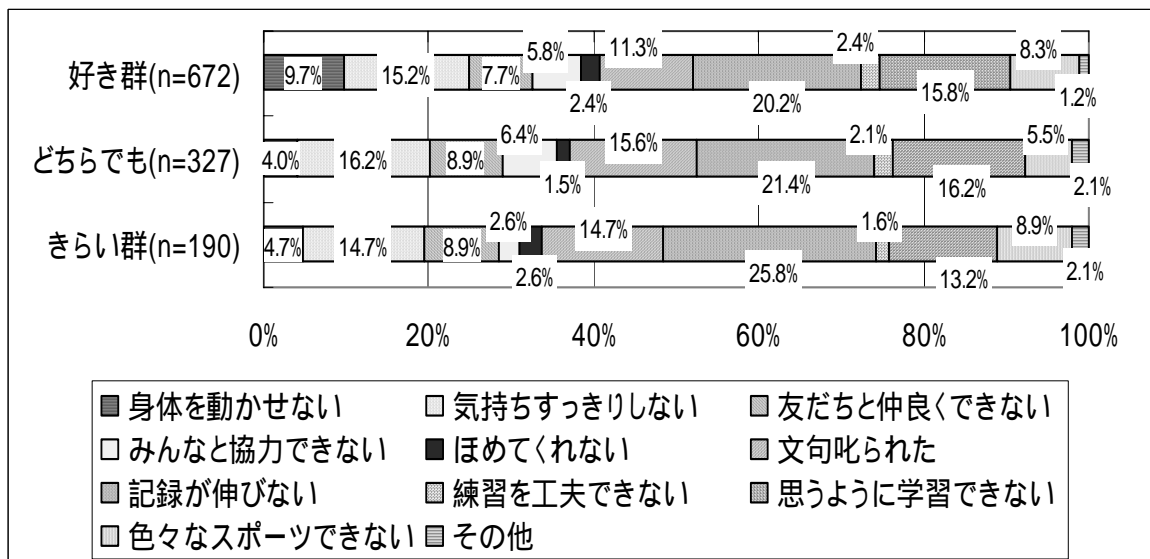
n s

図3 - 104 3群 × 体育の学習がつまらなさと感じる時 (2年生男子)



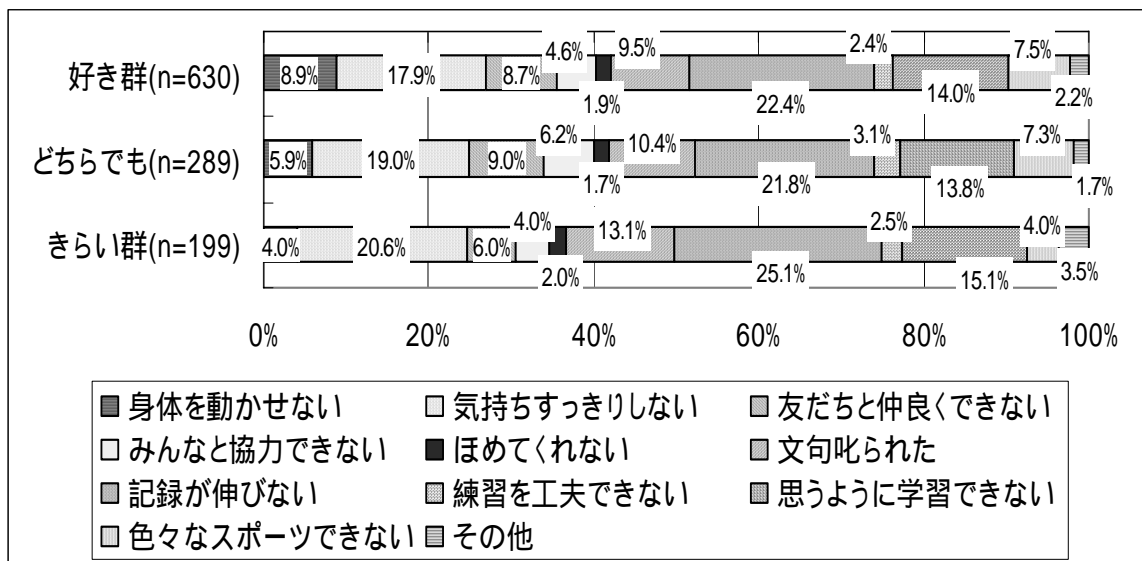
n s

図 3 - 105 3 群 × 体育の学習がつまらないと感じるとき (3 年生男子)



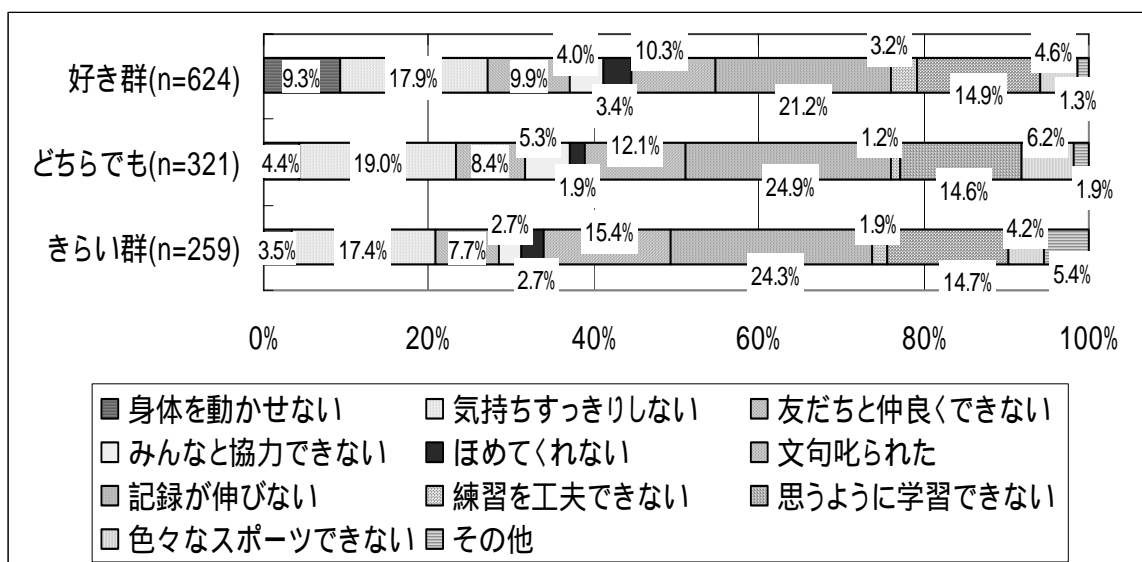
n s

図 3 - 106 3 群 × 体育の学習がつまらないと感じるとき (1 年生女子)



n s

図 3 - 107 3群 × 体育の学習がつまらないと感じるとき (2年生女子)



** p<0.01

図 3 - 108 3群 × 体育の学習がつまらないと感じるとき (3年生女子)

2・3年生男子、1・2年生女子に優位な差が見られなかった。

「体育の学習が楽しい・つまらないと感じるとき」とのクロス集計結果

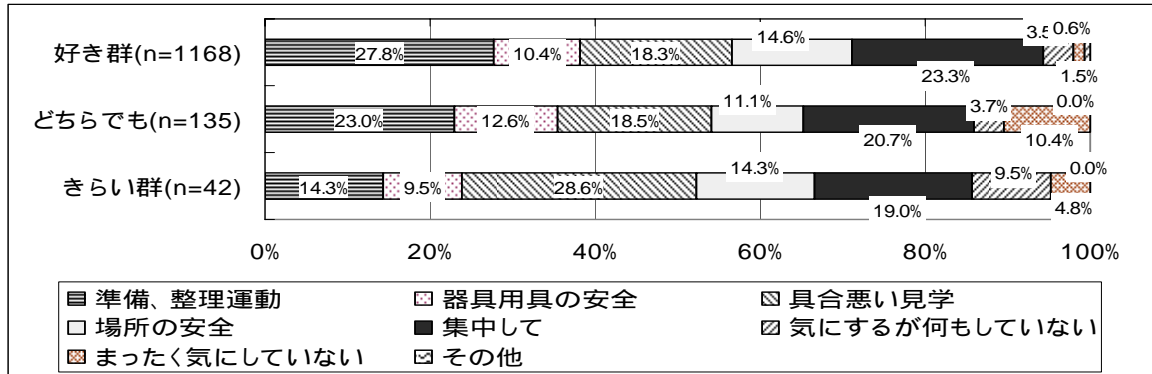
今回の結果から、体育の学習が「好き群」の中にも、時として「つまらない」と感じている生徒がいる一方で、体育の学習が「きれい群」の中にも、「楽しい」と感じる生徒がいることがわかった。

体育の学習が「楽しい」と感じる理由については、「記録が伸びたり、できないことができるようになったりしたとき」が「好き」「きれい」に関係なく全学年男女ともに最高位であった。

このことから、体育の学習において、成功経験を与え、運動有能感の「統制感（努力すれば、練習すればできるようになるという自信）」を高めてあげられるような取り組みが求められる。小学校・中学校を通じて、このような経験を多くさせることが必要である。

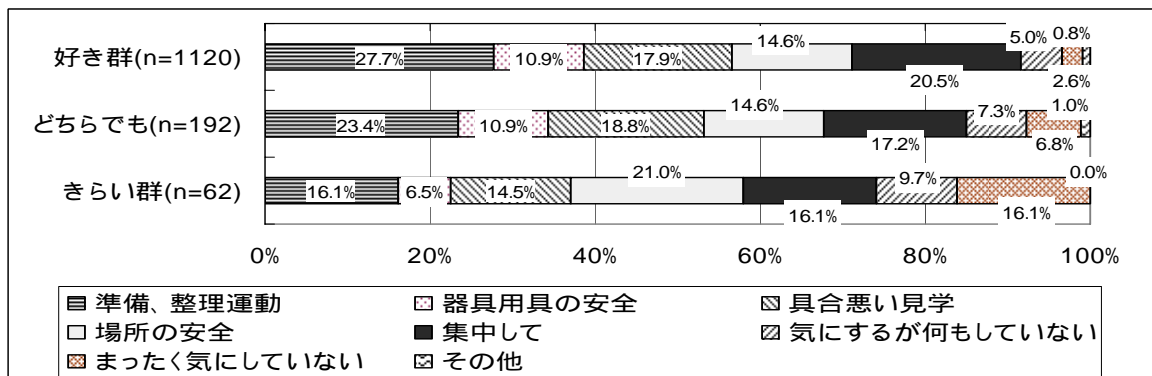
チ 安全面で心がけていることについて

3群×〔問14 あなたは、体育の学習で、けがをしないためにどんなことを心がけていますか（無制限回答）〕



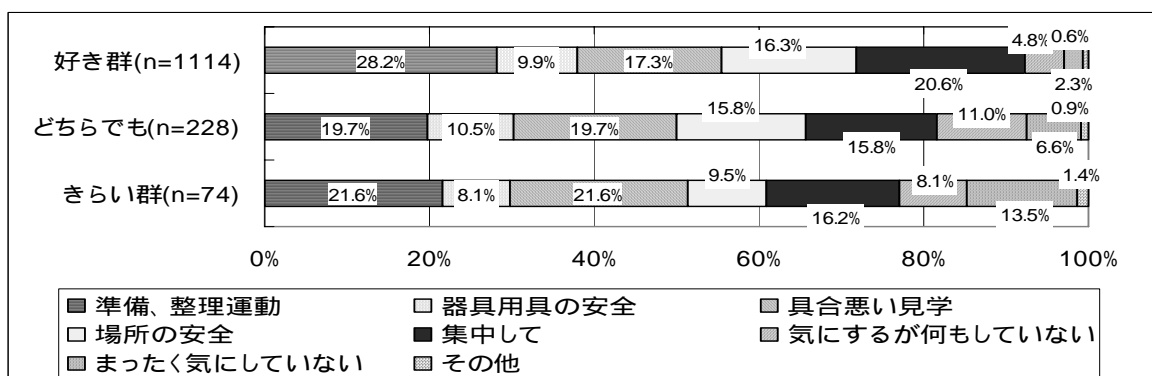
*** p<0.001

図3 - 109 3群×けがをしないために心がけていること（1年生男子）



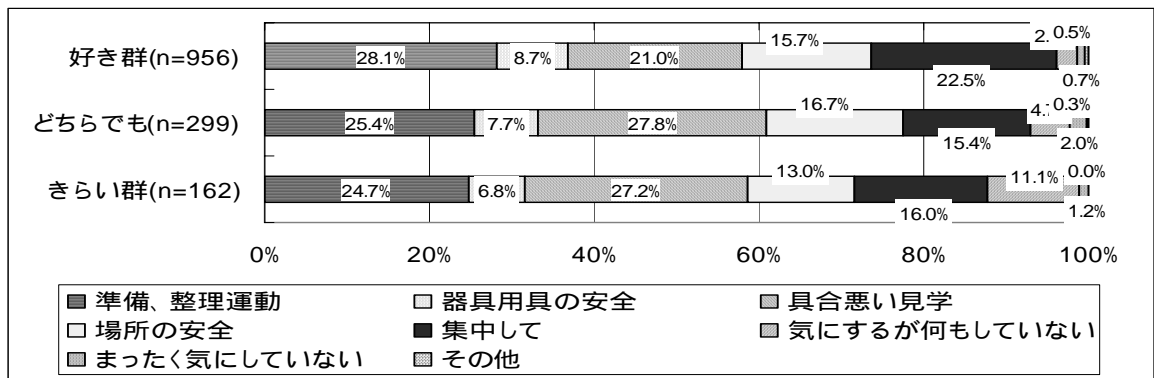
*** p<0.001

図3 - 110 3群×けがをしないために心がけていること（2年生男子）



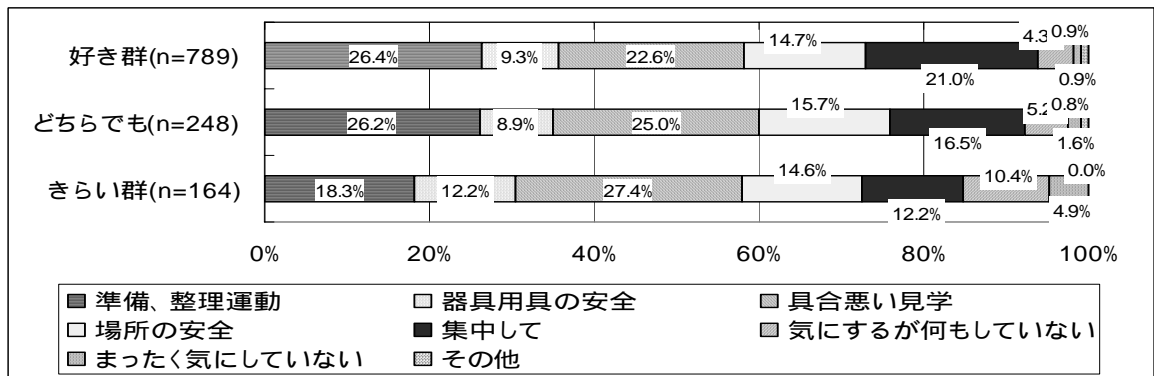
*** p<0.001

図3 - 111 3群×けがをしないために心がけていること（3年生男子）



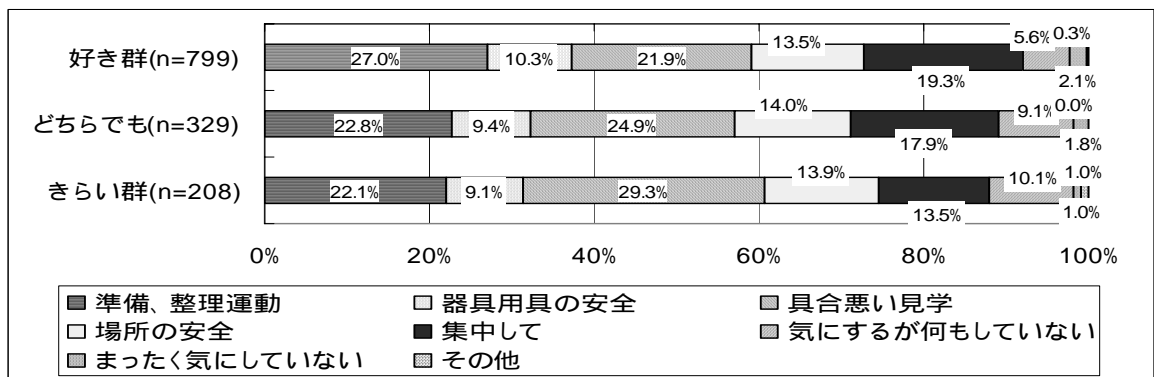
*** p<0.001

図3 - 112 3群×けがをしないために心がけていること(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 113 3群×けがをしないために心がけていること(2年生女子)



n s

図3 - 114 3群×けがをしないために心がけていること(3年生女子)

「準備運動や整理運動を十分している(以下「準備整理運動」という。)」「具合が悪いとき、病気やけがのときは見学するようにしている(以下「具合悪い見学」という。)」「気を抜かないで集中して取り組むようにしている(以下「集中して」という。)」「まわりの人や活動する場所の安全を確かめている(以下(場所の安全)という。)」の割合が多いことがわかった。

コラム27

「けがをしないために心がけていること」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

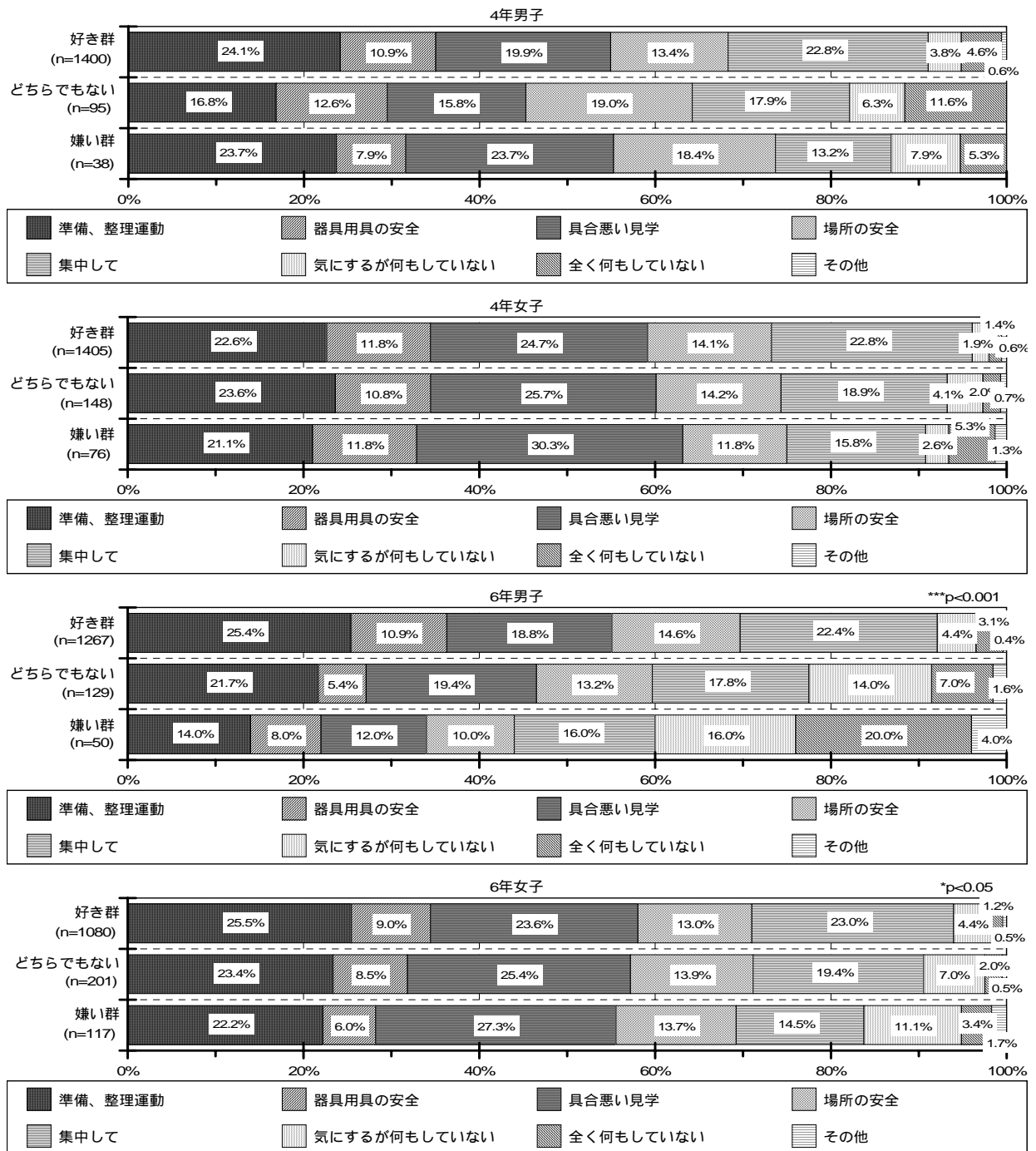


図 (16) 「けがをしないために心がけていること」小学生の意識 (平成17年度調査)

小学生・中学生を通じて「準備運動や整理運動を十分している」「具合が悪いとき、病気やけがのときは見学するようにしている」「気を抜かないで集中して取り組むようにしている」の割合が多く、それに比べて「使用する器具や用具の安全を確かめている (以下「器具用具の安全」という。)」が少ないことがわかった。

「けがをしないために心がけていること」とのクロス集計結果

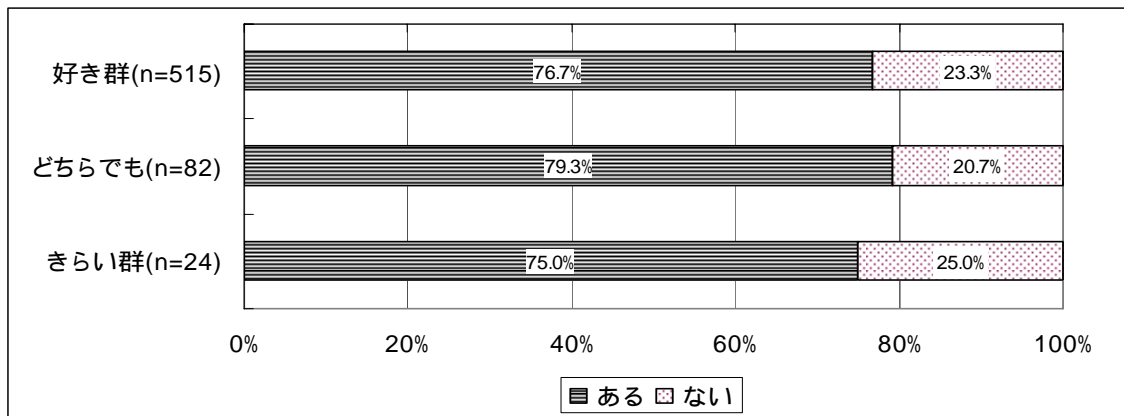
小学生・中学生を通じて、生徒は自分自身の体調やをよく考えながら、けがや事故の防止のために、気を抜かないで集中して授業に取り組んでいることがわかった。

しかし、「器具用具の安全」が各学年を通じて少ないことから、生徒に対し安全意識を高める指導を十分に行う必要がある。

「気にはしているが何もしていない」と「まったく気にしていない」の割合が、「好き群」から「どちらでもない」「嫌い群」と増加する傾向にあることから、「嫌い群」の生徒は、安全面の配慮に関しても取り組む意欲が低いことがうかがえるので、個々の生徒の状態をよく把握して、きめの細かい指導をする必要がある。

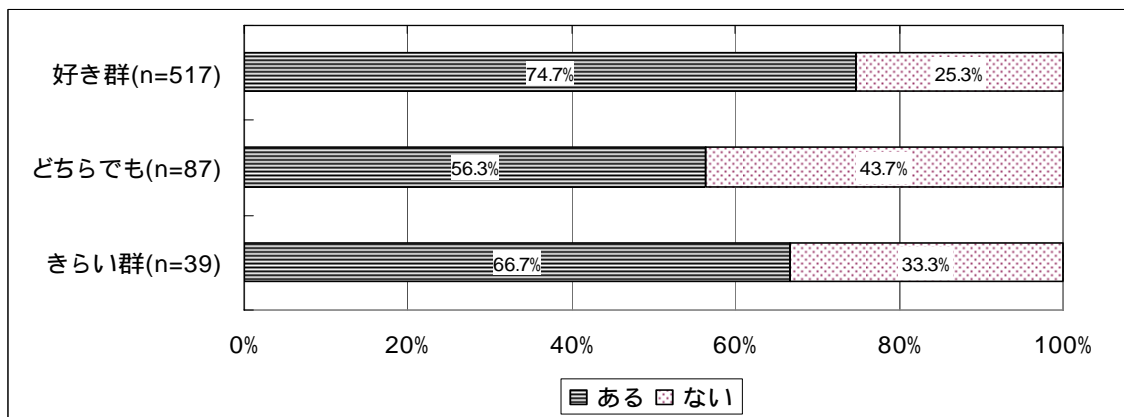
ツ 男女共習について

3群×〔問15 体育の学習で、男女共習を行ったことがありますか（単一回答）〕



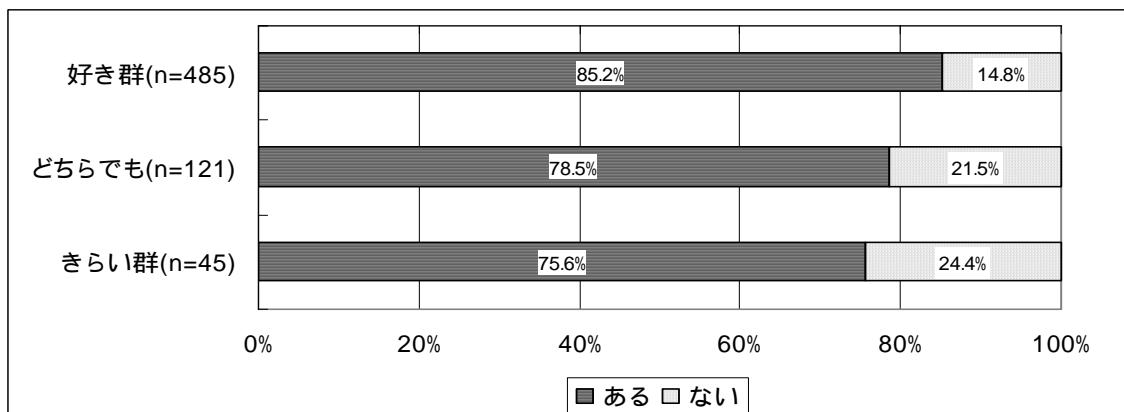
n s

図3 - 115 3群×男女共習を行ったことがありますか（1年生男子）



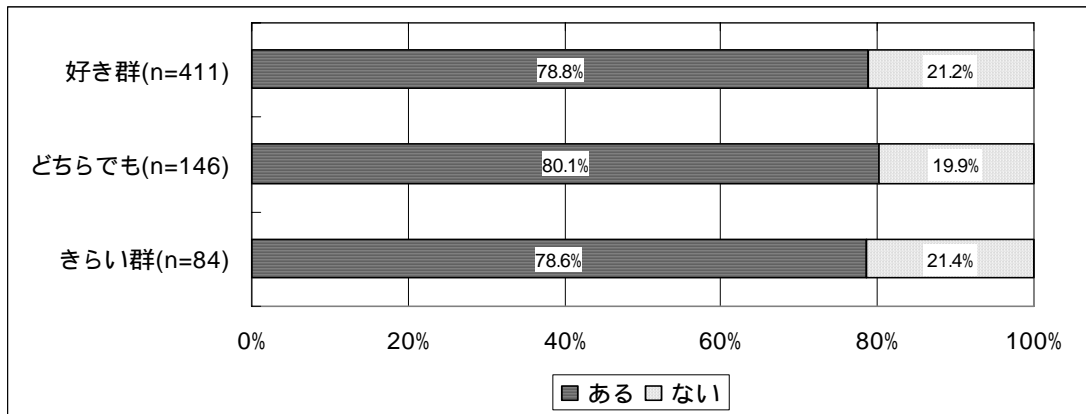
n s

図3 - 116 3群×男女共習を行ったことがありますか（2年生男子）



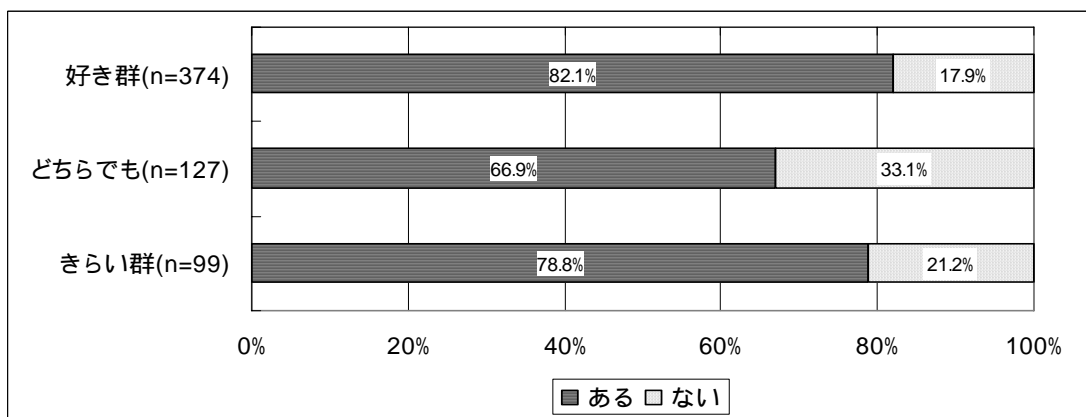
n s

図3 - 117 3群×男女共習を行ったことがありますか（3年生男子）



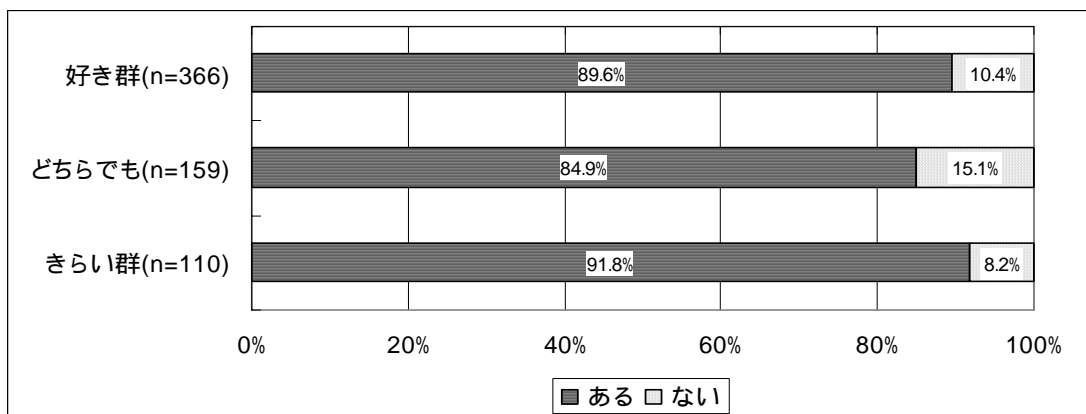
n s

図3 - 118 3群 × 男女共習を行ったことがありますか (1年生女子)



** p<0.01

図3 - 119 3群 × 男女共習を行ったことがありますか (2年生女子)

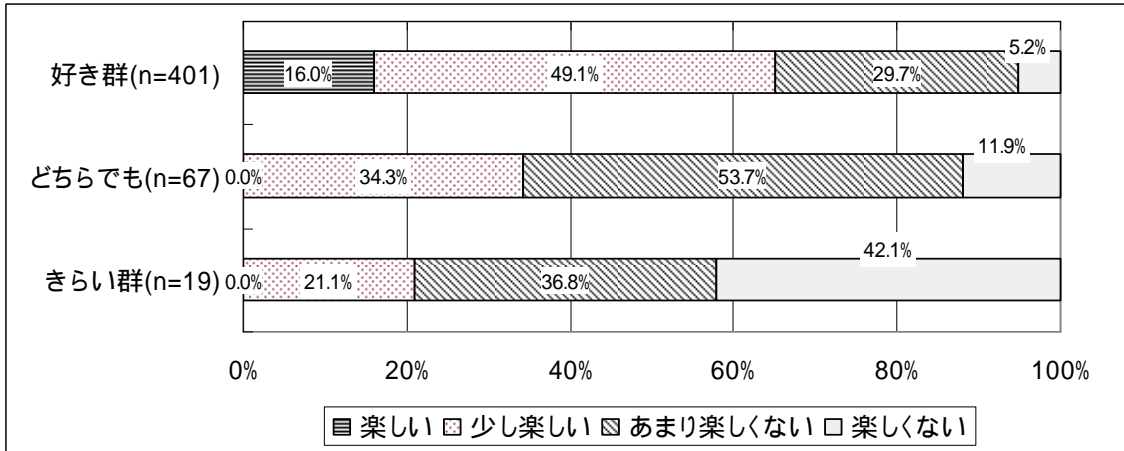


n s

図3 - 120 3群 × 男女共習を行ったことがありますか (3年生女子)

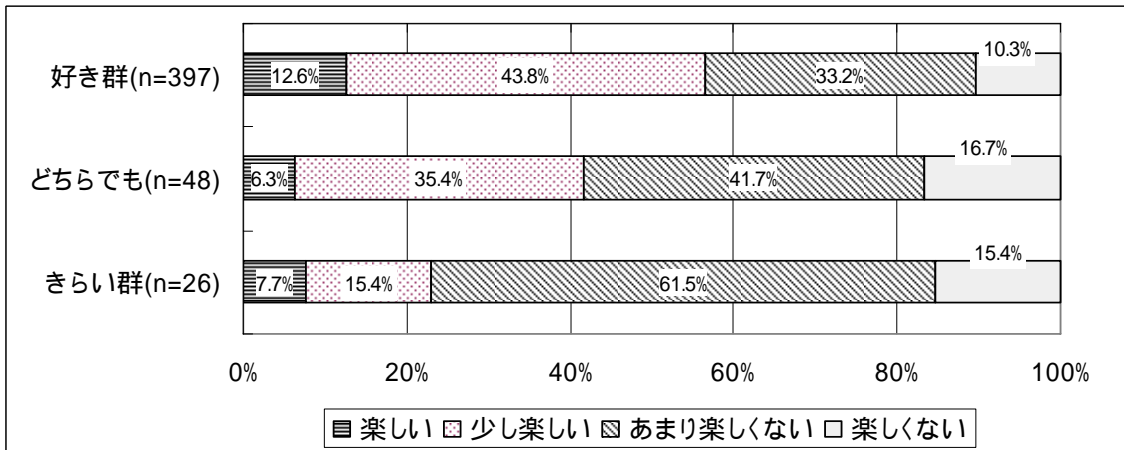
テ 男女共習をどう思うか

3群 × [問16 あなたは、男女共習についてどのように思いましたか(単一回答)]



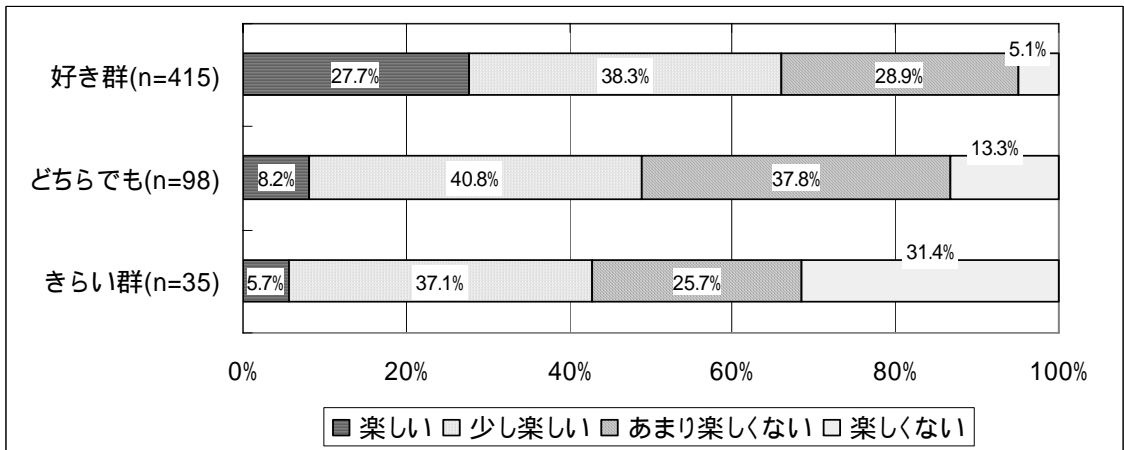
*** p<0.001

図3 - 121 3群 × 男女共習をどう思うか (1年生男子)



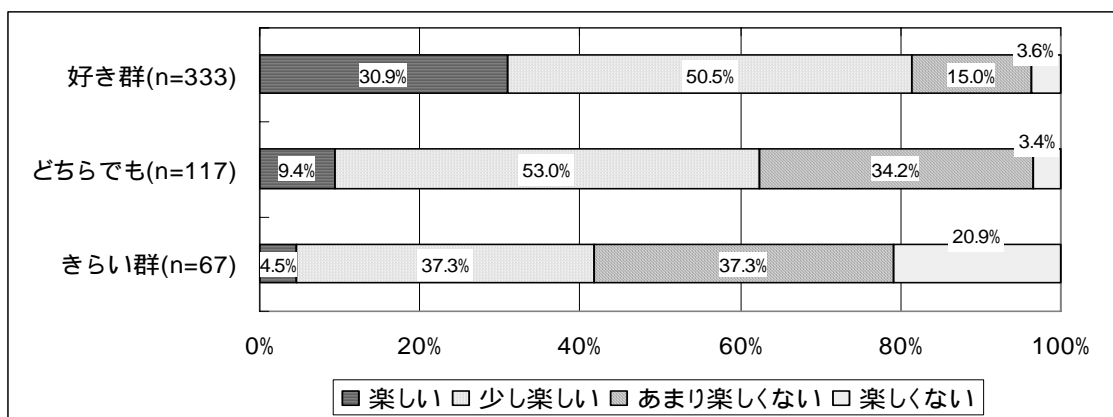
* p<0.05

図3 - 122 3群 × 男女共習をどう思うか (2年生男子)



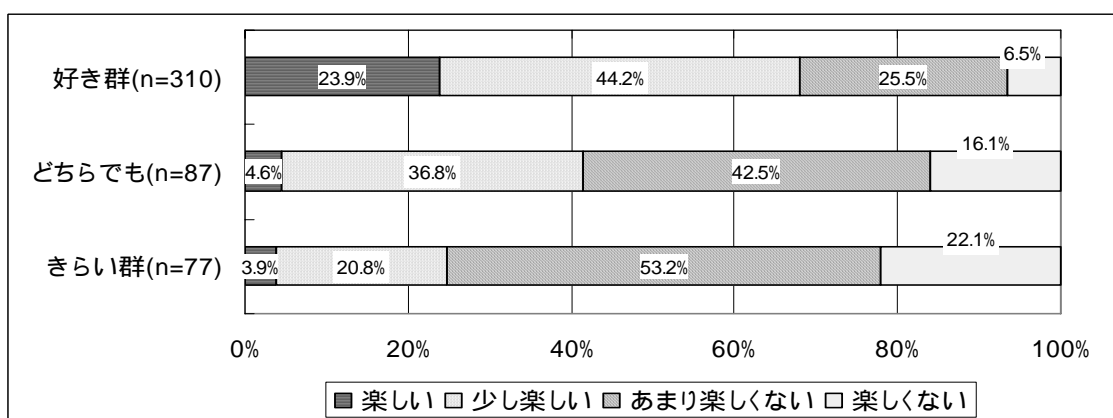
*** p<0.001

図3 - 123 3群 × 男女共習をどう思うか (3年生男子)



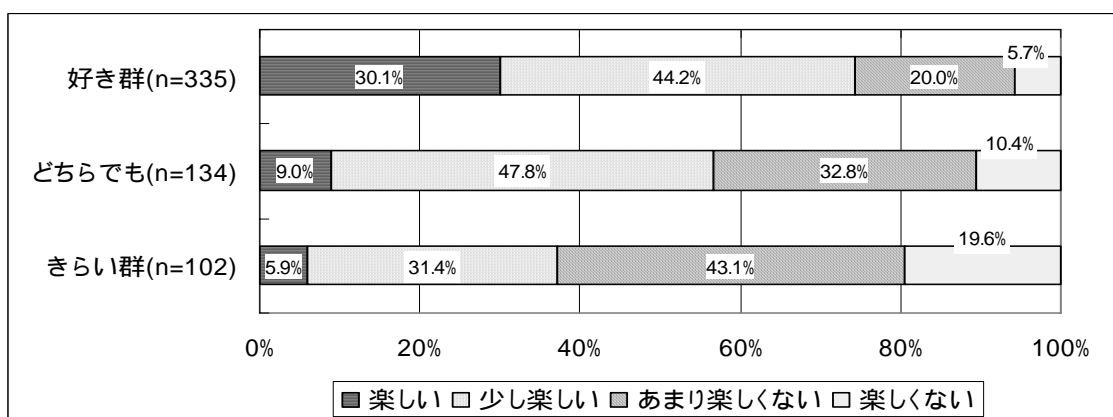
*** p<0.001

図3 - 124 3群×男女共習をどう思うか（1年生女子）



*** p<0.001

図3 - 125 3群×男女共習をどう思うか（2年生女子）



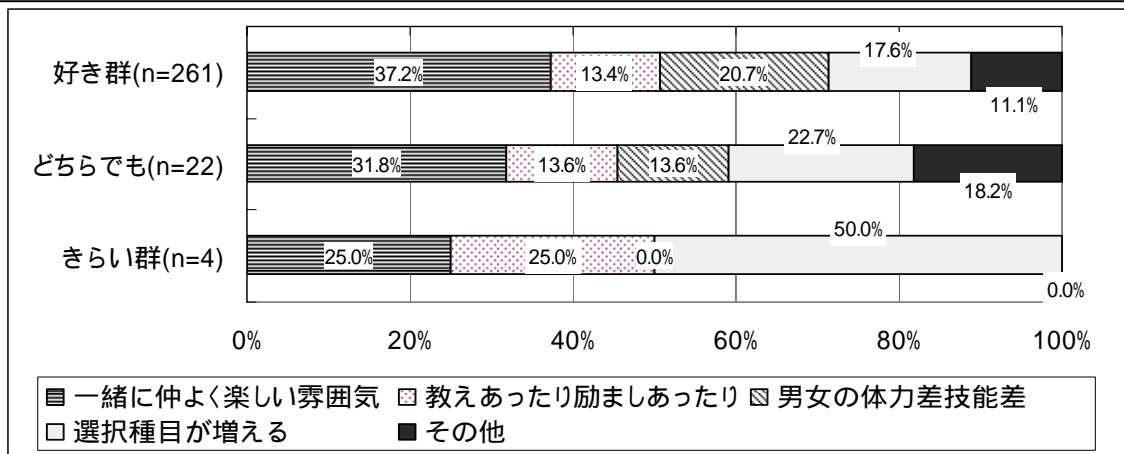
*** p<0.001

図3 - 126 3群×男女共習をどう思うか（3年生女子）

あなたは男女共習についてどう思うか聞いたところ、「楽しい」と「どちらかという楽しい」をあわせた割合は、「好き群」の生徒が多く、「どちらでもない」「きらい群」になるにしたがってと低くなっていることがわかった。
また、男子よりも女子のほうが、ほとんどの学年と群で、「楽しい」と「どちらかという楽しい」の割合が、高いことがわかった。

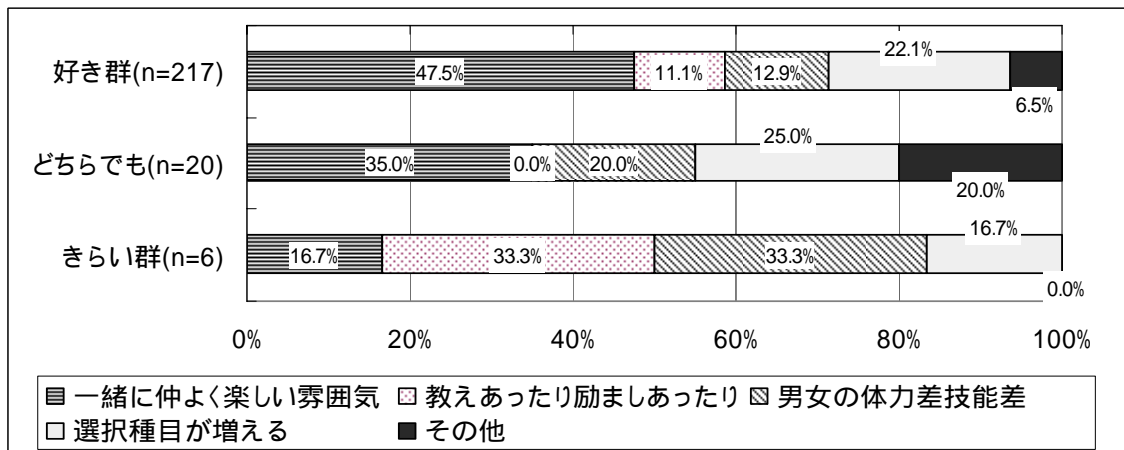
ト 男女共習を楽しいと思う理由

3群×〔問17 男女共習が「楽しい」と思う理由を選んでください（単一回答）〕



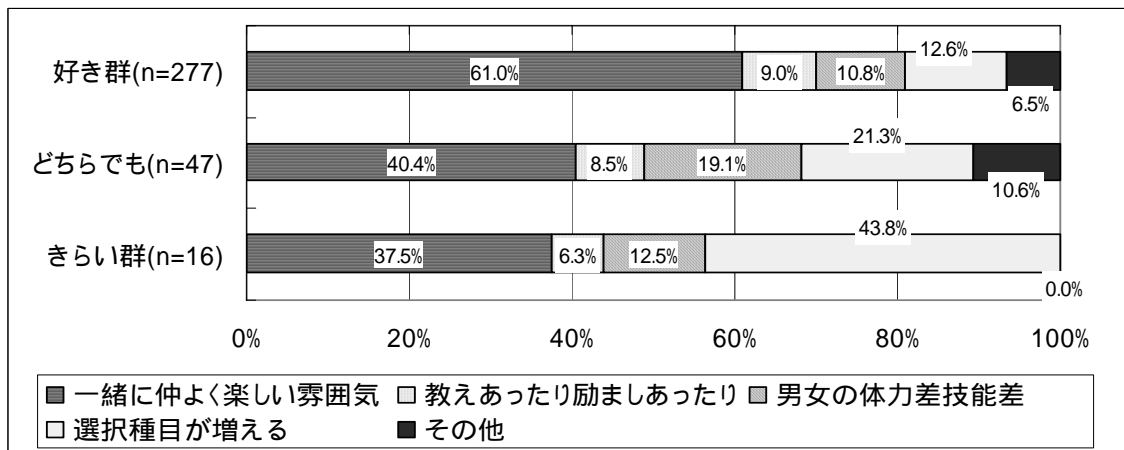
n s

図3 - 127 3群×男女共習が楽しい理由（1年生男子）



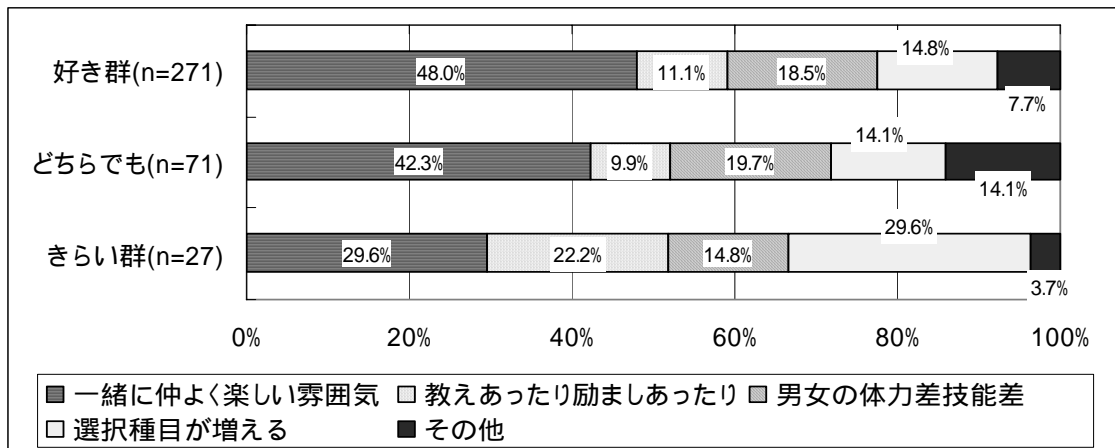
n s

図3 - 128 3群×男女共習が楽しい理由（2年生男子）



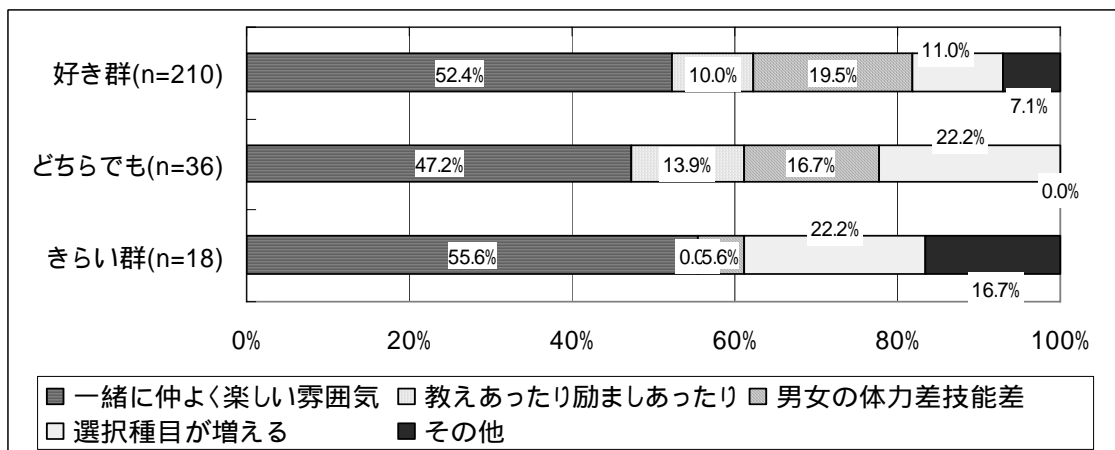
* p<0.05

図3 - 129 3群×男女共習が楽しい理由（3年生男子）



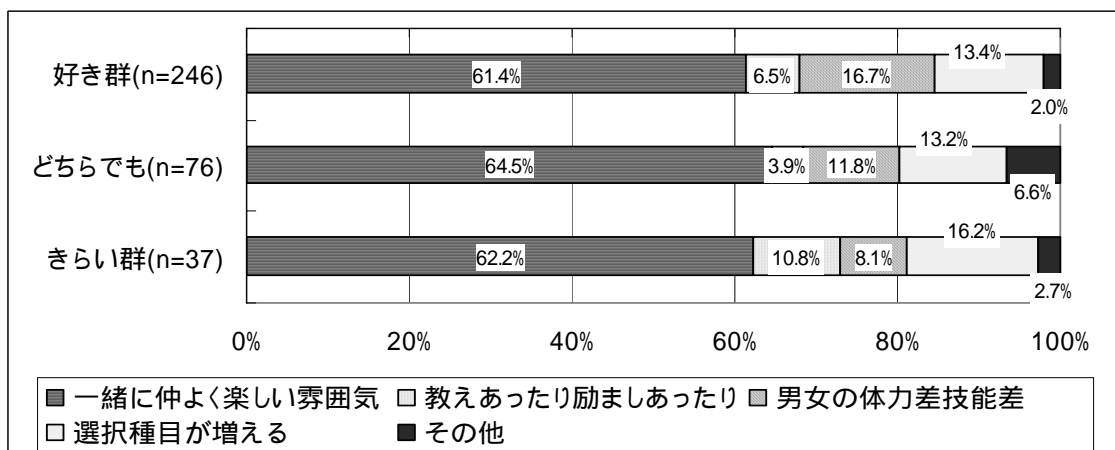
n s

図3 - 130 3群×男女共習が楽しい理由（1年生女子）



n s

図3 - 131 3群×男女共習が楽しい理由（2年生女子）



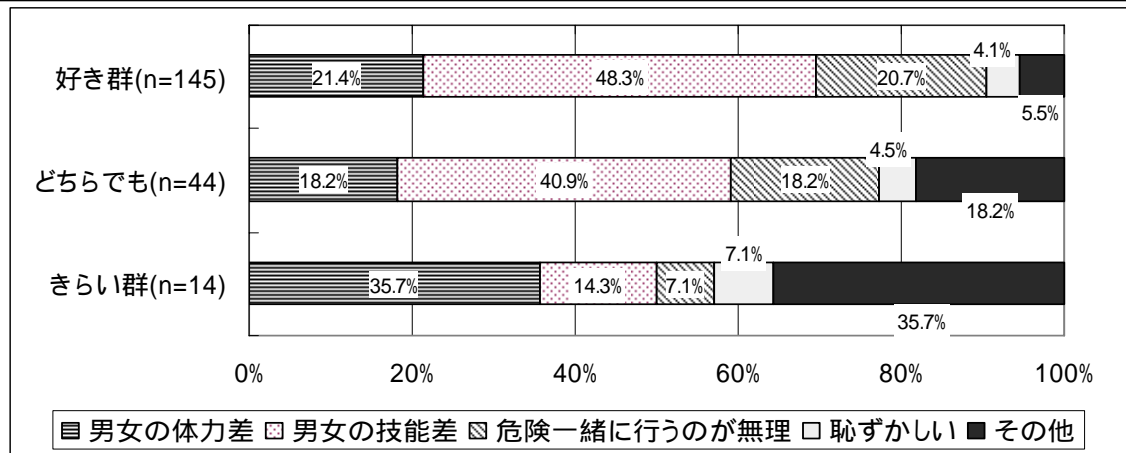
n s

図3 - 132 3群×男女共習が楽しい理由（3年生女子）

3年男子以外は有意な差がみられなかった。

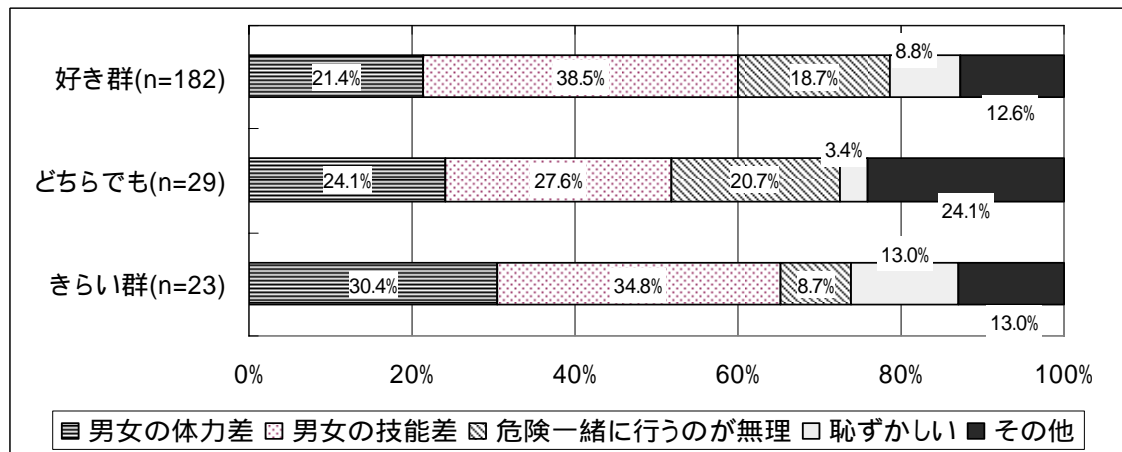
ナ 男女共習が楽しくないと思う理由

3群×〔問18 男女共習が「楽しくない」と思う理由を選んでください(単一回答)〕



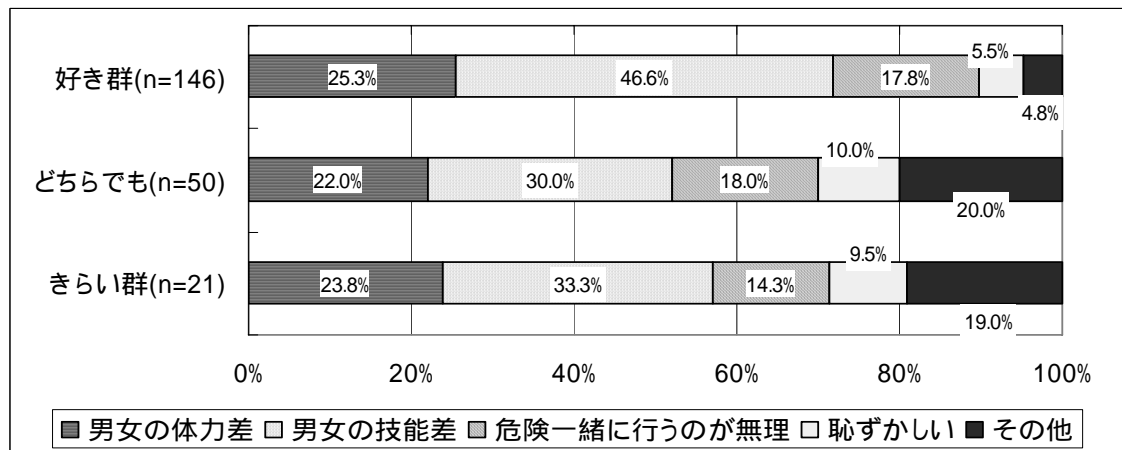
n s

図3 - 133 3群×男女共習が楽しくない理由(1年生男子)



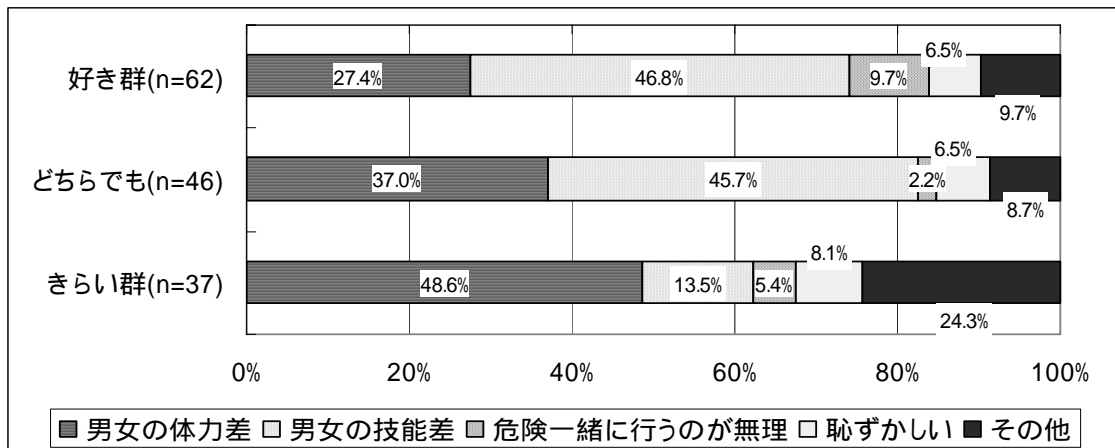
n s

図3 - 134 3群×男女共習が楽しくない理由(2年生男子)



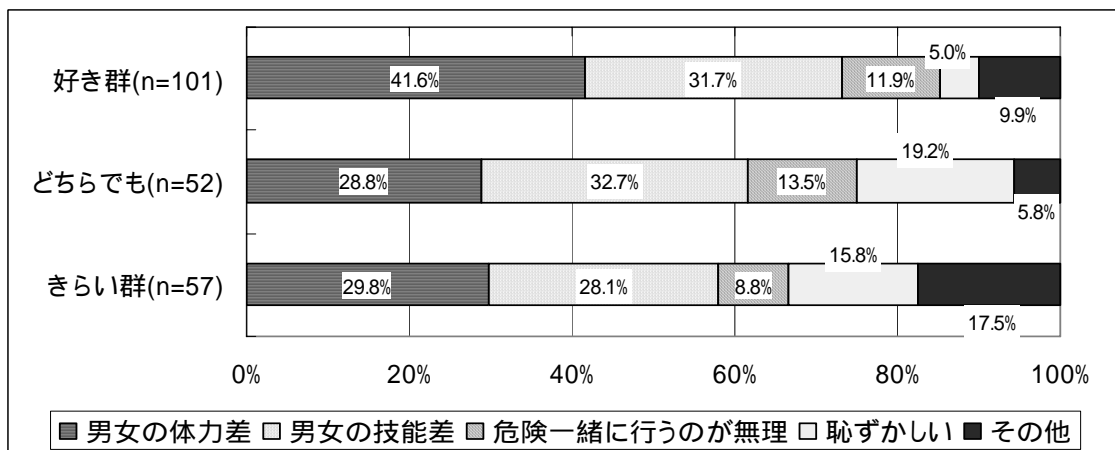
n s

図3 - 135 3群×男女共習が楽しくない理由(3年生男子)



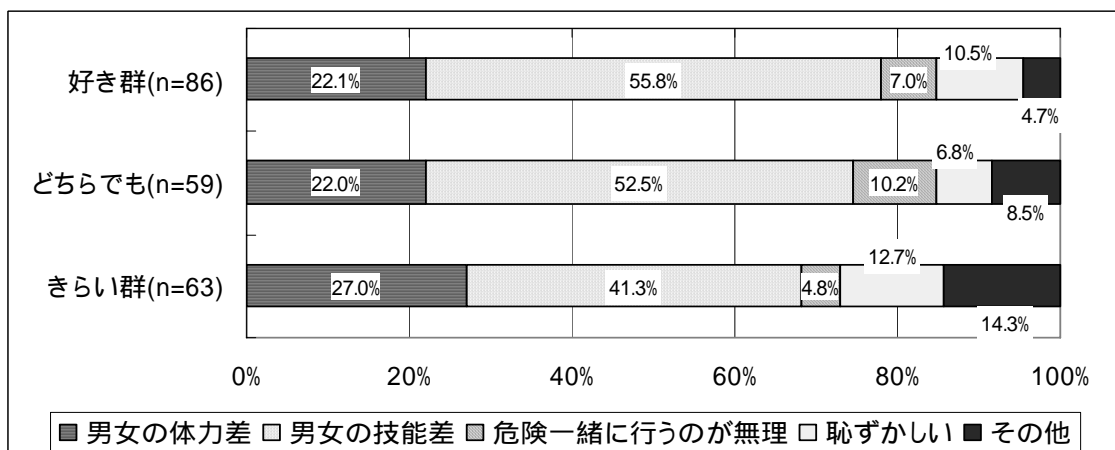
* p<0.05

図3 - 136 3群×男女共習が楽しくない理由(1年生女子)



n s

図3 - 137 3群×男女共習が楽しくない理由(2年生女子)



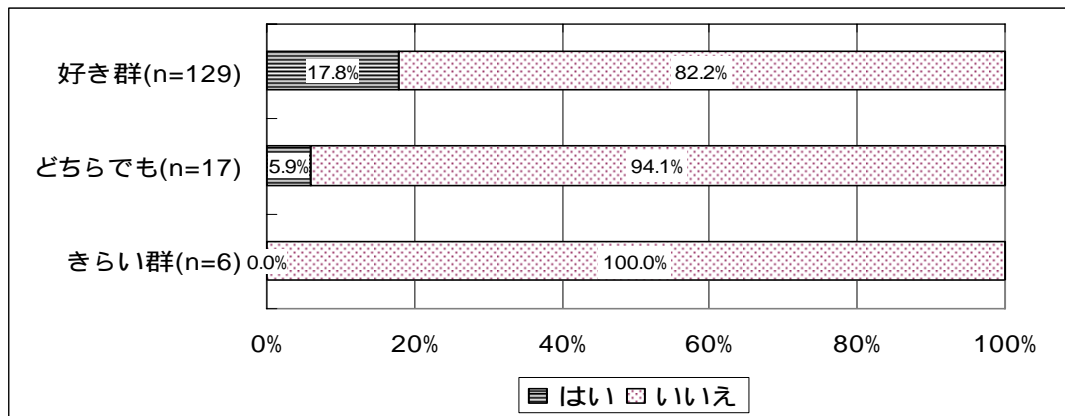
n s

図3 - 138 3群×男女共習が楽しくない理由(3年生女子)

1年生の男女しか有意な差がみられなかった。

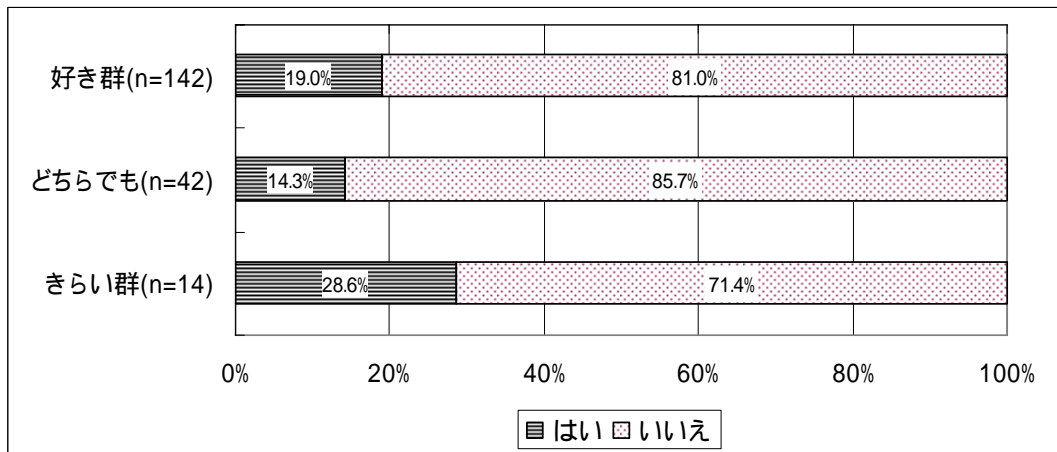
二 男女共習を行なってみたいと思うか

3群×〔問19 あなたは男女共習を行ってみたいと思いますか（単一回答）〕



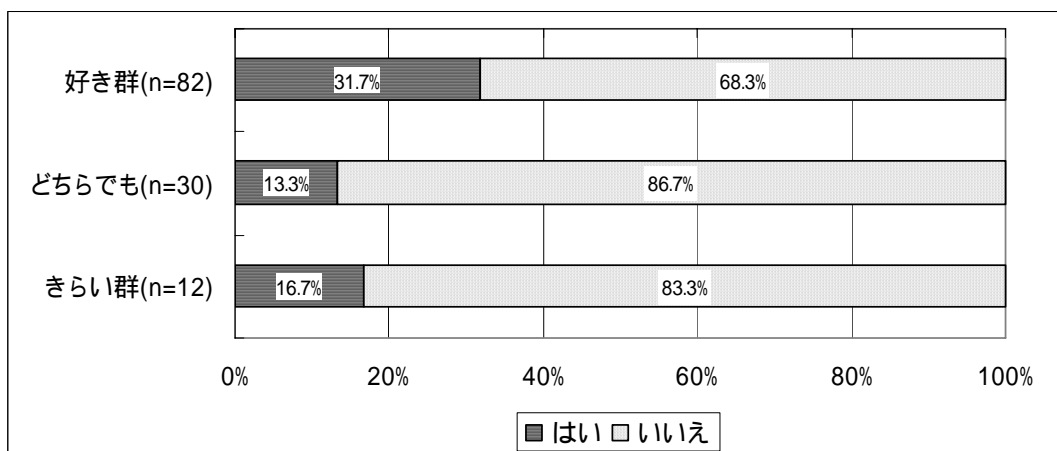
n s

図3 - 139 3群×男女共習をおこなってみたいか（1年生男子）



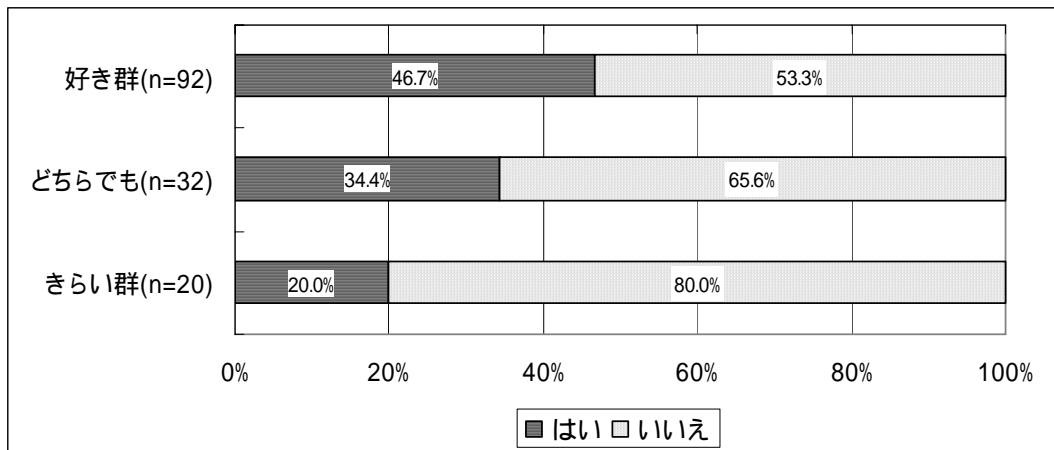
n s

図3 - 140 3群×男女共習をおこなってみたいか（2年生男子）



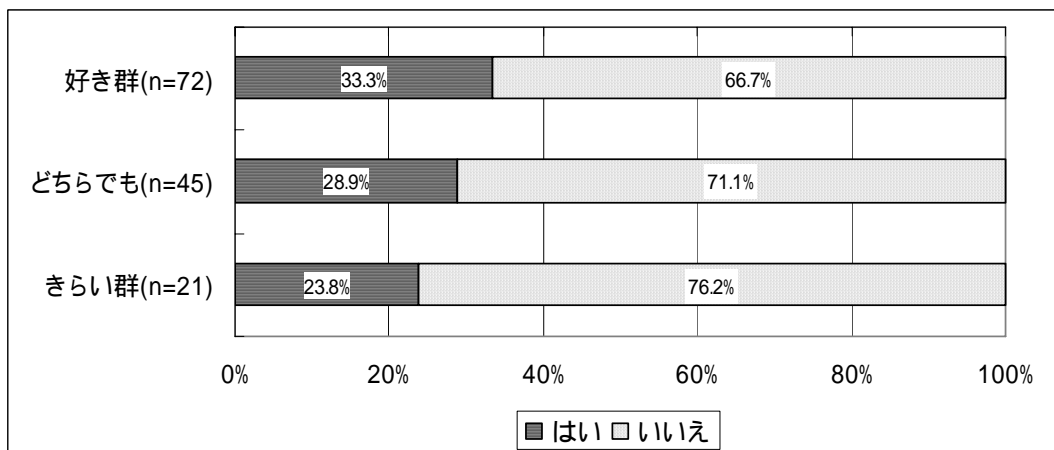
n s

図3 - 141 3群×男女共習をおこなってみたいか（3年生男子）



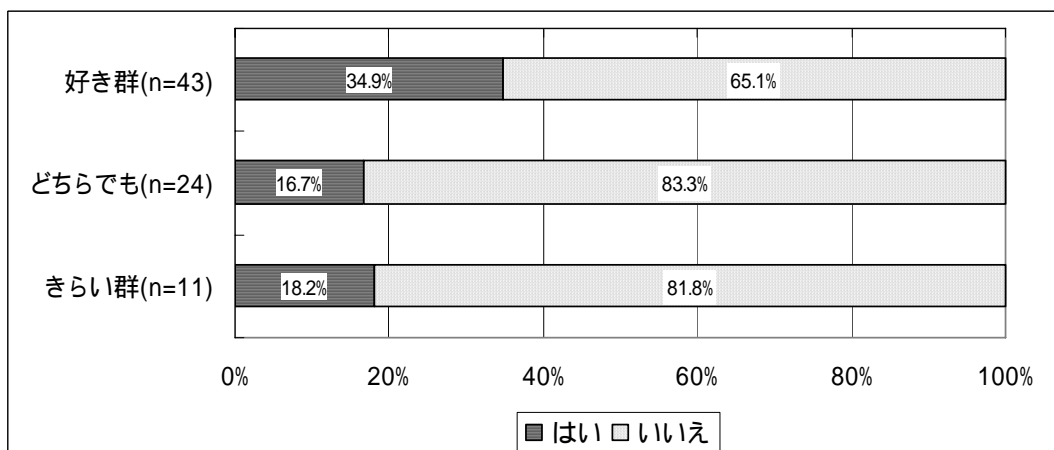
n s

図3 - 142 3群×男女共習をおこなってみたいか (1年生女子)



n s

図3 - 143 3群×男女共習をおこなってみたいか (2年生女子)



n s

図3 - 144 3群×男女共習をおこなってみたいか (3年生女子)

各学年男女ともに有意な差がみられなかった。

「男女共習」とのクロス集計結果

「男女共習についてどう思ったか」の質問以外は有意差が見られなかった。結果は、「楽しい」と「どちらかという楽しい」をあわせた割合は、「好き群」の生徒が高く、「どちらでもない」「きらい群」と低くなっていくことがわかった。また、男子よりも女子のほうが、「楽しい」と「どちらかという楽しい」の割合が高いことがわかった。

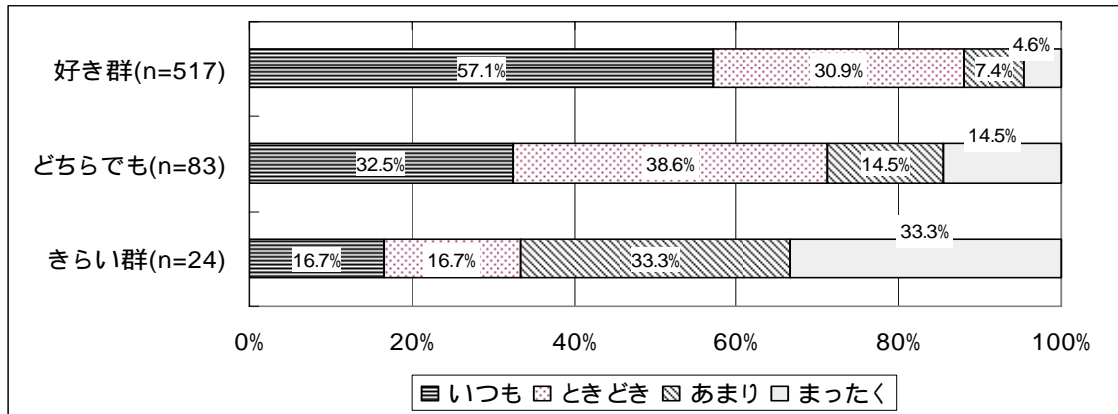
そもそも「男女共習」は、「選択制授業」を行うことによって生じる授業形態の1つであるので、「選択制授業」の意義をしっかりと捉えて授業を展開することが「男女共習」を成功させることにもつながるといえる。

生徒が選択した運動領域や種目をただ行わせるのではなく、男女共習の特性を理解し、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びをより深く味わわせること、また自己の能力・適正、興味・関心などに応じた運動の行ない方を計画的に工夫する力を育てることが重要である。

(3) 「体育の学習以外の運動への取組み」との連関について

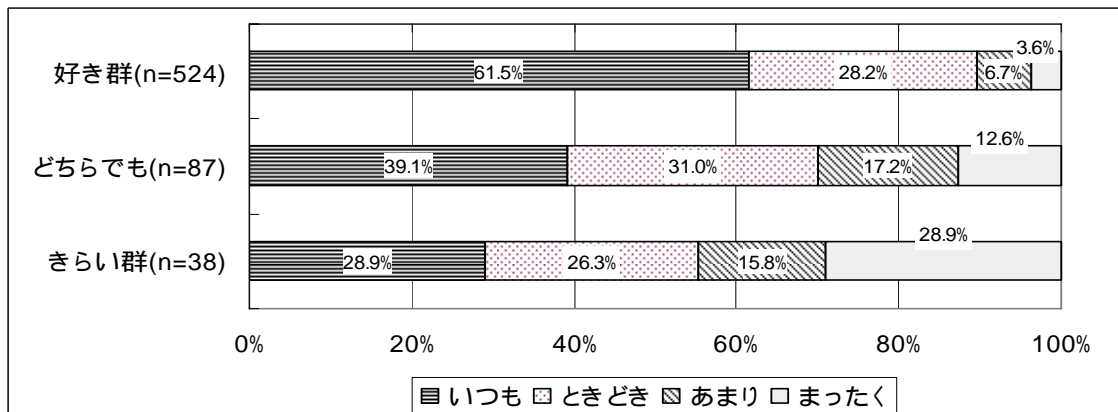
ア 学校で休み時間や放課後に運動をするか

3群 × [問20 あなたは学校で、休み時間や放課後に運動をしていますか？
(単一回答)]



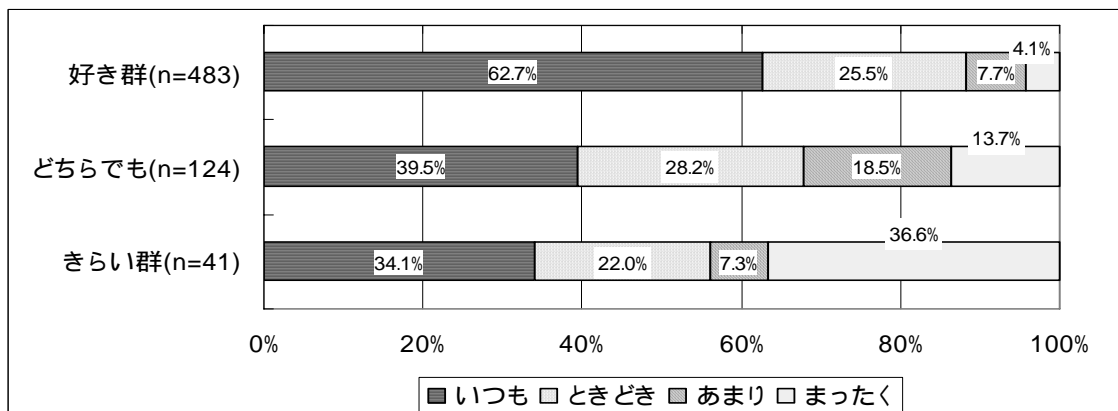
*** p<0.001

図3 - 145 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (1年生男子)



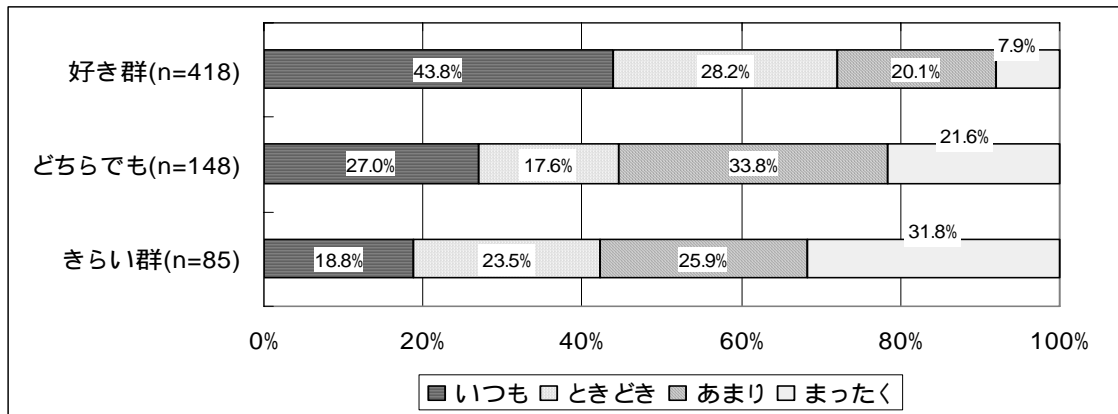
*** p<0.001

図3 - 146 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (2年生男子)



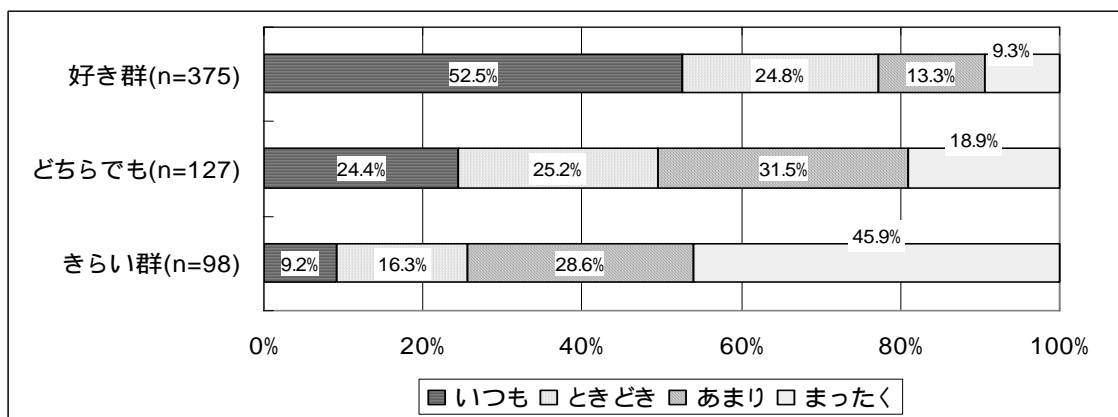
*** p<0.001

図3 - 147 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (3年生男子)



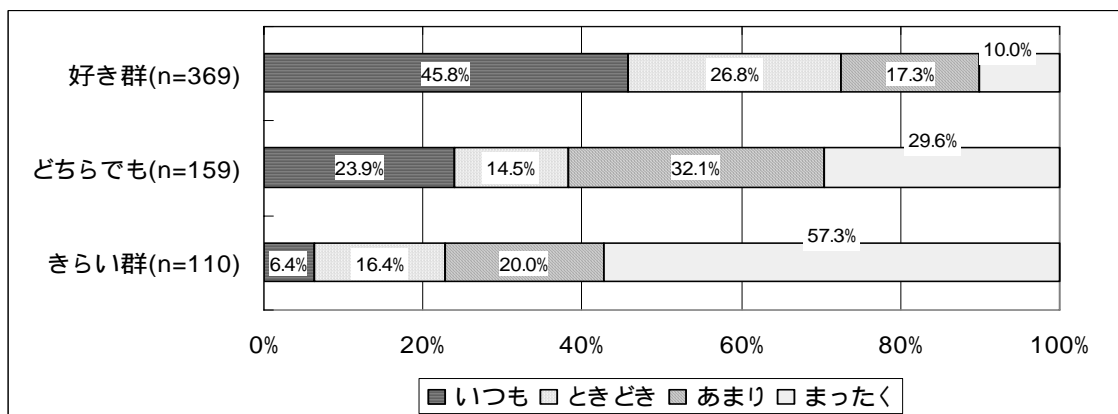
*** p<0.001

図3 - 148 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 149 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 150 3群 × 休み時間や放課後に運動をしているか (3年生女子)

「いつもしている」と「ときどきしている」をあわせた割合をみると、「好き群」が高く「どちらでもない」「きれい群」と低くなっていることがわかった。

コラム28

「休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識(平成17年度年度)との比較

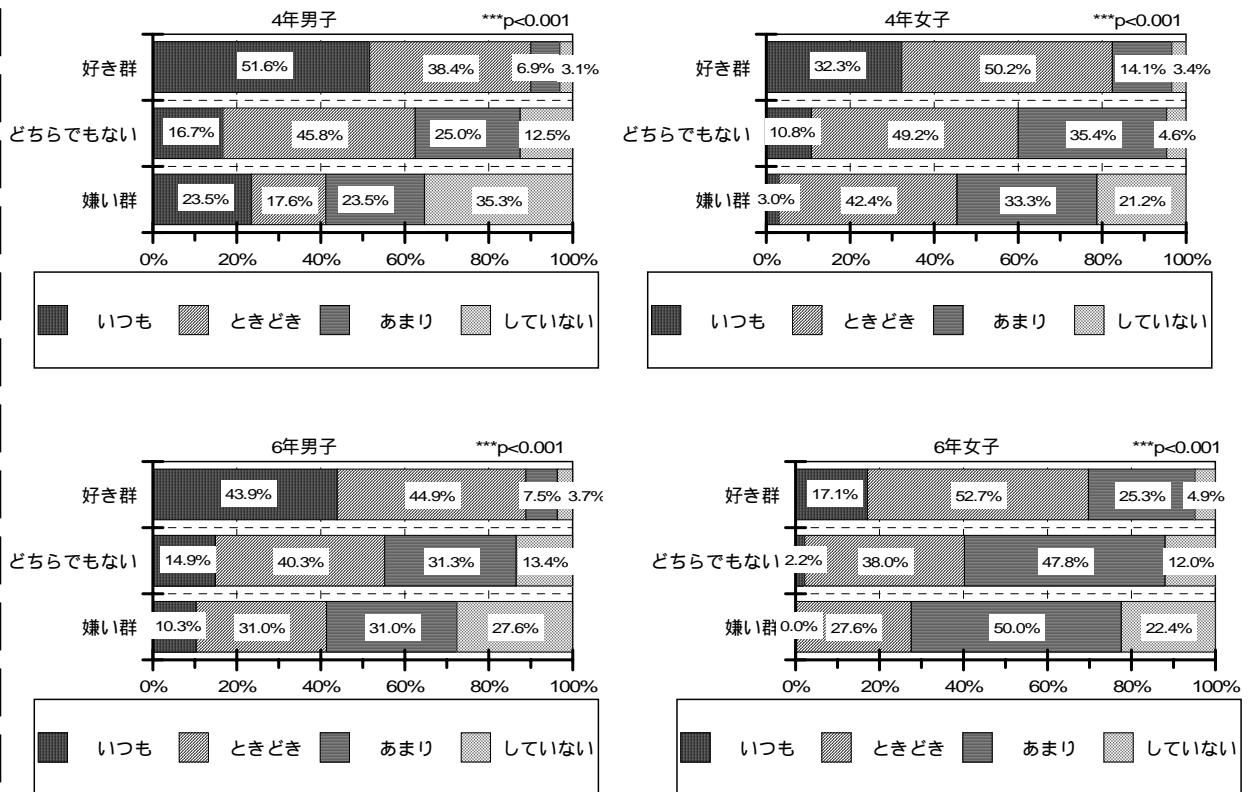


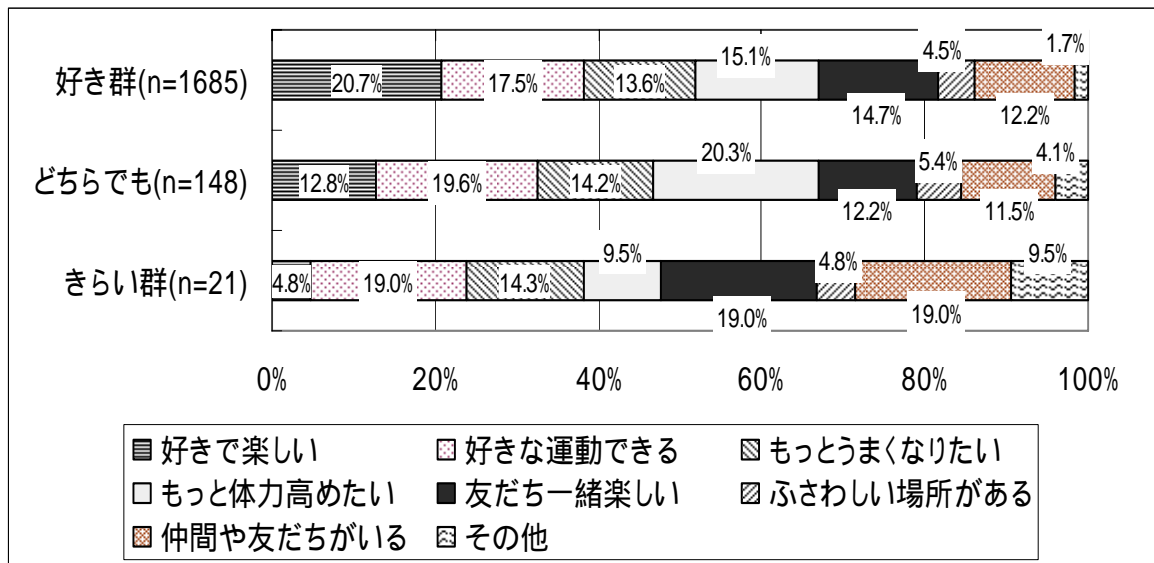
図 (6) 「休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識 (平成17年度調査)

中学生に見られた「いつもしている」と「ときどきしている」をあわせた割合が「好き群」が高く「どちらでもない」「嫌い群」と低くなっているという傾向が、小学生では女子と6年生男子に見られた。

小学生・中学生ともに、体育の学習が「好き」な生徒は、休み時間や放課後にもよく運動し、「嫌い」な生徒は、あまり運動していないことがわかった。

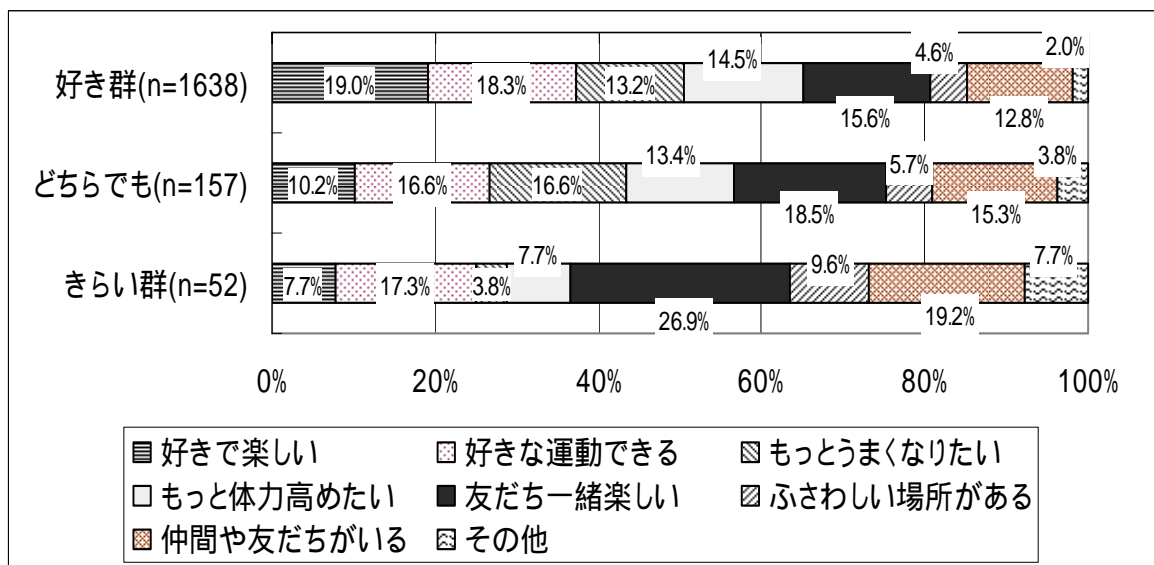
イ なぜ休み時間や放課後に運動をするのか

3群 × 〔問21 なぜ休み時間や放課後に運動をしているのですか？（無制限回答）〕



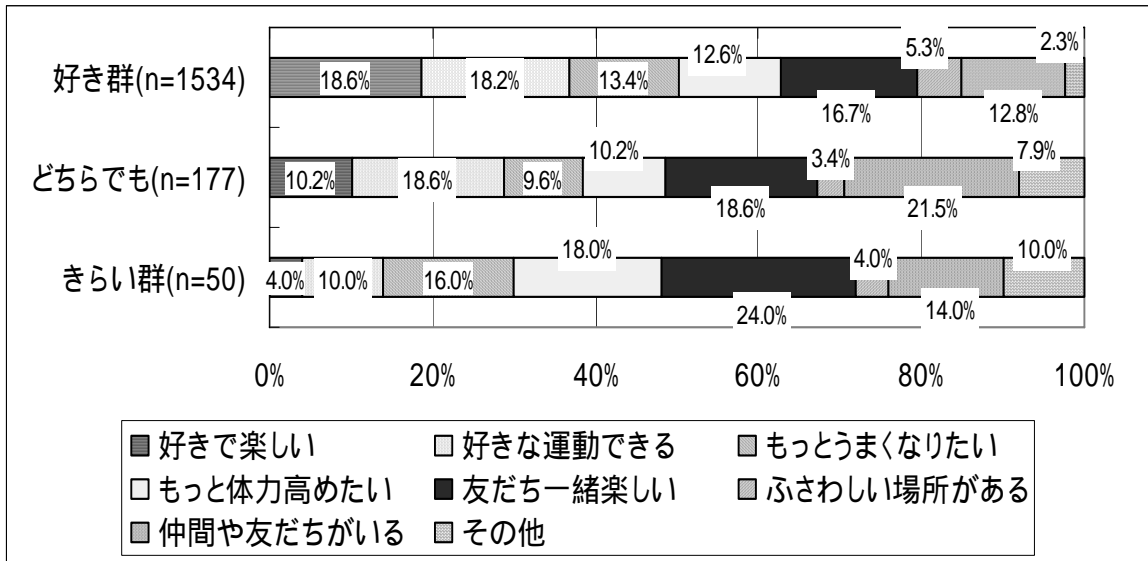
n s

図3 - 151 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか（1年生男子）



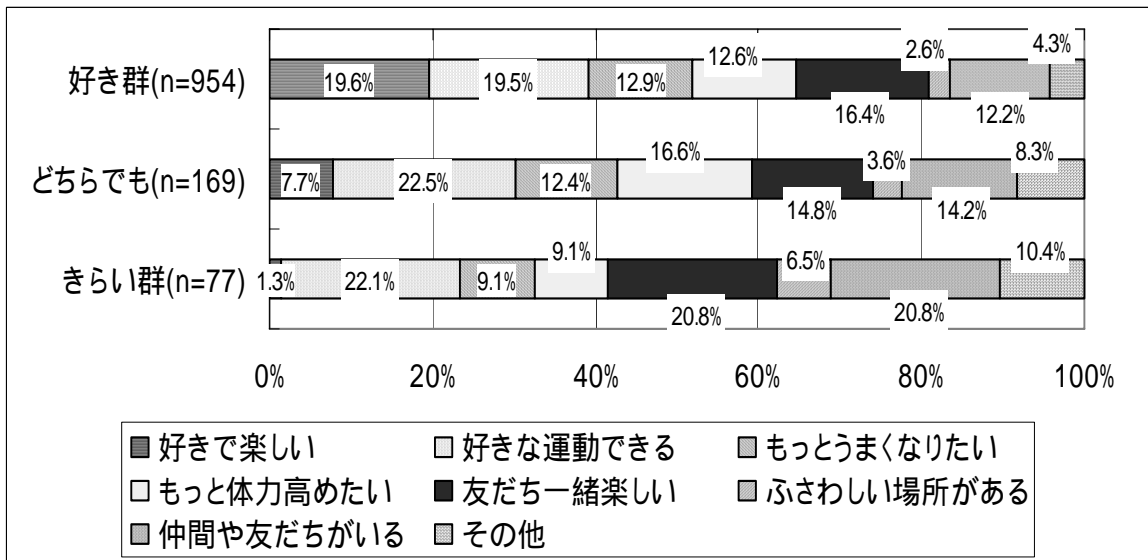
** p<0.01

図3 - 152 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか（2年生男子）



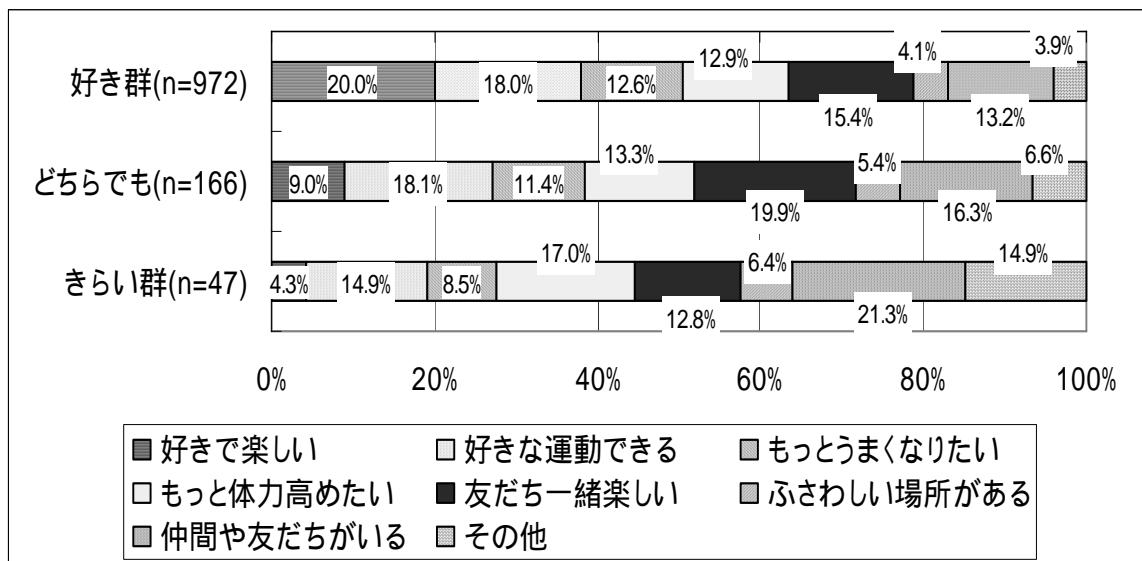
*** p<0.001

図3 - 153 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか (3年生男子)



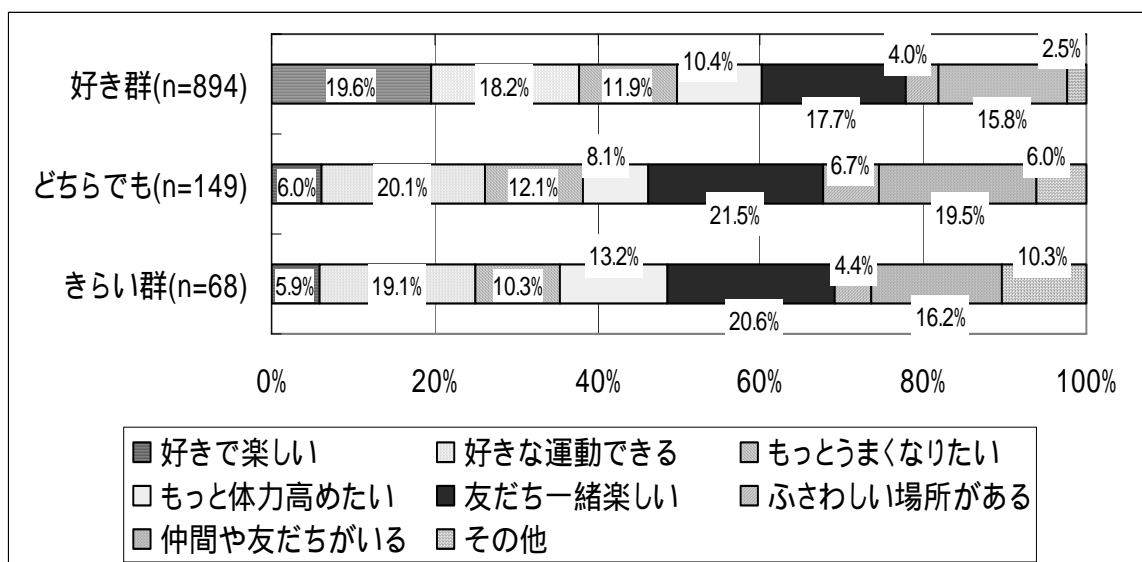
*** p<0.001

図3 - 154 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか (1年生女子)



** p<0.01

図3 - 155 3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか(2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 156 3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか(3年生女子)

1年生男子に有意な差がみられなかった。

「好きで楽しい」の項目で「好き群」が1番高く、「どちらでもない」「きれい群」と低くなっていくことがわかった。

「好きな運動できる」の項目は、各学年男女ともに高い傾向にあることがわかった。

「友だち一緒に楽しい」と「仲間や友だちがいる」の項目は、「好き群」よりも「嫌い群」のほうが高い傾向にあることがわかった。

コラム29

「なぜ休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

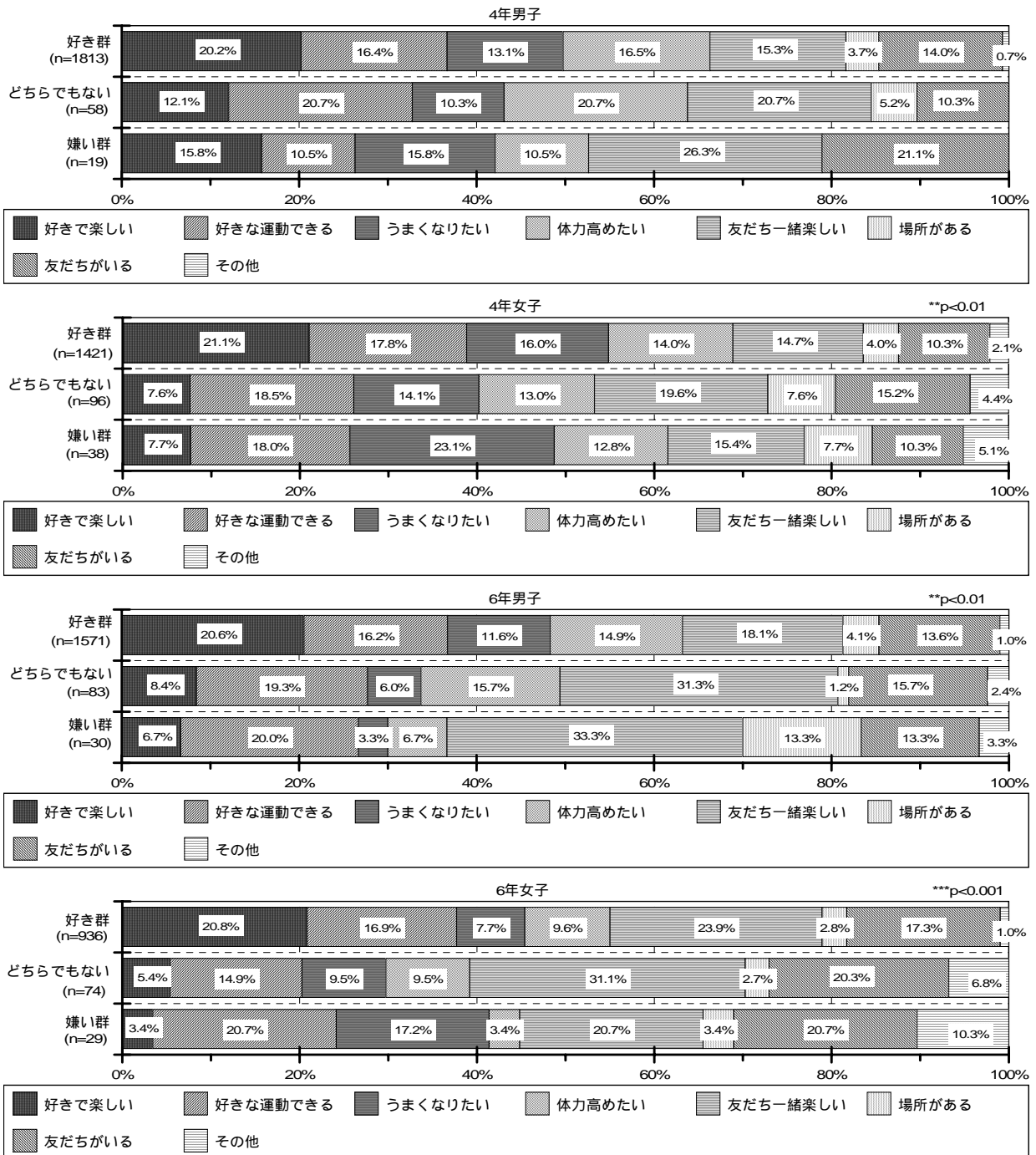
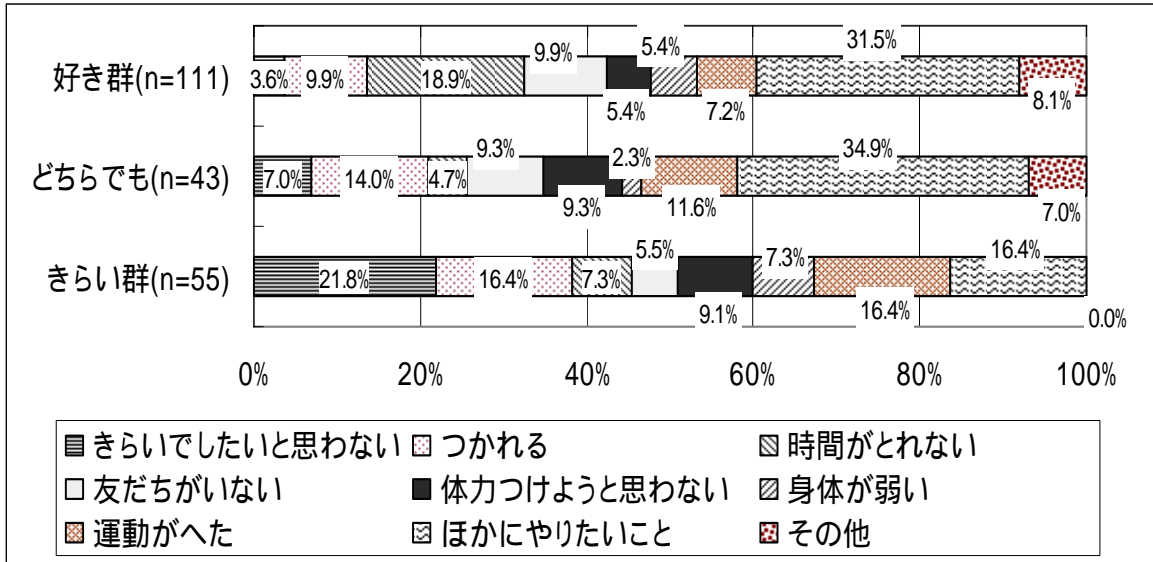


図 (7) 「なぜ休み時間や放課後に運動をしているか」小学生の意識 (平成17年度調査)

小学生・中学生を通して「好き群」は「運動することが好きで楽しい」ことがわかった。

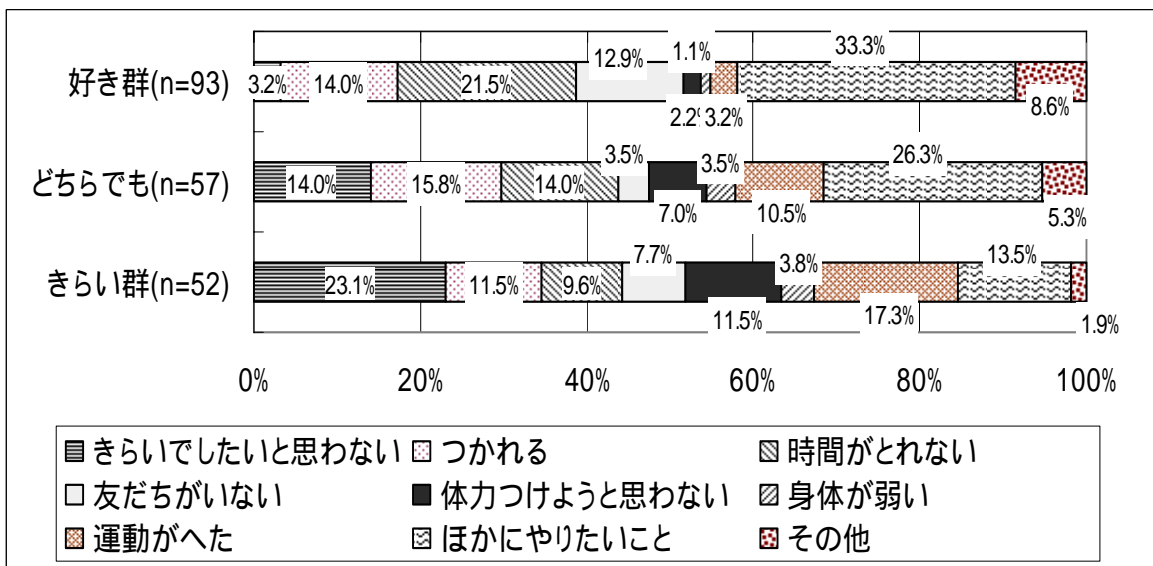
ウ なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか

3群 × 〔問22 なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのですか？
（無制限回答）〕



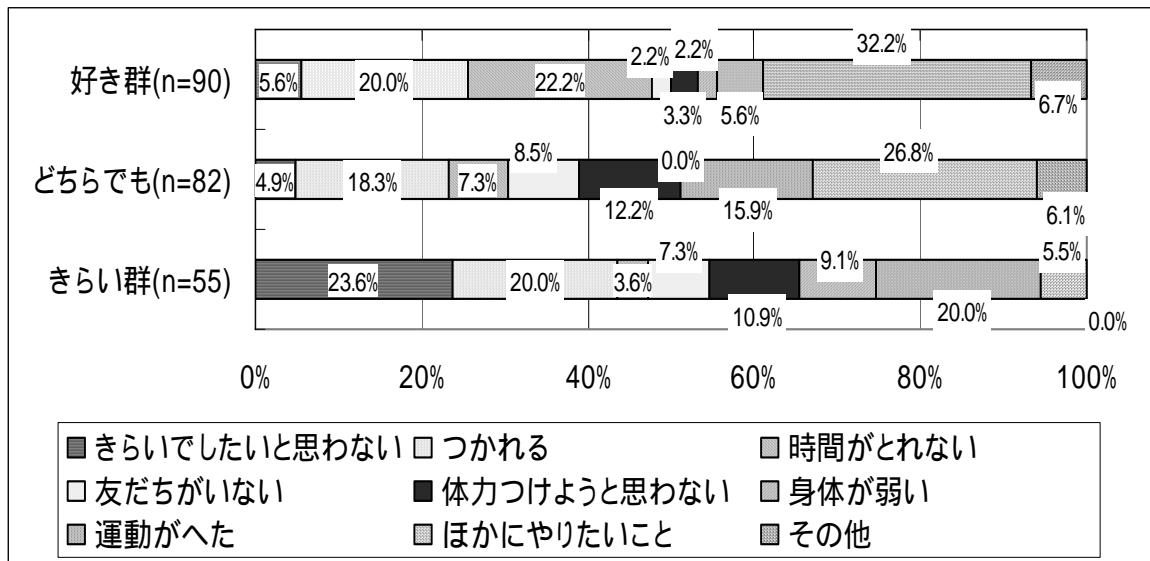
** p<0.01

図3 - 157 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (1年生男子)



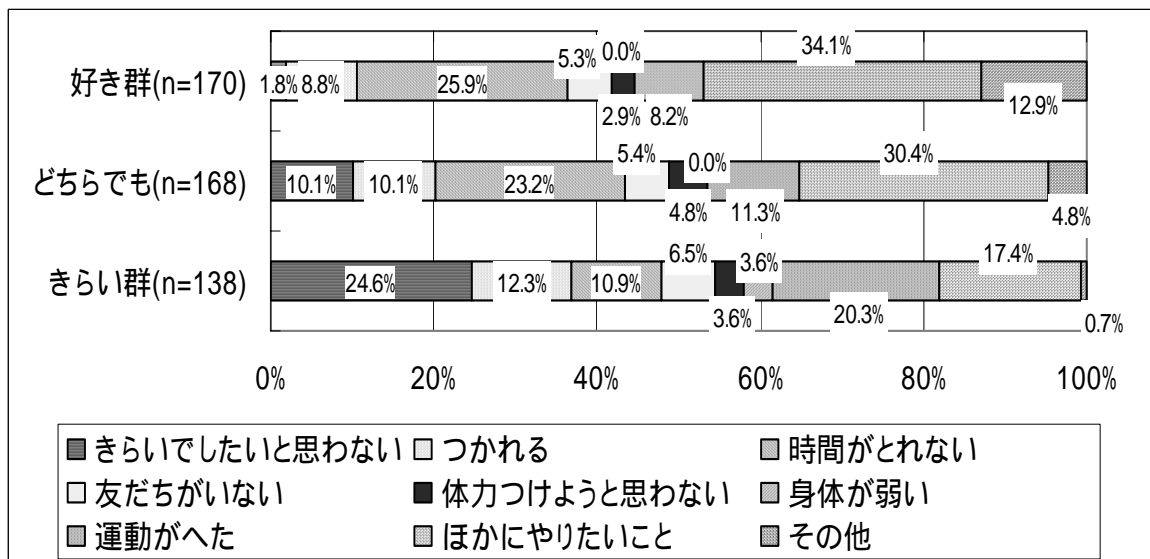
*** p<0.001

図3 - 158 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (2年生男子)



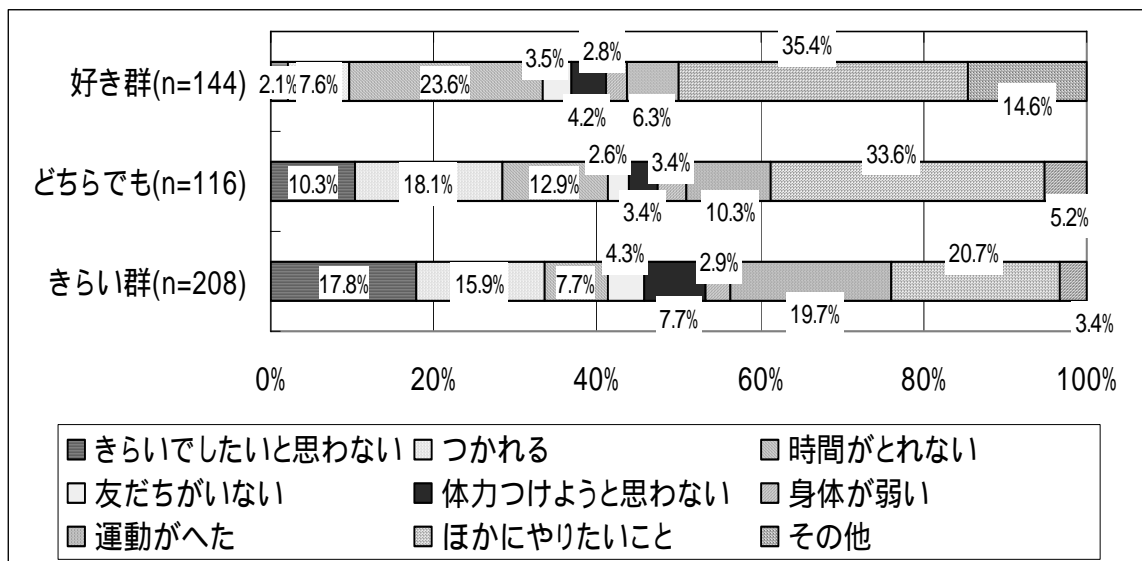
*** p<0.001

図3 - 159 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (3年生男子)



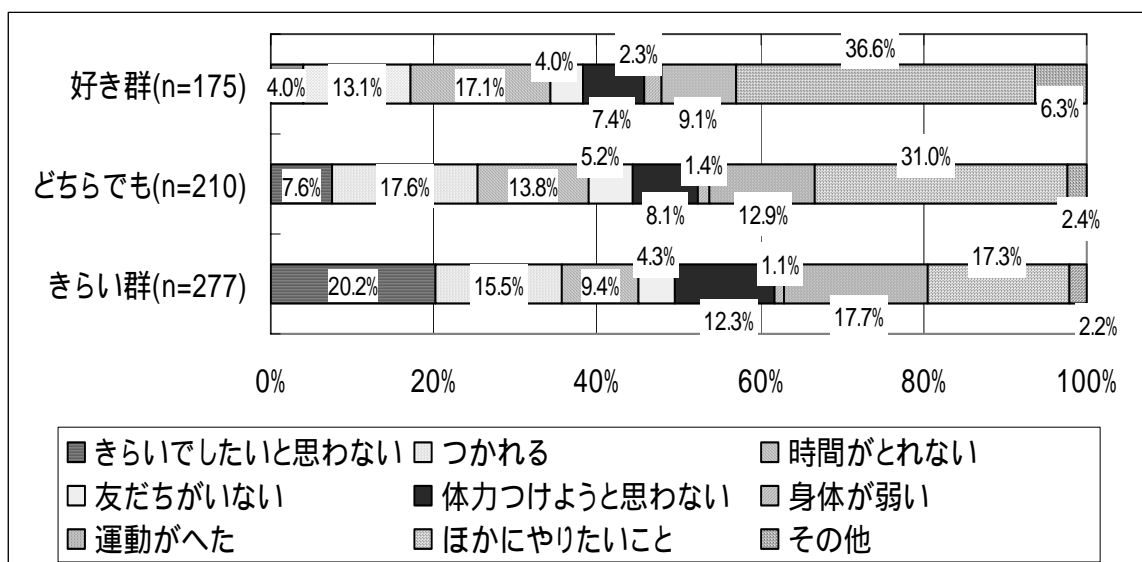
*** p<0.001

図3 - 160 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 161 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 162 3群 × なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか (3年生女子)

なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか聞いたところ、3学年男女ともに、「他にやりたいこと」と「時間がとれない」の項目が、「好き群」から「どちらでもない」「きれい群」と低くなる傾向があることがわかった。

また、「きらいでしたいと思わない」と「運動がへた」の項目が、「好き群」から「どちらでもない」「きれい群」と高くなっていくことがわかった。

コラム30

「なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか」小学生の意識(平成17年度調査)との比較

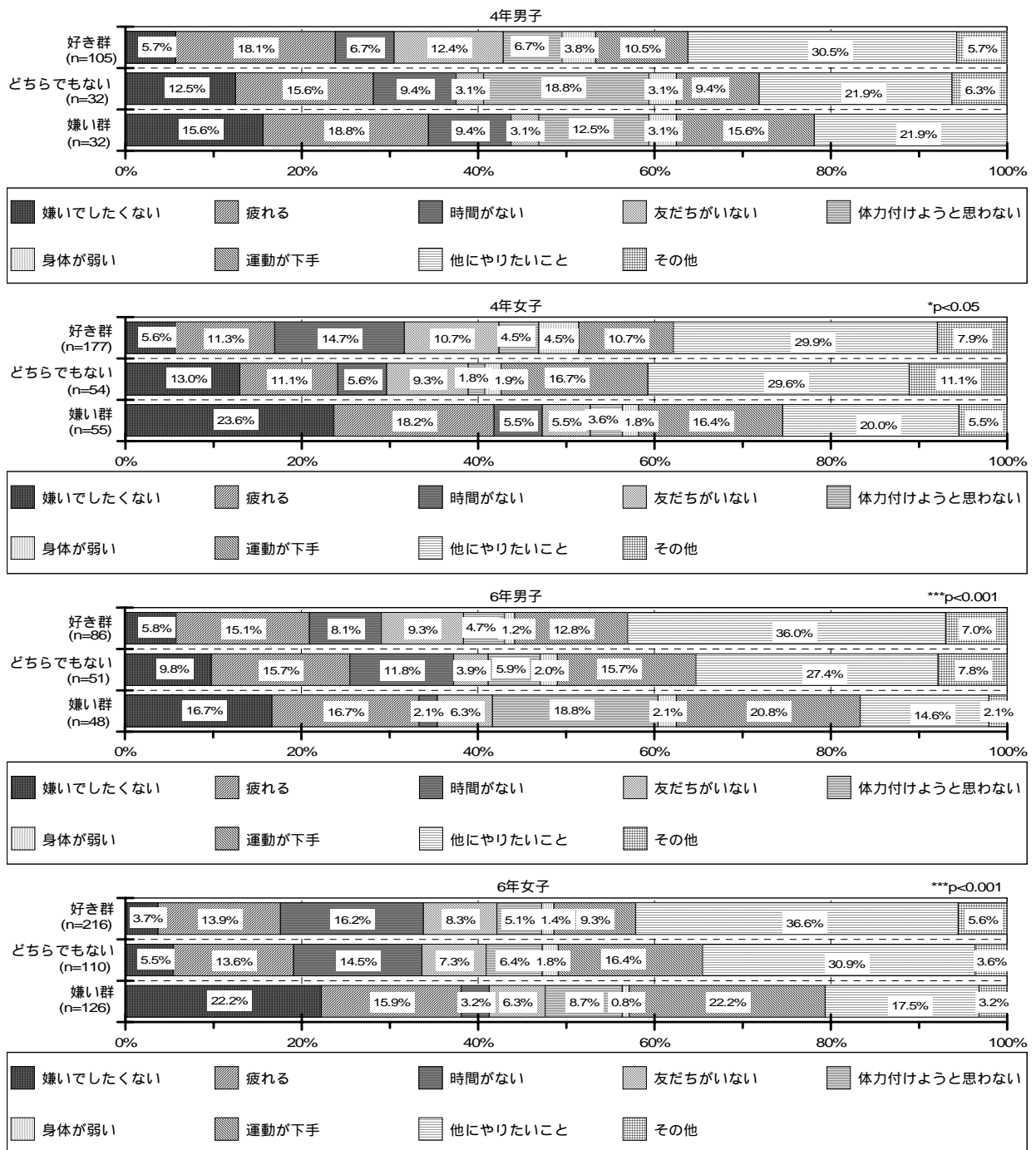


図 (8) 「なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか」小学生の意識(平成17年度調査)

小学生・中学生を通じて「他にやりたいこと」と「勉強や次の準備で時間がとれない」の項目が、「好き群」では高かったが、「どちらでもない」「嫌い群」と低くなっていくことがわかった。

小学生・中学生を通じて「運動がきらいでしたいと思わないから」の項目が「好き群」では低かったのが、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっていくことがわかった。

「体育の学習以外の運動の実践」とのクロス集計結果

休み時間や放課後の運動の実施状況は、「好き群」は高く、「どちらでもない」「きらい群」になるにしたがって、低くなることがわかった。

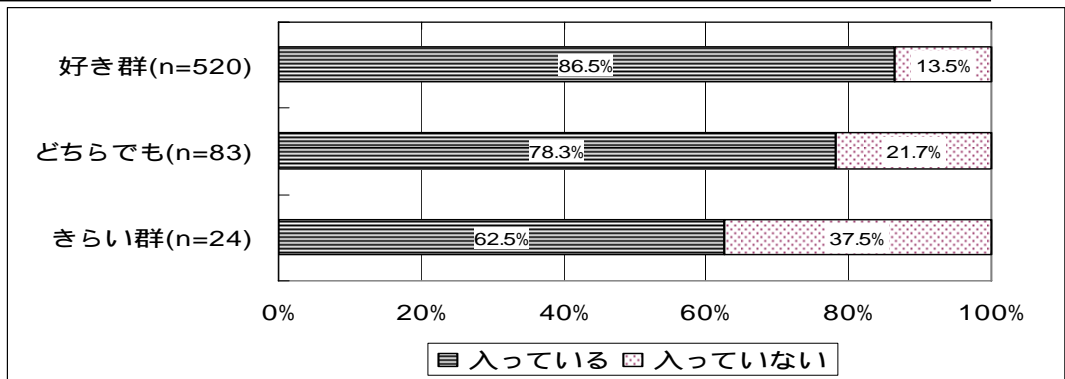
なぜ休み時間や放課後に運動をするのか聞いたところ、「好き群」は、好きな運動を行うことが「楽しい」と感じ、「嫌い群」は好きな運動を仲間や友だちと一緒にすることを「楽しい」と感じていることがわかった。

なぜ休み時間や放課後に運動をしないのか聞いたところ、「好き群」の理由は「他にやりたいこと」と「勉強や次の準備で時間がとれない」であり、運動そのものが原因ではなく、別のところにあることがわかった。それに対して「嫌い群」の理由は、「運動がきらいでいたいと思わないから」と「運動がへた」をあげており、運動に対する自分の意識がそのまま原因となっていることがわかった。

これらのことから、体育の学習以外の運動実施時間を確保するためには、一人ひとりの生徒を運動することが「好き」にさせるとともに、生徒を取り巻く環境を変えていく必要もあるといえる。

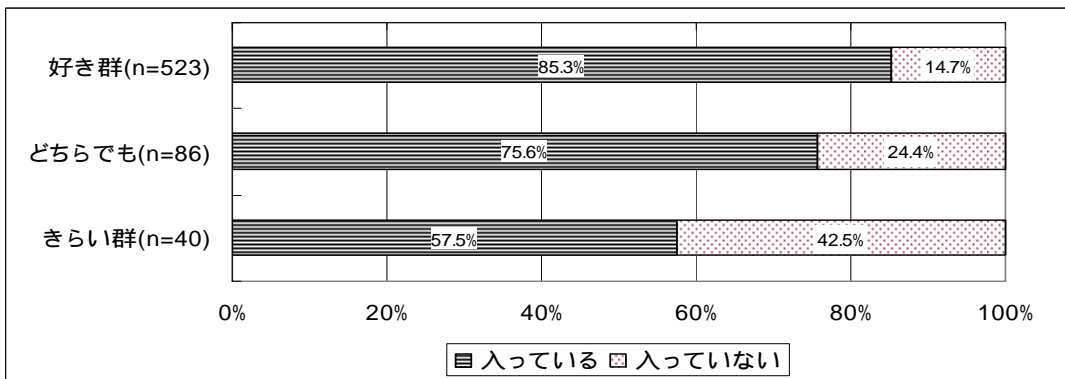
エ 運動部活動について

3群 × [問23 学校の運動部活動に入っていますか？（単一回答）]



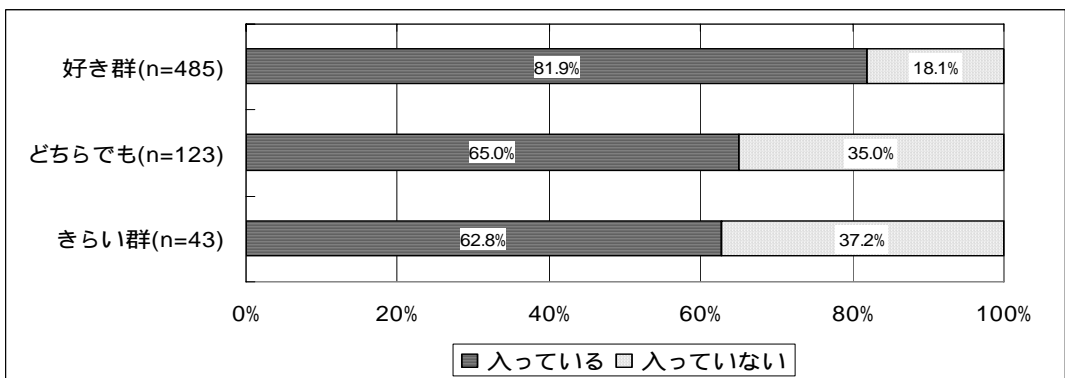
** p<0.01

図3 - 163 3群 × 学校の運動部活動に入っているか（1年生男子）



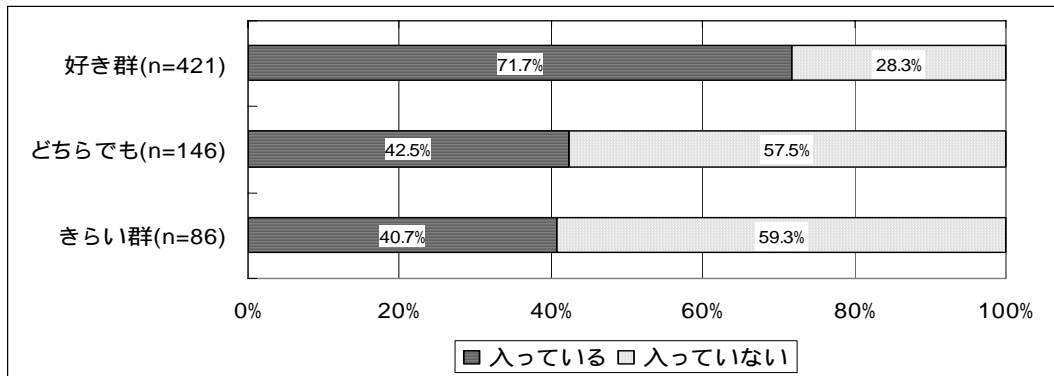
*** p<0.001

図3 - 164 3群 × 学校の運動部活動に入っているか（2年生男子）



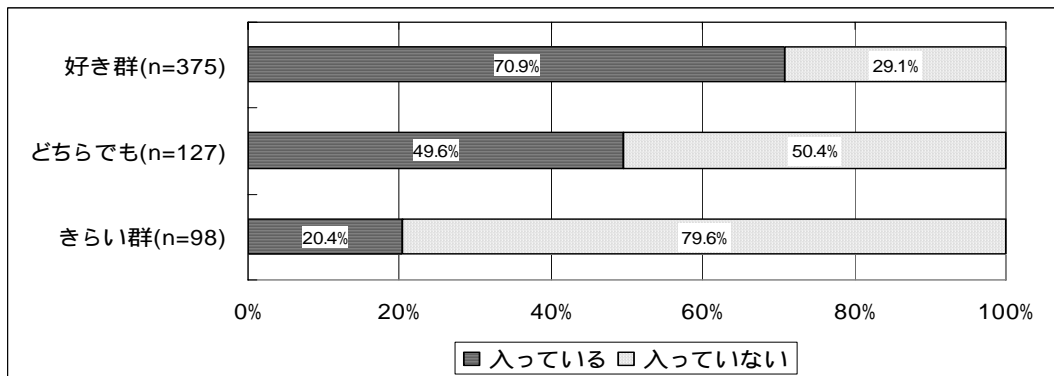
*** p<0.001

図3 - 165 3群 × 学校の運動部活動に入っているか（3年生男子）



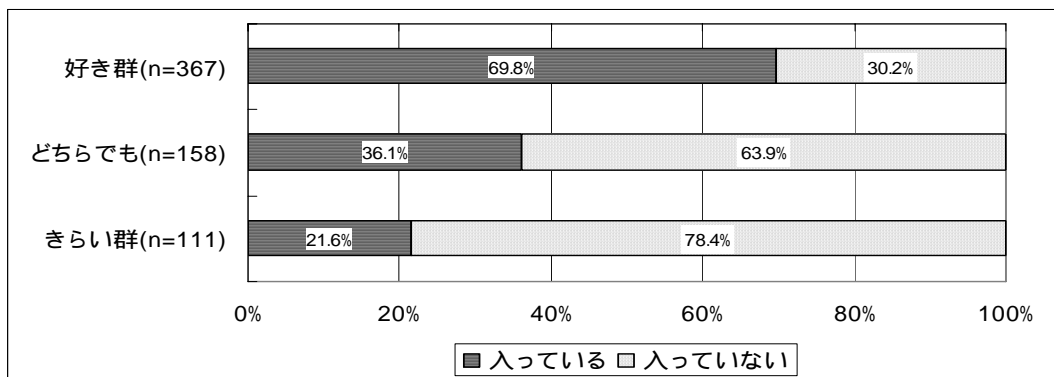
*** p<0.001

図3 - 166 3群 × 学校の運動部活動に入っているか (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 167 3群 × 学校の運動部活動に入っているか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 168 3群 × 学校の運動部活動に入っているか (3年生女子)

運動部の入部率は「好き群」が高く、男子81.9%以上、女子69.8%以上であった。さらに入部の状況を体育の学習に対する各群別に見ていくと、「好き群」から「どちらでもない」「嫌い群」と減少していくことがわかる。男子については、各学年とも「どちらでもない」で65.0%以上、「嫌い群」でも57.5%以上の生徒が入部していることがわかった。女子については、各学年とも「どちらでもない」で36.1%以上、「嫌い群」でも20.4%以上の生徒が入部していることがわかった。

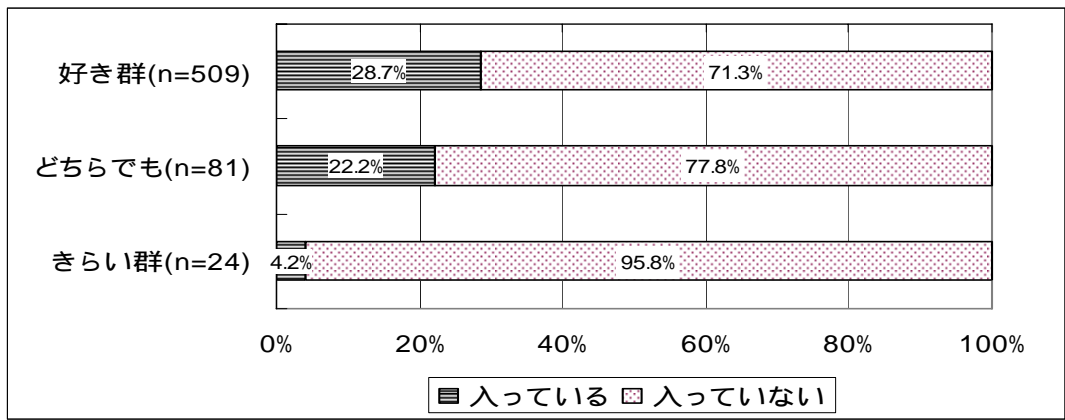
「学校の運動部活動に入っているか」とのクロス集計結果

「好き群」の入部率が高いことから、体育の学習が「好き」な生徒は、部活動にも意欲的に取り組んでいることがわかった。

男子は、「どちらでもない」で65.0%以上、「嫌い群」で57.5%以上と、体育の学習に対する「好き、きれい」には関係なく、高い入部率を示している。

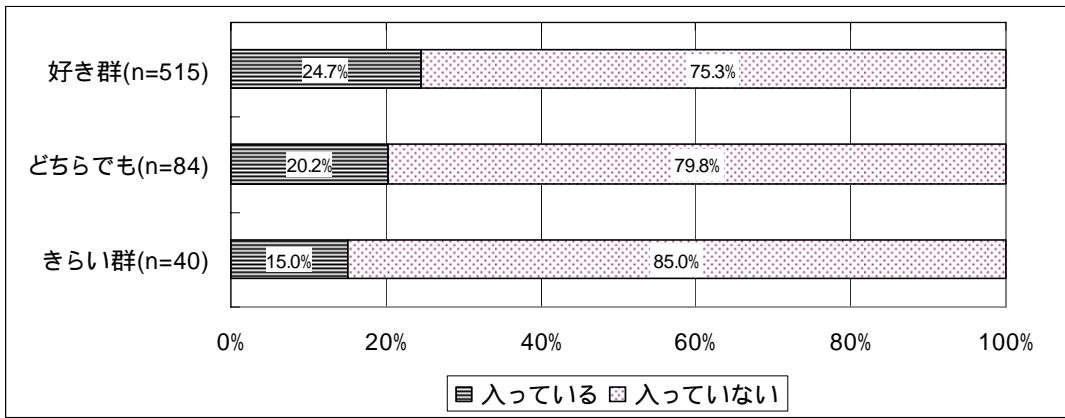
オ スポーツクラブについて

3 群 × [問24 学校外のスポーツクラブに入っていますか？ (単一回答)]



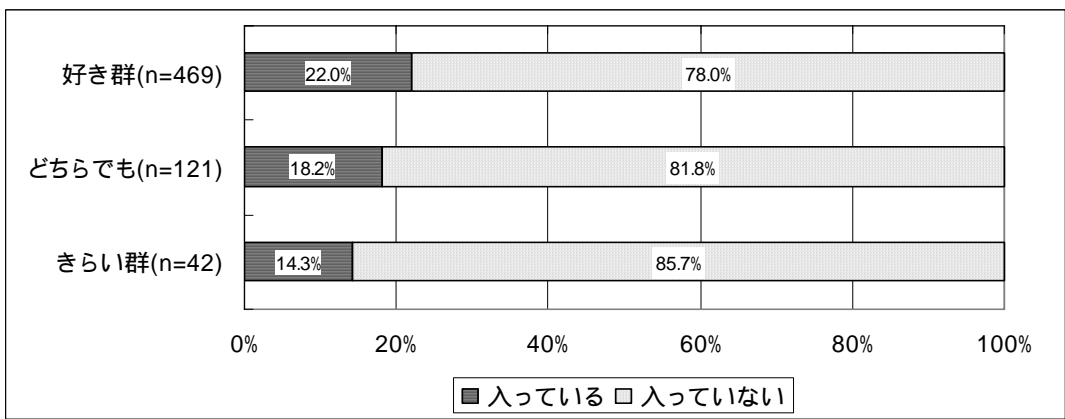
* p<0.05

図 3 - 169 3 群 × 学校外のスポーツクラブに入っているか (1 年生男子)



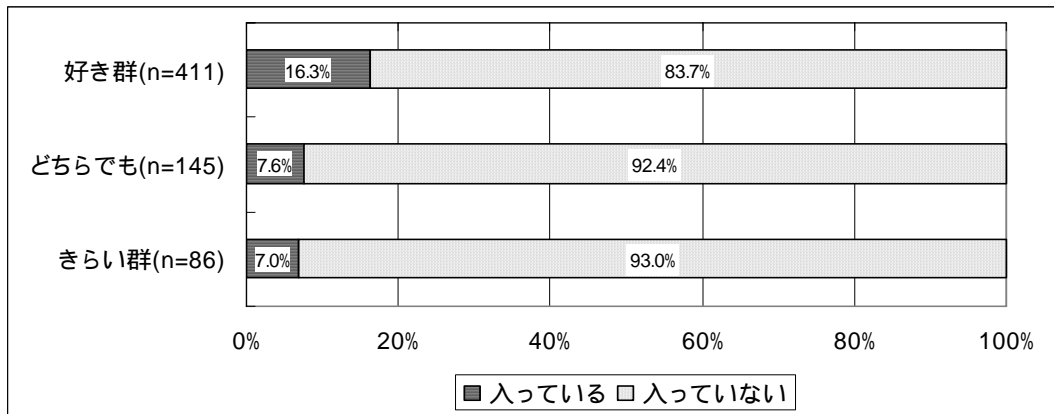
n s

図 3 - 170 3 群 × 学校外のスポーツクラブに入っているか (2 年生男子)



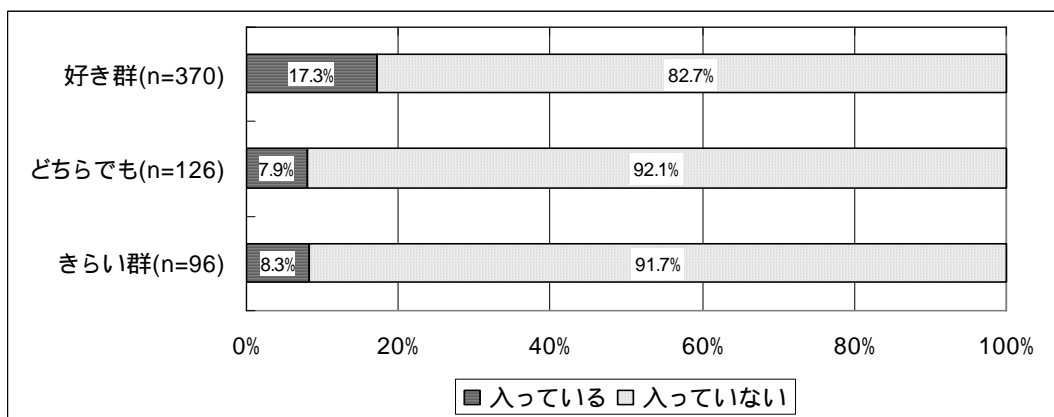
n s

図 3 - 171 3 群 × 学校外のスポーツクラブに入っているか (3 年生男子)



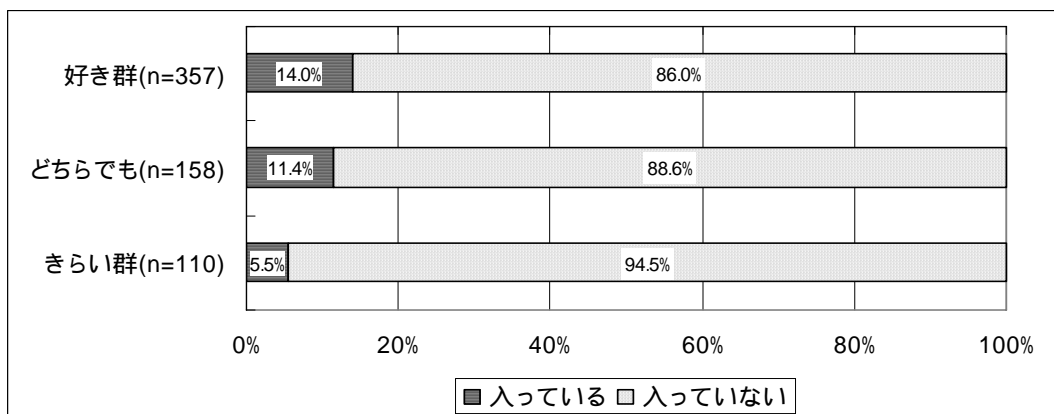
** p<0.01

図3 - 172 3群×学校外のスポーツクラブに入っているか(1年生女子)



** p<0.01

図3 - 173 3群×学校外のスポーツクラブに入っているか(2年生女子)



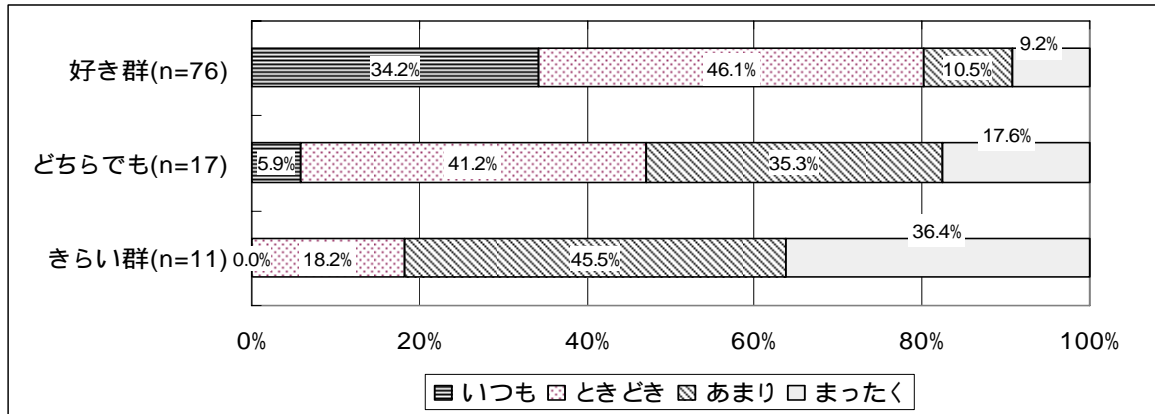
n s

図3 - 174 3群×学校外のスポーツクラブに入っているか(3年生女子)

2・3年生男子と3年生女子には有意な差が見られなかったので分析はしない。

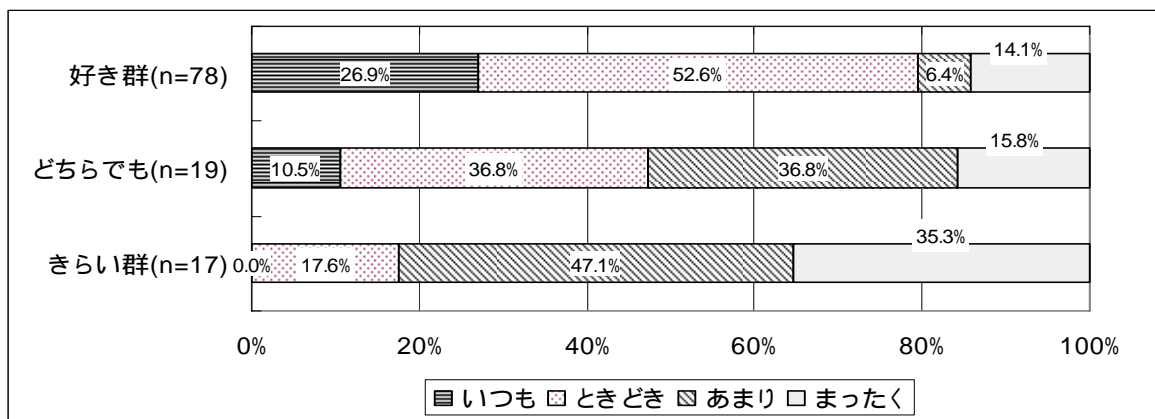
カ 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをするか

3群 × [問25 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしていますか？
(単一回答)]



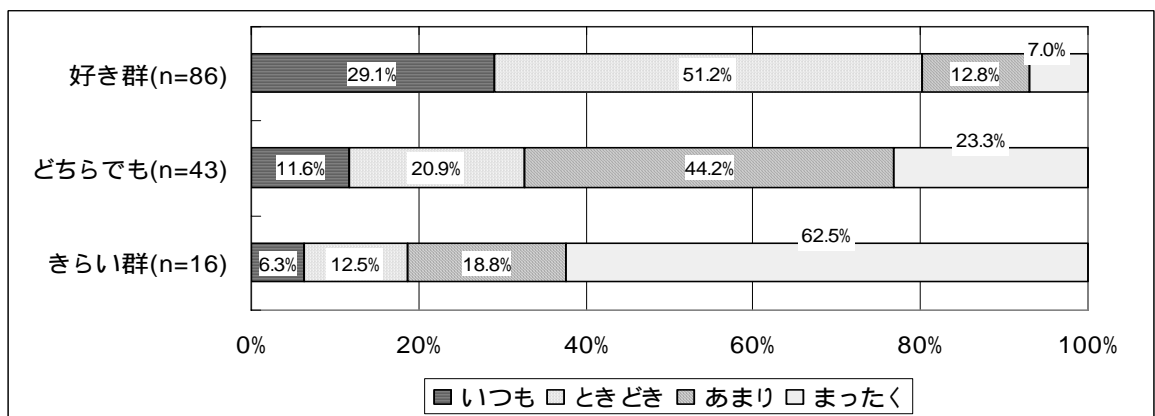
*** p<0.001

図3 - 175 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (1年生男子)



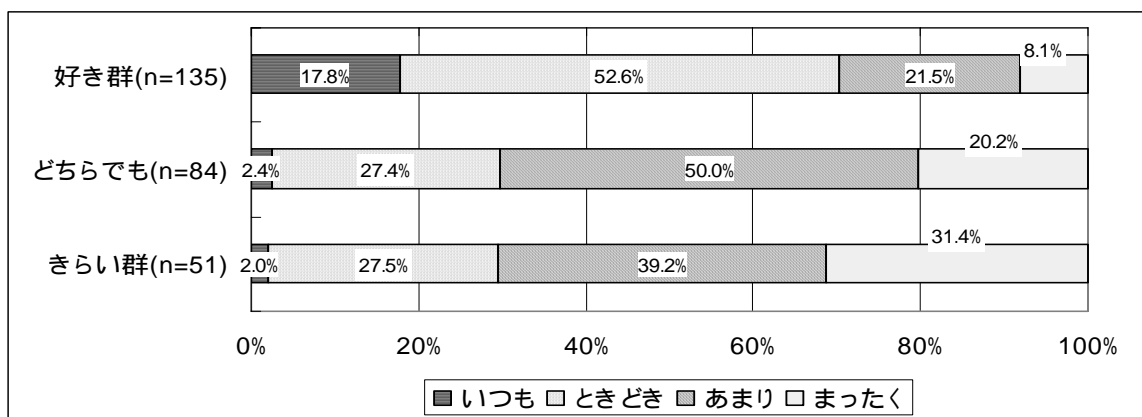
*** p<0.001

図3 - 176 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (2年生男子)



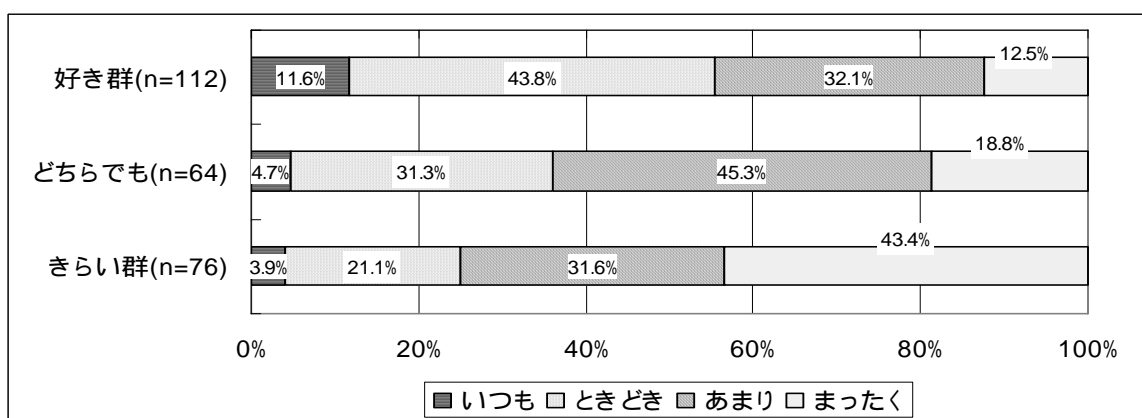
*** p<0.001

図3 - 177 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (3年生男子)



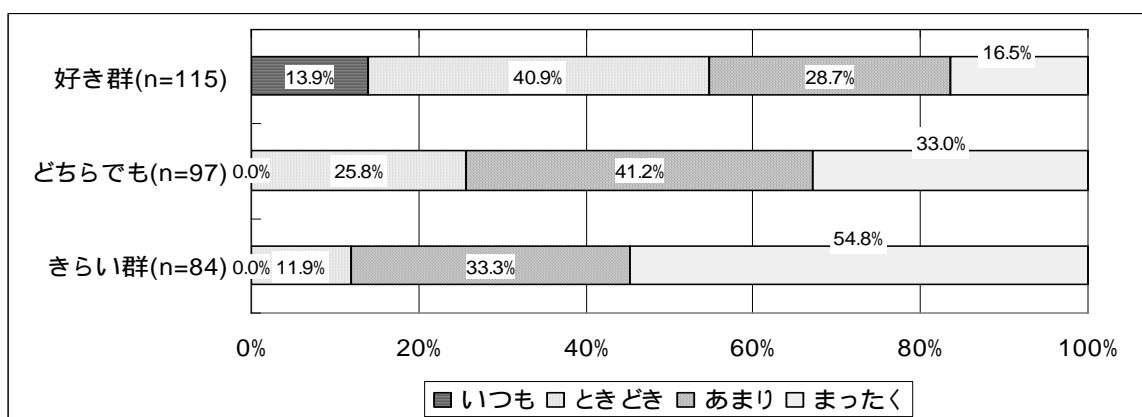
*** p<0.001

図3 - 178 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 179 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 180 3群 × 放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか (3年生女子)

体育の学習が「好き群」の方が、放課後や休みの日に運動をしている割合が高く、「どちらでもない」「きれい群」と実施率が低下していることがわかった。

コラム51

「放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか」
小学生の意識(平成17年度調査)との比較

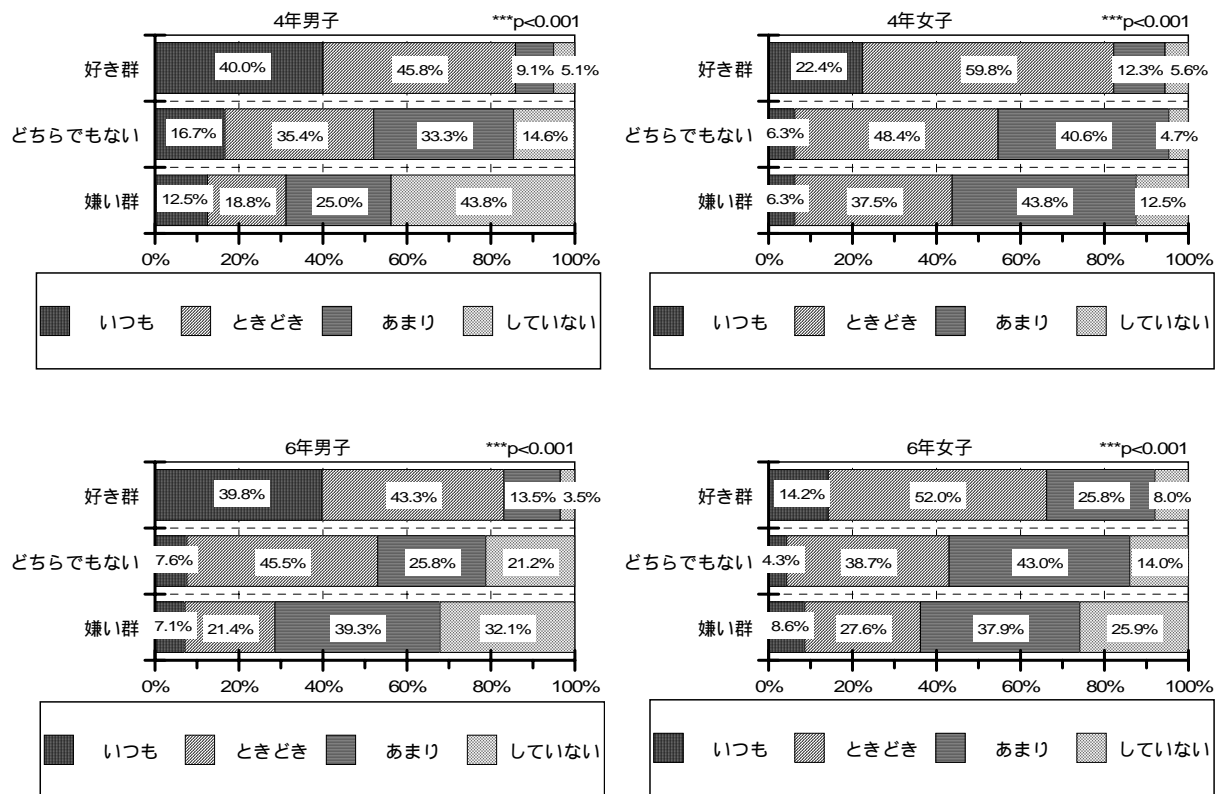


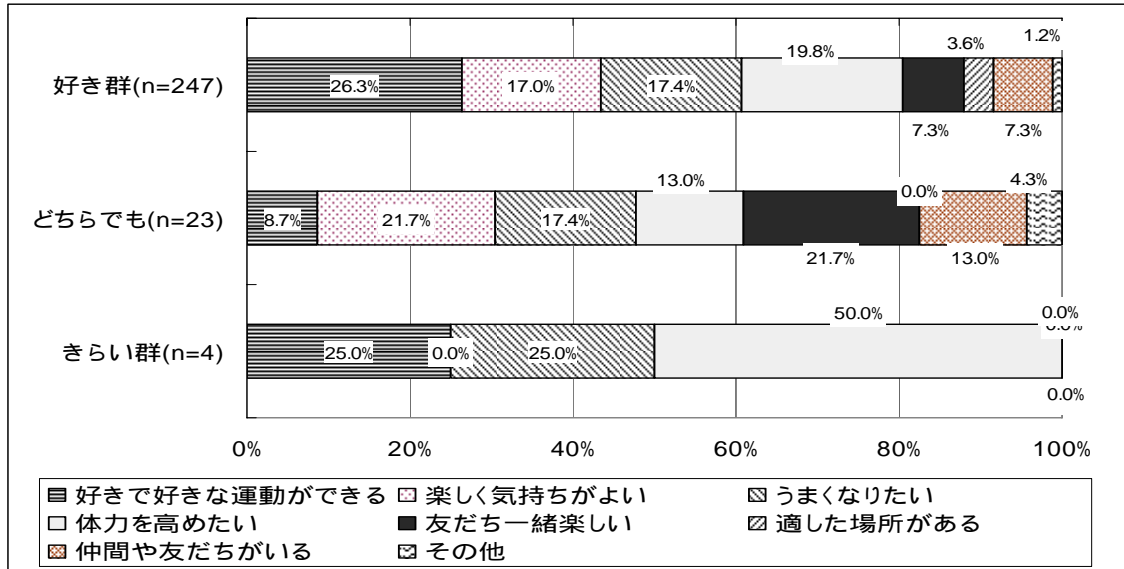
図 (9) 「放課後や帰宅後、休みの日に運動やスポーツをしているか」小学生の意識
(平成17年度調査)

小学生・中学生ともに、体育の学習が「好き群」の児童生徒は、放課後や休日に運動やスポーツを実施しており、「どちらでもない」「嫌い群」と実施率が低下していきことがわかった。

また、この結果は学校で休み時間や放課後に運動する状況と同じ結果となった。

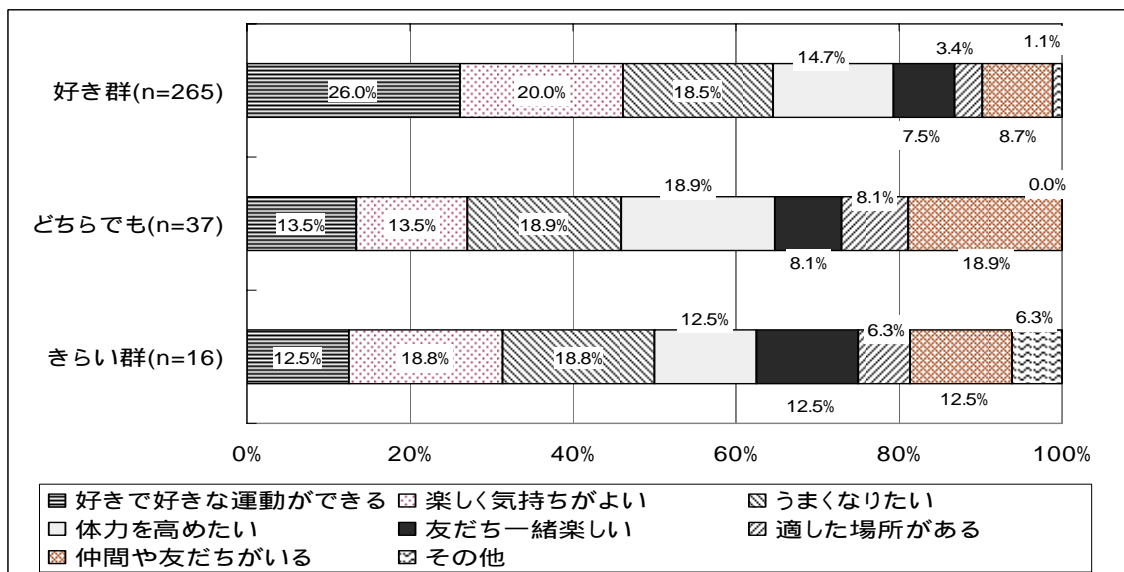
キ なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか

3群×〔問26 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのですか？
（3つまで回答）〕



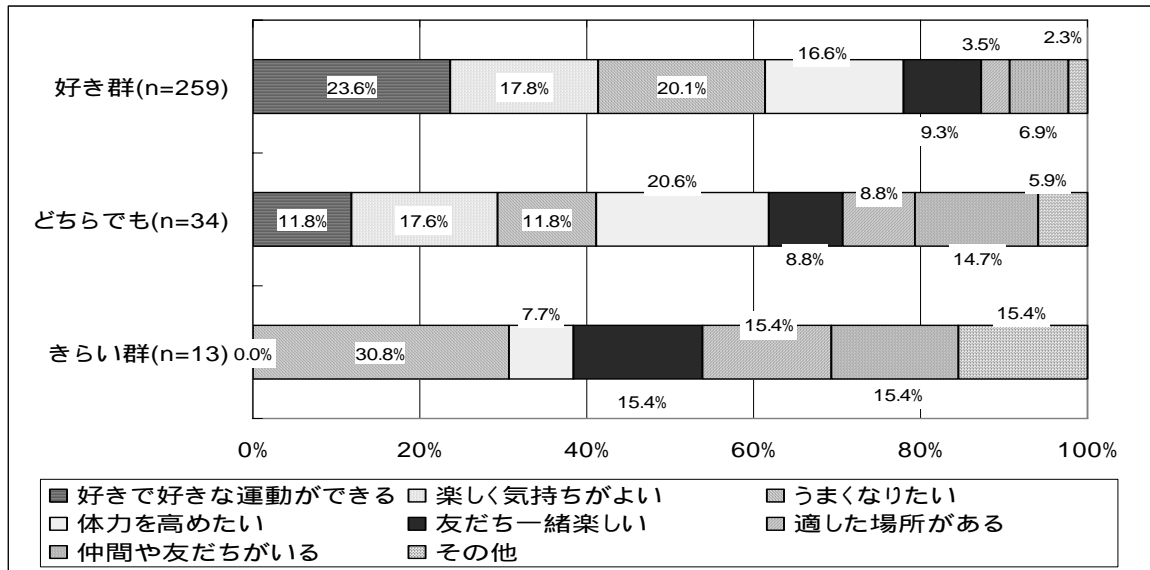
n s

図3 - 181 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか（1年生男子）



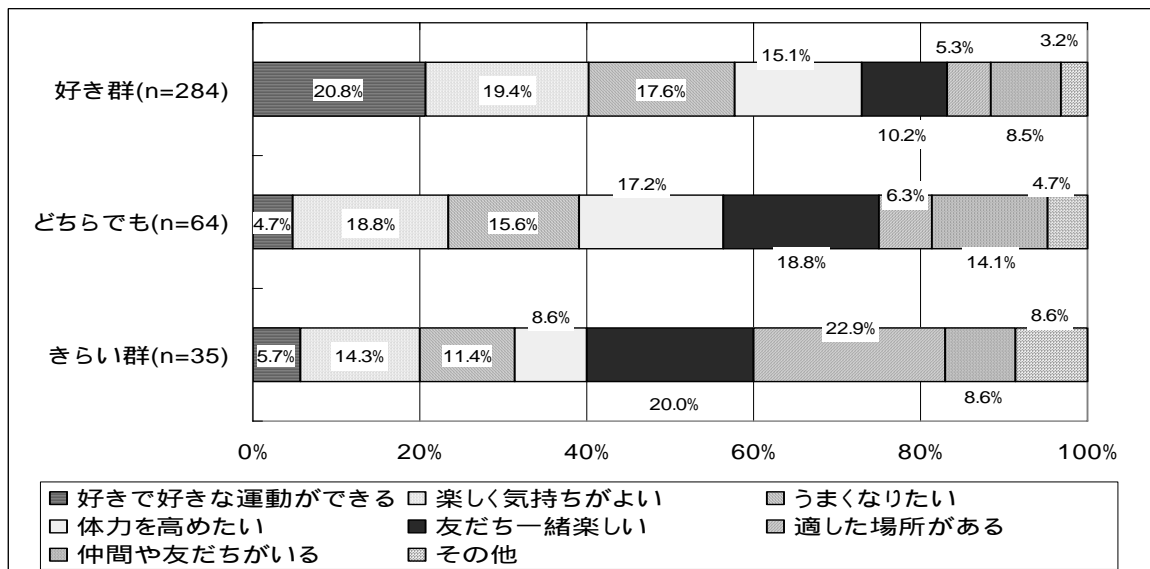
n s

図3 - 182 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか（2年生男子）



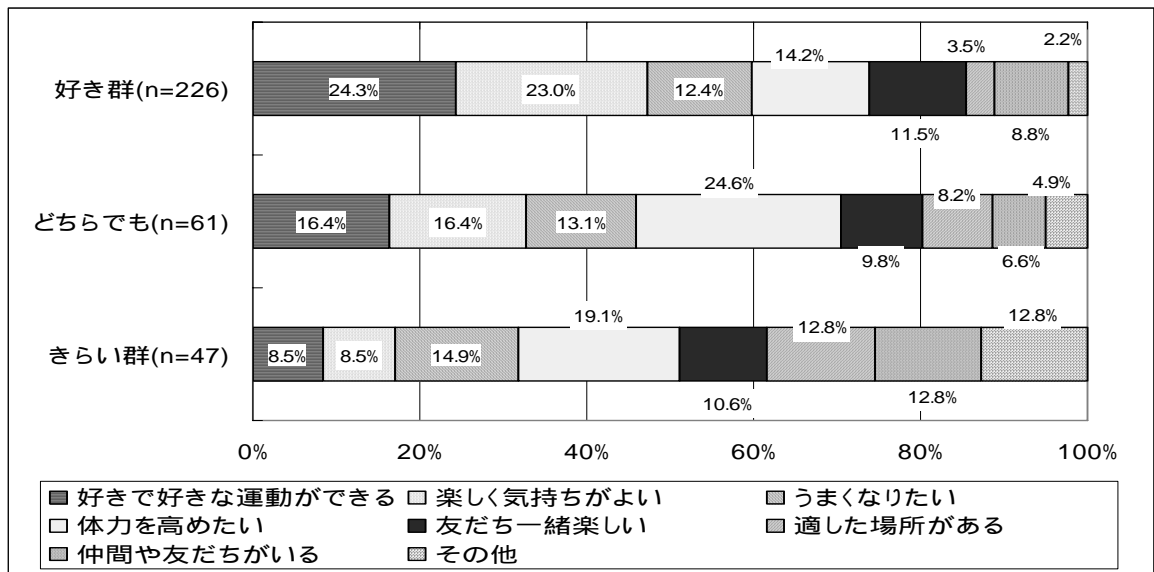
* p<0.05

図3 - 183 3群 x なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (3年生男子)



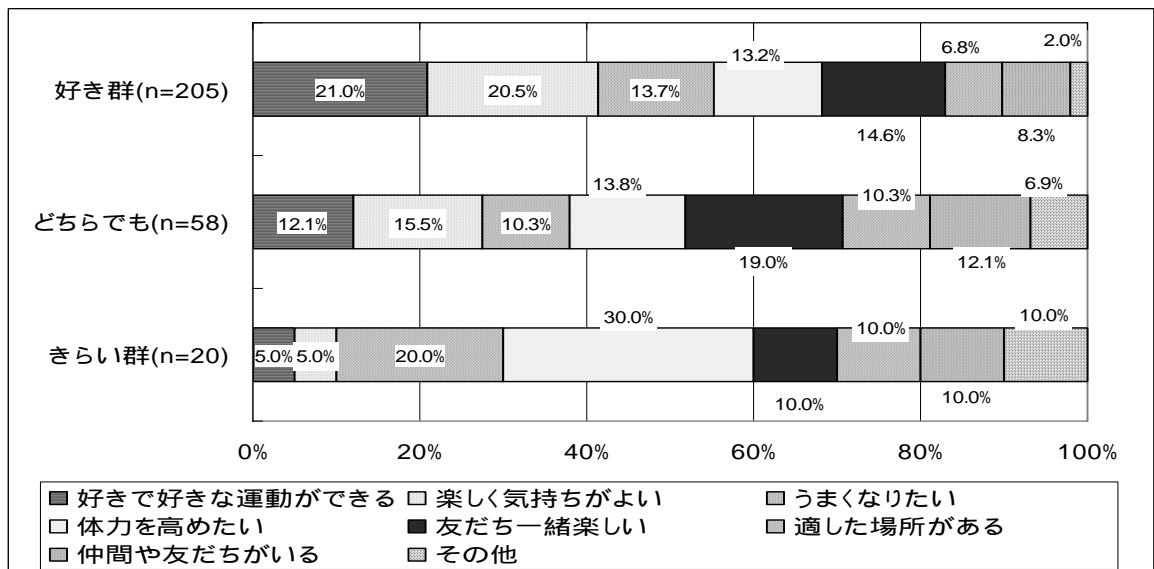
** p<0.01

図3 - 184 3群 x なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (1年生女子)



** p<0.01

図3 - 185 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (2年生女子)



n s

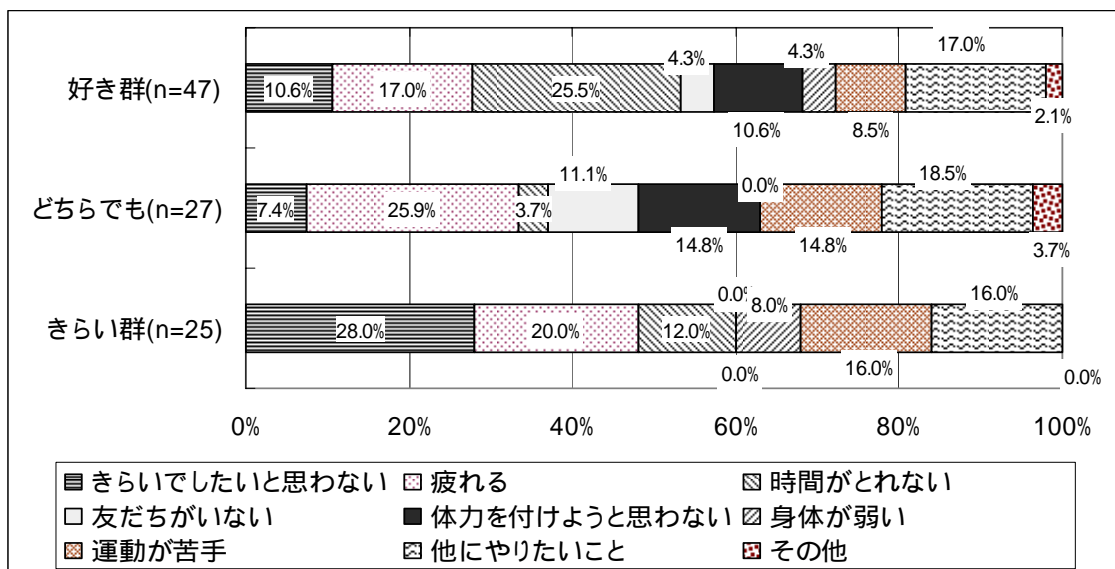
図3 - 186 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのか (3年生女子)

1・2年生男子と3年生女子で有意差がみられなかった。

3年生男子と1・2年生女子をみると、「運動することが好きで、好きな運動ができるから」や「運動すると楽しく、気持ちがいいから」が「好き群」で高い割合で、「どちらでもない」「きれい群」と低くなっていることがわかった。

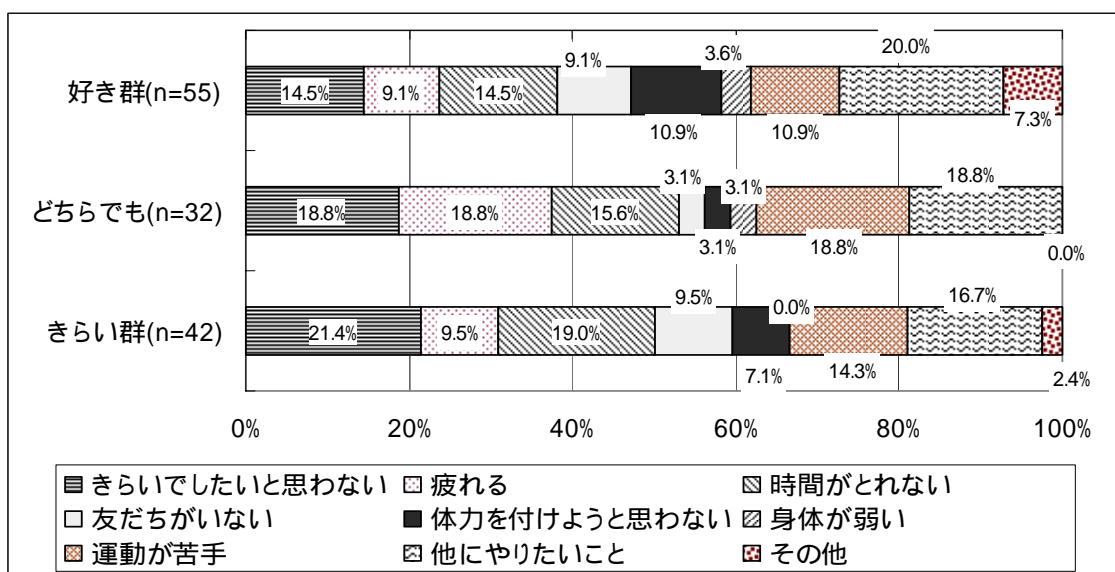
ク なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのか

3群×〔問27 なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのですか？
（3つまで回答）〕



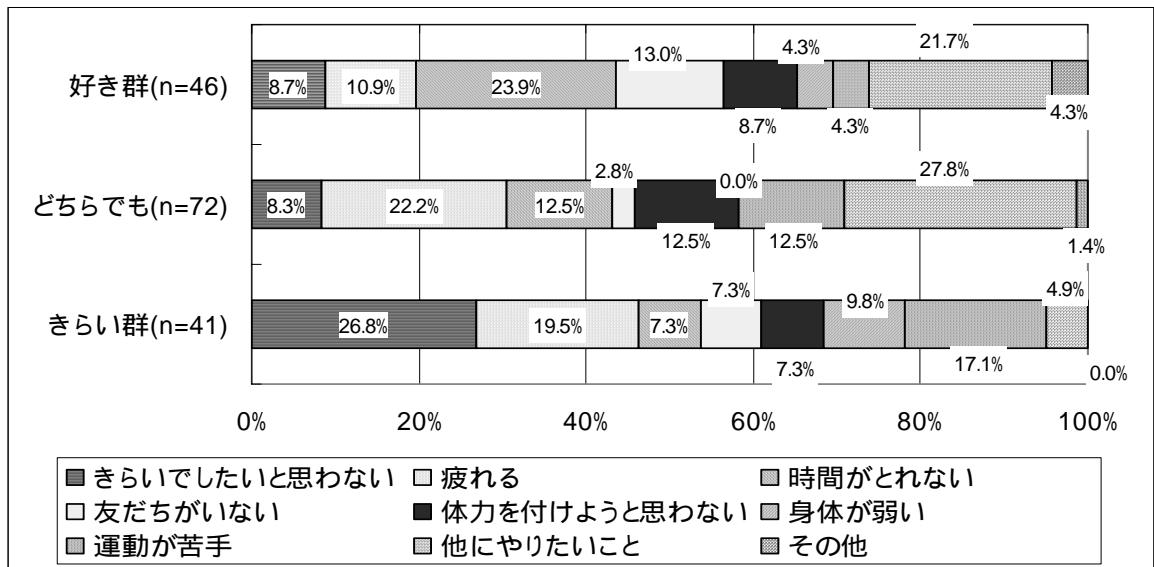
n s

図3 - 187 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか（1年生男子）



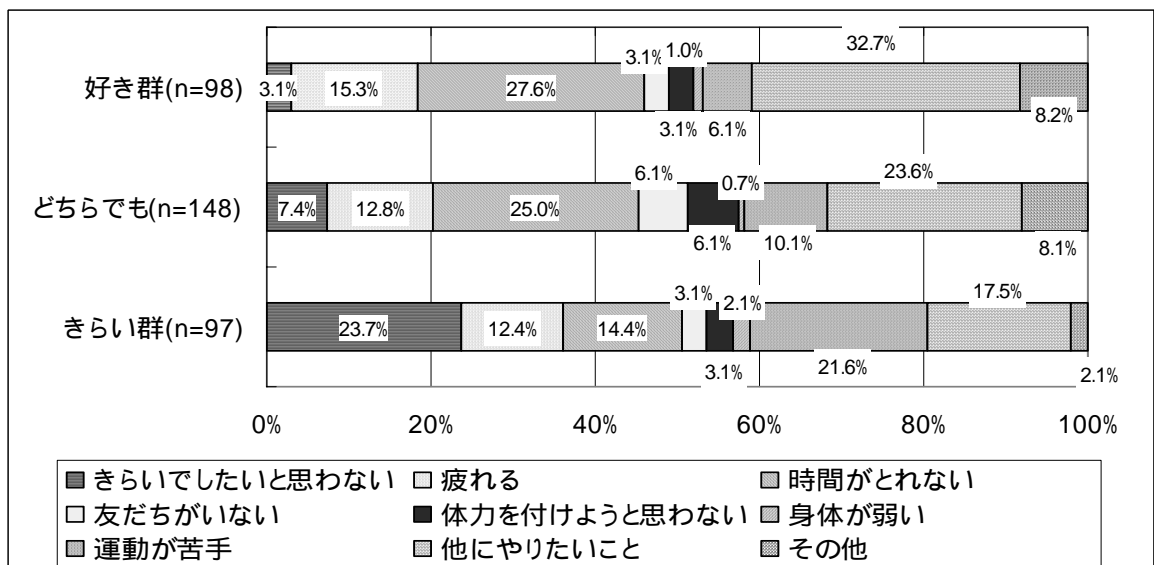
n s

図3 - 188 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか（2年生男子）



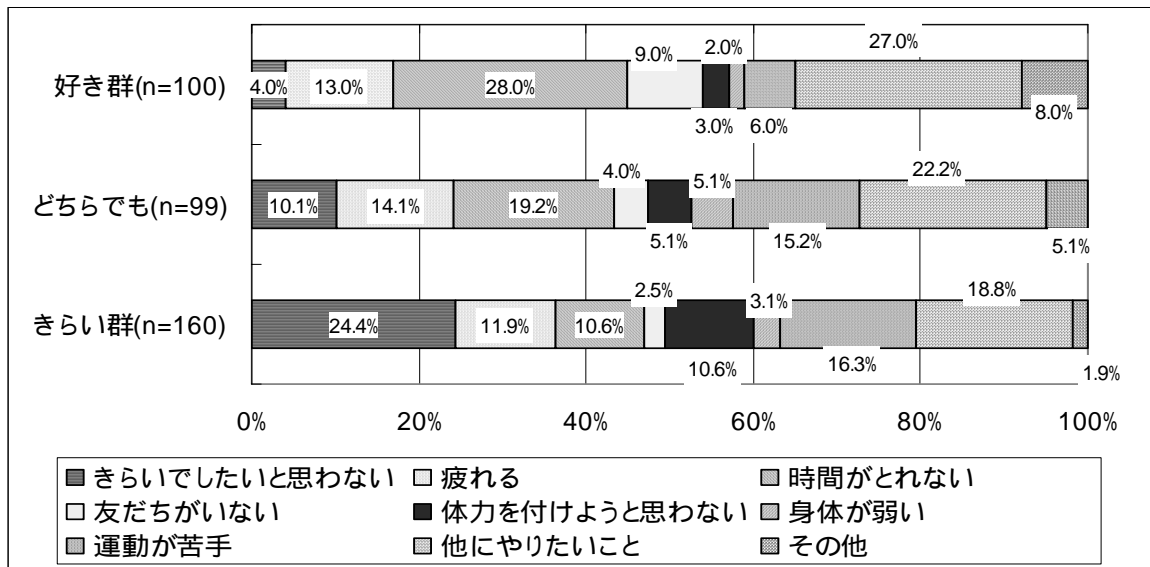
** p<0.01

図3 - 189 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか(3年生男子)



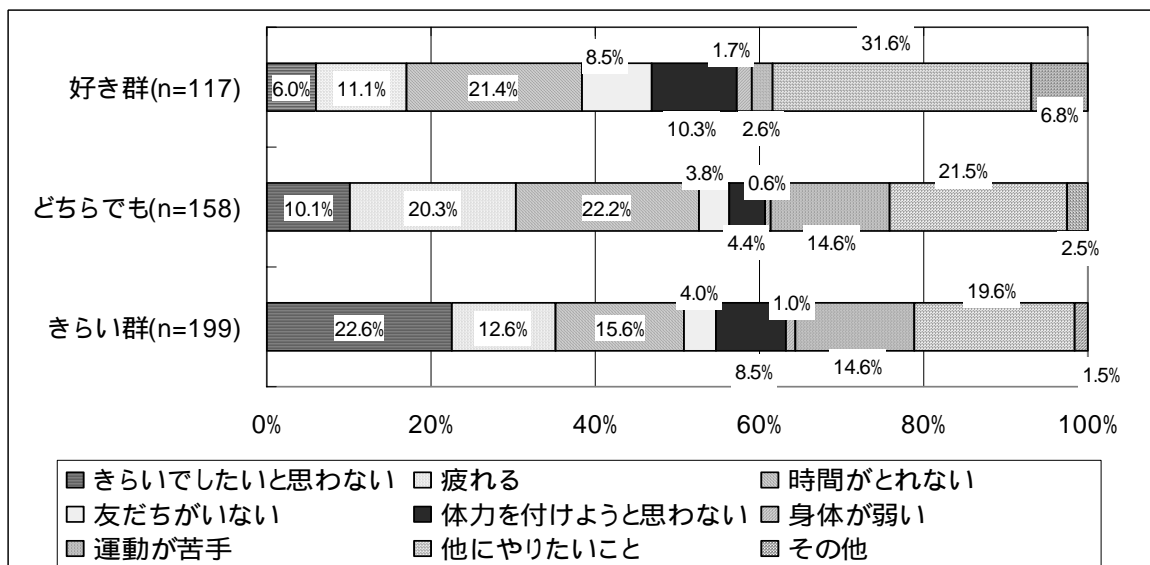
*** p<0.001

図3 - 190 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 191 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか(2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 192 3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか(3年生女子)

1・2年生男子に有意な差がみられなかった。

女子をみると、各学年とも「運動がきらいで、したいと思わないから」が「好き群」で低く「どちらでもない」「きらい群」と高くなっていることがわかった。また、「塾や勉強、習い事で時間がとれないから」と「他にやりたいことがあるから」の項目で、「好き群」の割合が高く、「どちらでもない」「きらい群」と低くなっていることがわかった。また、「塾や勉強、習い事で時間がとれないから」については、3年男子にも同じことがいえた。

コラム53

「なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか」
小学生の意識(平成17年度調査)との比較

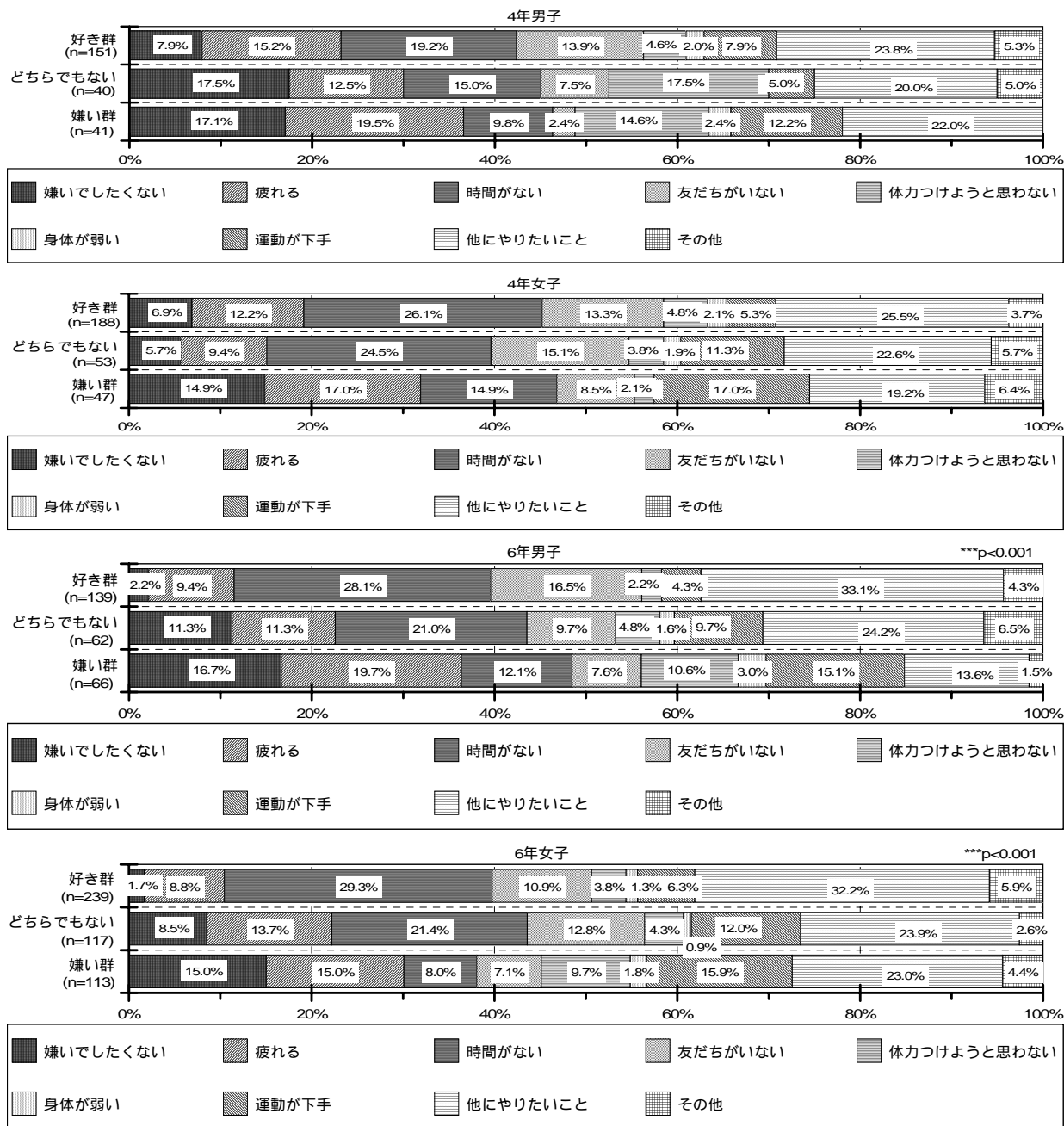


図 (10) 「なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしていないのか」(平成17年度小学生)

女子を見てみると、小学生・中学生ともに「運動がきらいで、したいと思わないから」が「好き群」で低く「どちらでもない」「きらい群」と高くなっていることがわかった。また、「塾や勉強、習い事で時間がとれないから」と「他にやりたいことがあるから」の項目で、「好き群」の割合が高く「どちらでもない」「きらい群」と低くなっていることがわかった。

「放課後や帰宅後の運動の実施状況」についてのクロス集計結果

体育の学習が「好き群」の男子80.0%、女子60.2%が、部活動やスポーツクラブ等に入っていないにもかかわらず放課後や帰宅後に運動をしていることがわかった。

ただし、男子には学年による変化はなかったが、女子は2・3年生で低下していた。

体育の学習が「きれい群」の男子は18.2%、女子は22.1%で、「きれい群」では女子のほうが男子よりも放課後や帰宅後に運動をしていることがわかった。しかし、男子には学年による変化はなかったが、女子は学年進行とともに減少し、3年生では11.9%と男子よりも低くなっている。

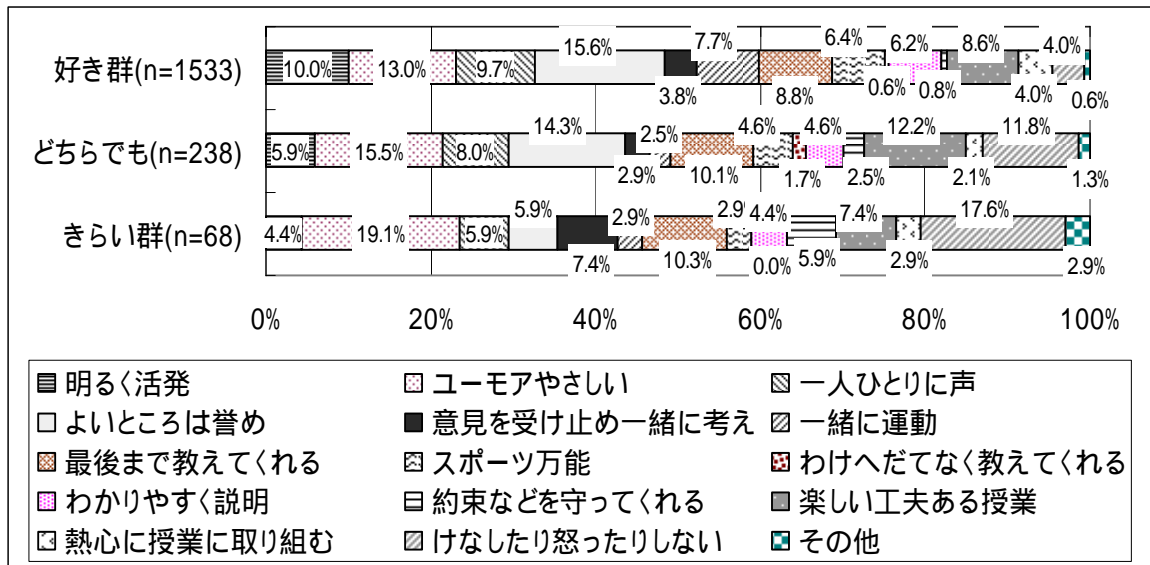
3年生男子と1・2年生女子をみると、体育の学習が「好き群」の運動やスポーツをする理由は「運動することが好きで、好きな運動ができるから」であることがわかった。

体育の学習が「きれい群」の運動やスポーツをする理由は、3年生男子には特徴がなかったが、

1・2年生女子で「運動するのに適した場所があるから」であることがわかった。

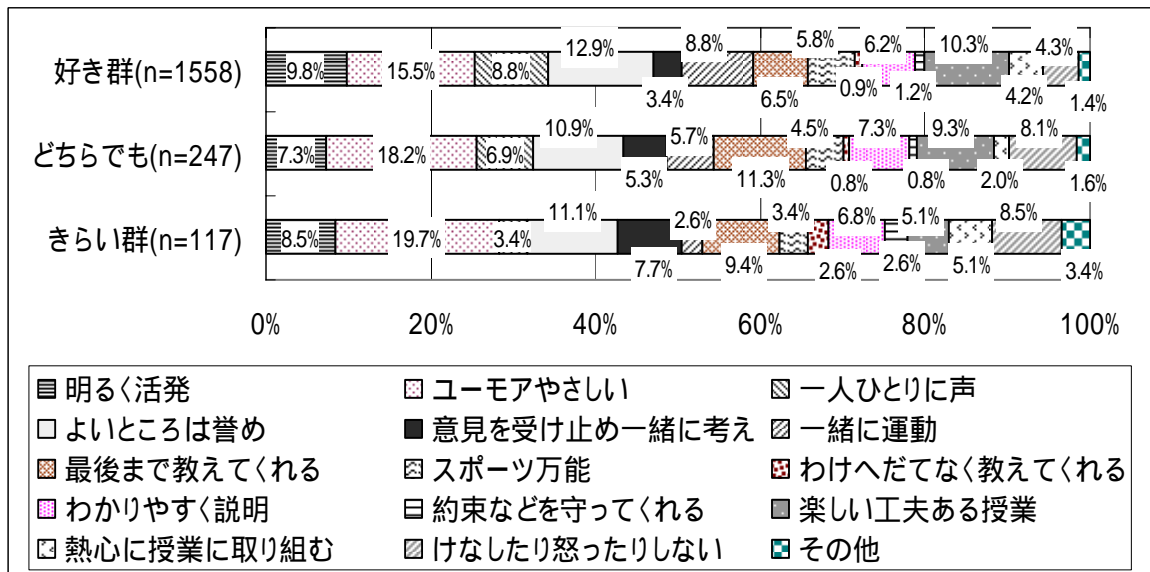
ケ どんな先生に教えてもらいたいのか

3群×〔問29 体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいですか？（3つ回答）〕



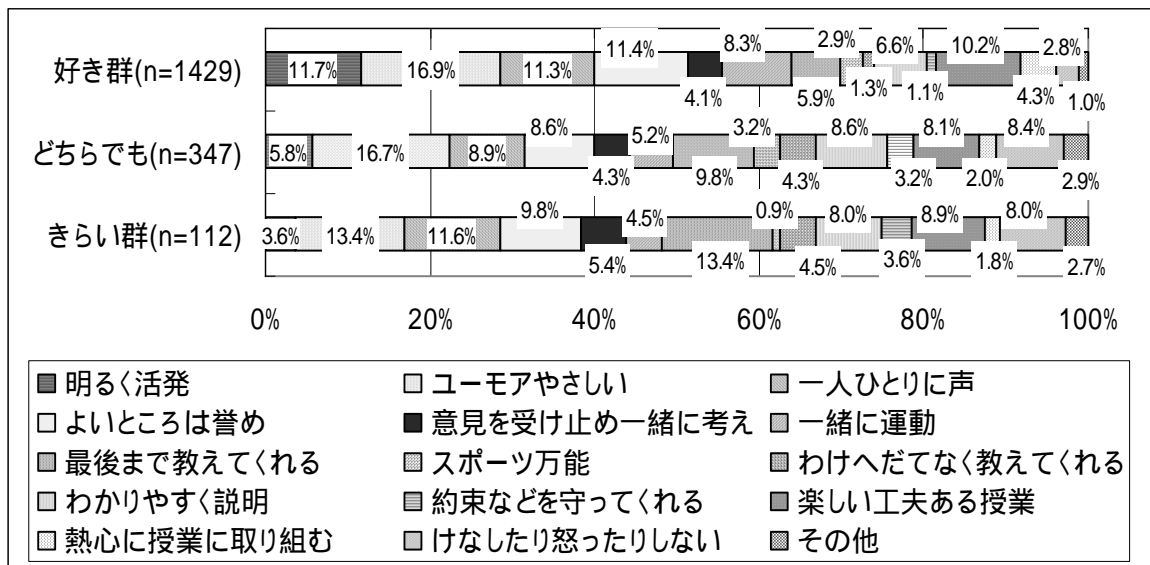
*** p<0.001

図3 - 193 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいのか（1年生男子）



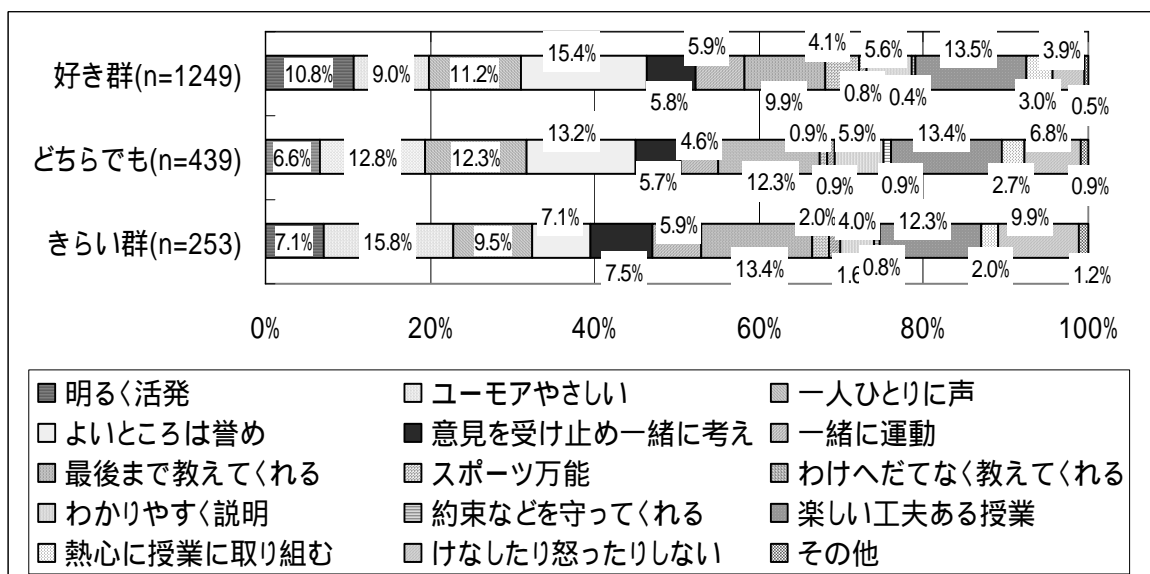
** p<0.01

図3 - 194 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいのか（2年生男子）



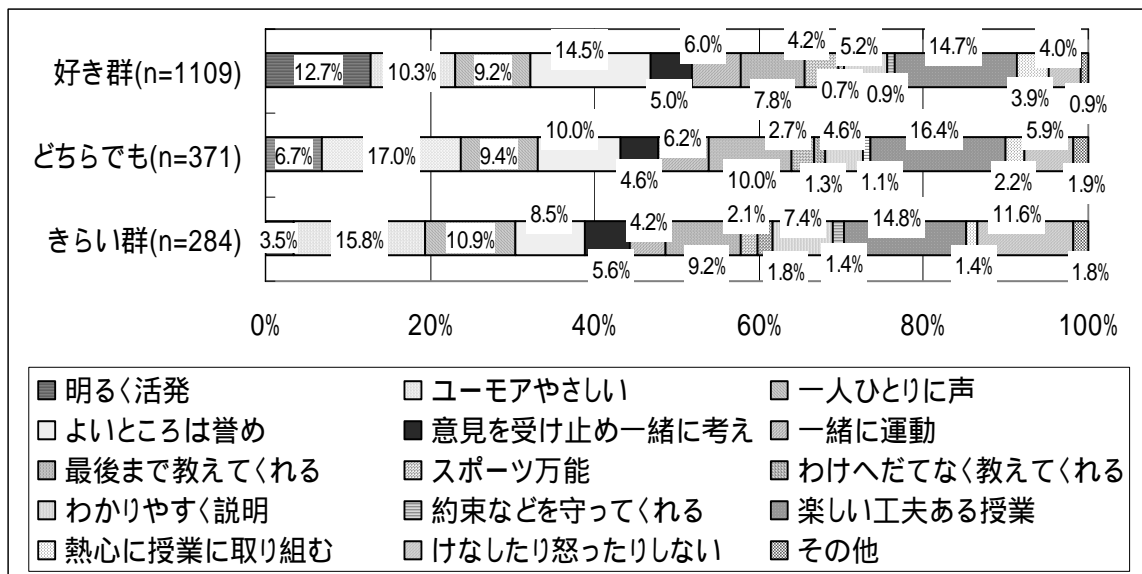
*** p<0.001

図3 - 195 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいのか(3年生男子)



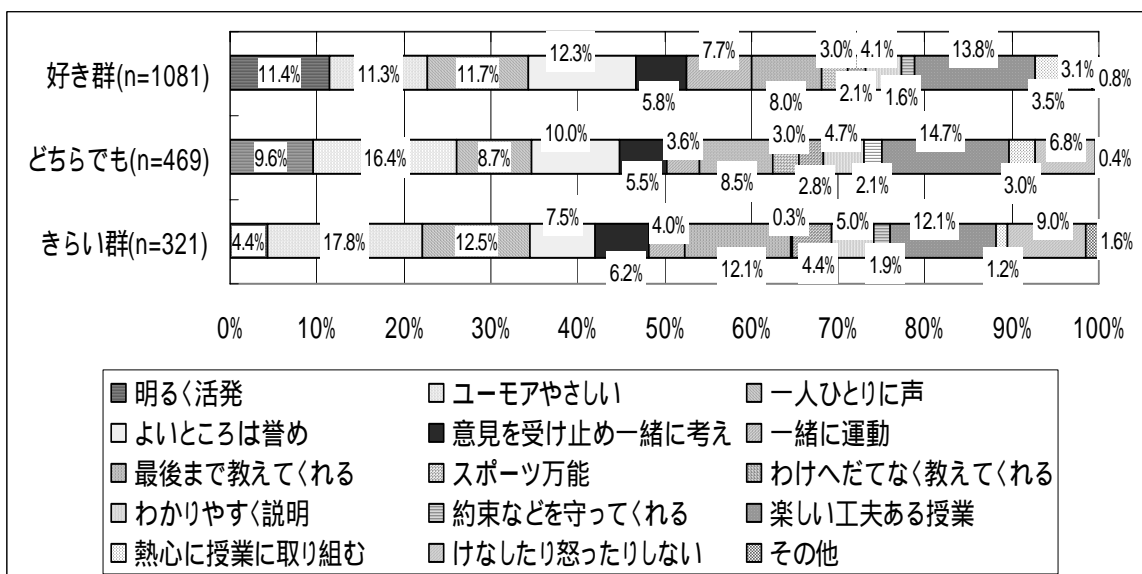
*** p<0.001

図3 - 196 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいのか(1年生女子)



*** p<0.001

図3 - 197 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいか (2年生女子)



*** p<0.001

図3 - 198 3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいか (3年生女子)

「明るく活発できびきびした先生」「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」の項目は、「好き群」の割合が高く、「どちらでも」「きらい群」と低くなる傾向にあった。

「ユーモアのあるやさしい先生」「できない人、わからない人に最後まで教えてくれる先生」「できない人をけなしたり、怒ったりしない先生」の項目は、「好き群」の割合が低く、「どちらでも」「きらい群」と高くなる傾向にあった。

「体育の学習でどんな先生に教えてもらいたいか」についてのクロス集計結果

体育の学習が「好き群」で高かった項目は、「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」「ユーモアのあるやさしい先生」「明るく活発できびきびした先生」の順であった。

体育の学習が「きらい群」で高かった項目は、「ユーモアのあるやさしい先生」「できない人をけなしたり、怒ったりしない先生」「できない人、わからない人に最後まで教えてくれる先生」であった。

このことから、教師は生徒一人ひとりに目をむけ、個に応じたきめの細かい指導を行い、生徒の問題点だけを指摘するだけでなく、生徒のよい点をしっかりと評価し、それを適切に表現し、伝えることが必要である。

考察

1 運動やスポーツをすることが「好き」か「きれい」かについて

運動やスポーツをすることが「とても好き」と「どちらかというときらい」を合わせた（以下「スポーツ好き群」という。）生徒の割合は、男子は1年生87.1%、2年生86.6%、3年生80.3%で、女子は1年生72.3%、2年生72.4%、3年生68.5%と多くの生徒が運動やスポーツをすることが「好き」であることがわかった。

運動やスポーツをすることが「どちらかというときらい」と「とてもきれい」を合わせた（以下「スポーツきれい群」という。）生徒の割合は、男子は学年進行にともなう変化は見られなかったが、女子は学年進行とともにやや増加していることがわかった。

「運動やスポーツの好き、きれい」と「体育の学習の好き、きれい」との連関についてみたところ、「スポーツ好き群」のうち、95%以上が体育の学習の「好き群」であることがわかった。

また、「スポーツ好き群」の中で、体育学習の「きれい群」は全体でわずか2.0%しかおらず、いわゆる「運動好きの体育きれい」は今回の調査結果からは認められなかった。

「スポーツきれい群」のうち、体育の学習の「好き群」は、全体で0.4%しかいないことがわかった。

このことから、運動やスポーツをすることが「きれい」な生徒は、体育の学習も「きれい」であることがわかった。

2 体育の学習が好きかきらいかについて

体育の学習の「好き群」は、10年前よりも増加していることがわかった。特に「とても好き」の割合が男子35.5% 43.9%で8.4ポイント、女子20.2% 25.9%で5.7ポイントと大きく増加している。また、「どちらかというときらい」と「とてもきれい」（以下「きれい群」という。）を合わせた割合も減少しており、体育の学習が改善されてきている結果ではないかと思われる。

また、体育の学習の「すき群」のうち「スポーツ好き群」は、男子1年生97.2%、2年生97.4%、3年生95.8%、女子1年生95.7%、2年生95.3%、3年生95.4%であり、体育の学習が「好き」な生徒で運動やスポーツをすることが「好き」な生徒は、各学年男女とも大きな変化なく高い割合を占めていることがわかった。

その一方で、小学生（平成17年度調査）で男子84%以上、女子73%以上あった「好き群」が、男子1年生82.7%、2年生80.5%、3年生74.3%、女子は1年生64.2%、2年生62.1%、3年生57.7%と学年の進行とともに減少しており、特に女子の落ち込みが激しいことがわかった。

体育の学習が「好き」な理由は「思いきり身体を動かすことができるから」が1番多く「いろいろな運動ができておもしろいから」が2番だった。また、きれいな理由は「身体を動かすことが好きでなく、面倒くさい」や「運動すると疲れたり、苦しくなったりするから」が上位となった。体育の学習「好き群」は、運動の特性に触れながら活動することが好きな理由なのに対して、「きれい群」は、運動やスポーツそのものがきれいであり、運動やスポーツをすることの「楽しさ」をどう伝えていくかが1つの鍵となると思われる。

3 体育の時間の活動状況について

（1）取り組み方について

体育の学習において、多くの生徒が自分なりの目標や課題を持ち、準備や片付けに進んで取り組み、友だちと教えあったり、協力し合ったりして、精一杯最後まで努力して活動している様子がうかがえた。また、課題が自分にあるか考え、課題を解決するために練習の場所や仕方などを工夫して、課題の達成状況を確認しながら活動していることもわかった。

しかし、体育の学習が「好き」な生徒は、積極的に活動しているが、「きれい」な生徒は、十分な活動をしているとはいえない状況であった。特に、「きれい」な生徒は、「思考・判断」が求められる場面で、「好き」な生徒よりも取り組みが低いことがわかった。

ただし、「きれい」な生徒も友だちとの協力や、準備や片付けなどの自分の役割については、意欲的に活動しており、このようなプラスの取組みを積極的に評価することで、「きれい」から「どちらでもない」や「好き」へ意識を変えてあげることのきっかけになるのではないだろうか。

(2) 課題学習への取組み

体育の学習で、自分の課題をどのようにして決めるかたずねたところ、男子は3学年とも最高位に「先生に言われたことを課題にしている」で、女子は、1・2年生が「友達と相談して、自分で決める」で3年生が「学習カードで学習を振り返り、その反省や結果分析をもとに自分で決める」であった。課題の決め方に関しては、男女差があり、男子は先生への依存が高く、女子は、学び方が身につけているといえるので、そのような違いを踏まえた指導が必要である。

グループの課題の決め方では、3学年男女ともに「リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」が最高位であったが、リーダーや少数の意見を中心に決めているなど、主体的にかかわっていくことができない生徒がいるので、そういった生徒に対しては、教師が課題解決の手がかりを示すなどの配慮が必要である。

体育の学習で、課題(めあて)がうまく達成できないとき、どうしますかたずねたところ、各学年男女とも最高位は「友達に聞く」であり、次に男子は「自分だけでがんばる」、女子は「先生に聞く」となり、ここでも男女差がみられた。

小学生・中学生を通じて、課題学習に対しての取り組みの定着が見られる一方で、課題の設定の仕方がわからずに、あきらめるなど、学び方が身につけていない生徒もおり、教師が個々の生徒の実態に応じた、きめの細かい指導をする必要がある。

4 体育の学習の楽しいときつまらないときについて

(1) 楽しいと感じるとき

体育の学習が楽しいと感じたことがありますかとたずねたところ、「いつも感じる」と「時々感じる」の回答をあわせた(以下「感じる群」という。)割合は、男子は1年生93.5%、2年生93.6%、3年生91.9%で、女子は1年生93.5%、2年生91.1%、3年生88.4%であり、多くの生徒が体育の学習が「楽しい」と感じていることがわかった。特に体育の学習が「好き群」の生徒は、98.7%の生徒が「楽しい」と感じていた。

体育の学習が楽しいのはどんなときかたずねたところ、各学年男女ともに1番は「記録が伸びたり、できなかったことができるようになったりしたとき」で、運動有能感の「統制感(努力すれば、練習すればできるようになるという自信)」が高まったときを最高位にあげている。これは、平成7年度「中学生の意識」調査・平成17年度「小学生の意識」調査でも同じ結果であった。各学年男子の2番は「思い切り身体を動かすことができたとき」で、活動欲求が充足されたとき、各学年女子の2番は「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」、3番は「うまくできたり、がんばったりしたときに、仲間や先生がほめてくれたとき」で、運動有能感の「受容感(教師や仲間から受け入れられているという自信)」が高まったときをあげている。

体育の学習「きれい群」において「楽しい」と「感じる群」は、男子41.8%、女子60.9%もあり、体育の学習が「きれい」でも、「楽しさ」を感じていることがわかった。

(2) つまらないと感じるとき

体育の学習がつまらないと感じたことがありますかとたずねたところ、「感じる群」の割合は、男子は1年生27.2%、2年生36.9%、3年生37.8%で、女子は1年生53.1%、2年生49.7%、3年生56.8%であり、学年進行にともなって増え、また男子よりも女子のほうが多いことがわかった。

体育の学習がつまらないのはどんなときかたずねたところ、「練習しても記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき」が1年生男子を除き1番となった。(1年生男子は2番)2番には1年生を除いて「気持ちが悪く、疲れたとき」であった。(1年生男子の1番)2・3年生の3番は「運動の仕方がわからなかったり、思うように学習

できなかつたりしたとき」であった。

これらの結果は、「体育が楽しいと感じるとき」と表裏の関係にあり、「記録が伸び、うまくできるようになる」と楽しく、「記録が伸びず、うまくできない」とつまらないと多くの生徒が回答したことは当然であり、学習成果の良し悪しが「楽しさ」「つまらなさ」に直結していることが明らかになった。このことから、体育の学習において、「失敗経験」から「否定的評価」につながるような学習をなくし、「成功経験」や「肯定的評価」を数多く与え、運動有能感を高めることのできるような取組みが求められる。

5 好きな運動種目について

好きな運動種目は、男子1年生で「サッカー」「バスケット」「短距離走・リレー」の順で、2・3年生は「サッカー」「バスケット」「バレー」の順で、各学年1位は「サッカー」であり、マスコミの影響と近年のJリーグやワールドカップに象徴されるサッカー人気を裏付ける結果となった。女子は1年生「バドミントン」「バスケット」「バレー」、2年生「バスケット」「バレー」「バドミントン」、3年生「バレー」「バスケット」「バドミントン」と3つの種目が上位を占めた。

領域別だと、3学年男女ともに「球技」「陸上競技」「器械運動」の順であった。前回の中学生調査（平成7年度）では、男女とも「球技」「水泳」「陸上競技」と男女とも2位に「水泳」が入っていたのが、今回男女ともに4～5位に落ちてしまったのが特徴的であった。

6 好きな、または行いたい運動やスポーツについて

男子は、各学年共通で「サッカー」「野球」「バスケット」「テニス」の順で、前回の中学生の意識調査（平成7年度）では、「サッカー」「バスケット」「野球」「スキー」であった。

女子は、各学年「バドミントン」「バスケット」「テニス」「バレー」が上位を占め、前回の中学生の意識調査（平成7年度）では、「バドミントン」「バレー」「バスケット」「スキー」の順であった。

平成17年度「小学生の意識」調査で2年生と4年生に上位に入っていた「水泳」が学年の進行にともなって姿を消していることが特徴的である。

7 男女共習について

中学生になってから、体育の学習で男女共習を行ったことがあるかたずねたところ、男子は、1年生77.0%、2年生71.6%、3年生83.3%で、女子は、1年生97.2%、2年生78.1%、3年生88.9%であった。男女共習は選択制の授業を推し進めていく中で生じる授業形態のひとつで、避けることのできないものであると思われるが、「ない」の回答が、1・2年生で20～28%、3年生でも10～15%と多かった。

男女共習についてどのように思うかをたずねたところ、「楽しい」と「どちらかという楽しい」の回答をあわせた（以下「楽しい群」という。）割合は、男子は1年生59.0%、2年生52.7%、3年生61.6%で、女子は1年生72.0%、2年生56.0%、3年生63.7%で、平均6.1ポイント女子のほうが多いことがわかった。

男女共習が楽しいと思う理由は、各学年男女ともに「男女一緒に仲よく、楽しい雰囲気の中で活動できるから」が最高位で、男子の2番は、1年生が「男女の体力差、技能差などを克服する工夫が協力してできるから」（以下「男女の体力差技能差」という。）で、2・3年生が「男女共習の場合、選択できる種目が増えるから」（以下「選択種目が増える」という。）で、3番は1年生が「選択種目が増える」で、2・3年生が「男女の体力差技能差」であった。女子は各学年とも2番は「男女の体力差技能差」で、3番が「選択種目が増える」であった。

男女共習が楽しくないと思う理由をたずねたところ、「男女の技能差などがあり、思い切り活動（運動）できないから」（以下「男女の技能差」という。）が2年生女子を除いて最高位となった。（2年生女子は2番）2年生女子の最高位は「男女の体力差がはっきりしてしまうから」（以下「男女の体力差」という。）で、この項目は2年生女子以外の2番に入っている。

3番は男子と2年生女子が「男女一緒に学習すると危険があり、一緒に行くのが無理な種目があるから」で、1・3年生の女子は「異性があると恥ずかしいから」であった。

「男女の技能差」「男女の体力差」については、「楽しい」と思う理由の2・3番にあげられている項目であり、表裏の関係にあることがわかる。男女の体力差や技能差を危険だと感じさせたり、あきらめさせたりさせないような、工夫や配慮をする必要がある。

8 安全面で心がけていることについて

生徒は、授業中の安全面に関して、けがの予防や事故防止のために、気を抜かずに集中して自分自身の体調についてよく考えとともに、周りの人や活動場所の安全についても配慮しながら取り組んでいることがわかった。

しかし、この質問は回答数に制限がない質問であったにもかかわらず、「使用する器具や用具の安全を確かめている」の回答が少なかった。

学習環境に対する安全面の配慮は、もちろん教師がまず心がけ実施しなければならないが、生徒の安全意識を高める指導も十分に行なわなければならないと考える。

9 体育の学習以外の運動実践について

学校で、休み時間や放課後に運動をしているかたずねたところ、「いつもしている」と「ときどきしている」の回答をあわせると、男子1年生83.4%、2年生84.4%、3年生82.3%で、女子は1年生61.7%、2年生62.9%、3年生55.4%となり、男子よりも女子のほうが低く、特に3年生女子が目立っている。運動の実施状況は、体育の学習が「好き群」は高く、「どちらでもない」「きらい群」と低くなっており、「好き、きらい」と運動の実施状況には関連性があることがわかる。

なぜ休み時間や放課後に運動をするのかたずねたところ、「好きな運動ができるから」が1年生男子を除いて最高位となった。（1年生男子は2番）1年生男子の最高位は「運動することが好きで、楽しいから（以下好きで楽しいという。）」であった。

「体育の学習の好き、きらい」と「なぜ休み時間や放課後に運動をしているか」の連関を見ても、「好き群」の生徒は、運動することが好きで活動すると同時に、運動を通して友だちや仲間との関係を大切にしているおり、また「きらい群」は、自分の好きな運動を友達や仲間と一緒にすることが楽しいということがわかった

休み時間や放課後に運動をしない理由は、「他にやりたいこと」と「勉強や次の準備で時間がとれない」の項目が「好き群」では高く、「どちらでもない」「きらい群」と低くなっていくことがわかった。

また、体育の学習が「好き」な生徒は、運動をしたいと思っているが、時間が無く他にやりたいことがあるために、運動をできないということがわかった。つまり、塾や習い事など生徒を取り巻く環境の変化が、運動の実践を低下させているということである。

今日の社会では、運動やスポーツに親しんだりする機会を意識して確保する必要がある。生徒が積極的に身体を動かしたくなるような“時間”“空間”“仲間”の確保が必要である。

10 運動部活動について

学校の運動部活動に入っているかたずねたところ、男子は、1年生84.5%、2年生82.1%、3年生77.5%で、女子は、1年生60.9%、2年生58.0%、3年生53.0%であり、多くの生徒が放課後熱心に運動部活動に取り組んでいることがわかった。

運動部活動は、体育の授業で得た興味・関心・技能などを発展・充実させる中で、生涯にわたりスポーツに親しむ能力や態度を育てるとともに、体力の向上や健康の増進を図ることができるなど、非常に教育的にも価値の高いものである。

11 スポーツクラブについて

学校外のスポーツクラブ等に入っているかたずねたところ、男子は、1年生26.8%、2年生

23.5%、3年生20.6%で、女子は、1年生13.0%、2年生13.7%、3年生11.8%であり、男子のほうが、女子よりもスポーツクラブ等へ入る率が高いことがわかった。また運動部活動と校外のスポーツクラブ等に両方入っている生徒は、男子で1年生19.1%、2年生16.6%、3年生13.2%、女子1年生9.3%、2年生8.5%、3年生7.0%であった。スポーツクラブに加入しているものの多くは、運動部活動への加入していることがわかった。

クロス集計の結果からは、体育の学習の「すき群」のほうが「きらい群」よりもスポーツクラブへの加入率が高いことがわかった。

文部科学省「平成17年度体力・運動能力調査結果」に「運動部やスポーツクラブへの所属の有無と、体力水準の高さとの関係は、9歳ころから明確になり、12～19歳で両群の差が大きく開く。その傾向は79歳になるまで認められる」と書いてあるように、運動部活動やスポーツクラブでの活動は、生涯にわたって高い体力水準を維持するための重要な役割を果たしているといえる。

12 運動をしない生徒について

運動部活動とスポーツクラブのいずれにも加入していない生徒の割合は、男子1年生8.1%、2年生11.2%、3年生14.8%、女子1年生35.3%、2年生36.4%、3年生41.8%であった。しかし、このうち放課後や帰宅後、また休みの日に、男子の63.9%、女子の41.6%が自ら運動をしており、いわゆる「帰宅部」の生徒の中にも自主的に運動を実践している生徒がいることがわかった。生涯にわたって積極的に運動に親しむことを期待のできる生徒である。

1番注目しなくてはならない生徒は、学校で休み時間や放課後に運動をせずに、また帰宅後や休みの日にもまったく運動をしない生徒たちである。その割合は、男子1年生0.3%、2年生0.3%、3年生0.4%、女子1年生1.0%、2年生1.2%、3年生2.1%とわずかではあるが、まったく運動をしないこの生徒たちが唯一運動を行なっている場合は、学校体育の授業でしかない。この生徒たちの運動に対する意識を変えるために、体育の授業での個々の生徒へのきめ細やかな指導がとても重要である。

13 体育をどんな先生に教えてもらいたい、望む先生のタイプについて

今回の調査結果では、男女の1年生が、「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」で、男子の2・3年生が「ユーモアのあるやさしい先生」で、女子の2・3年生が「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」であった。また、前回の中学生の意識（平成7年度調査）でも、「ユーモアのあるやさしい先生」「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」が上位に入っていた。

以上の結果から、ユーモアがありやさしい先生で、生徒一人ひとりを大切に、よいところは誉め、悪いところは注意してくれるとともに、楽しく工夫のある授業を展開してくれる先生を求めていることがわかった。

しかし、ここでいう「楽しく」というのは、単なる情意的な側面のみ「楽しさ」ではない。今回の調査結果からも「楽しい」と感じるのは、「記録が伸びたりできないことができるようになったとき」といっており、体育の「楽しさ」は、教師の「ユーモア」ではなく、「うまくさせること」、つまり運動有能感を味わわせてあげることではないだろうか。運動の上達や成功の体験から得られる「やればできる」という運動に対する自信や、自分自身に対する自信を持たせてあげられる先生を望んでいるのではないだろうか。

まとめ

体育センターにおいて、学習指導要領の改訂後におこなってきた学校体育に関する意識調査も昭和47年・昭和58年・平成6年そして今回と4回目を迎えている。今回の調査結果を通して、「体育の授業が好き」と答えた生徒は、平成7年度「中学生の意識」調査よりも上昇しており、多くの生徒が体育の授業に進んで取り組み、体育の楽しさに触れながら学習していることが明らかになった。このことは、平成17年度「小学生の意識」調査の調査結果からも同様の結果が得ら

れている。学習指導要領が示す保健体育の目標である「明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成を目指し、生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康の保持増進の基礎を培う」の実現に向けた取組みの成果が確実に実を結んできているといえるのではないだろうか。

しかしながら、今回の調査結果から「体育の学習が好き」「運動やスポーツをすることが好き」の割合が学年の進行とともに減少しており、特に女子にその傾向が顕著にあらわれているということがわかった。

「体育の学習の好き、きれい」と「運動やスポーツの好き、きれい」には関連性があり、「好き」＝「好き」の関係にあることから、「体育の学習が好き」「運動やスポーツをすることが好き」の減少に歯止めをかけるためには、「体育の学習がきれい」「運動やスポーツをすることがきれい」の生徒をいかに減らして、「好き」へ移行させていくか、つまり「体育好き」「運動・スポーツ好き」をどう増やしていくかを考えなくてはならない。

そこで、今回の調査結果を生かして、次のことを考える必要がある。

1 どうやって体育を好きにさせるのか

(1) 授業では

中学校期の生徒は、体格や体力、運動能力、興味・関心などにおいて個人差また男女差が大きくなるのが1つの特徴である。特に、これからあることを学習しようとする際に、それを習得するために必要な、精神的、身体的な条件が用意され、準備されているかどうかがとても重要である。こういった運動や体育の授業に対するレディネスは、生徒の中で「ある・ない」の差が大きいことから、授業を行う際には、生徒一人ひとりにその運動への親しみ方（接し方・行い方・進め方・楽しみ方）を学びとらせるために、学習形態や学習過程の工夫のほか、学習指導の進め方に相当配慮する必要がある。

授業を行う際には、教師がリードしてただ単に教えてもらうだけの授業ではなく、PLAN「課題の設定」 DO「課題に基づいた学習」 CHECK「学習の過程や結果の評価」 ACTION「次の課題の設定」のサイクルが、生徒自身の手で行われることが、何より大切である。このような学習を支援することが、教師の大きな役割である。

しかし、学習の最初の段階から「学び方」のサイクルを自ら理解し、実践できる生徒は極めて少なく、教師がそれぞれの運動の楽しさや喜びに生徒が今もっている力で触れることのできる活動を提供したり、「課題」の中身を整理して生徒自身で工夫できる手がかりを示したりしていくことが必要である。

特に、体育の学習が「きれい」な生徒に対しては、今回の調査結果からも、課題の設定や解決の仕方が決められなかったり、課題の設定方法がわからなかったりという生徒が、体育の学習が「好き」な生徒よりも多く、1人ひとりの課題をしっかりと見取り、学習に生かしてあげられるように、段階的な指導を重ねていく必要がある。

(2) 授業以外では

体育の授業を始めとする、学校の教育活動だけで運動やスポーツを好きにさせていくことは難しい。学校全体で取り組んでいくことが必要であることはいうまでもないが、それと同時に、生徒を取り巻く学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協力し合うことが必要である。

神奈川県は、子どもの体力運動能力の向上を目指し、平成16年から3年計画で小学校において「子どもキラキラタイム実践研究」に取り組んでおり、その報告が多くの成果とともになされているところである。平成19年度からは、中学校において「かながわイキイキスクール（仮称）」として、今後もさらにこの活動を発展させ、子どもたちが友達や先生、家族、そして地域の人たちと触れ合いながら運動を積極的に実践していく中で、自分の心と身体を見つめ直して、明るく活力ある生活を築くことができるようにとスタートしたところである。

子どもの体力の低下は、将来的には国民全体の体力の低下につながり、生活習慣病の増加や、ストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失

われることになりかねない。本研究が、そのような問題を解決するための参考に少しでもなれば幸いである。

最後に、本調査にご協力をいただいた県内各地区の中学校、関係機関、そして研究アドバイザーの横浜国立大学教育人間科学部の落合優教授、プログラマーの村瀬浩一氏をはじめとする同研究室の皆様がこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1998)
- 2) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1998)
- 3) 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1999)
- 4) 文部科学省 「平成17年度体力・運動能力調査報告書」(2006)
- 5) 神奈川県立体育センター 「平成7年度指導研究部調査研究室事業報告書」(1995)
- 7) 神奈川県立体育センター 「体育センターレポート第23号」(1996)
- 8) 神奈川県立体育センター 「体育センターレポート第24号」(1997)
- 9) 神奈川県立体育センター 「体育センターレポート第33号」(2006)
- 10) 神奈川県立体育センター指導研究部スポーツ科学研究室
「学校体育に関する児童生徒の意識調査～小学生の意識～」(2006)
- 11) 全国アウトドア・マリンスポーツフェアin実行委員会 神奈川県教育委員会
「子どもの遊びに関する調査結果報告書」(2005)
- 12) 中央教育審議会 「子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)」(2002)